

平成 24 年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）

地域高齢者それぞれの  
健康・ライフスタイル・生きがいを重視した、  
食からの地域包括支援のあり方に関する研究事業  
報 告 書

平成 24 年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）  
地域高齢者それぞれの健康・ライフスタイル・生きがいを重視した、  
食からの地域包括支援のあり方に関する研究事業

発行日：平成 25 年 3 月  
発 行：社会福祉法人 健友会  
〒350-0807 埼玉県川越市大字吉田 204 番地 2  
Tel：049-234-1200 Fax：049-234-0811  
ホームページ：http://minamikaze.or.jp

平成 25 年 3 月  
社会福祉法人 健友会

# はじめに

本報告書は、厚生労働省平成24年度老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助金）の支援を得て、「地域高齢者それぞれの健康・ライフスタイル・生きがいを重視した、食からの地域包括支援のあり方に関する研究事業」へのとりくみのプロセスの報告です。

私どもの法人は、高齢者とその家族に「安心・安全・暮らし」を届けたいとの思いで、平成10年3月、50床の特別養護老人ホームを開設いたしました。小さな施設ではございましたが、地域の声を真摯に受け止め、今では14の事業で包括的な支援を進めることができる状態になりました。

ケアの方法も特に小集団でのユニットケアへの転換を図る中で、食は高齢者の生活に大きな比重をもっており、ひとりひとりの人間としての尊厳やライフスタイルを重視した包括的なケアに取り組みたいと考えておりました。

3年程前、厨房の改築を機に「食のセンター」構想が具体化してまいりました。「食のセンター」でより安全な食事を安定提供し、食生活ステーションでおいしい食事に仕立て、各ユニット等で楽しい食卓となることを目指すものであります。施設で栄養管理された食事が提供されるのは当然でございます。

私どもは、これを在宅で暮らされている人びとの「食」にも広げ、在宅での生活が継続する道も模索しております。「食のセンター」での安全で栄養バランスが保たれた食事の提供は、在宅高齢者配食サービス事業や地域交流センターの中にある「なごみ」には欠かせないものです。

高齢者に栄養管理等行き届いた食事を提供することだけが、私どもの目指すものではありません。食事は、家族や地域の人びとと一緒に楽しめるものでなくてはなりません。食べること、つくること、食物や栄養・健康情報の授受により食生活を営む力の形成や伝承、そしてこれらを実現できる地域・環境づくりへと手助けすることが、私どもの使命と考えます。

小さな社会福祉法人の職員たちが、女子栄養大学名誉教授であり本法人の地域事業部顧問である足立己幸先生のリーダーシップの下、それぞれが日常業務で抱えている課題に取り組みました。時間を割いてインタビューにご協力くださった地域の高齢者のかたがたに、深謝いたします。

また、本報告書が他地域における高齢者の食からの地域包括支援のあり方について、討論のたたき台になることを期待いたします。

平成25年3月

社会福祉法人健友会 理事長 小川一恵

地域高齢者それぞれの健康・ライフスタイル・生きがいを重視した、食からの地域包括支援のあり方に関する研究事業

研究者名簿（執筆順）

|        |                                                                                                                            |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 谷口 友子  | 特別養護老人ホームみなみかぜ施設長（看護師・ケアマネージャー）<br>○事業全体の調整と関係組織との連携<br>○研究Ⅰ－１：K 法人のこれまでの活動における「食」へのこだわりの経緯<br>―職員全体研修会報告書の内容分析から          |
| 足立 己幸  | 地域事業部顧問（保健学博士・管理栄養士・日本公衆衛生学会認定専門家）<br>○主として調査研究面の総括<br>○研究Ⅳ：「食からの地域包括支援のあり方」検討枠組と関係者で共有・活用できる実践プログラムソフト開発（案）を構築するための総合的な検討 |
| 貴志 由美  | 川越市地域支援包括支援センターみなみかぜ（社会福祉士・ケアマネージャー）<br>○研究Ⅱ－１：<br>川越市第 9 日常生活圏域の地域包括支援における食生活支援の役割検討                                      |
| 秋山 郁久  | 小規模多機能こもれび主任（社会福祉士・ケアマネージャー）<br>○研究Ⅱ－２：<br>サービス利用者の食に関するニーズ把握とそれに基づく食交流プログラムの実現可能性に関する検討―小規模多機能型居宅介護事業こもれびにおける実践検討         |
| 後藤 ゆかり | 地域事業部 地域交流センター主任（社会福祉主事・ケアマネージャー）<br>○研究Ⅱ－３：<br>サービス利用者の食に関するニーズ把握とそれに基づく共食プログラムの実現可能性に関する検討―地域交流センターなごみでの実践検討             |
| 佐藤 亜希子 | 地域事業部「食のセンター」長（管理栄養士）<br>○研究Ⅱ－４－１：「食のセンター」の運営と評価に関する検討                                                                     |
| 針谷 順子  | 地域事業部部長（博士栄養学・栄養士）<br>○研究Ⅱ－４－２：「食のセンター」の運営と評価に関する検討                                                                        |

（ ）は関連分野の資格等

目 次

研究の概要  
地域高齢者それぞれの健康・ライフスタイル・生きがいを重視した、食からの地域包括支援のあり方に関する研究事業……………4

Ⅰ 総括研究事業報告  
Ⅰ－１  
社会福祉法人健友会のこれまでの活動における「食」へのこだわりの経緯  
職員全体研修会報告書の内容分析から……………6

Ⅰ－２ 研究事業計画と分担  
地域高齢者それぞれの健康・ライフスタイル・生きがいを重視した、食からの地域包括支援のあり方に関する研究事業………… 16

Ⅱ 分担研究事業報告  
Ⅱ－１  
K 市第 9 日常生活圏域の地域包括支援における食生活支援の役割検討………… 18

Ⅱ－２  
サービス利用者の食に関するニーズ把握と  
それに基づく食生活プログラムの実施可能性に関する検討………… 40

Ⅱ－３  
サービス利用者の食に関するニーズ把握とそれに基づく  
共食プログラムの実施可能性に関する検討―地域交流センターなごみでの実践検討………… 69

Ⅱ－４－１  
「食のセンター」の運営と評価に関する研究 ―食事支援プログラムの開発―  
…………… 81

Ⅱ－４－２  
「食のセンター」の運営と評価に関する研究 …………… 94

Ⅲ  
「食からの地域包括支援のあり方」検討の枠組みと、  
その検討のために地域高齢者を含む関係者で共有できる教材（ワークシート）の開発  
…………… 119

## 研究の概要

### 地域高齢者それぞれの健康・ライフスタイル・生きがいを重視した、食からの地域包括支援のあり方に関する研究事業

研究者：足立己幸

研究事業の背景：社会福祉法人健友会（以下、K 法人）は“高齢者の意思決定を尊重し、自立支援を基本にとらえながら、地域で豊かな生活が継続できるように関わること”を基本理念にする中、この基本理念の達成に日常の食事が多様にかかわることを重視し、社会福祉事業活動を重ねてきた。こうした活動の一環として、K 法人と医療法人西部診療所の両法人（平成 24 年まで両法人ともに理事長は小川正時医師であった）が運営する十数事業所等（1 日 700 食以上）の食事サービスについて、各種アセスメントを重視し、かつ有機的にマネージする「食のセンター」を構想企画し、平成 24 年 5 月に K 法人敷地内に建築することになった。この機に、両法人の直接的な利用者だけでなく、K 法人がある埼玉県川越市第 9 日常生活圏域を中心とする地域（以下、地域）に生活する全高齢者に輪を広げ、“それぞれの健康・ライフスタイル・生きがいを重視した地域包括支援のあり方”について検討すべきであると考えた。本研究事業により取り組むべき課題を明らかにし、そのプロセスや成果を食・健康・生活・地域づくり等多職種の関係者や地域高齢者と共有し、それぞれの立場で活用できる「食からの地域包括支援プログラム」構築に活かす必要がある。本研究事業をすすめる上で主に次の点を重視した。

- 1）可能な限り K 法人の活動実績や地域の人的・社会的資源を活用できる仕組みづくりをすること。特に強みを引き出す方向を試みる。
- 2）研究事業担当者（以下、研究者）は足立己幸を除く全員が K 法人の現場の職員であるので、各課題は現在現場で抱える具体的な課題そのことである。そして、研究事業における検証も日常の支援活動の中で行うことを重要視する。
- 3）プログラム形成のキーワードである食については、研究者の一人足立己幸が提唱し、理論・実践化をすすめてきた食生態学（環境や生活とのかかわりを重視して、人間らしい食とその実現について究明する）をベースにし、地域包括支援活動との融合を試みる。

目的：すでに接近している超高齢社会にむけて「食からの地域包括支援プログラム」構築の必要性や可能性を明らかにし、構築にむけて具体的な検討をすすめるための枠組み案並びに地域高齢者を含む関係者が共有し、活用できる教材（ワークシート）作成を目的とした。

結果と考察：以下 7 面の研究から次の特徴が浮き彫りになり、従来とは異なる地域包括的な食支援または食からの地域包括をすすめる必要性と可能性、とりわけ、地域高齢者パワーを活かした活動の必要性と可能性が明らかになった。その実現のためには生活圏域サイズの地域で、実績を積んだ社会福祉法人等がコアになる「食のセンター」システムが有用である。今、地域高齢者がかかえる問題とは、心身の健康、食、生活、人間関係等の問題に悩む人が多いこと、一方でより良い健康、自立的な生活や地域貢献等を願い、積極的に努力する高齢者が多いにもかかわらず、その場が少ないことである。

- 1） K 法人が創立以来毎年継続的に実施している「全職員研修会」における理事長基調報告と施設長報告の記録 6 年分から「食」に関する記述を抽出し、全活動における食の位置づけを検討した。その結果、「食」に着目した事業活動が継続的に取り上げられ、複数の部門で実践され、量的な広がりが見られた経緯と、「食のセンター」構想へと質的变化をきたしていることが明らかになった。この結果は、K 法人が「食からの地域包括支援」という新視点で具体的な企画と実践を試みる土壌が育まれていること、及び職員内での問題意識が高まるなどの環境が準備されている可能性が高いと認識された。（谷口友子報告）
- 2）地域高齢者それぞれの健康・ライフスタイル・生きがいを重視した「食からの地域包括支援のあり方」について考えるために、食の視点を加えたアセスメント票を作成し、担当地域の高齢者 120 名に戸別訪問してインタビューを行った。その結果を事例分析し、ケアマネージャーグループで討論を重ねた結果、食の視点を加えたアセスメント票を使用すると、通常の支援では見えにくい内的な問題点や人間関係、その人の強み等の発見につながる事が明らかになった。またインタビューアにも生活視点の変化が現れ、支援の深まりが期待できる結果となった。このアセスメント票を活用することで、それぞれの地域で、食からの地域包括支援を考えるきっかけづくりとなることが期待される。（貴志由美他報告）
- 3）小規模多機能型居宅介護事業所や認知症高齢者グループホーム等で①食行動を支援する食生活プログラムについて、利用者への影響を簡便に評価するための生活行動調査票を開発すること、②そのための利用可能なタイムスタディー調査法を開発し、食生活プログラムの効果を明らかにすること。更に、③タイムスタディー調査記録を利用して心身の状態変化が頻繁な認知症利用者のニーズを的確に捉え、根拠あるケアに結び付ける方法を見出すことである。生活行動調査票

は現場の職員が簡便に利用できるものとして作成し、ビデオカメラによる画像記録を併用し、両面から情報収集をする方法を用いた。この調査により食生活プログラムが定量的にも、定性的にも利用者にとってより良い心理状態を保ちながら生活することに繋がっていることが実証できた。さらに生活行動調査票と画像記録のデータを基に、注目する重要課題を取り上げて分析する方法、および当面のプラン作成の流れを示すことができた。異なった専門分野の職員が共同で映像記録をみながら、カンファレンスを行うことにより、学びあうことも多く、多様な食行動について複眼的なアセスメントによるカンファレンスの有用性を知ること出来た。（秋山郁久他報告）

- 4）地域交流センターみなみかぜの共食の場なごみの活動について、創立以来 9 年間の活動記録（運営委員会会議録）の分析で、なごみ参加者の共食へのニーズが大きく、かつ多様であることが明らかになった。また、「昼市」など様々な社会活動経験者が協働・連携する行事で、共食の場なごみへの期待が多く、実際の連携も多く、食と関わる活動に広がりがみられた。一方、運営企画や実践について、職員主導になりがちで、協働する人やグループの実力を充分に発揮できない現状も浮き彫りになった。その解決法の一つとして、協働する人各自の役割を明確にするプログラム進行表を試作し、なごみ共食の日に活用し、修正を重ねた。K 法人の特徴である、食、医療、福祉の各分野の専門性を発揮し、地域高齢者の経験や個性を発揮できる共食プログラム形成と評価について、関係者と話し合える仕組みを作る必要と可能性が明らかになった。（後藤ゆかり他報告）

- 5）「食のセンター」システムの中核の一つである「食事支援プログラム」ソフトの開発を検討した。法人管理栄養士グループは平成 18 年から、法人の活動理念に沿った食事サービスができるようにと、栄養アセスメントを包括する「食アセスメント票」を開発し、活用に向けて努力してきた。法人全事業所でその使用可能性と有効性を確認する調査結果のうち、介護度等から業態の異なる特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイケアサービスの 3 事業所の結果を分析し、食事支援プログラムへの導入可能性を検討した。支援内容に影響が大きく、かつ重要な項目として①生きがい、②食事づくりへの積極性、③食態度、④食行動の 4 項目が抽出された。さらにこの 4 項目と他の 8 項目間の関係から生きがいと食事づくりへの積極性がそれぞれの事業所の特徴を反映することが明らかになった。抽出された 2 項目を食事提供の全プロセスにおいて、異なった専門職種の担当者が共有し、活用する帳票類に反映することができた。したがって食事支援プログラムソフトにこの 2 項目を投入することにした。（佐藤亜希子他報告）

- 6）前記 5 で開発した「食事支援プログラム」を用いて、食アセスメントから、食事づくり、食事支援に至る過程で多職種が共有する帳票類を作成し、活用性を評価した。日常的に用いる主な帳票として、調理マニュアル、献立表、レシピ、食事づくり票、食札、食事伝票、食事（弁当）づくり指示票、検査票（簿）、食アセスメント票の 9 種類を取り上げた。各票について主に活用する 2, 3 の専門職種毎に質問紙を用いたグループインタビューにより、平成 25 年 2 月、食事支援のしやすさ、他職種間での連携のしやすさ、「食のセンター」内での情報交換のしやすさ、情報量、情報内容、記録性、サイズ、材質・強度、見やすさ、費用の各面から評価・検討をした。その結果、食事（弁当）づくり指示票を除き、8 種の帳票に検討・改善の必要が示された。食のセンター開設から間もなく、新システムによる食事提供がまだ安定していない時期でもあり、また試用期間が 2 週間と短く、“使い慣れ”ない、“見慣れ”ない、の理由が評価の中で挙げられた。このことが結果に影響していたと思われる。一般的に大量の食事提供に関する研究では食物が注視されがちだが、帳票を介した情報の流れから食事提供のプロセスを把握することができた。また、多職種が帳票によって情報を共有すること、その視点の重要性が認識されたことは意義深い。（針谷順子他報告）

- 7）以上 1－6 の研究成果をふまえ、「食からの地域包括支援のあり方」検討の枠組み、並びに地域高齢者を含む関係者と共有し、検討を深めるための教材（ワークシート）を次の手順で作成し、提案した。

①目的の背景となるこれまでの K 法人の福祉活動のコンセプトから、検討の枠組みを作成し研究員全体ミーティングでの議論を経て、枠組みとワークシート案 1 を作成した。

②ワークシート案 1 について、地域高齢者の使用ニーズや使用可能性を検討し、ワークシート案 2 を作成し。方法は地域交流センター運営委員会委員等 6 グループのメンバー、延べ 82 名を対象に 12 回の半構造的インタビューである。

③「みなみかぜ夢のフォーラム：食からの地域包括支援を考える」を開催し、多様な健康状態やライフスタイルの地域高齢者 70 名が参加した。本研究事業で明らかになった食からの地域包括の必要性と可能性について各研究者が報告し、食支援へのニーズ並びにワークシート案 2 の利用可能性について意見やアイデアを交流した。カードを用いた言語統合法のグループワークと全体討論が活発に行われた。

④以上について総括し、食生態学の「地域・高齢者・食物の循環図」をベースにした検討枠組みと、“私たちの地域にこんな共食の場がほしい”のマップを描いてみましょう（ワークシート）を作成した。（足立己幸他報告）



# 1 総括研究事業報告

## I－1

### 社会福祉法人健友会のこれまでの活動における「食」へのこだわりの経緯 職員全体研修会報告書の内容分析から

研究者：谷口友子（施設長）

#### 1. 研究要旨

今後、地域包括支援において、食支援の質や、体制に関する取り組みが必要であると言われている。介護予防における日常生活総合支援等で、その重要性と効果的な支援を進めるための実態把握の方法、情報の活用、具体的な支援方法の検討が必要である。

社会福祉法人健友会（以下 K 法人とする）は“高齢者の意思決定を尊重し、自立支援を基本にとらえながら、地域で豊かな生活が継続できるように関わること”を基本理念（表 I－1－1：K 法人がめざしていること 基本理念）にすると、この基本理念の達成に日常の食事が多様にかかわることを重視し、社会福祉事業活動を積み上げていると思ってきた。それらの実績を明らかにすることにより、K 法人の強み、特徴、全体の課題が見え、「食からの地域包括ケア」に活かす方法を得ることを目的とする。

方法として、「K 法人全職員研修会」における「理事長基調報告」と「施設長報告」から「食」に関する記録について情報収集し内容分析をおこなった。

その結果、「食」に着目した事業活動が継続的に実践され、量的にも発展をしてきた経緯と、「食のセンター」構想へ質的变化をきたしたことが明らかになった。加えて、今回取り上げた 2007 年以前の事業活動でも「食」にこだわった実績が存在することが明らかになった。

この結果は、「食からの地域包括ケア」の実践に活かすことが可能であると考えた。さらに「食」にこだわって事業活動をしてきた経緯を分析することは、今後の法人事業の発展に寄与すると考える。

「理事長基調報告」と「施設長報告」が、「K 法人全職員研修会」に参加したすべての職員に直接的に発信し伝達され、共有されることに高い価値があると思われる。

#### 2. 背景と目的

K 法人では、法人事業を開始以来、地域住民の視点でより良いサービスについて話しあい、その実現に向けた方法論については関係者で論議を重ね、実践しながら発展させていくことに挑戦してきた。

K 法人の存在の価値は、地域から求められ選ばれる事業所であり続けることにある。その目的に向けては、法人理念の検証や確認を怠ることなく、全職員の意思統一を図り、理念にそった事業目的を定めて実践する必要がある。「K 法人全職員研修会」の内容としては、法人全体の事業計画策定と各事業部門がそれぞれ責任を持ち、前年度事業の目標達成ができたかを検証し文章にまとめて記録し、全職員に向けて発表する。そのような方法で、すべての事業部門の代表者が報告をすることで各事業部門の相互理解を高め、必要なときには機会をとらえて協力関係を築くことの努力を、欠かさず実行し継続してきた。

加えて、新年度の事業計画では、社会情勢の変化を見極め、行政の福祉推進計画と各期の介護保険事業計画に則り、法人中期計画を精査しながら、事業部門ごとに新年度事業計画策定に取り組んでいる。事業計画策定では、事業目的を構築し、その部門の目的に沿った計画立案を行う。策定にあたっては、事業部門管理者のみならず、その部門の一般職員にも参画して意見を聴く機会を意識的に企画するように実施してきた。その結果、自ら意識的に立案された目標や事業計画に関心を持ち業務に取り組める効果がみられることも明らかである。

全職員研修は、毎年 5 月～6 月上旬に全職員を対象に全 1 日間実施してきた。その内容は、法人理事長の基調講演から始まる。理事長自らが 1 年の事業開始に合わせて、社会情勢分析や法人の向かおうとしている目標到達点を示し、職員への期待は鋭く暖かい。そのメッセージは、職員に求めるマネジメント力の向上への期待、行政の福祉推進計画や介護保険事業計画の内容の伝達、医療活動を通じて把握し課題ととらえている在宅高齢者の様子など細に及ぶ。

「全職員研修会」を毎年欠かすことなく丁寧に実施してきたことも、年度事業の振り返りと新たな目標設定にむけて、職員の意思統一に、一定の効果があつたと推察される。

「全職員研修会」では、法人短期事業目標や中期事業目標の達成に必要と思われる内容に沿って、外部講師を招いて「研修会」を合わせて実施されてきた。2012 年の研修は特別講師として埼玉県和光市保険福祉部・長寿安心課・東内京一課長をお招きして「地域包括ケアと社会福祉法人の役割」をテーマに講演をいただいた。

このような、法人の状況にあって「食」に関する事業に取り組み内容を高めてきたことについて分析し、K 法人の特徴を明らかにする。

#### 3. 方法

##### 1) 情報収集

法人開設後から毎年開催されている「全職員研修会報告書」（資料 I－1－1：全職員研修会次第）の報告書に記載されている文章から内容分析を行った。その中で「食」にどのようにこだわり活動してきたのかを明らかにする。

##### 2) 内容分析

それぞれ抽出された「食」に関する用語等が含まれる文の数を事業年度ごとに整理し、全職員研修会での理事長と施設長の「食」に関する発言数の推移を比較検証し表 2 にまとめた。（表 I－1－2：K 法人は理念をどう具現化してきたか全職員研修会 2007 年から 2012 年の報告書から）

##### 3) 分析に用いた資料

分析に用いた報告書は「K 法人・全職員研修会報告書」2007 年から 2012 年の 6 年間の報告書の法人理事長基調報告と特別養護老人ホーム施設長（以下施設長とする）の報告として記載されている内容から、「食」「食育」「共食」を中心に「食」に関する用語等が含まれる文を抽出した。（資料 1－1－2：K 法人全職員研修会報告書（2007 年～2012 年）

#### 4. 結果

K 法人の全職員研修会では、2007 年から 2012 年まで毎年の「理事長基調報告」「施設長報告」に欠かさず「食」に関する用語がとりあげられていた。「理事長基調報告」「施設長報告」ともに同じ傾向に用いられ、事業の実践にも活用されていた経緯が記録から明らかになった。

2007 年～2012 年に報告された「理事長基調報告」では、調査期間内の 2010 年が最も多く 20 カ所の文章の中に用いられていた。その主なものは、「地域での高齢者の暮らしの質に関すること」6 カ所、「共食」5 カ所、「食のセンター」3 カ所、「配食サービス」3 カ所、「施設の食事代」2 カ所、「食の自立」1 カ所であった。

「施設長報告」では 2007 年の 11 カ所が最多であった。（表 I－1－2：K 法人は理念をどう具現化してきたか全職員研修会 2007 年から 2012 年の報告書から）

「共食の場なごみ」4 カ所、「食育・共食」「共食手帳」「食の勉強会」「食育委員会」「食のアセスメント」「食生態学・食環境」「食事づくり室・研修室の必要性」それぞれが 1 カ所であった。

2007 年～2012 年の「理事長基調報告」「施設長報告」の「食」に関する用語の発言数の推移は表 2 の結果であり（表 I－1－2：K 法人は理念をどう具現化してきたか全職員研修会 2007 年から 2012 年の報告書から）

2007 年から 2012 年の「食」に関する発言数の数的変化をとらえた結果、2007 年～2009 年では「共食」「食育」「食の勉強会」「食のアセスメント」「共食手帳」などの用語が量的には一定的に用いられていた。

その結果、2012 年に開設した「食のセンター」構想に向かって、5～6 年の年月を費やし、総合的な食支援の考察と実践に向け構築してきた経緯があきらかになった。

#### 5. 考察と提案

今回の調査期間は 2007 年以降を調査期間として取り組んできたが、K 法人では、すでに 2001 年に川越市高齢者等配食サービスの委託事業を担い、地域の高齢者の安否確認による問題発見と対応、また高齢者の孤食への改善への着目、共食の必要性からみなみかぜ地域交流センターにおいて、共食の場「なごみ」の開設と運営、それらから発展して「食育委員会」の設置、NPO 食生態学実践フォーラムとの協同開催としての「子どもの食育活動」の実践、地

域住民のグループ「食と健康の会」の支援などの活動を経て、2007 年～ 2009 年は地域の高齢者の食の在り方や望まれるサービスについて、実践をしながら、尚、個別の「食のアセスメント」の必要性に着目して「食」の実践を成熟させてきた期間と捉えられた。

今回の調査研究では調査期間を 2007 年～ 2012 年として内容分析を実施したが、K 法人の「食」にこだわった活動が 2007 年より以前の実践にも関係していることが理解できた。「全職員研修会」における、各授業部門の記録から、「食」に関係する用語についても考察する機会が必要であると考える。

1990 年以降の福祉や介護に関係するさまざまな改革が行われてきた現状のなかで社会福祉法人の経営責任も問われる時代にあって、社会情勢やマーケットの動向、地域住民のニーズに応える法人として、法人内部にも柔軟な対応と経営改革が短い期間に必要なこともおおいに予想できる時代にある。

K 法人の「全職員研修会」のありかたも、外部環境や内部環境を見定めて運営の内容に今後も位置づけていく必要がある。従前たる運営がかならずしも良いとは言えないが、全職員研修の際の理念の確認や事業計画を開示して意思統一を怠らずに継続してきたことが法人の強みであると考えた。法人運営に重要な意味を持つ「全職員研修会」のあり方については仮称「全職員研修会検討委員会」などを設置して、その運営の在り方を一定期間の中で十分な検討をする必要性を感じた。地域に存在価値の高い法人であり続けるための「全職員研修会」としたい。

6. 結論

K 法人は、分析によれば「食」の重要発言数が、「理事長基調報告」と「施設長報告」に毎年欠かさず、両者に一定数発言されてきていることが特徴であることがわかった。

引用文献・参考資料他：

- 1) 小川正時・「三六五日、医療・保険・福祉、そして人びとと」(2012) 群羊社
- 2) 足立己幸・松下佳代・NHK「65 歳からの食卓」プロジェクト (2008)「NHK スペシャル 65 歳からの食卓」
- 3) 社会福祉法人健友会「社会福祉法人健友会全職員研修会報報告書」(2007 ～ 2012)
- 4) 医療法人西部診療所編集委員会「大都市近郊化での地域医療の記録 みらいへ」診療所活動 10 年の軌跡 (1999) 医療法人西部診療所
- 5) 20 周年記念誌編集委員会 (2007)「西部健友会活動・西部診療所活動 20 周年記念誌」医療法人西部診療所

表Ⅰ－１－１ 社会福祉法人健友会の理念

| 社会福祉法人健友会がめざしていること 基本理念                                    |  |
|------------------------------------------------------------|--|
| 地域の高齢者が健康で安心した生活がおくれるように、「地域でくらすみんなの家」として、包括的な福祉サービスを提供します |  |
| 1. 高齢者の意思決定を尊重し、自立支援を基本に捉えながら                              |  |
| 地域で豊かな生活が継続できるように関わることを目指します。                              |  |
| 2. 働きがいのある職場づくりの推進と労働環境の整備を行い、                             |  |
| 地域福祉の担い手として、自ら考え能動的に行動できる人材育成を追究していきます。                    |  |
| 3. 地域と共生し、情報を発信し、地域の安心につなげる                                |  |
| 法人活動を目指します。                                                |  |

表Ⅰ－１－２ K法人は理念をどう具現化してきたか全職員研修会2007年から2012年の報告書から

| 年次                        | 社会保障制度等の出来事                                                                                       | 法人の活動                                                                                                                                                                                                                         | 全職員研修会報告書                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 発言数 |     | 備考 |
|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|----|
|                           |                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                               | 理事長                                                                                                                                                                                                                    | 施設長                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 施設長 | 理事長 |    |
| 1995年9月<br>(平成7年)<br>法人設立 | 1987年社会福祉士及び介護福祉士法<br>1989年ゴールドプラン策定<br>1990年福祉八法改正<br>1994年入院給食費一部自己負担<br>エンゼルプラン・<br>新ゴールドプラン策定 | ・特別養護老人ホームみなみかぜ建設開始                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |     |    |
| 1996年2月1日<br>(平成8年)       |                                                                                                   | ・社会福祉法人健友会認可                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |     |    |
| 1997年<br>(平成9年)           | 健康保険法改正                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |     |    |
| 1998年<br>(平成10年)          |                                                                                                   | ・特別養護老人ホームみなみかぜ開所(特養50床他)                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |     |    |
| 1999年<br>(平成11年)          | 新エンゼルプラン策定<br>ゴールドプラン21                                                                           |                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |     |    |
| 2000年<br>(平成12年)          | 介護保険制度施行<br>ケアマネジャーの発足<br>措置制度から契約の時代に<br>社会福祉基礎構造改革<br>新成年後見制度施行                                 | ・介護保険事業所申請                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |     |    |
| 2001年<br>(平成13年)          |                                                                                                   | ・川越市高齢者など配食サービス委託事業受託                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |     |    |
| 2002年<br>(平成14年)          | ホームレス自立支援法成立                                                                                      | ・特別養護老人ホームでユニットケア開始<br>・夕食の18時配膳開始                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |     |    |
| 2003年<br>(平成15年)          | 少子化社会対策基本法制定<br>支援費制度                                                                             | ○在宅高齢者配食サービス事業において、見守りの強化と地域包括支援センターとの連携を孤食の改善に着目し地域での共食の必要と可能性を検討                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |     |    |
| 2004年<br>(平成16年)          | 年金制度改革                                                                                            | ・地域交流センター「なごみ」共食会開始                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |     |    |
| 2005年<br>(平成17年)          | 介護保険改革 予防重視型・地域密着型サービスの創設<br>障害者自立支援法成立                                                           | ○特別養護老人ホーム「みなみかぜ」では、ユニットケアを平成17年より開始し、KOMI記録システムを使用し、個別ケアプランを充実<br>・「食育委員会」を定期開催<br>・「食のケア会議」開催<br>・食事作り室・食に関する研修室設置<br>・NPO食生態学実践フォーラムと子どもの食育活動<br>・医療法人S診療所と「地域づくり」協同プロジェクト<br>・「食事と健康の会」・共食実践開始<br>・県知事あて「共食実践研修センター」設立趣意書 | ○お年寄りの生活環境は「食の自立が家族の絆」<br>○、おとしよりが「知恵袋」として生かされた、多世代が共生しあえる家族と『食』のあり方<br>○衣・食・住への深化<br>○「食べること」であり、「排泄すること」「眠ること」「動くこと」です<br>○生活の中心を成す食の理解を深めることは、家庭や地域の暮らしを支え、共食・食育活動は「健康」を補完する。<br>○新しい「食のアセスメント票」がほしい<br>○共食・食育活動の推進 | ○食育・共食活動の推進<br>○共食の場である「なごみ」を中心に食育活動開始<br>○「なごみ」も定着し職員の喜び<br>○「なごみ」は5月19日から再開<br>○「食育手帳」・1カ月間の食事日記<br>「食と健康の会」約20名が共食を自主的に運営<br>○「食の勉強会」を開始<br>○両法人の合同「食の勉強会」が「食育委員会」へと変化<br>○地域や施設利用者の食のアセスメントの取り組み<br>○食生態学、食環境の視点から難問も解けていく過程<br>○「なごみ」の開催を中心とする共食活動、一般貸し出しによる地域住民の利用<br>○(仮称)食事づくり室、研修室が必要であるためヒロティ部分が拡充 | 7   | 11  |    |
| 2006年<br>(平成18年)          |                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |     |    |
| 2007年<br>(平成19年)          | 介護保険改正により地域密着型サービスの位置付け<br>介護サービス情報公表調査<br>パート労働法                                                 | ○地域包括支援センターとともに、の食の自立を支援するため、「食のケア会議」を開催<br>・新型特養20床増床<br>・『食の研修センター』<br>○訪問介護員養成講座2級課程を開講<br><br>○NPO法人食生態学実践フォーラムと「子ども自身がリーダーになる食育セミナー」共同開催                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |     |    |

|                  |                                                                                                |                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                    |    |   |  |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 2008年<br>(平成20年) | 「介護従事者などの人材確保のための介護従事者等の処遇改善に関する法律」成立<br>アメリカ証券大手リーマンブラザーズ破綻。世界金融危機の急速な進行                      | ○地域高齢者の1ヶ月間の食生活調査により、共<br>「食」手帳を発刊<br>自主グループ「食と健康の会」の活動を支援<br>・「食のアセスメント会議」開催<br>・施設の構想<br>・「いきいき田んぼの会」<br>生物多様性農法の試み<br>・地域交流センター「星        | ○共食手帳の活用<br>○冬水田んぼ、<br>配食サービス活動<br>○脱施設計画→<br>サテライト型配食センター<br>○みなみかぜ配食活動<br>地域展開図<br>○食アセスメント研究会<br>メンバー<br>○新「食アセスメント票」<br>○食の特徴を存分に活用                                                                                                                                                                                                                                                   | ○食育活動と研修機能の構築<br>○地球規模の環境問題「食」を取り巻く問題、<br>予測すら不能な問題が増加                                                                                                             | 7  | 2 |  |
| 2009年<br>(平成21年) | 第4期川越市介護保険事業計画                                                                                 | ○在宅高齢者配食サービス事業において、地域包括支援センターとの連携を促進し孤食の改善に着目し地域での共食の必要と可能性を検討<br>・職員のキャリアパス形成と人事考課制度検討                                                     | ○食のとりくみ(共食・食育)<br>○食のカフェ<br>○共食手帳<br>○共食なごみ<br>○配食サービス                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | ○食育活動<br>○子どもたちには、「食育」を推進<br>○子どもから高齢者を含んだ地域での食育活動<br>○「なごみ」活動を、さらに地域へ展開する方法の検討<br>○要介護高齢者、家族の「食」の相談開催                                                             | 5  | 5 |  |
| 2010年<br>(平成22年) |                                                                                                | ○特養・経費老人ホーム・老人デイサービスでは、在宅栄養士で構成されたボランティアグループによる共食の実践<br>・「食のセンター構想」プロ<br>○地域高齢者の食の総合的支援(専門職のレベルアップ研修含む)を目的に「食のセンター(構想)」プロジェクトの立ち上げと定例検討会の開催 | ○現在、在宅高齢者配食サービスなどを運営<br>○「暮らしが中心」を支えるサービスを展開必要<br>○「食」の自立をサポート機能<br>○施設入所では部屋代と食事代を支払う<br>○住宅で求められる「暮らしの質」が求められる<br>○新型特養利用者は、食事代41,400円支払<br>○老人アパートに食事や介護「暮らしの質」<br>○食の取り組みー共食・食育学習<br>○共食活動の実践の場づくり<br>○みなみかぜなごみでの共食活動<br>○配食サービス<br>○食のセンター<br>○「地域づくりプロジェクト会議」開催<br>○食のセンター<br>○福祉発の食の面から支援する機関<br>○「孤食」から「共食」に向ける<br>○1日1食の提供に關しての配慮。<br>○地域における食のつながりの強化<br>○一緒に食べること<br>○食からのいきがい | ○食育活動<br>○、生きる力の一つに「食」があります。<br>○「食育」を進める事がもたらわれています。<br>○「食育活動」の実践を継続します。<br>○「なごみ」のあるべき姿について考える時間<br>○地域の食の安全、田んぼ発いきいき地域づくり<br>○食のセンタープロジェクト<br>○食のセンター<br>○食と栄養 | 20 | 9 |  |
| 2011年<br>(平成23年) | 東日本大震災<br>介護保険法などの一部改正法成立<br>地域包括ケアシステムの推進<br>24時間対応型の定期巡回サービス<br>介護職員によるたん吸引などの実施<br>高齢者の住居保障 | ○小規模多機能型居宅介護施設「こもれび」を平成23年4月に開設<br>○生活を地域で支援する介護職員の卒後1年間研修を開始                                                                               | ○自立した食の支援<br>○食のセンター<br>○配食サービス<br>○職員は食のセンターに管理<br>○配食サービスはこれからも伸びる事業。<br>○行政受託の事業運営をマネジメントも                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○食育活動<br>○、生きる力の一つに「食」があります。<br>○「食育」を進める事がもたらわれています。<br>○「食育活動」の実践を継続します。<br>○「なごみ」のあるべき姿について考える時間<br>○地域の食の安全、田んぼ発いきいき地域づくり<br>○食のセンタープロジェクト<br>○食のセンター<br>○食と栄養 | 6  | 9 |  |
| 2012年<br>(平成24年) |                                                                                                | 1月「第1回地域づくりフォーラム」開催<br>5月、食のセンター構想に基づき、特別養護老人ホームみなみかぜ厨房棟の増築工事着工                                                                             | ○お弁当配達サービスなどの「食のセンター」の建設<br>○生活を整える道具である「家」で大切なもの同士が暮らし、生きていくために、豊かにくらししていくために、暮らしの中心に「食」がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○食のセンター<br>○小規模多機能こもれび                                                                                                                                             | 2  | 2 |  |

資料Ⅰ－1－1

## 全職員研修会

平成24年6月24日(日)全職員研修 次第

| 項目                              |        | 発表者   | 時間     | 項   |
|---------------------------------|--------|-------|--------|-----|
| 司会：本部事務局                        |        |       |        |     |
| 1. 開会                           | 施設長    | 谷口 友子 | 7：30   |     |
| 2. 基調講演                         | 理事長    | 小川 正時 | 7：35…  | 4   |
| 休憩                              |        |       | 8：35   |     |
| 3. 法人事業計画                       | 施設長    | 谷口 友子 | 8：45…  | 10  |
| 4. 平成24年度法人重点プロジェクト計画           |        |       |        |     |
| 4ー 1＞ オンデマンドバス                  |        | 大畠 知美 | 9：00…  | 12  |
| 4ー 2＞ キャリアパス・人事考課制度             |        | 柳川 則康 | 9：15…  | 14  |
| 5. 24年度事業計画（午前の部）               |        |       |        |     |
| 5ー 1＞ 食のセンター                    | センター長  | 針谷 順子 | 9：30…  | 16  |
| 5ー 2＞ 小規模多機能居宅介護事業所こもれび         | センター長  | 久保木京子 | 9：45…  | 18  |
| 休憩                              |        |       | 10：00  |     |
| 6. 特別講演                         |        |       | 10：30  |     |
| 「地域包括ケアと社会福祉法人の役割」（仮題）          |        |       |        |     |
| 和光市保健福祉部 長寿あんしん課 課長 東内 京一 氏     |        |       |        |     |
| 休憩                              |        |       | 12：00  |     |
| 7. 24年度事業計画（午後の部）               |        |       |        |     |
| 7ー 1＞ 地域包括支援センター                |        | 大畠 知美 | 13：00… | 20  |
| 7ー 2＞ 居宅介護支援センター                |        | 真田菜穂美 | 13：15… | 22  |
| 7ー 3＞ ホームケア                     |        | 東 幸枝  | 13：30… | 24  |
| 7ー 4＞ デイサービス・陽だまり・通所介護予防事業      |        | 古田 夕子 | 13：45… | 26  |
| 7ー 5＞ 地域交流センター                  |        | 後藤ゆかり | 14：00… | 28  |
| 7ー 6＞ 特別養護老人ホーム                 |        | 古賀 伸行 | 14：15… | 30  |
| 7ー 7＞ ケアハウス                     |        | 村田 賢弘 | 14：30… | 32  |
| 7ー 8＞ グループホーム                   |        | 宮前 清信 | 14：45… | 34  |
| 7ー 9＞ 総務                        |        | 島村 浩司 | 15：00… | 36  |
| ◇講評                             | 本部事務局長 | 小川 一恵 | 15：15  |     |
| 8. その他研修項目                      |        |       |        |     |
| 7ー 1＞ プライバシーの保護に関する研修           |        |       |        | …38 |
| 7ー 2＞ 感染症及び食中毒の予防及びまん延の予防に関する研修 |        |       |        | …39 |
| 7ー 3＞ ターミナルケアに関する研修             |        |       |        | …40 |
| 7ー 4＞ 倫理・法令遵守に関する研修             |        |       |        | …41 |
| 7ー 5＞ 事故の発生又はその再発防止に関する研修       |        |       |        | …42 |
| 7ー 6＞ 身体拘束の廃止に関する研修             |        |       |        | …43 |
| 7ー 7＞ 従業員に対する医療ケアに関する研修（褥瘡・吸引）  |        |       |        | …44 |
| 9. 閉会                           |        |       |        |     |
|                                 |        |       | 16：30  |     |

# 全職員研修会

平成 24 年6月 26日（火）全職員研修 次第

| 項目                             |        | 発表者   | 時間     | 項   |
|--------------------------------|--------|-------|--------|-----|
| 司会：本部事務局                       |        |       |        |     |
| 1. 開会                          | 施設長    | 谷口 友子 | 8：30   |     |
| 2. 基調講演                        | 理事長    | 小川 正時 | 8：35…  | 4   |
| 3. 法人事業計画                      | 施設長    | 谷口 友子 | 9：45…  | 10  |
| 4. 平成24年度法人重点プロジェクト計画          |        |       |        |     |
| 4ー 1＞ オンデマンドバス                 |        | 大畠 知美 | 10：00… | 12  |
| 4ー 2＞ キャリアパス・人事考課制度            |        | 柳川 則康 | 10：15… | 14  |
| 5. 24年度事業計画                    |        |       |        |     |
| 5ー 1＞ 食のセンター                   | センター長  | 針谷 順子 | 10：30… | 16  |
| 5ー 2＞ 小規模多機能居宅介護事業所こもれび        | センター長  | 久保木京子 | 10：40… | 18  |
| 5ー 3＞ 地域包括支援センター               |        | 大畠 知美 | 10：50… | 20  |
| 5ー 4＞ 居宅介護支援センター               |        | 真田菜穂美 | 11：00… | 22  |
| 5ー 5＞ ホームケア                    |        | 東 幸枝  | 11：10… | 24  |
| 5ー 6＞ 地域交流センター                 |        | 後藤ゆかり | 11：20… | 26  |
| 5ー 7＞ デイサービス・陽だまり・通所介護予防事業     |        | 古田 タ子 | 11：30… | 28  |
| 5ー 8＞ 特別養護老人ホーム                |        | 古賀 伸行 | 11：40… | 30  |
| 5ー 9＞ ケアハウス                    |        | 村田 賢弘 | 11：50… | 32  |
| 5ー10＞ グループホーム                  |        | 宮前 清信 | 12：00… | 34  |
| 5ー11＞総務                        |        | 島村 浩司 | 12：10… | 36  |
| ◇講評                            | 本部事務局長 | 小川 一恵 | 12：20  |     |
| 6. その他研修項目                     |        |       |        |     |
| 6ー 1＞プライバシーの保護に関する研修           |        |       |        | …38 |
| 6ー 2＞感染症及び食中毒の予防及びまん延の予防に関する研修 |        |       |        | …39 |
| 6ー 3＞ターミナルケアに関する研修             |        |       |        | …40 |
| 6ー 4＞倫理・法令遵守に関する研修             |        |       |        | …41 |
| 6ー 5＞事故の発生又はその再発防止に関する研修       |        |       |        | …42 |
| 6ー 6＞身体拘束の廃止に関する研修             |        |       |        | …43 |
| 6ー 7＞従業員に対する医療ケアに関する研修（褥瘡・吸引）  |        |       |        | …44 |
| 7. 閉会                          |        |       |        |     |
|                                |        |       | 12：45  |     |

資料Ⅰ－1－2 社会福祉法人健友会全職員研修会報告書(2007年～2012年)

| 報告年度  | 報告文書の種類     |           | A:「食」に関する用語等が含まれる文<br>(食・食育・共食を中心に)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------|-------------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 理事長<br>基調報告 | 施設長<br>報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 2007年 | ○           |           | <p>○少子・高齢社会の深化にともない、大都市近郊下では、お年寄りの生活環境は「食の自立が家族の絆」といっても過言でないような家庭介護力の低下が顕在している。</p> <p>○お年寄りから子どもまでの意志の伝達がぶつ切りされそうな現状の中で、おとしよりが「知恵袋」として生かされた、多世代が共生しあえる家族のあり方、誰もが踏み出すことのできる街づくり、すなわち「暮らしであるべき『衣』のあり方、健康の中心にある『食』のあり方、人のためにある『住』のあり方」が、5年後、現在28万床ある医療依存度が高く長期入所が可能な「療養型病床群」が半減するまでに、住み慣れた地域や家庭が終のすみかになれる様に、行政をも巻き込んだ「街づくり計画」が試されなければならない時期をむかえている。</p> <p>○衣・食・住への深化</p> <p>○その1つが「呼吸すること」であり、「食べること」であり、また、「排泄すること」「眠ること」「動くこと」です。</p> <p>○生活の中心を成す食の理解を深めることは、家庭や地域の暮らしを支え、共食・食育活動は「健康」を補完する。</p> <p>○新しい「食のアセスメント票」がほしい（活動現場からのニーズ）</p> <p>○貧困や見守りが必要な人たちへの配慮、共食・食育活動の推進、KOMI記録システムの完成と自立、在宅環境の整備への取り組み</p>                                                                                                                |
|       | ○           |           | <p>○食育・共食活動の推進</p> <p>○地域交流センターの共食の場である「なごみ」を中心に食育活動が行われた。</p> <p>○「なごみ」の献立や共食の場を楽しんでおられる方も定着し、なじみのお顔を拝見することが関わる職員の喜びにつながっている。</p> <p>○竣工式を迎え、「なごみ」は5月19日から再開された。</p> <p>○17年度に足立己幸先生と取り組んだ「食育手帳・1ヵ月間の食事日記」の取り組みにより、その後も継続して共食活動に移行した「食と健康の会」の約20名の方は、今でも毎月1回集まり「なごみ」で共食を自主的に運営して介護予防にとりくんでいる。</p> <p>○さらに、足立先生のご助言をいただきながら「食の勉強会」を開始した。</p> <p>○両法人の合同の取り組みも初めてであり、「食の勉強会」が「食育委員会」へと変化した。</p> <p>○地域や施設利用者の食のアセスメントへの取り組みもすすめている。</p> <p>○食を取り巻く問題は、生活する場所がちがっても共通したものがあり、食生態学の視点から、あるいは、食環境の視点から難問も解けていく過程を学ばせていただいている。</p> <p>○地域交流センター事業では、地域の子育てサークルとの交流が定期的に行われ、また、「なごみ」の開催を中心とする共食活動、一般貸し出しによる地域住民の利用があった。</p> <p>○さらに、共食の拡大と、在宅での食の自立が促進されることを住み慣れた地域で生活することが継続できるしくみを考える目的で、（仮称）食事づくり室、研修室が必要であるためビロティ部分が拡充された。</p> |
| 2008年 | ○           |           | <p>○共食・食育活動→共食手帳の活用</p> <p>○冬水田んぼ、配食サービス活動など</p> <p>○脱施設計画→サテライト型配食センター</p> <p>○みなみかぜ配食活動地域展開図</p> <p>○食アセスメント研究会メンバー</p> <p>○新しい「食アセスメント票」がほしい</p> <p>○食の特徴を存分に活用したい</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|       | ○           |           | <p>○食育活動と研修機能の構築</p> <p>○地球規模の環境問題が論議され、環境が悪化している中で私たちの生活には「食」を取り巻く問題、予測すら不能な問題が増加している時代に置かれています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |



|       |   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------|---|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2009年 | ○ |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○食のとりくみ（共食・食育）</li> <li>○食のカフェ</li> <li>○共食手帳</li> <li>○共食なごみ</li> <li>○配食サービス</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|       |   | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>○食育活動</li> <li>○子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身につけていくためには、「食」が大切であり、さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人を育てる「食育」を推進することが求められています。</li> <li>○少子高齢化の時代にあつて、子どもから高齢者を含んだ地域での食育活動を進めます。</li> <li>○また、交流センターの共食の場である「なごみ」活動を、さらに地域へ展開する方法を検討して行きます。</li> <li>○要介護高齢者や家族の「食」の相談を、日常的に実施します。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 2010年 | ○ |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○現在、有床診療所を母体として、老人保健施設・通所リハビリ・在宅介護支援センター・ヘルパーステーション・在宅診療所・デイサービス井戸端・オンデマンドバスシステムの実証実験」、また、社会福祉法人設立以降、社会福祉法人健友会でも特別養護老人ホーム・ケアハウス・デイサービス・E型デイサービス（陽だまり）・地域包括支援センター・居宅介護しえん事業・グループホーム・ホームケア・在宅高齢者配食サービス・地域交流センター・研修センターなどを運営してきた。</li> <li>○高齢者が増え続ける地域は、今後も「暮らしが中心」を支えるサービスを展開していく必要がある。</li> <li>○「食」の自立をサポートする機能</li> <li>○平成17年から、施設入所のお年寄り、基本的に部屋代と食事代を支払うように制度改悪されたが、考え方を変えれば、施設収容から老人住宅への変化ともとられる制度。</li> <li>○在宅である限り、そこは「暮らしを支える道具」であり、今までの施設で行われた「介護の質」から、住宅で求められる「暮らしの質」が求められるようになる。</li> <li>○新型特養で4段階の利用者は、部屋代を月59,100円、食事代41,400円支払っている。</li> <li>○それなら、馴染みの在る、もともと暮らしの場にあるバリアフリーの老人アパートに4～5万円で間借りして、食事や介護のサービスを受けてほうが、よほど「暮らしの質」は高まるかもしれない。</li> <li>○食の取り組み→共食・食育学習</li> <li>○共食活動の実践の場づくり</li> <li>○地域交流センターでの食事づくり（みなみかぜなごみでの共食活動）</li> <li>○配食サービス</li> <li>○食のセンター</li> <li>○以上のような論点から、西部診療所とみなみかぜでの地域づくりに関わる職員が共同して実践を目指した議論の場として「地域づくりプロジェクト会議」が2007年12月28日（第1回）から月1回開催することになった。</li> <li>○食のセンター</li> <li>○両法人が事業として関わる人々とその家族を中心とし、地域で暮らす人々の生活の自立を支え”ひとりひとり自分らしく、おいしくて、健康に良い、そして環境にも良い食事をみんなと一緒に楽しみ、よりQOLの向上のために”科学的な根拠に基づいて食事の提供と食・健康情報の提供を持って、食のセンター職員が直接関わりながら、両法人の諸事業所や地域の関連機関等と連携し、福祉発の地域づくりの一環として食の面から支援する機関とする。</li> <li>○在宅高齢者配食サービスがお年寄りへのほどこしではなく、「孤食」から「共食」に向けることで、「域外」につなげられるように。「事例によれば、配食サービス利用者の共食活動を市に配食サービスの一貫として認めていただきたい。</li> <li>○また、一人暮らしで身よりの食事造り能力に欠けたおとしよりへ、1日1食の提供に關しての配慮。</li> <li>○地域における食のつながりの強化</li> <li>○一緒に食べること</li> <li>○食からのいきがい</li> </ul> |

|       |   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------|---|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |   | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域で豊かな生活</li> <li>○生きる力</li> <li>○食生活を実践できる人</li> <li>○食育</li> <li>○なごみ</li> <li>○地域へ共食の場</li> <li>○地域の食の安全</li> <li>○健康づくり・くらしづくり</li> <li>○食のセンター</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 2011年 | ○ |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自立した食の支援・食のセンター</li> <li>○配食サービス</li> <li>○食のセンター</li> <li>○両法人の厨房に関する職員は食のセンターに管理され、また、研修センターも食のセンターの基でその機能を發揮していくことを目指す。</li> <li>○配食サービスは市民の高い認知と期待の上にあり、これからも伸びる可能性がある事業としてとらえている。</li> <li>○行政受託の事業運営を展開（1食900円提供）していくだけでなく、500円提供でも賄えるマネジメントも検討していくこと、配達区域の規制緩和や新規参入による競争激化にたいして、選ばれる配食サービスをめざしてほしい。</li> </ul>                                                                                                                     |
|       |   | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>○食育活動</li> <li>○子どもたちや地域住民が豊かな人間性を育み、生きる力を身につけていくために重要なことの一つに「食」があります。</li> <li>○さまざまな経験を通じて、「食」に関する知恵と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人を育てる「食育」を進める事がもとめられています。</li> <li>○少子高齢化の時代にあつて、子どもから高齢者を含んだ「食育活動」の実践を継続します。</li> <li>○地域交流センター「なごみ」のあるべき姿について少々考える時間をいただきました。</li> <li>○地域の食の安全・農の未来・地域で培われた技術や知恵の伝承の機会を増やし、「田んぼ発いきいき地域づくり」活動により高齢者の方が本来持っていた「地域での役割」を発揮する場の再生に貢献します。</li> <li>○食のセンタープロジェクト</li> <li>○食のセンター</li> <li>○食と栄養</li> </ul> |
| 2012年 | ○ |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域交流センターの「なごみ」での共食活動・在宅のお年寄りや家族のための安全で美味しく、食事能力に合った配食・お弁当配達サービスなどの「食のセンター」の建設</li> <li>○地域のさまざまな人たちに生活があり、生活を整える道具である「家」で大切なもの同士が暮らし、生きていくために、豊かにくらししていくために、暮らしの中心に「食」がある。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                     |
|       |   | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>○食のセンター</li> <li>○小規模多機能こもれび</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

## I－2 研究事業計画と分担

### 地域高齢者それぞれの健康・ライフスタイル・生きがいを重視した、食からの地域包括支援のあり方に関する研究事業

研究者：足立己幸

研究事業の背景：

前項 I－1 で示した通り、社会福祉法人健友会（以下、K 法人）は“ 高齢者の意思決定を尊重し、自立支援を基本にとらえながら、地域で豊かな生活が継続できるように関わること”を基本理念に使用中、この基本理念の達成に日常の食事が多様にかかわることを重視し、社会福祉事業活動を重ねてきた。こうした活動の一環として、K 法人と医療法人西部診療所の両法人（平成 24 年まで両法人ともに理事長は小川正時医師であった）が運営する十数事業所等（1 日 700 食以上）の食事サービスについて、各種アセスメントを重視し、かつ有機的にマネージする「食のセンター」を構想企画し、平成 24 年 5 月に K 法人敷地内に建築することになった。この機に、両法人の直接的な利用者だけでなく、K 法人がある埼玉県川越市第 9 日常生活圏域を中心とする地域（以下、地域）に生活する全高齢者に輪を広げ、“それぞれの健康・ライフスタイル・生きがいを重視した地域包括支援のあり方”について検討すべきであると考えた。本研究事業により取り組むべき課題を明らかにし、そのプロセスや成果を多職種の関係者や地域高齢者と共有し、それぞれの立場で活用できる「食からの地域包括支援プログラム」構築に活かす必要がある。

本研究事業をすすめる上で重視することは主に以下の点である。

- 1）可能な限り K 法人の活動実績や地域の人的・社会的資源を活用できる仕組みづくりをすること。特に強みを引き出す方向を試みる。
- 2）研究事業担当者（以下、研究者）は足立己幸を除く全員が K 法人の現場の職員であるので、各課題は現在現場で抱える具体的な課題そのことである。そして、研究事業における検証も日常の支援活動の中で行うことを重要視する。
- 3）プログラム形成のキーワードである食については、研究者の一人足立己幸が提唱し、理論・実践化をすすめてきた食生態学（環境や生活とのかかわりを重視して、人間らしい食とその実現について究明する）をベースにし、地域包括支援活動との融合を試みる。

目的：すでに接近している超高齢社会にむけて「食からの地域包括支援プログラム」構築の必要性や可能性を明らかにし、構築にむけて具体的な検討をすすめるための枠組み案並びに検討に有用な作業マニュアル案を提供することである。本研究ではその中でも重要と考える検討のために地域高齢者を含む関係者が共有し、できる検討ができる教材（ワークシート）作成を目的とする。

目的について次の 6 面から明らかにする。

- ①川越市第 9 日常生活圏域を中心とする地域（以下、地域）の地域包括支援における食生活の課題並びに、食の視点を加えた地域包括支援の必要性や可能性。
- ②サービス利用者の食に関するニーズとそれをふまえた食交流プログラムの実施可能性。小規模多機能型居宅介護事業こもれび（以下、こもれび）における実践を事例にする。
- ③サービス利用者の食に関するニーズとそれをふまえた食交流プログラムの実施可能性。地域交流センターなごみにおける実践を事例にする。
- ④「食のセンター」の活動を円滑にする「食事支援プログラム
- ⑤試作とその評価により、必要な課題の抽出
- ⑥「食のセンター」のコンセプトを活かした有機的な活動のために、各拠点の異職種の関係者が共有できる基本マニュアルの作成とその有用性。
- ⑦「食からの地域包括支援」の必要性和課題を総合的に明らかにし、「食からの地域包括支援のあり方」検討の枠組

案を作成する。そのための関係者（地域高齢者を含む）で共有・活用できる教材（ワークシート）を作成する。

研究事業の方法：

各目的について、主として以下の方法で実施する。

目的①：食の視点を加えたアセスメント票を作成し、地域包括支援または生活支援に携わっているケアマネージャー等による戸別訪問インタビュー、そのプロセスや結果を用いてグループ内討議を行う。

目的②：日常的な生活支援活動（1 年間）の分析により生活行動観察調査票を開発し、認知症高齢者の事例について、タイムスタディと映像による観察・分析法を併用して行ない、検討する。

目的③：地域交流センターについて開設以来 9 年間の実践記録の分析により、検討課題と K 法人の強みを抽出し、実現可能な改善マニュアルを作成し、なごみで共食し、検証する。

目的④：「食アセスメント票」（K 法人管理栄養士グループで高齢者の生きがいやニーズを重視して開発してきた）から、目的達成に効果的な設問等を抽出し、食事支援プログラムを試作し、施設等の高齢者による評価を行ない、修正する。給食管理ソフトと合体し、実用化に供する。

目的⑤：食のセンター開設前に使用していた帳票類を食のセンターのコンセプトの視点で総括し、食事づくり行動理論と給食管理理論とを導入して、試作をする。食のセンター、食生活ステーションと各施設等の異職種の担当者が共有し、活用できるかを検討する。

目的⑥：地域交流センター運営委員会等地域グループ活動に積極的に関わってきた高齢者へのグループインタビューにより、食からの地域包括のあり方に関する意見や希望を収集し、ワークシート「あなたはどんな地域にしたいですか」（仮題）を作成する。地域高齢者や地域福祉の関係者に呼びかけてフォーラムを開催し、作成したワークシートの利用可能性を検討し、修正し、活用マニュアルを提案する。

以上について研究者全員による全体ミーティングと、各研究グループ内ミーティングを活発に行い、研究プロセスの課題を共有し、質を高めつつ進める。



## Ⅱ 分担研究事業報告

### Ⅱ－１

#### K 市第 9 日常生活圏域の地域包括支援における食生活支援の役割検討

研 究 者：貴志由美（社会福祉士・ケアマネージャー）

共同研究者：大畠知美（社会福祉主事・主任ケアマネージャー）

眞田菜穂美（介護福祉士・主任ケアマネージャー）

研究協力者：野口真理（看護師・ケアマネージャー） 今井千華子（社会福祉士）

高柳玉枝（看護師・ケアマネージャー） 草間尚子（介護福祉士・ケアマネージャー）

中村利江（介護福祉士・ケアマネージャー） 杉山健（介護福祉士・ケアマネージャー）

中西ひとみ（介護福祉士・ケアマネージャー）

#### １．研究要旨

地域高齢者それぞれの健康・ライフスタイル・生きがいを重視した「食からの地域包括支援のあり方」について考えるために、食の視点を加えたアセスメント票を作成し、担当地域の高齢者 120 名に戸別訪問してインタビューを行った。その結果を事例を元に分析し、グループ討論を重ねた結果、食の視点を加えたアセスメント票を使用すると、通常の支援では見えにくい内的な問題点や人間関係、その人の強み等の発見につながる事が明らかになった。またアセスメント票を使用したインタビューにも視点の変化が現れ、援助の深まりが期待できる結果となった。このシートを活用することで、それぞれの地域で、食からの地域包括支援を考えるきっかけづくりとなることが期待できると思われる。

#### ２．目的と背景

地域高齢者それぞれの健康・ライフスタイル・生きがいを重視した「食からの地域包括支援のあり方」について考えるために必要なニーズ把握方法を検証する一環として、通常ケアプランを作成するために使用しているアセスメント票に食の視点を加えることで、通常は見えにくい内的な問題点、家族等との人間関係、その人の強み、いきがい等の発見につながる可能性を明らかにする。

##### i）K 市の概況

埼玉県南西、都心から 30km に位置し、面積は 109.16km<sup>2</sup>、人口 344,432 人で、古くから県南西部における産業・経済・文化・観光などの中核都市として発展してきた。観光面では蔵造りの町並みが有名で、歴史的・文化的遺産が市内のあちこちに点在し、多くの観光客が訪れている。高齢者人口は 72,714 人、高齢化率は 21.1 1 % で平成 27 年には市民の 4 人にひとりが、平成 37 年には、市民の約 3 人にひとりが高齢者になることが見込まれ、他の首都圏の地域同様、今後は高齢者のみの世帯や 1 人暮らし高齢者の急激な増加が懸念される。

##### ii）第 9 日常生活圏域の概況

市内の観光の中心地から離れ、のどかな田園風景が広がる地域。首都圏のベッドタウンとして人口の流入も多く、古くからの住民と移住してきた住民とが混在している。人口 46,431 人、高齢者人口 11,682 人で高齢化率は 25.16 %。S40 年代にできた戸建の団地では一気に高齢化が進み、高齢化率が 50 % に迫る地域もある。市の高齢化率よりも高く、他の日常生活圏域と比べても 1 番高齢化率が高い。通常高齢者人口 5000 人に一ヶ所、中学校区に地域包括支援センターを設置する基準となっているが、第 9 日常生活圏域はそれのほぼ倍の規模となっている。

食を取り巻く環境は、川越市のサービスとして在宅高齢者配食サービス事業がある。対象者は 65 歳以上の高齢者世帯で、調理ができない、食材の購入ができない等の要件がある。H24 年より地域担当制から配達範囲内であれば利用者が自由に選択できるようになった。また地域では、地区社会福祉協議会・自治会・N P O 等が食事を作って提供している会食会、老人会の会食会、ボランティアと高齢者が食事を作って会食する会、午前中だけのサロン活動からコンビニで買ったおにぎりボランティアが作ったお味噌汁と一緒に昼食を取るようになったふれあいサロン等がある。

##### iii）地域包括支援センターみなみかぜの取り組み

K 市では平成 18 年に地域包括支援センターが 6 箇所設置され、在宅介護支援センターと協力して地域を担当する体制を取ってきた。平成 24 年に日常生活圏域が 6 箇所から 9 箇所となり、在宅介護支援センターが廃止となるため、平成 25 年からは高齢者の多い第 4、9 日常生活圏域に地域包括支援センターのランチが新たに設置となり、高齢者の相談を担うことになる。

地域包括支援センターみなみかぜでは、在宅介護支援センターの時代から地域での介護予防の取り組みを重視し自治会単位で転倒骨折予防教室の立ち上げや相談会を実施してきた。地域包括支援センターとなってからは教室の直接運営から自主化への支援にシフトし、介護予防サポーター（転倒骨折予防となるいもっこ体操を習得し、地域で広めていくボランティア）の育成からその活動支援を行い、介護予防からの地域づくりを行っている。

食に関する活動としては、共「食」手帳の発刊のための協力、在宅高齢者配食サービスとの連携、高齢者の食の自立支援事業の「食の地域ケア会議」にて配食利用者の事例検討会を実施（市の委託事業として平成 18 年～平成 23 年まで）、その対象者の中から男の料理教室の実施などが挙げられる。また地域での食の取り組みを行う団体から依頼を受け、食事前後に健康や介護の相談会や介護予防や消費者被害などの講義を行い、地域の高齢者への情報発信や実態把握を行っている。

#### ３．方法

##### １）情報収集

対象者を第 9 日常生活圏域の地域高齢者でみなみかぜと一定の関係性がある高齢者とし、地域包括支援センター職員 4 名と居宅介護支援事業所介護支援事業所のケアマネージャー 6 名の計 10 名が戸別訪問してインタビューを行うこととした。

##### ① 第一次案検討

みなみかぜや K 市で使用している食に関わる調査票を収集し、第一次案を作成。

##### ② プレテスト

インタビュアー 10 名が日常の訪問時にそれぞれ 1 人の高齢者にプレテストを行った。

##### ③ 再検討

プレテストの結果を元に、インタビュアー 10 名と地域事業部顧問 足立己幸、T 施設長とでカンファレンスを行い、3 つのケースを取り上げた。それぞれ通常では見えにくい内的な問題点・家族等との人間関係、得意な料理作り等の強みを具体的に知る機会になることが明らかになった。第一次案を書きこみやすく修正し、計 4 枚からなる食のアセスメント票（付表Ⅱ－１－１・Ⅱ－１－２）を作成した。

##### ④ インタビュー実施

インタビュアー 10 名で地域高齢者 120 名のインタビューを行った。

#### ２）分析の方法

①効果を分析する指標としてインタビュアーの自己評価票を作成し、インタビュアーにそれぞれのケースについて記入を依頼した。自己評価票はインタビューした結果、今までとは異なる情報が得られたか、ケアプランに変更があったかを聞いたものである。その人の支援をする上で、知りたいことや改善したいことを明らかにし、実施するために今回のインタビューがプラスに貢献するかしないか、その内容はなにかを明らかにした。まずは自分が担当している 16 ケースに関して分析を行い、評価の枠組みを作成した。横軸に今回のインタビューで何らかの発見があったかどうかの評価として、A 生きがい・強みが見えやすくなった、B ケアプランの質向上に役立った、C 新しい情報を得られた、の 3 つのタイプに分類した。縦軸は 16 ケースから抽出した高齢者が抱える問題点や高齢者にとって重要なこととして病気・気力・健康維持・食事・家族・仲間・地域の 7 項目とした。インタビュアーがどのような結果に至ったかを当てはめていき、効果測定を行った。（付表Ⅱ－２）

②効果の分析とともに、地域包括支援センター・居宅介護支援事業所それぞれで、集計結果をもとに考察を行い、地域包括支援センター職員 3 名と居宅介護支援事業所 S 主任の計 4 名で意見交換を行った。その後、調査研究総括

の足立己幸、地域包括支援センター O 課長、居宅介護支援事業所 S 主任、K で分析結果を持ち寄り討論を行った。最終的にはそれぞれの意見をまとめたものを考察とした。

### 3) 調査対象

基本情報によれば、次の特徴を持つ人々であった。(表Ⅱ－1－1)

## 4. 結果

### 1) 事例の分析

食の質問をすると、人は緊張を解き自分を解放する傾向がある。事例を通して、高齢者の課題や強みが見えてくることが分かった。分析の方法で述べた 3 タイプで事例を示す。

#### タイプ A (食・家族・仲間・健康維持) Y・I さんの事例

・地域包括支援センターとの関わり

要支援 1 の認定があり、病院から退院する時に関わりが始まったケース。身体状況はほぼ入院前の状態に戻ったが、自宅での生活のイメージが持てず不安を抱き、配食サービスも検討していた。委託のケアマネージャーに担当を依頼する

・インタビュー前に把握していた情報

71 歳 女性 夫を亡くした後、趣味などを楽しみながら 1 人暮らしをしていたが、平成 24 年夏、くも膜下出血で入院。麻痺は残らず、言葉が出にくいという訴えもあるも日常生活には支障なし。病院内も万歩計をつけ、杖を持たずに歩行していた。退院後長男夫婦と同居を始める。長男夫婦は都内に勤務しており、日中長時間 1 人になる。長男の妻は平成 25 年 3 月で仕事を辞める予定。長男の妻や娘が支援しており、家族皆仲良く、長男夫婦と旅行に行ったり、娘や孫たちとも交流があった。

・インタビュー後に新しく分かったこと

退院後しばらくした頃に訪問したところ、病院での面談とまったく表情が違い、いきいきと答えてくれたのに驚いた。退院後、長男夫婦と同居するようになり、独居の不安が解消し支えられている反面、長男夫婦のために食事の準備をするという役割ができたことが一番の理由だと思われる。宅配されるお弁当のメニューを見て、栄養バランスを考え小鉢を 1、2 品作るのは、夜遅くまで働いている長男夫婦の健康を気遣っているからで、その気持ちが長男夫婦にも届いてお互いを思いあう良い関係となっている。地域の教室や食事会などを紹介したところ、食事会はあることは知っているが、家族や気の合う友人と食事ができるので行きたいとは思わない。もともと知らない人と話をするのは得意ではないという返答だった。

・今後の支援に活かしたいこと

こまめに買物に出かけ、食事を作り、1 日 8000 歩近く歩いたり、長男の妻が休みのときは一緒にプールに行ったりしている Y・I さん。運動習慣もつき、健康状態もよく、家族の支援もあるので本人にもっと自信がつけば、介護保険サービスを利用しなくても自立した生活が送ることができる可能性があることが分かった。介護保険サービスが終了したとしても本人や家族にいつでも相談してもらえるよう、声をかけていきたい

#### タイプ B (家族・病气・健康維持) T・T さんの事例

・地域包括支援センターとの関わり

平成 24 年夏、自宅の浴室出入口で転倒し、介護保険を申請したところから関わりは始める。要支援 1、住宅改修後しばらくしてから通所の利用希望があり、委託のケアマネージャーにケアマネジメントを依頼している。

・インタビューの前に把握していた情報

81 歳 男性 妻と二人で暮らしている。2 年前に都内から娘のマンションの別棟に転居してきた。前述の K・T さんと夫婦。視力障害があり身体障害者手帳 5 級を取得している。心筋梗塞・排尿障害・便秘・難聴・高血圧などの疾患で治療中。妻が参加している地域の教室にはいっさい参加していない。10 分歩くと両足が痺れるが、休みながら 1 時間くらいかけて散歩をしている。

・インタビュー後新しく分かったこと

T・T さんも関わってから日が浅いため、多くのことが分かったが、夫婦一緒に調査をしたため、食事に関するところは主に妻が答えていた。本人だけだとなかなか聞きだすのが大変だったように思う。ただ、基本的には妻が答えるが、買物のくだりでは、妻と一緒に買物に行くが、自分の興味のある果物売り場とお菓子売り場以外は興味がなく、自分の欲しいものを買えると、後は外のベンチで座って待っているという話の時にはニコニコと話を聞いていたり、果物にはうるさいという話から出身地の話になったりと、食の話は人の心をなごませ、話しやすい雰囲気を作ることが実感できた。

・今後の支援に活かしたいこと

この調査の前に介護保険の担当者会議が行われたが、その時の 1 年後の目標では「妻と地域活動に参加する」だったが、食事のことなどいろいろ聞いたあとに、いきがいをお聞きしたら、「運動をして体力がついて出かけるのがおっくうでなくなったら妻と一緒に美術館に行きたい」、という答えが返ってきた。T・T さん自身はもともとあまり美術には興味が無いが、妻が美術館が好きで都内に住んでいるときには一緒に行っていた。身体障害者の手帳があると、付き添いも含めて並ばずに無料で利用できるからとのことだった。妻のために何かしたいという気持ちが伝わった。担当のケアマネージャーとも情報を共有し、ケアプランにぜひ活かしていきたい。

#### タイプ C (仲間・食) H・N さんの事例

・地域包括支援センターとの関わり

3 年ほど前から担当となった。現在要支援 2 で訪問介護週 2 回と通所リハビリ週 1 回利用している。3 年ほど前、配食サービス利用者を対象とした食の自立支援事業にケースとしてカンファレンスを関係者で行った。研修センターと企画した配食利用者対象の「男の料理教室」などにも参加されている。

・インタビュー前に把握していた事実

80 歳 男性 敷地内同居で長男夫婦が住む家屋が別にある。胃癌・S 状結腸癌の既往があり、ストマ使用。そのほか多くの疾患がある。

朝食は食の自立支援事業のカンファレンスで提案した「野菜たっぷり味噌汁」を作り、昼は軽めに、夕食に配食サービスを週 4 回、後の週 3 日は隣の長男の妻がおかずを持ってきてくれ、毎食 1 人で食事をしている。お酒が大好きで、毎日晩酌をしているが、医師の指示に従い、おつまみはトマト・きゅうり・豆腐などにしている。杖なしで歩行でき、車を運転して買物やリハビリ、畑に行っている。

・インタビュー後に新しく分かったこと

ヘルパーさんから、友人と相撲を見に行ったと聞いていたので、その話題から入っていくと、友人は小・中学校の同級生で、今度 3 月に 80 才記念パーティの企画があるとのことだった。その後、生きがいの話に持っていくと、最初は「ない!」と言い切っていたが、同窓会の話を出したら、「そういえばそうかな」と言われる。同級生とのつながりを大事にしていることが分かった。

食に関してはもともと調理はしていなかったが、朝食の「野菜たっぷり味噌汁」は続けている。畑で採れた野菜を入れたりもするが大半は人にあげている。「同じ野菜が一度にたくさんできるから」というが、人にあげることを楽しみにしている様子がうかがえた。カラスに食べられなくて済み、簡単にできるジャガイモやサトイモを作ること、さつまいもは土質があるのでなかなかうまくできないことなどを楽しそうに話していた。

・今後の支援に活かしたいこと

地域の食事会の話をしたときに、行きたくないと言った後、ぼつりと「1 人で行ってもなぁ」と言われた H・N さん。以前参加された男の料理教室の写真を壁に貼ってくれている。今度なごみに同級生と一緒に来てはと誘ってみようか、男の料理教室第 2 弾を企画できたらと考えている。

### 2) インタビュアーの自己評価 (図Ⅱ－1－2)

120 件中 16 件はインタビュアーと自己評価票の記入者が別であったため、対象外とした。104 件中何らかの発見があったケースは 62 件、何もなかったケースは 42 件であった。これだけだと、両者の間に際立った差異が見られない。しかし、インタビュアーそれぞれに対して見ていくと、インタビュアー全てが何らかの新しい発見があったと回答し

ている。

このなんらかの発見があった 62 件に関しては、食への関心があって、通常のアセスメント票に食の視点が加わることで、通常は見えにくい内的な問題点、家族等との人間関係、その人の強み・いきがい等の発見につながる可能性がある判断する。(図Ⅱ－１－３)

3) 調査結果からどんな動きがあり、どんなことが話題になったか

① 2 月中旬、調査書提出後すぐ、居宅介護支援事業所が担当した 68 件に関して 3 名のケアマネージャーが自主的に集計結果を分析し、今後の支援に活かそうと動いていた。

② 3 月上旬、インタビュアー 10 名で集まりグループミーティングを行った。インタビューをして感じたことやアセスメント票についてなどについてそれぞれ話してもらったところ、上記ケアマネージャーから集計した結果についてまず話し合いたいとの意見が出た。

③ 3 月中旬、地域包括支援センター 4 名で、集計した結果を元に現れている傾向を話し合った。それぞれの項目についても色々と意見が出たが、インタビュアー自身が、このインタビューを通して感じたこと、分かったこと、今後のアセスメントに活かしたいことが多かった。例えば、

- ・今回このシートを使って食行動を聴取することにより、今までは聞くことができなかった、または聞くことを落としていた項目に関して再確認することができた。基本情報や生活の状況のところでは聴取出来ることもあったので、重複している部分もあったが、本人の行動のアセスメントに必要な情報もあり、新たな再発見があった。
- ・退院後デイサービスに通い元気になってきたと評価していたが、食に関わる場所でも意欲が回復していた。どちらも専門家や妻、仲間など人とのかかわりがあって実現していると思う。
- ・「食事の確保へ意欲」が、うつ状態の知る目安になっていることを確認した。
- ・外食は生活意欲の維持につながっている。
- ・これまでも生活の全体像を把握するためにこれまでも食生活に関する情報を聞き取れていたことが確認できた。
- ・多少の痛みがあっても食のこだわりが動く力になっていると感じた。
- ・家族や近所の人の支えで、食を積極的に楽しんでいると思った。
- ・家のなかが冷え切っていて暖かい食事をイメージできない家の様子だった

等、様々な意見が出た。また、食行動シートは特に効果的だったという意見で一致していた。

④ 3 月下旬、地域包括支援センター 3 名・居宅介護支援事業所 1 名と地域包括支援センター・居宅介護支援事業所の分析結果を持ち寄り討議する。

居宅介護支援事業所では高齢になることで移動の課題が大きくなり、閉じこもりや行動範囲の縮小につながっている。地域で移動の手段ができればよいのではないかと、障害者サービスである生活サポートの高齢者版があったらよい、他市でおこなっている小回りの利く T ワゴン、法人の行っているオンデマンドバスは必要なサービスだと思うという意見が出た。

- ・食事は、食事だけではなく、そこに「人」がいないとつながらない。みんな知らない場所や知らない人の中で食事はしたくない。またはイベントがあるとよい。なごみなら足(オンデマンドバス)＋人(ケアマネ)で利用者が来やすいのでは。最初のきっかけだけ作ってあとはなごみでそれぞれが知り合いになるとよい。
- ・そのほか、食事会には疾患で食事に制限があるため、行けない人もいるので、疾患のない人も、ある人も一緒に食べられる食事だとよりよい。
- ・居宅介護支援事業所では要介護者用のアセスメントを作ったほうがよいという意見がでた。食の偏りや重度者に対応した食アセスメントが必要と感じた。それに対して地域包括支援センターからは今回の食行動のシートはそれぞれの食行動を整理できるので使いやすい。そこから何ができて何ができないのかをアセスメントできるのではという意見がでた。
- ・要介護者用の食のアセスメント票が必要と思った理由に、食の問題は問題だと分かっているがなかなか言えない

ことが多い。その人自身を否定してしまうような気がする。とてもデリケートで難しいと感じていることが挙げられた。

- ・通常のアセスメントの他に、食行動や食を意識した生活の目標を確認できる調査票を加える事で、食が生活全体に影響していたり、病気や介護による生活状況の変化が食生活の質を変えてしまうということが見えてきた。また、食生活が高齢者にとってどんな位置づけになるのかを確認できた。今回の研究から得られた情報を活かし今後の生活の援助を考えると、アプローチの方法はいくつかに分けられると思う。

i) 食行動を直接援助する方法

ii) 食行動が維持できたり、改善されるように援助する方法。

iii) 食行動からは離れた生活の課題を解決したり、実現する事で食生活の改善や充実に繋がる方法

iv) 状況を把握し、生活の課題の解決を優先しつつ食生活の改善については見守る方法。

どの方法を選択するかは、個別のニーズを適切に把握することが必要だが、食行動を明らかにするシートは有効と思われる。

- ・そのほか、女性の方が生き生きしている人が多いが、男性でも食行動のシートを使うと参加可能な部分が見つかりそうといった意見やインタビュー後に行動変容が見られた(かも知れない)ケースなどについて自由に意見を交換した。

⑤ 3 月下旬、調査総括・足立己幸によるグループインタビューを行う

居宅介護支援事業所・地域包括支援センターそれぞれのグループ討議、合同での意見交換を経て地域包括支援センター O 課長・K、居宅介護支援事業所 S 主任の 4 名で行った。

A：第 2 回目のインタビュアーに対しての自己評価票の結果として発見はなかったとした人の中で、調査票には書いてあるのに、自己評価票ではないとなっていることがあった。可能性としてはもう知っていると思っている人、狭い視野で食を見ている可能性もあるか。自己評価票では何も新しい事が見つからなかったとしても調査票には～が分かったという記述があるケースを洗い出した結果、前述のような結果になった。それぞれのスタッフの自己評価票だけでは分からなかったが全員新しいことが見つかった。食の視点を入れることで新たな発見ができる可能性があると言える。

S：2 月上旬の居宅介護支援事業所内で行った検討では、集計結果をみてケアマネージャーとして何ができるかという視点で話を進めた。地域の食事会に行けない理由として主に A D L 低下に伴う移動の問題が大きい、他にも道が狭い、溝がそのまま、食事会の会場がエレベーターのない公民館の 2 階でトイレも和式といった環境の問題でもあるという意見が出た。また家族に頼ろうとする人はいない。家族に対しては元気でいて欲しい、これ以上迷惑をかけたくないという意見がほとんどで、(これはほぼ全員に共通)、今の時代を反映しているように思った。そういった移動や環境の問題で高齢者がやりたいことができない状態を改善する為に一つの解決方法として市内の地域包括支援センター支援センターや居宅介護支援事業所で意見をまとめて市に要望してはどうかと考えている。

S・A：出かけたいと面倒くさいが拮抗している時、仲間がいる人は行く。一回行っても知り合いができないと行かなくなる。知っている人がつなぎになればいいのではないかと。共食の場を使って引きこもっている人も外にひっぱりだせるのではないかと。そこには必ず「ひと」が必要。閉じこもっている人にこそ必要。

S：生きがいを聞いたところ、買物したい・調理したい・外食したいという思いが出てきた。ケアマネージャーをしていて、介護保険では人に買物してもらうことはできる。そのほうが安い、それでも自分で行きたいと思っている。調理してもらう事もできる。途中までやってもらって味付けだけすることもできるが、それをする人はいない。全部できないならやらなくていいとなる。デイサービスの食事はあまり人気がない。しかしデイサービスの外食会は大人気である。デイサービスでも食事が選べるとよい。以上のことから人の食に対する楽しみは喜びは選択することなのではないかとの結論に達し、今回ケアマネージャーとして、本人がなるべく選択できるようにケアプランを提示することを考えている。

A：南三陸町に車で移動販売に来るが、たくさん種類があって選べるようにしているところが人気がある。食べ物単価が安いので選ぶ楽しみが多い。なごみでもお茶碗選びを入れたのは選択する楽しみを増やしたかったから。何

種類も食事をつくるのは難しいが、箸置きやお茶碗などを選ぶだけでも楽しくなる

S：食事についての助言や指導は難しい。その方の生き方や人格を否定してしまうように感じる。非常にデリケートである。今回のインタビューでも取り上げた兄弟2人暮らしの男性は、食と健康の会にも参加していた。体重は100キロを超え、高血圧や糖尿病、脳梗塞の既往もある。膝関節を痛めてしまい、主治医からは体重を減らすように指示され、病院の栄養指導も受けたが、今も体重が増え続けている。両親の体格も同様であり、毎日たっぷりとおやつや食後のデザートを楽しむのが習慣であった。これを本人が不快にならないよう助言や提案をし、変わっていただくのはなかなか大変である。経験のある他のケアマネージャーからも同様の意見が出た。

S：食の偏りが分かるアセスメント票をつくりたい。

A：1日だと分からないが、1週間続けると自分でも気づくと思われる。今後の課題としたい。

O：食に問題がある場合、そこに課題があると分かっているにもそれに触れず、おかしいと思っても「それは普通」と言うことがある。

A：「私もできないの」という話をするのもテクニックの一つ。問題が食に集中している場合、問題として注目せずに別のアプローチをすることもあり。食事は食べたらずに蓄積するので早くでる。それが結果だったり原因になったりする。

O：3年ほど前まで中学、高校の英語の教師だったケース。数年前に不眠と「妻に男がいる」という妄想で受診しうつ病と診断。2年前に離婚したが、2ヶ月ほど前に妻が戻ってきて一緒に暮らしている。家では、横になる事も多く、入浴は億劫で自宅で殆ど入らない。食事は自分の分をコンビニやパン屋で購入し1人で食べるという生活。家族としての食事の形がいつから今のように本人のみ別になったのか？家族全員がバラバラの食事のようでもあるが……。長男は本人を大切に思い心配もして協力的で、長女との関係も冷え切っているわけではない。何かしら理由や経過があるようだが、そこは話したくないように見え、こちらからは聞けない。家族の危機は食事の形に強い影響を与え、歪んだ形の食生活を作り上げてしまい、簡単に以前の形が取り戻せないものであると感じた。

S：食と健康の会の調査で、食事を床に直に置いて写真を撮った人がいた。その人の家族や生活歴が出てくる。その人の上の世代にも関わってくるので余計に言いづらい

A：体調が悪い時に一番弱いところに出るように、生活に問題が出てくると食に出やすい。いいことも悪い事も。

以上のことから次のことが共通の意見として出された。

食はその人そのものと言いたくなるくらいその人の内面やこれまでの生き方などと密接に関わっている。そのため、聞きづらかったり、深入りしづらかったり、問題の解決も本人と共有しづらいといった面倒な面があるのは事実だが、だからこそより深く高齢者を把握でき支援に活かせることが分かった。それは高齢者の個別支援にとどまらず、地域の課題を考えるきっかけにもなることが分かった。

5. 考察と提案

地域包括支援センターの職員として現場で悩みながら仕事をしている立場から考察する。

- 食の視点をを用いることで、高齢者一人ひとりの「その人らしさ」や望み、生きがいに近づけるのではないかと。それが、私がこの調査を行う上での出発点だった。
- 高齢者は揺れている。ちょっとしたきっかけで良い方にも悪い方にも行く可能性がある。私たちは揺れている高齢者の背中をちょっとだけ押すことができる「きっかけ」になり得る立場にいる。そのタイミングを逃さず、間違わず、的確に押せる援助者でありたい。
- 食は気持ちを開かせる効果が確かにある。そこからほんの少しだけその人の内面が見える。それは私たちが高齢者を一方的に知る手段ではない。双方向のやり取りでお互いに影響を与え合っている。
- 事例の分析から得られたことももちろん重要だが、グループディスカッションでの成果も大きい。食の視点を取り入れたことで、ケースに対しての発見だけでなく、メンバーそれぞれが何かを得たと思われる。その何かは本当に人それぞれで、その人のバックグラウンドや内面に深く関わっているため様ではない。だからこそ面白い貴重なのだ。そして、その得たものを皆で共有したくなる。こんなことが分かった、こういう視点もあった等々。それぞ

れの意見や考えがお互いに影響しあう。関わる人が多ければ多いほど、様々な視点から新たな発見が生まれ、連鎖反応はどんどん進む。第9日常圏域のケアマネ情報交換会でケアマネージャー1人に1例ずつ、このアセスメント票を行ってもらい、グループごとにディスカッションしてもらったらどうなるか。市の委託事業としては終了してしまった食のケース検討会の復活、さらには、地域包括ケア会議でケース検討をする際に活用してはどうかなど、夢は膨らんでいく。その全てが1人ひとりの高齢者のその人らしさを認め寄り添う支援という方向に向かっていると考えると、1つの流れになるだろう。

- アセスメント票は自由記述が多い分、切り口によっていろいろな調査に使うことができるようになっている。1枚だけ使うことも可能だ。基本情報は集計を目的として食に関連している項目を抜き出しただけなので、通常使用しているアセスメント票で十分だと思われる。用途に合わせて使っていただきたい。

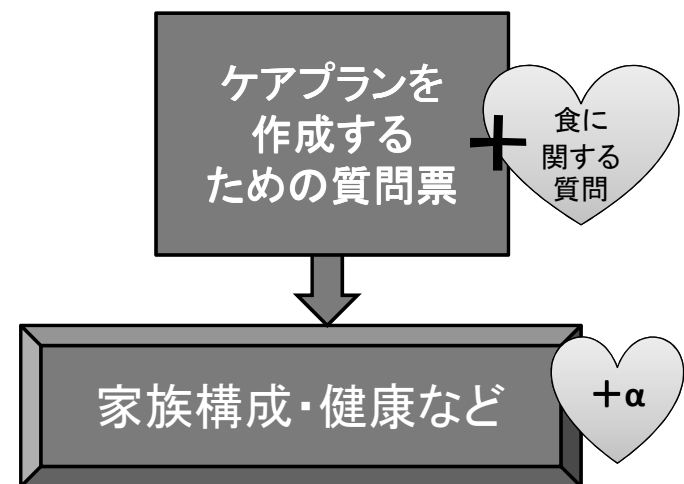
6. 結論

食の視点を取り入れたアセスメント票を活用することで、高齢者に寄り添う支援が深まるとともに、それぞれの地域の特徴を活かした「食からの地域包括支援」を考えるきっかけづくりとなることが期待できると思われる。

参考文献・参考資料他：

- 「すこやかプラン・川越 川越市高齢者保健福祉計画・第5期川越市介護保険事業計画」川越市，2012
- 足立己幸・高橋千恵子・小川正時：『マイゴール・マイサイズ・マイペースですすめる食からの生きがい・健康・地域づくり 共食手帳』群羊社，2008
- 足立己幸・高橋千恵子：「高齢者にかかわるすべての人へ 第6回」，月間総合ケア Vol.16 No.11 7882，2006・11

図Ⅱ－１－３ 食の視点の効果



表Ⅱ－１－１ インタビューに協力した高齢者の属性

※( )内の数値は人数

| 質問項目                           | 回答者数                                                                                                    |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 性別                             | 男(34)、女(86)                                                                                             |
| 年齢                             | 50代(2)、60代(12)、70代(37)、80代(56)、90代(13)                                                                  |
| 介護度                            | 自立(14)、二次予防(10)、<br>要支援1(29)、要支援2(16)、要介護1(29)、<br>要介護2(14)、要介護3(5)、要介護4(3)、要介護5(0)                     |
| 家族状況                           | 単身(34)、高齢者世帯(28)、日中独居(19)、その他(39)                                                                       |
| 病名<br>(複数回答)                   | 循環器系(64)、骨・筋肉系(64)、内分泌系(23)、脳神経系(16)、呼吸器系(13)、<br>消化器系(13)、血管系(12)、眼科(12)、精神系(11)、認知症(6)、耳鼻科(3)         |
| 既往歴<br>(複数回答)                  | 骨・筋肉系(33)、消化器系(21)、脳神経系(19)、血管系(17)、循環器系(12)、<br>眼科(9)、内分泌系(6)、婦人科(5)、呼吸器系(3)、精神系(3)、泌尿器科(3)、<br>耳鼻科(2) |
| 配食サービス利用の有無                    | 利用している(31)、利用していない(89)                                                                                  |
| 食事・口腔<br>(嚥下動作)                | 自立(119)、一部介助(1)、全介助(0)                                                                                  |
| 食事・口腔<br>(嚥下困難)                | なし(107)、あり(13)                                                                                          |
| 食事・口腔<br>(食事内容)                | 普通食(109)、刻み(3)、軟食(8)、流動食(0)                                                                             |
| 食事・口腔<br>(咀嚼)                  | 支障なし(114)、支障あり(6)                                                                                       |
| 食事・口腔<br>(義歯)                  | 使用(69)、未使用(13)、不要(38)                                                                                   |
| 運動・移動<br>(室内)                  | 自立(64)、つかまり(43)、補助具(9)、その他(4)                                                                           |
| 運動・移動<br>(屋外)<br>(自力でどこまで行けるか) | 屋内のみ(12)、家の周り(24)、近所のスーパー(52)、遠方(32)                                                                    |

表Ⅱ－１－２ インタビュアーの自己評価

|            | 発見あり<br>インタビュアー(8)・事例(62)             |                                      |                                  | 発見なし<br>インタビュアー<br>(8)<br>事例(42) | 計<br>インタビュアー<br>(8)<br>事例(104) |
|------------|---------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|
|            | タイプA: 生きがいがいい、強み<br>インタビュアー(3)・事例(14) | タイプB: ケアプラン 質向上<br>インタビュアー(6)・事例(14) | タイプC: 新しい情報<br>インタビュアー(8)・事例(34) |                                  |                                |
| 病気         |                                       | インタビュアー(3)・事例(4)                     | インタビュアー(2)・事例(3)                 |                                  |                                |
| 気力(うつ・認知症) | インタビュアー(1)・事例(1)                      | インタビュアー(2)・事例(3)                     | インタビュアー(3)・事例(5)                 |                                  |                                |
| 健康維持       | インタビュアー(2)・事例(6)                      | インタビュアー(5)・事例(7)                     | インタビュアー(5)・事例(10)                |                                  |                                |
| 食事         | インタビュアー(3)・事例(12)                     | インタビュアー(5)・事例(13)                    | インタビュアー(8)・事例(32)                |                                  |                                |
| 家族         | インタビュアー(2)・事例(9)                      | インタビュアー(4)・事例(5)                     | インタビュアー(8)・事例(20)                |                                  |                                |
| 仲間         | インタビュアー(2)・事例(8)                      | インタビュアー(4)・事例(4)                     | インタビュアー(5)・事例(9)                 |                                  |                                |
| 地域         | インタビュアー(2)・事例(6)                      | インタビュアー(3)・事例(5)                     | インタビュアー(5)・事例(10)                |                                  |                                |

※インタビュアー2名・ケース16名は自己評価表が記入できなかったため対象から外した

※インタビューを行った結果、生きがいがいいや強みが見えやすくなったか、ケアプランに加筆・修正があるか、今までとは異なった情報を得ることができたかを尋ねている



実施日 平成 年 月 日 ～  
調査者氏名

食のアセスメント票

【基本情報】

|                                     |                      |                      |     |   |     |     |    |   |    |   |    |
|-------------------------------------|----------------------|----------------------|-----|---|-----|-----|----|---|----|---|----|
| イニシャル                               |                      | 性別                   | 男   | 女 | 地区  |     | 年齢 | 才 |    |   |    |
| 要介護度                                | 自立                   | 二次予防                 | 要支援 | 1 | 2   | 要介護 | 1  | 2 | 3  | 4 | 5  |
| 家族の状況                               | 単身 高齢者世帯 日中独居 その他（ ） |                      |     |   |     |     |    |   |    |   |    |
|                                     | 特記                   |                      |     |   |     |     |    |   |    |   |    |
| 病名                                  |                      |                      |     |   | 既往歴 |     |    |   |    |   |    |
| 体型 痩せすぎ 痩せている やや痩せ 標準 やや肥満 肥満 とても肥満 |                      |                      |     |   |     |     |    |   |    |   |    |
| 配食利用状況                              |                      | 月                    | 火   | 水 | 木   | 金   | 土  | 日 | 特記 |   |    |
|                                     | 昼                    |                      |     |   |     |     |    |   |    |   |    |
|                                     | 夜                    |                      |     |   |     |     |    |   |    |   |    |
| 食事・口腔                               | 摂食動作                 | 自立 一部介助 全介助          |     |   |     |     |    |   |    |   | 特記 |
|                                     | 嚥下困難                 | なし あり                |     |   |     |     |    |   |    |   |    |
|                                     | 食事内容                 | 普通食 刻み 軟食 流動食（経口 経管） |     |   |     |     |    |   |    |   |    |
|                                     | 咀嚼                   | 支障なし 支障あり            |     |   |     |     |    |   |    |   |    |
|                                     | 義歯                   | 使用 未使用 不要            |     |   |     |     |    |   |    |   |    |
| 運動・移動                               | 室内                   |                      |     |   |     |     |    |   |    |   |    |
|                                     | 屋外                   |                      |     |   |     |     |    |   |    |   |    |
| 特記                                  |                      |                      |     |   |     |     |    |   |    |   |    |

1. 日々のお食事のことをお聞きます

| 食行動      | 自分でしている | やってもらっている |
|----------|---------|-----------|
| ① 立プランを  |         |           |
| ② 準備     |         |           |
| ③ 料理をつくる |         |           |
| ④ 食卓をつくる |         |           |
| ⑤ 後片付け   |         |           |
| ⑥ 評価     |         |           |



食事のマイゴール（もっとやりたいこと・やってほしいこと）

## 2. 自宅以外での食事についてお聞きします

自宅以外で食事をすることはありますか？

例：別居の家族の家で・外食(レストラン・ファーストフード等)・デイサービス・老人会の会合・地域の食事会等

## 3. 地域の食事会を知っていますか？

例：K地区社協1人暮らし食事会(K公民館)・Kお楽しみ会(K自治会館)・

K茶の間ランチ(K自治会館)・なごみ(みなみかぜ交流センター)

・Kの会(N市民センター)・その他 ( )

①知っているが、行っていない ⇒ (理由)

②知っているが、行っていない ⇒ (理由)

③知らない

⇒ 行ってみたいですか？

①行ってみたい ⇒ (理由)

②行きたくない ⇒ (理由)

【調査しての感想・考察】

生きがい・  
暮らし生きがいや暮らしについて考え、  
マイゴール(自分の目標)を探してみましょうあなたにとっての生きがいは、どんなことですか？ そのために、  
どんな暮らしがしたいですか？ 思いつくまま自由に書いてみましょう。

私の生きがいはこれ! こんな暮らしがしたい!

記入日 年 月 日

## ステップ①

どんなことが生きがい？  
または、生きがいに  
したいと思っていることは？

## ステップ②

それを実現するために  
やりたいことは？ または  
やらなければいけないと  
思うことは？  
うまくできないことや  
問題点がある場合も  
書いておき、  
△印を付けておきましょう。

食生活の面では

健康面では

その他の面では

## ステップ③

これらを実現するために  
どんな家族・仲間・地域で  
あってほしいですか？

仲間

家族

地域

## ステップ④

全体を見て、つながりの深いところを線で結んでみましょう。

## 事例

### タイプ A

#### 1. S・Sさん 健康維持・食・家族・地域

##### ・地域包括支援センターとの関わり

平成 18 年から要支援と要介護を行ったり来たりされている。今回の調査時も歩行状態が悪化し、変更申請をして要支援 2 から要介護 1 になった。委託のケアマネジャーが直接の担当をしているが、地域の体操教室や自治会の食事会などにも積極的に参加しているので、憩いの家でお会いすることが多い。食事会の前に行う福祉相談会にて血圧測定を行うときに、痛いところはないか、体調はどうかと尋ねても穏やかに「いつもと変わりありませんよ。」と答え、身体の不調を訴えることがない。いつも「健康の秘訣は規則正しい生活」と話している。

##### ・インタビューの前に把握していた情報

95 歳女性 60 代後半の息子と 2 人暮らし。本人は 1 階、息子は 2 階で暮らしていて、自分のことは自分で行い規則正しい生活をしている。高血圧以外は大腿骨頸部骨折の既往がある。室内外ともシルバーカーを利用している。特筆すべきは、日曜以外毎日外出をされていること。週 2 回はデイサービス、週 4 回は自治会の老人憩いの家自分でお弁当を作りシルバーカーで出かけていたが、調査直前長距離の歩行ができなくなり、憩いの家へは息子が車で送迎している。

「一人で食べるより皆で話しながら食べると味が違う。」と言われ、自治会の食事会はデイサービスを休んで参加している。

##### ・インタビュー後に新しく分かったこと

憩いの家にて行ったが、調査にとっても協力的で、「今は時々お惣菜を買う事もあるけれど、昔は何でも手作りしましたよ」と後述の K・I さんも交えて昔の話に花が咲いた。新たな発見としては息子との関係性が挙げられる。生活は別々で自分のことは自分でしていると常々言われていたが、以前から重いもの・かさばるものの買い物は息子がしていた。息子が買い物に連れて行ったり、硬い野菜を切っておいたり、鍋などの調理器具を洗っておいてくれたりと、本人の「杖をつきながらでも自分の食事は作り続けたい」という希望に沿って、息子が適宜支援をしていることが見えてきた。S・S さんに家族への希望を聞いたときに「老いては子に従えというでしょ。もう十分だからこれ以上は望まないわ」と言われ、息子との関係が良好であるように感じられた。もう 1 つ驚いたことが、毎日 19 時に就寝するときに、「毎日寝床の中で今日一日どうだったか反省をする」と答えたことだった。日々プラン⇒ドウ⇒チェック⇒アクションのケアマネジメントサイクルを行っていたことが、97 歳になっても心身ともにしっかりされ、生活に意欲を失わないことにつながっているように感じた。調査後、自治会の食事会で SS さんに足の状態を聞いたところ、いつもと全く変らぬ表情と口調で「(足が動かなくて)もうだめね」と話された。関わりができてから 8 年目にして初めて口にされた弱音だったので、とにかくびっくりしてしまい、今通っているデイサービスだけではなく、リハビリを行う事で改善されるかもしれないことなどお話したが、少し黙った後、「今までどおりで」とおっしゃった。憩いの家へ送ってきた息子からは、だんだん良くなってきたので暖かくなったら少しずつ外を歩かせたい。まずはスーパーに行けるかどうか試してみたいと聞いていた直後だったので、余計に印象が強かった。

##### ・今後の支援に活かしたいこと

家の中に人が入ることを好まない家庭なのでそれを考慮しつつ、食事作りが大変になったときに、S・S さんの望む「杖をついてでも自分の食事は作りたい」「家に閉じこもらず外出し人と交わる生活を送りたい」という希望を叶えるためにどうしたらよいかを、事前に関係者で確認しておきたい。

#### 2. K・Iさん 健康維持・食・家族・仲間・地域

##### ・地域包括支援センターとの関わり

介護保険は申請しておらず、地域の教室で面識がある程度。二次予防事業対象者としてみなみかぜのときも運動教

室を利用したことがある。

##### ・インタビュー前に把握していた情報

82 歳 女性 1 人暮らし。子どもは娘と息子で、孫の写真をキーホルダーにして持ち歩いている。変形性膝関節症があり、歩行が困難になっている。今の歩行状態を保ちたいと強く希望している。現在は介護保険のサービスは利用していない。以前自治会館の事務をしており、地域とのつながりが強い。地域の活動には積極的に参加しており自治会の食事会にボランティアとして参加。今は立っての作業が大変なため受付を担当しているが、座ってやる作業には参加している。

##### ・インタビュー後に新しく分かったこと

調査時は憩いの家で S・S さんと一緒に行ったが、とても協力的で「昔は何でも手作りよ。餃子・シューマイ・から揚げとたくさん作ったわ」といきいきと話してくれた。主婦として家事を切り盛りし手作りの料理を家族のために作ってきたことを誇りに思っている様子だった。

この方の場合、普段の関わりだけでは分からない様々な新しい事実が分かった。

食事に関する質問だったため、直接関係する話題としては、義歯が合わなくなり食事を柔らかめに作っていること、配食サービスに対していろいろと意見を持っていたことなどが分かった。また、近隣に娘が住んでいること、孫の来訪を心待ちにしていることは知っていたが、毎週月・金に娘が送り迎えをして娘の自宅で一緒に夕食を食べていることや平日の昼間に娘とランチに行ったりしていることが分かった。また他市の息子も週に 1 回来訪し、その時に家の用事を頼んでいること、長期休みのときには孫も含めて皆で外食に出かけたり、K・I さんの誕生日には温泉旅行に出かけたりと子どもや孫との関係は良好であることが分かった。

地域とのつながりは予想以上だった。スーパーにはほとんど行かず、付き合いのある商店街の店で買い物をしている。なじみのお店があり、「豆腐は〇〇店じゃなくて××店が美味しいのよ。」と具体的な話が聞くことができたし、たくさん買い物をしたときは届けてもらうなど地域の状況に詳しいことも分かった。食事作りに関して言えば、立位が困難な状況から少し大変になってきている様子がうかがえた。しかし、年末に焼き豚を 6 本作り、お正月に家族みんなで食べたり、お土産に持たせたりしたというエピソードから家族のために作ってあげるのは苦にならず逆に楽しみになることが分かった。

K・I さんの場合、生きがいをたずねたところ、「S41 年に仲間と立ち上げたコーラスクラブを続けたい。年 3 回の合唱祭も参加したい」とすぐに答えられた。合唱祭は、今年から椅子に座っての参加するようになった。葛藤はあったようだが、それでも杖を突いて転んで皆に迷惑をかけるよりいいだろうと決断したとのことだった。いきがい実現のために必要なこととして健康面ではたくさんでてきたが(特に下肢筋力に関して)、食生活の面では特にない出てこなかった。家族に対しては、1 人暮らしを続けて今の距離を保ちながら交流を持ち続けたいと望んでいることが分かった。

##### ・今後の支援に活かしたいこと

現在、リハビリを行うために介護保険の申請を検討している。介護保険を利用する時には、足腰の強化だけではなく、食事作りや地域とのつながりなど新たに分かった情報を取り入れながらプランを考えたい。次回は貧血という切り口からもう少し具体的な食事内容を聞いてみようと考えている。

#### 3. K・Tさん 食・家族・地域

##### ・地域包括支援センターとの関わり

地域の転倒教室の参加者として面識はあった。平成 24 年夏夫が自宅内で転倒したことをきっかけに夫の介護保険を申請。要支援 1 の認定が出て住宅改修などの手配を行った。その後、夫が介護保険の通所サービスを利用することとなり、委託のケアマネジャーにケアマネジメントを依頼している。

##### ・インタビュー前に把握していた情報

76 歳 女性 夫と二人暮らし。2 年前に都内から娘のマンションの別棟に転居してきた。夫は視力障害がある。すべての家事を行っている。自治会のサロンや地域の体操教室にも積極的に参加している。

・インタビュー後に新しく分かったこと

こちらが把握していた地域の体操教室の参加者・要支援 1 の夫の介護者ということからは分からなかったことをたくさん知ることができた。

K・T さんの場合、生きがいを聞いたところ、最初「希望は持たないようにしている」と言われた。実は俳画を趣味としているということから、俳画を始めたきっかけが 14 年間実母を介護していて母の様子を見て趣味がないといけなと感じ 50 歳過ぎてから習い始め無審査 ( 師範 ) まで行ったこと、介護をしながらも都内に住んでいたころは月に 1 回近所の方と登山に行ったり、夫が退職してから思い出作りに夫と二人車で色々なところに出かけたこと等、本当にいろいろな話を聞かせてくれた。今は住み慣れたところから現住所に転居し、夫も視力障害があって車の運転で二人で出かけることはなくなっている。しかし「贅沢を言えばきりがない。自分の器の中で精一杯生きてきたから満足」と。今は娘にこれからの人生を考えるよう話をしようと思うが、いつも逃げられてしまうと笑っていた。夫については視力障害があるが、まったく愚痴を言わない。それは本当にすごいことだと思っていると夫を気遣い、仲良く暮らしている様子がうかがわれた。娘家族に対しては孫も大きくなったし、生活習慣が違うので、夫と二人生活していきたいという意向があり、今の距離感を保ち自立した生活をしたいという意向だった。夫との食事は自分が手作りし、一緒に食べていることと、娘家族とはあまり一緒に食事をしないといったところが、生活への意向と食生活への意向が同じ方向性のように感じた。

・今後の支援に活かしたいこと

調査を行い、夫に何もさせていなかったことに気づいたといい、「少しくらい家事を教えればよかったかしら。せめて下膳くらいは」と言われていた。

今後は K・T さんの人生経験を活かせるような地域の活動の場や夫婦で参加できる催しものなどを紹介していきたい。

4. T・K さん 健康維持・家族・仲間・地域

・地域包括支援センターとの関わり

自治会の食事会や老人会に参加しており、食事会の前に血圧を測りながら相談を受けていた。H23 年秋から服薬していないことはそのときに分かり、どこに受診したらいいかと相談されるのだが、実際に受診はされず、同行も拒否されていた。妻が急死したときの病院の対応から医療に不信感を持っていると話されている。

・インタビュー前に把握していた情報

86 歳 男性 60 歳の娘と同居。娘は仕事をしていない。

元警察官で、海軍の帽子をかぶり、海軍出身ということをととても誇りにされている様子であることは把握していた。H20 心筋梗塞の既往があり心疾患・高血圧・前立腺肥大・便秘・首の痛みがある。H23 年秋に主治医とけんかしてからどこにもかかっておらず、服薬していない。5 分歩くと息が苦しくなる。自治会の防犯パトロールにボランティアで参加していたが、心疾患のため 2 年前にやめている。

・インタビュー後に新しくわかったこと

同居の娘について詳細が分かった。就労はしておらず、家にいても食事は別々であること、娘が猫十数匹の世話やその記録を夜中までしていてやめないこと、T・K さんが体調の不安を相談しても私だって体調が悪いといって話を聞いてくれないなど、娘も不安定な印象を受けた。

生きがいについて聞いたところ、すぐに「3 月に〇〇である△△の総会に行きたい」といわれた。元特攻隊員であった人の会で去年は参加できなかったとのことだった。生きがいはすぐに出てくるが、その実現のために行うこととなると意見が出てこなかった。とにかく近くの病院でいいから、受診して心臓の薬を服薬したら、息切れも軽減し、参

加できるのではと受診を促したが、その場でははっきりした返事はなく、面談は終了してしまった。2 ヶ月後の食事会でけんかした主治医のところに行き、服薬を再開していたことが分かった。

・今後の支援に活かしたいこと

服薬を続け、体調が安定しているかをモニタリングしていく。必要なときに相談してもらえる関係を作っていきたい。今度会ったときには総会には参加できたか、聞いてみようと思う。

5. T・S さん 食事・健康維持・気力

・地域包括支援センターとの関わり

5 年ほど前に介護保険を申請し、市のいきがいサービスの担当だった在宅介護支援センター職員から引継ぎ、現在に至る。

・インタビュー前に把握していた情報

88 歳 女性 息子夫婦と敷地内同居をしている。要支援 2 でヘルパーによる掃除の援助 ( 週 1 回 ) と生きがいデイサービスからデイサービスの枠で週 2 回利用している。変形性膝関節症の痛みや腰痛があり、立位保持が困難。家の中はつかまり歩きで外出はもっぱら家族が車で送迎している。心疾患でむくみがひどいため、利尿剤を処方されているが、デイサービスで何度もトイレに行くことを気にしている。受診や買い物はもっぱら長男が車で連れて行っているが、時折長男と喧嘩をしたという話や気を使いながら生活をしていることは以前から把握していた。

・インタビュー後新しくわかったこと

先月の受診時に医師から「いつ倒れてもおかしくない ( 心臓の状態 ) 」と言われたことを気にしていた。咀嚼に支障が出てきており、大学病院で治療を受けたいが、1 人では受診できず、長男に頼むのをためらっていた。

以前は長男の妻に夕食のおかずを届けてもらっていたが、調査時は再度自分で作り始めたところだった。理由を聞いたところ、以前取っていた配食が口に合わずやめたが、隣からもらうのも油ものが多かったり、固かったりで残すこともある。悪いからこっそり隠して捨てなければならず気を使っていたので、それなら自分でやってみようかと思った。今では自分の好きな味付けにできるし、運んでもらう時間も気にしなくてよいので、休みながら自分のペースでやっているとのことだった。

茶菓子が買いにいけなかったからと自分の昼食用に作ったドーナツ ( ホットケーキミックスを利用したもの ) を出してくれた。赤飯や浅漬けの作り方やお正月に孫のためにおせち料理を作った話などをとてもいきいきと具体的に教えてくれた。どんなものを作ったかという話から自身の生育歴や嫁ぎ先が商売をしていたので、仕事を手伝っていたことや職人に食事を作っていたことまで話しが広がった。そして少しだが亡くなった夫の話もしてくれた。「夫は野菜を食べず、肉や揚げ物ばかり食べていた。お酒・タバコもやっていたので早くに亡くなったのだろう。自分はそうならないよう食事には気をつけている。」と。

今行っている調理に関して本当に楽しそうにいきいきと話をしてくれ、料理が得意で好きなことが分かったが、今後どうしたいかや生きがいといった話になるととたんに「もう何もできない」「特にない」と言われて少し抑うつ状態のことがわかった。2 時間近く聞き取りを行ったが、最後に「役に立ったかしら？」と言われたのが印象的だった。

・今後の支援に活かしたいこと

今度訪問した時は本人から質問のあった、便秘解消のための食事量のことを伝えつつ、得意な料理の話を聞きながら、生きがいや楽しみと言った話もう少しできるとよいと思っている。また、むくみを気にされているが少し塩気のあるものを好まれるようなので、本人の気分を損ねないよう注意しながら、塩分に関しても少しずつ話ができたらと考えている。

6. Y・T さん 食・家族

・地域包括支援センターとの関わり

要介護1から要支援2となり、ケアマネージャーから相談が入る。委託のケアマネージャーにケアマネジメントを依頼している。

・インタビュー前に把握していた情報

92歳 女性 長男家族と二世帯同居。台所・浴室は1階で共用

80代になってから長男家族と同居しはじめたため、近隣に知り合いはいない。今は妹と電話で話しをするのが唯一の楽しみ。円背がかなり進み、まっすぐ前が向けない。室内でも小型のシルバーカーを利用。転倒すると1人では起きられない。週に3回整形外科を受診している。認知症状はなくしっかりしている。長男夫婦は週3回の受診の介助や入浴の見守りなどを行っている。週に1回訪問介護に掃除を依頼している。

・インタビュー後に新しく分かったこと

料理が好きであることはもちろんだが、身体的に大変な中自分の食事を作り続けることがY・Tさんの軸であることが分かった。

受診の帰りにスーパーに寄ってもらい、商品を陳列棚から取ってもらうこと、長男の妻が時々おかずを差し入れしている以外は全て自分で行っている。スーパーで惣菜を買うこともほとんどない。メニューを自分で毎日決めていて、先日は牡蠣フライが食べたくなり、自分で作って食べたという。揚げ物は大変じゃないですか？と尋ねると、「1人分で少ないから簡単よ」とこともなげに言う。円背や足のしびれなどで立位をとり続けることが困難なため、椅子に座りながら行っている。台所は共用のため、長男の妻が使う時間と重ならないように、大体時間を決めているという。Y・Tさんは常日頃から「これ以上迷惑をかけたくない。自分でできることは自分でしないと」と口癖のように言っていて、それを実践されている。家族もそれを見守りながら、必要なことは援助しており、家族関係も良好であることが分かった。

・今後の支援に活かしたいこと

食事だけは自分で作りたいという気持ちが強いことが分かった。転倒すると1人では起き上がれないとのことだったので、例えば食事作りで立っての作業が楽にできるよう、下肢筋力を鍛えませんかというように、その人の興味関心が高いところからアプローチすることが出来るかもしれないと気が付いた。

7. H・Kさん 健康維持・食・地域

・地域包括支援センターとの関わり

要支援2 都内からK市に転居後、ヘルパーを利用したいと相談があり、担当ケアマネージャーとなった。

・インタビュー前に把握していた情報

87歳 女性 一軒家に1人暮らし 高血圧で治療中。主治医からは本人の薬への執着が強いとの意見あり。体調に対して神経質などところがある。一度結婚したがすぐに離婚し子どもはいない。会社を定年まで勤め上げた。退職後は老人会などの役員を勤めたが、数年前姪の住む現住所に転居してきた。

・インタビュー後に新しくわかったこと

一人暮らしで食事を自炊しているとは聞いていたが、調査前にかかりつけの病院の検査で、腎臓の数値データが標準よりも少し値が悪く、服薬を始めたことが分かった。その後、腎臓の専門のクリニックを受診したが、そこでは主治医のところで検査をしてもらってはと言われたようだ。もともと塩分に非常に気をつけており、塩分チェッカーを常に使用していることが分かった。そのため、参加している地域のサロンでコンビニのおにぎりやボランティアの作った味噌汁は塩分が多くて食べられないからと、参加しなくなっていた。

・今後の支援に活かしたいこと

通っていたサロンに出かけられなくなり、閉じこもりが心配される。1年ほど前も、リウマチを疑い、主治医以外

の病院を受診したりして精神的に不安定になり、出かけなくなったので、今回も受診に同行して不安を取り除いたり、塩分に関してアドバイスができるよう、関係部署と連携していきたい。

タイプC 新しい情報を得た

8. M・Sさん 気力

・地域包括支援センターとの関わり

要支援1の認定がおりたため、デイサービスを使いたいと家族から相談があり、担当することとなった。

・インタビュー前に把握していた情報

95歳 男性 長男夫婦・孫と4人で暮らしており、住宅の1階に本人の部屋と浴室、2階、3階が長男家族3人が住んでいる。

80歳で長男家族と同居し、長男夫婦が共働きのため留守番をしたり、お風呂掃除をしたりと家庭の中で役割を持っていたが、H24年夏脱水で入院。そこで胆石が見つかり開腹手術となり1ヶ月ほど入院したところ、急激に体力・気力・認知面の低下が見られるようになったため長男が介護保険を申請した。現在家事は長男の妻が行っており、本人は自室でぼんやりしていることが多いということだった。

・インタビュー後に新しく分かったこと

M・Sさんの場合、生きがいや楽しみを聞いた時に、悲しそうに「分からない。楽しいことなどない」といわれ、それ以上は話を聞けなかった。まずは親しんでもらえればとショートステイに泊まっているときに訪問し、話を聞いたところ、コーヒーが好きという話題から、母を早くに亡くし、父があまり働かなかったため、小学校を出たら働きながら夜学に通い、兄弟の面倒をみていたが、そのとき働いていた銀座のレストランで初めてコーヒーを飲み、好きになったと、昔の思い出話に広がった。そのときの嬉しそうな表情から食の話題はその人の心を開き、和やかにする作用があると実感した。

・今後の支援に活かしたいこと

デイサービスを利用し始めてから、他の利用者に積極的に話しかけているようで話題づくりのためにニュースを見るようになったと息子の妻より話があった。昔の話をするとときと、きょうだいと合作した詩集・句集の話題が一番嬉しそうである。人と関わることで少しずつ意欲が見えてきたので、デイサービスでの過ごし方も何か人と楽しく関われる方向で一緒に考えていきたい。

9. M・Tさん 健康維持・食

・地域包括支援センターとの関わり

K市に転居してきた5年前より介護保険の申請から関わっている。

体調が良くなったらデイサービスに行ってカラオケや習字をしたいとずっといっているが、いつも体調が悪く実現できていなかった。半年ほど前に半日の運動できるデイサービスを希望し行き始めたが、始まった月に歯が抜けて満足な食事が摂れず低血糖を起こすようになったため、落ち着くまで休止している。

・インタビュー前に把握していた情報

79歳 女性 1人暮らし 要支援2で訪問介護で掃除と買物の支援を受けている。数年前、長男家族の住むK市に転居してきた。調査の数ヶ月前に長男宅の近くに平屋の一軒家を建てて生活しだしたところである。糖尿病・糖尿病性網膜症・慢性関節リウマチ・神経因性膀胱炎・白内障の既往があり、いつも低血糖発作を心配している。

・インタビュー後に分かったこと

息子との関係が分かった。調理や片付け時に台所で立って作業をするのが辛いので、休みながら行っているという話から、息子に座ったまま移動できる椅子が欲しいと頼んだら、足腰が弱らないようなるべく自分で動くよう言われ



て、買ってもらえなかった。その代りにエアロバイクを買ってきたと笑っていた。M・Tさんは一時同居を望んだようだが、同居ではなく仕事帰りに寄れるからと駅から長男宅までの間に一軒家を建てたことが分かった。距離を保ちつつ、必要なときは息子夫婦が支援していることが分かった。

今後は、糖尿病の管理を上手くして、活動性が高まる支援をしていきたいと考えている。低血糖の不安はあるがHb A 1cは8.9と高く医師から指導されている。以前、糖尿病の管理のために訪問看護を検討したが、サービス導入には至らず、現在に至っている。本人だけでは食事管理が難しいように思われるが、うまく関わっていないケースである。

・今後の支援に活かしたいこと

便秘を気にしているので、そこからもう少し食事内容を把握して、今後は栄養の専門家とも連携してうまく支援につなげたい。人当たりもよく、おしゃべりが好きなM・Tさんなので、タイミングを見ながらヘルパーと一緒に買物に行くことやデイサービスの再開などの段階を踏みながら、地域の食事会などにも参加を促していけたらと考えている。

10. N・Kさん 家族

・地域包括支援センターとの関わり

平成18年から地域のサロンで顔をあわせている。平成20年に歩行状態の悪化から、外出の機会が減ったため、介護保険申請から関わり、要介護と要支援を行ったり来たりしながら現在に至る。デイサービスを週2回利用していてとても楽しみにされている。

・インタビュー前に把握している事実

93歳 女性 長男夫婦と3人暮らし。身の回りのことは自立している。変形性膝関節症があり、歩行が不安定。近隣であればシルバーカーを利用して歩行可能だが、老人会の会合や遠方の受診は家族が車で連れて行っており、1人で外出することはほとんどない。家事全般を長男の妻が行っている。近所に住むひ孫が初の女の子なので、来訪を心待ちにしておりデイサービスの買い物外出には洋服を選んであげるのが楽しみとなっている。

・インタビュー後に新しくわかったこと

担当して5年になるので、特に新しい情報ではないが、確認できたこととしては長男の妻との関係が挙げられる。好きな食べものの話から、亡くなった本人の兄が自分のために芋をふかしたり、栗をゆでたりしてくれたことを懐かしみ、長男の妻が好物を用意してくれないと不満がそうだったが、それを口に出して頼んだわけではなく、言わずともやってほしいということだった。血圧が高いので毎朝血圧をはかっているが、長男の妻がやろうとすると手をはらうので、長男が行っているという。長年の家族との関係性が本人の言葉から垣間見えた気がした。

・今後のプランに活かしたいこと

ケアプランを変更するほどではないので、介護者のストレスも含め、見守っていく。

▲新しい情報が得られなかった

11. S・Aさん

・地域包括支援センターとの関わり

5年ほど前、交通事故に遭い介護保険を申請し、要支援1の認定が出てから、ケアマネージャーとして関わっている。

・インタビュー前に把握していた情報

84歳 女性 1人暮らし。長女・次女は都内在住。娘との交流や孫の成長を楽しみにしている。週1回掃除でヘルパーを利用。ヘルパーさんと園芸のことで話が合うため、来訪を楽しみにしている。歯科大を途中でやめ、音大に進んだ経歴があり、芸術鑑賞が趣味。医学的知識には自信があり、医師からの指示も納

得しなければ従わない。今は時々娘と美術館やオペラ鑑賞をしたあと、都内で美味しいレストランのランチを食べるのが楽しみと言うが、頸椎症で首の痛みが強くて前を向けず、歩行が困難である。一人暮らしのためほとんど自分で行っている。食事に関しては生協の調理済みのおかずを食べる事が多い。以前は料理が得意で手の込んだものを作っていたというが、今は趣味に忙しく寝る暇もないので、食事にかかる時間はあまりない。その代わりにサプリメントを愛用している。添加物などに厳しくチェックしており、メーカーを決めて〇〇のキトサンじゃないとダメとこだわりがある。都内から越してきて20年弱になるが、地元の人とは話が合わないからと1人暮らし高齢者食事は民生委員に誘われても断っている。日常の人との関わりはヘルパーとの会話のみだが、デイサービスなどは利用の意向はない。

・インタビュー後に新しく分かった情報

ほとんど理解している内容であり、特に新しい情報は発見できなかった。しかし、改めてシートに記入してみると、S・Aさんは生きがいがとてもはっきりしており、そのために睡眠時間が少なかったり、食事に意識が向かなかったりする様子がわかった。

・今後の支援に活かしたいこと

いきがいがあることはすばらしいことだが、日常生活に支障が出ないよう、ヘルパーと連絡を取って状況を確認していく。

12. T・Mさん

・地域包括支援センターとの関わり

4年ほど前よりケアマネージャーとして関わっている。要支援2で訪問介護を週3回、訪問看護を週1回利用している

・インタビュー前に把握している事実

64歳 男性 アパートに1人暮らし。生活保護受給中。兄弟はいるが本人がかかわりを拒否している。糖尿病・慢性腎不全・狭心症・糖尿病性網膜症・脳梗塞による左片麻痺がある。もともと知的障害があったように思われる。

・インタビューをして新しく分かったこと

ほぼ知っている情報であり、新しく分かった事はなかった。質問をしてもT・Mさんが話したいことを話すので、うまくインタビューが進まなかった。

13. Y・Iさん

・地域包括支援センターとの関わり

3年前からケアマネージャーとして担当している。要支援2で訪問介護を週1回利用。

・インタビュー前に把握していた事実

70歳 女性 一軒家に1人暮らし。平成19年夫が亡くなり、長女家族と暮らしていたがうまくいかず、昨年より1人暮らしとなる

不眠症・不定愁訴があり、精神的に不安定。杖を使わずに歩行可能だが、1人だと倒れたら怖いと、近隣の内科に週3回タクシーで受診している。食べたものを吐いてしまうと毎回訴えるが、やせた様子は見られずヘルパーに買ってきてもらった食べ物は1週間できれいに無くなっている。長女家族と暮らしていた頃、訪問看護を利用したことがあったが、何もしてくれないからとサービス中止。デイサービスも娘の意向で行っていたところもあったので、体調不良を理由にサービスを中止している。

・インタビュー後に分かったこと

ほぼ知っている内容であり、新たな情報は得られなかった。いつもの体調不良の訴えから話題をずらせなかった。

## Ⅱ－2

### サービス利用者の食に関するニーズ把握と

### それに基づく食生活プログラムの実施可能性に関する検討

研 究 者：秋山郁久

共同研究者：久保木京子（看護師、主任ケアマネージャー）

研究協力者：小規模多機能こもれび 看護職員・介護職員

#### 1. 研究要旨

この研究の目的は小規模多機能型居宅介護事業所や認知症高齢者グループホーム等で①食行動を支援する食生活プログラムが利用者にどう影響しているかを事業所の職員が簡便に評価するための生活行動調査票を開発し、これを用いたタイムスタディー調査の方法を示す。また、②タイムスタディー調査を実施し、その結果から食生活プログラムの効果について明らかにする。③更に、タイムスタディー調査の結果を利用して心身の状態変化が頻繁な認知症利用者のニーズを的確に捉え、根拠あるケアに結び付ける方法を示し、ケアの質向上につなげることをねらいとする。

生活行動調査票は現場の職員が簡便に利用できるものとして作成し、ビデオカメラによる画像記録を併用して調査を行う方法を用いた。ここで作成した生活行動記録票を利用してビデオカメラ3台による画像記録も行い調査を実施した。この調査により食生活プログラムが定量的にも、定性的にも利用者にとってより良い心理状態を保ちながら生活することに繋がっていることが実証できた。

また、生活行動調査票と画像記録のデータを基に課題を取り上げて分析する方法と当面のプランを作成するまでの流れを示すことができた。

今後は実際にこれらを利用して職員全体で根拠ある認知症ケアにつなげるためのOJTの実証を行い、変化の頻繁な認知症利用者のニーズに応えられる支援の在り方を見出したい。

#### 2. 背景と目的

「食」は高齢者にとって生活の中で大きな意味を持ち、時間的にも食事の準備や後片付けを含めると一日の中で大きな割合を占めている。小規模多機能型居宅介護事業所K（以下、K）は平成23年4月の開設から、「食」をサービス提供の柱のひとつだと位置づけて事業に取り組んできた。通いサービスや泊りサービスで利用者が共食することでの楽しみを持ってもらおうと共に、「食べる」という利用者も職員も全員が行う行為を中心として、それを支える「食事の準備」、「後片付け」という食生活行動を活動プログラムに取り入れている。この活動を通して、介護を受ける立場になり「できなくなった」という喪失感を、「自分はできる」「これは自分の役割」と自信や尊厳を回復したいとケアに取り組んできた。

Kでは事業所の理念で「①私たちはその方が『力』を発揮することができるようにさりげなく支援します。②私たちはその方の今までの生活を大切にし、人格を認め、一人ひとりの意思を尊重した支援をします。③私たちはその方のありのままの状態を受けとめ、気持ちに寄り添いながら、安心して過ごしていただけるよう支援します。」と挙げている。

Kでは認知症や身体機能低下で介護が必要となった利用者に理念に基づきサービスを提供している。家庭の食を支えてきた利用者が、ひとりでは作業を完結できなくなったために、家庭内での役割を失っている。その人に生きがいとしてきた食生活行動を行う機会を提供し、できない部分だけをプライドを傷つけないように配慮して、職員がさりげなく支援することで作業を完了させる。この成果を職員や他の利用者から感謝されるという体験を積み重ねることで自信を取り戻し、自己の尊厳の回復を図りたいと考えている。

Kでは小規模多機能型居宅介護の馴染みの場所で、馴染みの職員や利用者の方々と一緒に過ごす環境で、個別プログラムを比較的組みやすい人員配置という条件を活かし、その方の能力に合わせた食生活プログラムを提供したいと試みてきた。

これまでの活動で食生活プログラムを実施することで、利用者の笑顔が増え、生き活きと行動している様子が見られたが、認知症のため本人に満足度を確認することは難しく、プログラムの評価する手段が無かった。また、職員側

も同じプログラムの支援をしてもうまくいく時、うまくいかない時があり、支援方法が適切なのか迷いや不安が見られるようになっていた。

この研究の目的は小規模多機能型居宅介護事業所や認知症高齢者グループホーム等で①食行動を支援する食生活プログラムが利用者にどう影響しているかを事業所の職員が簡便に評価するための生活行動調査票を開発し、これを用いたタイムスタディー調査の方法を示す。また、②タイムスタディー調査を実施し、その結果から食生活プログラムの効果について明らかにする。③更に、タイムスタディー調査の結果を利用して心身の状態変化が頻繁な認知症利用者のニーズを的確に捉え、根拠あるケアに結び付ける方法を示し、ケアの質向上につなげることをねらいとする。

小規模多機能型居宅介護事業所は経営的に厳しい事業所が多いため、生活行動調査は専門家や特別なトレーニングを受けないと調査・評価できないものでは導入が難しい。従って、簡易的に日常業務の中で食生活プログラムの影響や効果を記録し、評価する方法として活用できるように生活行動調査票を作成する。この生活行動調査票を用いてタイムスタディー調査を実施し、食生活プログラムの有効性について分析する。

認知症利用者の食生活プログラムは小規模多機能型居宅介護に限らず、認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）でも以前から取り組みをされているが、介護職員の経験則に基づく方法論でのアプローチが多い。日によっても変化し、一日の中でも心身の状態が変化する認知症の利用者に対して、方法論だけでは同様のアプローチとなり、結果に差異が生じ易い。方法論によるアプローチから根拠ある認知症ケアの実践へと転換することで、目の前の利用者と向き合い、心身状況に応じて柔軟に適切なプログラム提供と支援を行えるようになるを考える。利用者個々の食生活プログラムについてタイムスタディー調査を行った結果を根拠あるケアに結びつける方法を示し、ケアの質向上につなげることをねらいとする。

#### 3. 方法

##### 3－1 生活行動調査票の開発とタイムスタディー調査の実施

###### 3－1－1 文献調査により食行動を抽出

Kにおける開設からの業務日誌、活動写真、利用者の支援経過記録から食行動を抽出し、どのような食に関する活動があるかを把握する。

①業務日誌、活動写真から食に関する活動を抽出。

②利用者の支援経過記録から食行動とその他活動と利用者の自発性の関係を分類

③①と②の結果からKにおける食行動の一覧を作成

###### 3－1－2 生活行動調査票の作成

変化する利用者の行動を逐次記録する生活行動調査票を作成する。この記録を通して、利用者に食生活プログラムがどう働いているかを評価するために、行動と併せてその時の状態、利用者に影響を与えている事（支援者の関わり、他の利用者の発言や行動、その他環境の変化等）を併記できるようにする。

この調査票は事業所の職員が行えることを考慮して、記録者によっての評価の差異を少なくするために判断が必要な項目については具体的な基準を示す。

##### 3－2 タイムスタディー調査の実施と分析

###### 3－2－1 タイムスタディー調査の実施

生活行動調査票を利用した記録とビデオカメラ3台での画像記録を併用したタイムスタディー調査を実施する。記録は日頃から利用者の状況を知っている事業所の職員が行う。

調査については食行動プログラムの実施に興味を持ち、実際に力も発揮してくださっている利用者を対象として実施する。実際の調査は利用者の方が通いサービスのスペースで過ごす8時～帰宅される18時の約10時間の実施を予定する。

【タイムスタディー調査対象者】

A 子さん 91 歳 女性 要介護3  
疾病：認知症、膝関節症

歩行：室内自立（膝痛があるがゆっくりと歩行、屋外は手引き）、食事：自立、排泄：見守り（自分でトイレに行くが時々失敗して汚れた紙パンツを着用していることがある）、聴覚：難聴で耳元ではっきりと伝えれば聞こえる（他の利用者の声は聞き取れない事が多く、あまり会話はしない。職員とは会話を楽しまれる）。視覚：白内障手術後で視力はあるが、眩しさがあるためよくサングラスをかける。

認知症：中等度・短期記憶障害（数分前の事を忘れてしまう。）、実行機能障害（段取りができずひとりで調理をすることは困難）

家族状況と介護サービス利用状況：長女の夫と二人暮らし（夫を亡くし、長女は療養型病院で長期入院中）。長女の夫は夜勤のある交替勤務の仕事で、夜勤時：午前7時過ぎから翌日午前9時頃、日勤時：午前7時過ぎから午後7時頃の間が自宅不在となる。数年前に自宅に一人でいる時に転倒し大腿骨転子部骨折をしており、家族より見守りのある環境で過ごしてもらいたいとの希望があり、K では夜勤時は8時過ぎに迎えで泊り・翌日午後6時に送り、日勤時は8時過ぎに迎え、夕食を食べてから19時過ぎに自宅に到着するように対応している。曜日で勤務が決まっているわけではなく、急にシフト変更の入ることもあることから、柔軟に対応のできるKのサービスを開設時から利用されている。

①予備調査

記録者が調査票の記録に慣れることと、ビデオカメラの設置について確認するために予備調査を1度実施する。予備調査では特別な本人へのアプローチはせず、昼食とおやつという食べる行為を中心にして11時30分～15時30分の約4時間記録する。これを実施した後、本調査に向けての課題と対応について検討する。

②本調査

予備調査の経験を生かし、本調査を実施する。

本調査では食生活プログラムの効果を分析できるようにするため、調理や盛り付けをうまく支援できている職員を配置し、調査対象者に対して通常よりも多くのプログラムを実施できるようにする。

3-2-2 タイムスタディー調査の分析

①生活行動調査票の記録を基に、「食行動（食べる）」、「食行動（作る・準備・片付け）」、「その他活動」に分類して全体の活動時間の中で実際に食行動として活動している時間を定量的に分析する。また、食行動に関わっている時と食行動に関わっていない時の本人の状態変化を分析する。

②また、食の専門家と事業所職員と一緒に画像記録を観ながら、利用者のニーズと支援方法の評価・検討を行う。

3-3 タイムスタディー調査の結果を根拠ある認知症ケアへの活用

タイムスタディー調査の結果を基に心身の状態変化が頻繁な認知症利用者のニーズを的確に捉え、根拠あるケアに結び付ける方法を示す。

4. 結果

4-1 生活行動調査票の開発とタイムスタディー調査の実施

4-1-1 文献調査により食行動を抽出

① 利用者A 子さんの支援経過記録から「食行動（作る・準備・片付け）」「食行動（食べる）」「その他活動」に分類した一覧を作成した。（表1）

② ①の結果と事業所の業務日誌における行事、活動写真等からKにおける食行動の一覧を作成した。（表2）

③ 「食行動（作る・準備・片付け）」の項目について支援形態（個別／集団）に分類した一覧を作成した。（表3）

4-1-2 生活行動調査票の作成

タイムスタディー調査で使用する「生活行動調査票」（付表1）とこれを記入するための指標を示した「生活行動調査票の記入ガイド」（付表2）を作成した。

小規模多機能型居宅介護は認知症の方が多く利用されているため、本人の状態を評価する指標として、認知症ケアの理念として提唱された、パーソン・センタード・ケア（その人を中心としたケア）において示された“よい状態（Well-being）”と“よくない状態（Ill-being）の指標を参考にすることにした。（参考資料1参照）

また、心理状態の具体的な評価のスケールとしては認知症ケアマッピング（Dementia Care Mapping: DCM）の評価スケール WIB 値（Well-being and Ill-being Value）の6段階のスケール（参考資料2）を参考に現場職員でも簡単に評価できるように4段階のスケール（平穏な状態を入れると5段階）のスケールで評価することとした。

実際のDCMは複雑な判断が必要とされることから、専門的な研修を修了しないと利用することができない。現場でケアに関わっている職員が簡便に利用できる調査票にしたいと考え生活行動調査票を作成した。

4-2 タイムスタディー調査の実施と分析

4-2-1 タイムスタディー調査の実施

①予備調査（H25年1月15日実施11:30～15:30）

ビデオカメラ3台を設置(図1)した画像記録と同時に記録者2名が交替で生活行動調査票の記録を行った。（表4）

このタイムスタディー調査を実施し、生活行動調査票の記入については記録者の間で記入内容や記入する場所などについて確認をすることができた。本調査で盛り付けを実施することにしたが、予備調査のビデオカメラ配置では背後からの画像となり、手元の動作が見えないため、盛り付けを行うテーブルを利用者の左上から撮影する位置に変更することにした。（図2）

②本調査（H25年2月3日実施8:00～18:00）（図3・図4・図5）

本調査では食生活プログラムに関しての評価を行うため、食に関する活動を日常よりも多めに取り入れることとした。

この調査も画像記録と生活行動調査票の記録を記録者2名が交替で行った。（表5）

4-2-2 タイムスタディー調査の分析

(1) 生活行動調査票を基にした定量分析

本調査における生活行動調査票の記録を基に、「食行動（食べる）」、「食行動（作る・準備・片付け）」、「その他活動」に分類して全体の活動時間の中で実際に食行動として活動している時間を定量化して比較してみることにした。時間と活動内容や心理状況の変化の関係を見るために、生活行動調査票では変化が生じた時に記録していたものを5分毎に集約した。（表6）

この情報を基にしてAさんの通いサービス利用中の食行動とそれ以外の活動時間を分析すると、食行動（食べる）の時間は85分（全体の14.4%）、食行動（作る・準備・片付け）の時間は100分（全体の16.9%）、その他活動が405分（全体の68.6%）という結果が出た。（表7）

また、本人の状態変化（良くない～良い）のカウント件数を集計してみたところ、この調査を行った日は状態評価した件数（全117回）の中で「平穏～少し良い～良い」の間で92.3%を占め、「少し良くない」は7.7%、「良くない」の評価は無いという結果となった。（表8）

Aさんは午後になると帰宅願望が強くなり、一人で外に出ようとすることも見られる方である。しかし、この日は「そろそろ帰りたいんですけど」といった訴えは時々あったものの、パズルや書き取りなどに一人で集中できる時間も長くなっていた。午後の時間でこれだけ集中できたのは、盛り付けや食器拭き、食器洗いといった、本人が好きで行える活動を行い、人に感謝されるという体験を通して、心理状態も安定して過ごすことができたのではないかと考える。

また、食行動以外の部分で「少し良い～良い」状態になっている時は職員が個別に付き会話やレクリエーションをしている時で、一人でこの状態を継続することは難しい。食行動では部分的に個別の支援は必要になるが、継続的につかなくても、一人で集中して活動を持続できていた。

## (2) 画像記録からの定性分析

タイムスタディー調査で記録した3台のビデオカメラの内容を食の専門家と事業所職員と一緒に観ながら、利用者のニーズと支援方法について分析した。

タイムスタディー調査で記録した生活行動調査票の要約(表9)を作成し、全体像を把握した。約10時間の記録で最初から最後まで見る事は難しいため、食行動(作る・準備・片付け)と食行動(食べる)の主な動きを見られる11時～15時の画像記録(抜粋)を3台のビデオカメラで撮影した画像を同時に写しながら確認することにした。

### ①食行動(準備:盛り付け)について(11時～12時)

食事の準備はAさんがとても意欲的に取り組まれるプログラムであることはこれまでの印象でもわかっていたが、実際に画像記録を見ると、「次に料理ができたらまたお願いしますから座って待っていて下さい」と待っていたいている間もまだ盛り付けられていない皿を気にして何度も立ち上がり様子を気にしていた。非常に積極的に取り組もうとしている気持ちが伝わってきた。また、短期記憶障害ですぐに忘れてしまうため、職員からの言葉かけの頻度も高くすることで、もう少し安定した状態で待っている時間を過ごせていたと感じたが、限られた時間の中で食事を準備するという環境下での限界もある。

この盛り付けという活動を身体機能・認知機能の面から見ても非常に高い能力が必要とされる行動であることがビデオ画像から読み取れた。料理の入ったボールを片手で持つ握力、それを持ちながら移動する立位バランス、見本と同じ量を皿に盛り付けるための認知力、同じ動作を繰り返す集中力、盛り付けで取り分ける際には手首をひねって動かす動作など、その行為自体がさまざまな力を必要としていることが、日常の活動では、じっくり観察することのできない状況を繰り返し見る事ができた。

支援した職員はAさんに一人分の盛り付け量の見本を示せば、あとは見守りをしていれば、本人が適切に盛り付けできるという力を持っていることを知っており、本人の力を引き出す援助をしていたことがよくわかった。他のプログラムでも一緒であるが、行っていたいた事に対して、必ず「ありがとうございました」と感謝の言葉を伝えと、いつもAさんは笑顔で「何か(手伝えることが)あったら言ってね」と応えていた。Aさんは自宅では自分の力を発揮する場を失っているが、Kでは得意な事をして感謝されるという良い循環ができていると感じた。

### ②Aさんが盛り付けをしている間の他の利用者様の様子(11時～12時)

Aさんが盛り付けをしている間、他の利用者の方は無関心、または見ているが、自分もやりたいと申し出る方はいなかった。

これまで、Kを利用した利用者で何名かは盛り付けも興味を持ち実施したが利用終了され、今はAさんのみにアプローチしている。

食の専門家からも盛り付けだけでなく、箸や食器のセッティングなど作業は色々あることが提示された。それぞれの方の食事の準備に対する思いに差がある。Aさんはとても積極的に関わってくださっているが、現在の他の利用者の方はお願ひすれば、内容によっては可能かもしれないが、あまり積極性は期待できないと考えていた。工夫次第では様々な可能性があると感じた。

### ③食行動(食べる:昼食)について(12時～13時)

Aさんは配膳するといつも全量摂取して下さる方なので、食事について観察をしたことがあまりなかったが、食事中、汁物があるのを忘れて、お茶でのどを潤し、最後に汁物が残っているのに気づき飲んでた。食後、お茶が無く、

自分からお茶をくださいとは言わないため、何度もお茶が入っていると思い、空の湯飲みを手取るしぐさがみられた。

いつもお茶が早くに無くなっていることは知っていたが、食べ方までは気にしていなかったため、配膳された食事全体が見られるようなテーブルの高さの配慮も必要であることが改めて感じた。

### ④食行動(片付け:食器拭き)(14時～)

Aさんが他の利用者の方と一緒に昼食で使った食器を洗ったものをふきんで拭きあげる活動をしていただいたところ、途中で一人だけ椅子に座ってやめてしまうということがあった。当日のリーダーからは他者と一緒だと本人のプライドが高く、作業効率等で比較されるのが嫌なのではないかとの意見も出ていたが、実際に記録された画像を見ると、湯飲みを拭きあげていたが、準備された拭いた湯飲みを置くためのお盆がいっぱいになると、そこで作業を止めていた。他の利用者はそのまま、湯飲みを2段に積み重ねて作業を続けていたが、Aさんにとっては、お盆に湯飲みを重ねておくことはこれまでの生活習慣として無く、職員が次の空いたお盆を持ってきてくれば、継続して作業をしてくださったのではないかとということが読み取れた。

職員が自分達の思い込みでその人の評価をしてプログラムを提供するとプログラムが有効に働かないということを感じた。

## 4-3 タイムスタディー調査の結果を根拠ある認知症ケアへの活用

タイムスタディー調査における生活行動調査票とビデオ画像から食行動への支援について根拠ある認知症ケアへと活用する方法として、Kで利用している「ミーティング(変化点)シート」の修正版として「生活行動調査 ミーティング(変化点シート)」(付表3)を作成した。

頻繁に変化する認知症利用者の表面に現れた課題を「評価的理解」→「分析的理解」→「共感的理解」の流れで分析する「ひもときシート(認知症介護研究・研修東京センター)」(参考資料3～5参照)の考え方を用いて、利用者個別の情報として管理しやすい様式にしたものがKで使っているミーティング(変化点)シートである。

①タイムスタディー調査の記録から課題として捉えた項目(変化点)を「課題(変化点)」に記入する。

②課題をひもときシートの「思考展開エリア(8つの視点)」(参考資料5参照)を用いて分析し、背景や課題を整理した内容を「課題の背景や原因」に記入する。このプロセスを行うことで、なぜ課題として取り上げた事が発生したのか、または、支援の仕方が上手くいっているのかということの根拠を理解することになる。

③次に課題として取り上げた項目を背景や原因を考慮して、本人の立場になり「困り事」「悩み」「求めていること」を検討して「課題を本人の立場から検討」に記入する。

④上記までの分析をしたことを前提に支援で行える可能性があることを「課題に対してできる事」を上げてみる。(アイデアの共有)

⑤まず、当面のプランとして事業所で取り組むことについて「当面のプラン」に記入する。

⑥当面のプランの実施状況と一定期間実施して評価した内容を「モニタリング・評価」に記入し、正式なその利用者のプランに反映する、または別なアプローチをしてみるということを決める。

このプロセスを繰り返すことで根拠に基づいた認知症ケアに取り組む土壌ができるのではないかと考える。

## 5. 考察と提案

### ①生活行動調査票の開発とタイムスタディー調査方法を示す

この研究で作成した生活行動調査票は日頃利用者の様子を見ている現場の職員が客観的な視点で観察記録するのに適したシートとなったと考える。今回は食生活プログラムの評価のために作成したが、生活行動全般について観察できるものであり、様々に応用が可能である。チェック項目における自発性については評価指標を明確にしていなかったため、記録者によって記入の仕方にバラつきが出てしまった。自発性の評価についても他の研究調査を調べ適切な指標を示す必要がある。

認知症利用者は見慣れない人が入っただけで、環境変化となってしまう、日常と違う心身状況を示すことがよくある。このため、日常の利用者の様子を記録したいのであれば、専門家に依頼するのではなく、馴染の職員が記録者

として調査を行える事が大切であるとする。ビデオ記録に関しては利用者の視野に入りにくい場所に設置が望ましいが高い位置（食器棚の上）からであれば、それに気づかれず日常の様子が画像記録できた。

②タイムスタディー調査の実施と食生活プログラムの効果を明らかにする

この調査結果を実施し、食生活プログラムが利用者にとってより良い状態で生活するために有効に働くということの1事例が示せたと考える。これはそのプログラムを実施している時だけでなく、その波及効果でそれ以外の時間の集中力が高まったり、安定して過ごせたりということもわかってきた。今回は利用者の能力と職員の支援方法がマッチングしてより満足度の高い成果が得られていることが画像記録からも読み取れたが、Kの全ての職員が同様のアプローチできるわけではない。また、対象としたAさんは、去年は盛り付けだけでなく、野菜や果物の皮むきや切り分けなど包丁を使った作業も上手に行っていたが、食のセンターのサービスを導入したことにより、Kのキッチンで料理を作る機会が少なくなっている。このことからAさんが包丁を使う機会もほとんどなくなってしまっている現状がある。今後調理の機会をどう作り、どう支援していくかを検討していく必要がある。

③タイムスタディー調査の結果を根拠あるケアに結びつける方法を示す

Kでは変化点シートを用いて課題解決に取り組み始めたが、これまで経験則に基づく方法で課題に取り組んできた介護職員にとって、「8つの視点で背景や原因」を考えるとということや、その人の立場になって物事を考えるという発想の転換はトレーニングを繰り返し、それを実施したことによる成功体験を積み重ねなければ身に付けていかないと継続しないと考える。

記録された画像を観ながらこのシートを使えると、客観的に課題を共有することができOJTの手段としても有効ではないかと考える。

今回の研究事業ではタイムスタディー調査の分析に予想以上に時間がかかり、タイムスタディーの結果をケアに反映するところまでは至らなかったが、活用する手順とツールは作成できたので、今後はこれを使ったOJTを職場で行っていき、成果を検証したい。これにより変化の頻繁な認知症利用者のニーズに応えた食生活プログラムの支援の在り方を見出したい。

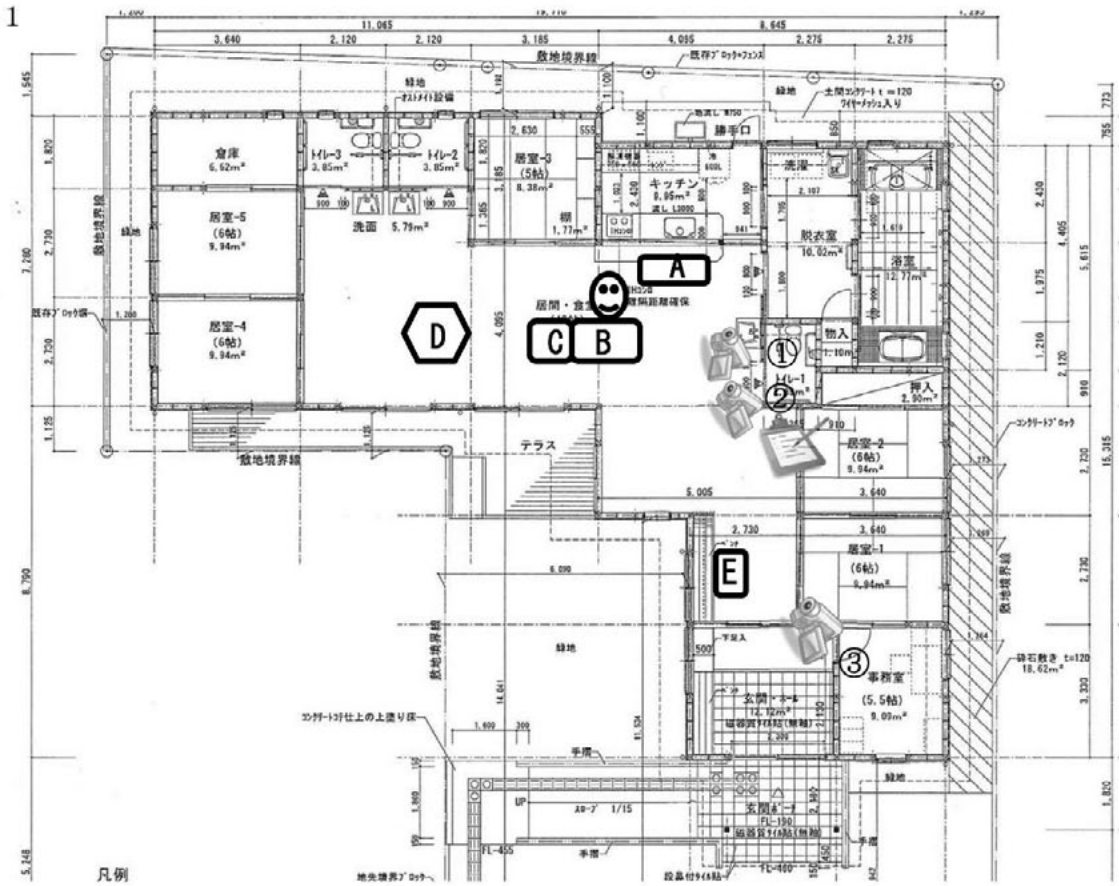
6. 結論

この研究で開発した生活行動調査票を用いた調査方法は、介護現場における個別ケアにおいて、プログラムが利用者のニーズに適合しているかを評価するのに有効に機能し、根拠あるケアへと発展させる可能性を含んでいるものである。

引用文献・参考資料他：

- 1) 足立己幸・松下佳代・NHK「65歳からの食卓」プロジェクト(2008)『NHKスペシャル 65歳からの食卓一元気力は身近な工夫から』NHK 出版.
- 2) 平野隆之・高橋誠一・奥田佑子(2007)『小規模多機能ケア 実践の理論の方法』筒井書房.
- 3) ライフサポートワーク推進委員会編(2010)『ライフサポートワーク実践テキストブッカー小規模多機能型居宅介護・グループホームのケアマネジメント』中央法規出版.
- 4) 鈴木みずえ編(2009)『認知症ケアマッピングを用いたパーソン・センタード・ケア実践報告集』クオリティケア
- 5) Brooker, Dawn(2007) Person-Centred Dementia Care: Making Services Better, Jessica Kingsley Publishers Ltd. (=2010, 水野優監修, 村田康子・鈴木みずえ・中村裕子・内田達二訳『VIPS ですすめるパーソン・センタード・ケア』かもがわ出版.)
- 6) 本間昭(2011)『認知症ケア高度化推進事業 ひもとき手帳(テキスト版)』社会福祉法人 浴風会 認知症介護研究・研修東京センター.
- 7) 三好春樹(2012)『完全図解 新しい認知症ケア 介護編』講談社.
- 8) 河野和彦(2012)『完全図解 新しい認知症ケア 医療編』講談社.

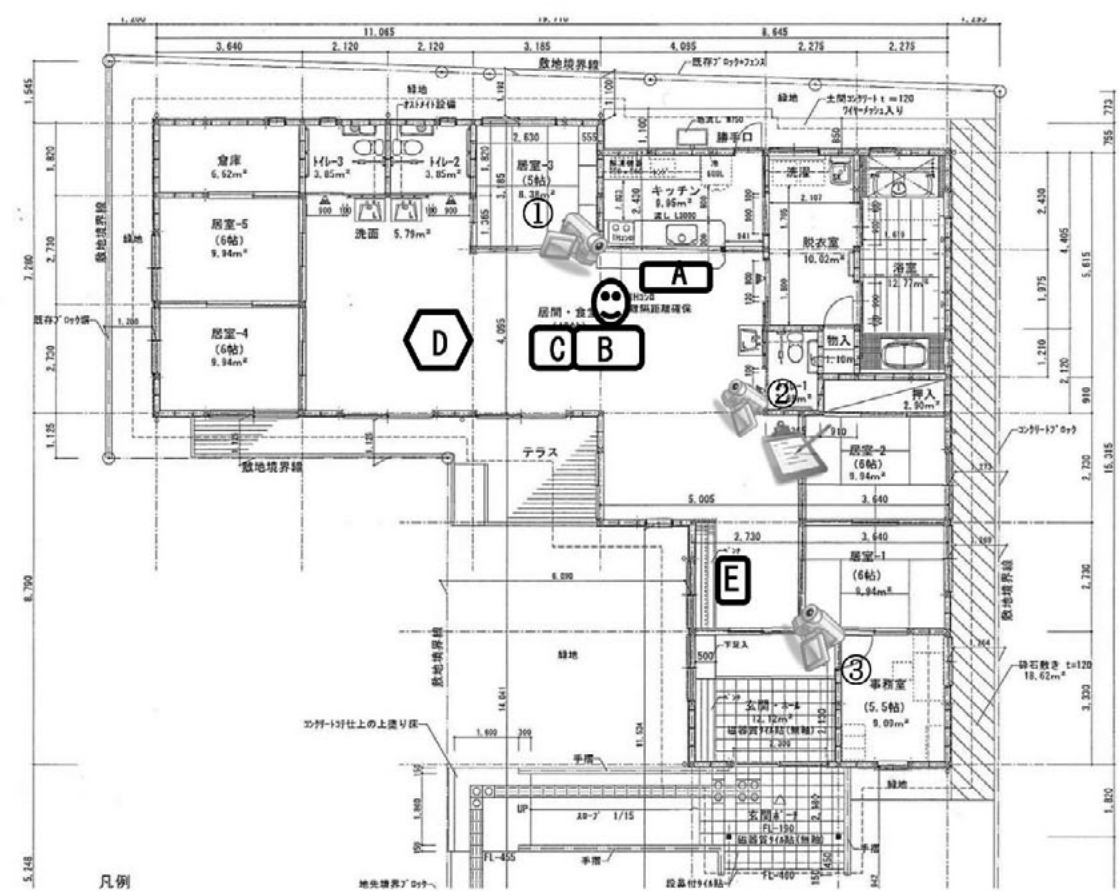
図1 タイムスタディー調査におけるビデオカメラ配置(H25/1/15)



-  A さんがいつも座る位置
-  ①：キッチン付近を中心に撮影
-  ②：A さんが座る食事席を中心に撮影
-  ③：フロアから玄関に向かうスペース、A さんがよくパズル等をしているテーブル付近を撮影。
-  A 盛り付け用テーブル
-  B~D 食事席（A さんは B を通常は利用している）
-  E A さんがよくパズル等をしているテーブル
-  生活行動調査票  
記録者の位置



図2 タイムスタディー調査におけるビデオカメラ配置(H25/2/3)



- ☺ A さんがいつも座る位置
- ① : 盛り付け用のテーブルを中心に撮影
- ② : A さんが座る食事席を中心に撮影
- ③ : フロアから玄関に向かうスペース、A さんがよくパズル等をしているテーブル付近を撮影。
- A 盛り付け用テーブル
- B~D 食事席 (A さんはBを通常は利用している)
- E A さんがよくパズル等をしているテーブル
- 生活行動調査票  
記録者の位置

図3 ビデオカメラからの映像 (H25/2/3 カメラ①からの画像)



図4 ビデオカメラからの映像 (H25/2/3 カメラ②からの画像)



図5 ビデオカメラからの映像 (H25/2/3 カメラ③からの画像)





表1 食生活プログラムの実施と主体性 (A子様の食行動から分類)

A子様の食行動と主体性について (支援経過記録より)

| 日付   | 時刻    | 全体的事等 | 食行動                                        |     | ◎自発的<br>○依頼受け<br>●依頼拒否 | 情報<br>(本人のその他活動・健康状態・他) |
|------|-------|-------|--------------------------------------------|-----|------------------------|-------------------------|
|      |       |       | 作る・準備・片付け                                  | 食べる |                        |                         |
| 1/4  | 昼食後   |       |                                            |     |                        | 手伝い (内容不明)              |
| 1/8  | 早朝    |       | じゃが芋皮むき                                    |     |                        | ドライブ                    |
| 1/8  |       |       |                                            |     |                        |                         |
| 1/11 |       |       | 食器拭き「やることあったら言って」                          |     |                        |                         |
| 1/18 |       |       |                                            |     |                        | 手伝い (自発的に) (内容不明)       |
| 1/24 |       |       |                                            |     |                        | バスタオルたたみ                |
| 1/25 | 午後    |       | 味噌作り見学 (ポランテ<br>イアさんがこもれびで味<br>噌作り)        |     |                        |                         |
| 1/29 | 午前    |       | 屋敷の盛り付け                                    |     |                        |                         |
| 2/5  |       |       | 盛り付け、食器洗い、食<br>器拭き                         |     |                        |                         |
| 2/13 | 14:00 |       | お茶会参加。抹茶をたて<br>る。                          |     |                        |                         |
| 2/14 |       |       | お手伝い (積極的)                                 |     |                        |                         |
| 2/20 |       |       | 手伝い。「何度も行ってく<br>ださい」                       |     |                        |                         |
| 3/5  |       |       | 昼食：カレーライスの下<br>ごしらえ (じゃが芋・玉<br>ねぎ皮むき、野菜切り) |     |                        |                         |

表2 小規模多機能型居宅介護事業所 Kにおける食行動

小規模多機能型居宅介護事業所 Kにおける食行動  
(利用者支援記録・事業所業務日誌より抽出)

| 食べる                                                                                                                                                                                  | 作る・準備・片付け                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食</li> <li>・昼食</li> <li>・おやつ</li> <li>・夕食</li> <li>・行事食 (お節料理、節分、雛祭り、他)</li> <li>・外食 (レストラン、喫茶店、カラオケ等)</li> <li>・外出レクリエーション時におやつ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理 (下ごしらえ：野菜の皮むき・カット、果物の皮むき・カット等)</li> <li>・トレイメイク (食器、箸等のセット)</li> <li>・盛り付け</li> <li>・食卓を拭く (食事前、食事後)</li> <li>・食器洗い</li> <li>・食器拭き上げ</li> <li>・家庭菜園 (播種～水やり (観察) ～収穫)</li> <li>・買い物 (おやつ)</li> </ul> |

表3 食行動を支援形態で分類

1対1対応での実施が必要なプログラム

|           |                                                                                                             |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 調理        | 個々の能力が異なり、包丁等の調理器具を使い見守りも必要なことから個別での支援が必要。利用者自身で段取りをしながら実施することは難しいため、1行為ずつ (例えば、ジャガイモの皮むきをお願いする) 依頼する必要がある。 |
| 盛り付け      | 個々の能力に差があり、個別の指示と見守りが必要となる。                                                                                 |
| 食器洗い      | キッチンのスペースも狭く1名での実施が限界。                                                                                      |
| 家庭菜園 (収穫) | 歩行能力・立位バランスに差があり、足元が悪い畑での移動には個別での対応が必要。また、直接収穫するよりは、どの作物を取るかを選んでもらい、収穫自体は職員が実施することも多い。                      |
| 買い物 (おやつ) | 買い物も公道を移動したり、人の多い場所や狭い場所を移動するケースもあるため、1対1対応で行くことが多い。                                                        |

集団での実施が可能なプログラム

|                   |                                                                                             |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| トレイメイク            | 利用者の方の歩行能力・立位バランスに問題なければ数名での取り組みも可能。通常は職員が短い時間で行っている行為であるため、実際に利用者の方に取り組んでもらうためには時間的な余裕が必要。 |
| 食卓を拭く             | 指示すれば、複数名で行ってもらうことも可能。                                                                      |
| 食器拭き上げ            | 食器の拭き上げは集団での実施が可能。                                                                          |
| 家庭菜園<br>(播種～成長観察) | 菜園で成長の様子を観察するのは集団でも可能。<br>種をまく野菜の種類や手入れについて相談することも興味のある利用者の方が集団で行うことが可能。                    |

表4 タイムスタディー調査 (H25/1/15)

平成25年 / 月 / 日

利用者名

A様

No.

他

全

| 時刻    | 本人の状況変化<br>良くない → 良い | 本人の行動・発言                                  | ①自発的行動<br>②他からの行動<br>③依頼を被る | 本人に影響を与える事<br>(支援者・ボランティアの発言・支援、他利用者の行動・発言等) | 記録者 |
|-------|----------------------|-------------------------------------------|-----------------------------|----------------------------------------------|-----|
| 11:25 | ○                    | 洗面所の床に六角テーブルの板が落ちて見えている。                  |                             | 洗面所の六角テーブルの板が落ち、食卓準備。盛り付けが始まる。               | ㊦   |
| 11:30 | ○                    | 新開館を見ている。                                 |                             |                                              |     |
| 11:40 | ○                    | 廊下上り階段を見るときは右側をおさる。                       |                             | 職員は食卓前のトイレ誘導、食卓へお利用者移動。                      |     |
| 11:45 | ○                    | 紅葉している。足台使わず、床に座っている。                     |                             | 同じテーブルのお利用者も寝ていて、お食事ではない方から、取皿も手配する様子。       |     |
| 11:50 |                      | 片腿で寝たまま、精神状態はいい。(目をつぶっている)                |                             | 六角テーブルの利用者たちも着席し、取皿と箸を持って待てる。                |     |
| 12:00 |                      | 片腿で寝たまま、(お茶を飲む)お茶を飲む様子。下腹、舌、喉、口、鼻は見えない。   | ⑤                           |                                              |     |
|       |                      | 他のことでは聞いている様子、隣にお茶の音に反応して声を出している。         | ⑥                           |                                              |     |
| 12:08 |                      |                                           |                             | 食前にお茶配りをする。                                  |     |
| 12:10 |                      | 目の前の天膳のお茶を飲んでお茶を飲んでいる。                    |                             | 配膳                                           |     |
|       |                      | 取皿が「いたまごす」が入らないうちに、お茶を飲んだら、お茶を飲む。         | ④                           |                                              |     |
| 12:15 |                      |                                           |                             | 職員が本人のオレンジの服に着せようとする。                        | ㊦   |
| 12:17 |                      |                                           |                             | 職員が、盛り付けを終え、利用者、職員全員が食卓に着く状態になる。             |     |
| 12:20 | ○                    | 本人特に変化なく全粒続ける。                            |                             | 左隣の職員が「お水出しした」と言われ、お水を始める。                   |     |
| 12:29 |                      | お茶を飲み終え、お水を飲む。                            | ①                           |                                              |     |
| 12:31 |                      | オレンジを食べる。                                 |                             |                                              |     |
| 12:33 | ○                    | 食べ終わって、右足をお尻の下に置く。                        |                             | 同じテーブルの利用者1人だけ、食べ終わり、席を立つ。                   |     |
| 12:37 | ○                    | テーブルで、お水を飲む。                              |                             | 同じテーブルの利用者お二人、お水を出す。                         |     |
| 12:39 | ○                    | テーブルで、お水を飲む。                              |                             |                                              |     |
| 12:40 | ○                    | 言葉かけに対し、笑顔で返答する。お茶を飲む。職員は「はい」といふので、笑顔で返す。 |                             | 隣席の職員が「全部、お茶を飲む」と言葉かける。                      |     |
| 12:45 | ○                    | 本日の予定は、足元の手洗いをして、お風呂に入る。                  |                             |                                              | ㊦   |
| 12:48 |                      |                                           |                             | 廊下の職員、下階し、お風呂に入る。                            |     |

同じテーブルのお利用者お二人、お水を出す。

平成25年 / 月 / 日

利用者名: A3様

No. 2

| 時刻    | 本人の状態変化 |  | 本人の行動・発言                                                                                                                | 本人に影響を与える事                 |                                                                  | 記録者 |
|-------|---------|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|------------------------------------------------------------------|-----|
|       | 良くないー良い |  |                                                                                                                         | ○自発的行動<br>○他者の行動<br>●依頼を拒否 | (支援者・ボランティアの発言・支援、他利用者の行動・発言等)                                   |     |
| 12:50 | ○       |  | トイレをみている。                                                                                                               |                            | テーブル両隣り不在となる。<br>前の席の方へーという。職員から<br>ITML・D席とテ等<br>職員 順次 食後のD席へテ等 | ②   |
| 12:55 | ○       |  | ITMLへ トイレ 先に使用の方<br>席に座り待つ。(洗面台傍)                                                                                       | ○                          |                                                                  |     |
| 12:58 |         |  | トイレの中へ わざとITMLへ                                                                                                         | ○                          |                                                                  |     |
| 13:05 |         |  | トイレから出る。洗面台の手を洗う<br>手拭きペーパーで拭き拭いて、自分の<br>見かけ。見出しのTシャツ(夏着)                                                               | ○                          |                                                                  |     |
| 13:06 |         |  | 廊下を通り職員に手拭き新聞と差し上げ<br>いそいそと戻る。新聞はTシャツに<br>さし入れ 新聞を読んでいる                                                                 | ○                          |                                                                  |     |
| 13:10 |         |  | ゴミをTシャツにさし入れ、介助後付<br>ている方の方 斜めに見ている                                                                                     | ○                          |                                                                  |     |
| 13:15 |         |  | 新聞を読みながら足台の足元に押し<br>つける                                                                                                 | ○                          |                                                                  |     |
| 13:20 |         |  | ITMLの前の洗面台へ D席へ<br>ペーパータオルをと、拭き拭き、本則上<br>...<br>...<br>Aを拭く                                                             | ○<br>○                     | 職員 食後のD席へテ等                                                      |     |
| 13:25 |         |  | さききトイレへ<br>職員に「足が痛くて大変...」<br>「でも家の事全部やるの...」という<br>トイレから出る。手を洗う。                                                       | ○                          |                                                                  |     |
| 13:28 |         |  | 元の席に戻り座る。<br>新聞を読む始める。                                                                                                  | ○                          |                                                                  |     |
| 13:29 | ○       |  | 2分間位置をとり、右目と左目、周囲<br>を見る。                                                                                               | ○                          |                                                                  |     |
| 13:30 |         |  | キッチンを見え<br>3分間キッチンに立ち、右目と左目、周囲<br>を見る。                                                                                  |                            | キッチンで洗う物、音がする。                                                   |     |
| 13:32 | ○       |  | 立ち上がり 居室のトイレに行く。<br>職員に「荷物、荷物と伝へ、河の西<br>降るかしら」と言う。職員から<br>荷物を受け、周囲を確認してトイレ<br>へ入る。→「もう少しいいかしら」と<br>言う。→元の席に戻り新聞を<br>読む。 |                            | 同じテーブルの元は居座りして、<br>たまたまA3様とN様を介する、<br>これは                        |     |
| 13:35 |         |  | 立ち上がり 洗面台のテーブルへ移動。<br>ペーパータオルを拭き拭く。                                                                                     | ○                          |                                                                  |     |
| 13:40 |         |  | 職員に「バスルームへ行く。二重橋の<br>バスルームへ行く。」                                                                                         | ○                          |                                                                  |     |





表5 タイムスタディー調査 (平成25年2月3日)

生活行動調査票 平成25年 2月3日 利用者名:A子様

| 時刻   | 本人の状態変化 |   |   |    | 本人の行動・発言                                                            | ◎自発的行動<br>○依頼され行動<br>●依頼を拒否 | 本人に影響を与える事<br>(支援者・ボランティアの発言・支援、他利用者の行動・発言等)                                 | 記録者 |
|------|---------|---|---|----|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-----|
|      | 良くない    | → | → | 良い |                                                                     |                             |                                                                              |     |
| 7:50 |         |   |   |    |                                                                     |                             | 朝のあいさつをした職員に「何かやることがあったら言ってくださいね…」と話される                                      |     |
| 8:03 |         |   | ○ |    | サングラスかけ、首にタオル巻き、いつもの様子座っている。時折新聞に目をする。                              |                             |                                                                              |     |
| 8:08 |         |   |   |    | テーブルを背に立ち上がろうとする。ふらつき座る。通りかかった職員と会話。「すみません」(おれ)。警められて嬉しそう。          |                             | 通りかかったNSと声かけ。膝、痛そうなので痛み止めの薬を提案。メガネと洋服合っていると警める。                              |     |
| 8:10 |         |   | ○ |    | 内服(痛み止め)                                                            |                             | NS痛み止め頓服薬手に渡し介助                                                              |     |
|      |         |   |   |    | サングラスと髪を気にしながら洗面台に向かい、鏡を見る。                                         | ◎                           |                                                                              |     |
| 8:15 |         |   |   | ○  | そのまま玄関に向かい、バズルに手を伸ばす。職員とやりとりしているうちに、「何か書いてみたいと…」                    | ◎                           | バズル選び手伝う。本人の希望に合わせ、塗り絵提案(リーダー)                                               |     |
| 8:20 |         |   |   | ○  | 塗り絵している。「いつもの男の人は?(O様)」と聞かれる。今日は自宅に帰っている旨を話す。「ああ、そう…」               | ◎                           | いつもの隣の席に誘導                                                                   |     |
| 8:22 | ○       |   |   |    | 立ち上がり、家族への連絡気にされる                                                   | ◎                           | リーダーよりTさん(家族)が知っているので大丈夫…                                                    |     |
|      |         |   | ○ |    | 声かけられ、納得した様子で、再度塗り絵続ける                                              | ◎                           | 職員「ゆっくりして下さい…」と声かけられる。                                                       |     |
| 8:29 |         |   | ○ |    | サングラスはずされる                                                          | ◎                           |                                                                              |     |
| 8:30 |         |   | ○ |    | サングラスつける                                                            | ◎                           | 前の席の方トイレへ                                                                    |     |
| 8:37 |         |   | ○ |    | サングラスはずされる。塗り絵続けている。                                                | ◎                           |                                                                              |     |
| 39   |         |   | ○ |    | サングラスつける。前の方気にする様子なし                                                | ◎                           | 前の席の方トイレより戻る                                                                 |     |
| 40   |         |   | ○ |    | サングラスはずすを繰り返す。                                                      |                             |                                                                              |     |
| 41   |         |   | ○ |    | サングラスを少し上に上げ、色を見る。はずす。また、つける。                                       |                             |                                                                              |     |
| 44   |         |   | ○ |    | 色鉛筆のケースとじる。                                                         |                             |                                                                              |     |
|      |         |   | ○ |    | 「今日うちに帰るかしら…何時頃?」「何か用あったら言って…」                                      | ◎                           | 職員がタ方に帰ることを伝える。途中の塗り絵を「終わったんですか?」と。                                          |     |
| 50   |         |   | ○ |    | 塗り絵途中を声かけられ「まだ…」と言い、再度塗り出す。                                         |                             | 勤務終了の職員あいさつし帰る                                                               |     |
| 51   |         |   | ○ |    | 色鉛筆置き、タオルをかけたりはずしたり。また書き出す。                                         |                             |                                                                              |     |
|      |         |   | ○ |    | 色鉛筆置き、タオルで目を押さえている。涙が出るからと。(1枚目終了)                                  | ◎                           | バイタル測定 膝の痛み問われる                                                              |     |
|      |         |   | ○ |    | 「(膝)痛くないです。」                                                        |                             | 看護師「膝痛くないですか?」                                                               |     |
|      |         |   | ○ |    | 「何か用あったら言って…」                                                       | ◎                           |                                                                              |     |
|      |         |   | ○ |    | 体温測定、うまくいかずやり直す(胸元を少し開け体温計入れた。胸元が気になるようでテーブルの前の席の人の目を避けるように体の向き替える) | ○                           | 通いの利用者S様来所。本人の斜め前に座る。                                                        |     |
| 57   |         |   | ○ |    | 「今日は帰るのかしら…」                                                        | ◎                           | 帰りの旨説明。もう一枚塗り絵する。                                                            |     |
|      |         |   | ○ |    | サングラスしたまま塗り絵を書き出す                                                   | ○                           |                                                                              |     |
| 58   |         |   | ○ |    |                                                                     |                             | 職員が本人にお茶を出す。                                                                 |     |
| 9:03 |         |   | ○ |    | 塗り絵をやめて、色鉛筆のケースを閉じる。                                                |                             |                                                                              |     |
| 9:05 |         |   | ○ |    | 新聞を手にとり読み始める。                                                       |                             |                                                                              |     |
|      |         |   | ○ |    | 新聞を読むのを止め、塗り絵は色鉛筆のケースの上に重ねて置く。                                      | ◎                           | 職員に「難しかったですか?」と声をかけられる。図鑑渡す。                                                 |     |
| 9:07 |         |   |   | ○  | 花の図鑑で色を見ながら、再度始める。                                                  | ◎                           | 職員が図鑑を持って来て本人に渡す。斜め前の利用者(S様男性)足元のゴミ気になり箸とちりとりではきだす。職員がS様にクイックルワイパーを渡し、拭いてもらう |     |
| 9:11 |         |   | ○ |    | 図鑑を閉じて、再度塗り始める。                                                     | ◎                           |                                                                              |     |
| 9:13 |         |   | ○ |    | トイレに本人のタオル忘れてあったことを職員に言われるがピンとこない様子。                                |                             | タオルをカバンに入れておく伝える。                                                            |     |
|      |         |   | ○ |    | 図鑑を開いて見る。                                                           | ◎                           | 他の通いの利用者(W様)来所                                                               |     |
| 9:15 |         |   | ○ |    | 塗り絵シート脇に裏返して、図鑑(園芸大百科)を少しめくって見る。サングラスつけたまま。右眼隠し、本めくって               | ◎                           |                                                                              |     |
| 9:16 |         |   | ○ |    | 自分で塗った塗り絵を見ている。                                                     | ◎                           |                                                                              |     |
| 18   |         |   |   | ○  | 「いいですよ…」カウンター前の補助テーブルに移動。一旦丸テーブルに座るが、食器拭きと分かつと洗面台に向かう。              | ○                           | 食器拭きを依頼                                                                      |     |
|      |         |   |   |    | そのままトイレへ行く。                                                         | ◎                           | 他の通いの利用者(W様)来所                                                               |     |
| 22   |         |   | ○ |    | トイレから出る。洗面台で手を洗う。                                                   |                             |                                                                              |     |
|      |         |   | ○ |    | トイレに忘れたタオル届けられ苦しい。右肩にタオルかける。                                        |                             |                                                                              |     |
| 24   |         |   | ○ |    | 補助テーブルのかごの食器の拭き上げ立ったまま行っている。サングラスかけたまま行。                            | ◎                           | 再度声かけ食器拭き上げを依頼                                                               |     |
| 28   |         |   | ○ |    | 黙々と行い、終了。洗面台に向かい、ペーパータオルで鼻をかむ。                                      |                             |                                                                              |     |
| 30   |         |   | ○ |    | 今までいた席に戻り、図鑑を見ている。                                                  | ◎                           |                                                                              |     |
| 32   |         |   | ○ |    | コーヒーを出され飲む。キッチン側を向いている。                                             |                             | 他の通いの利用者(O様)来所                                                               |     |
| 37   |         |   | ○ |    | 図鑑見たり、時折、塗り絵シートを見たりしている。                                            |                             |                                                                              |     |
| 45   | ○       |   |   |    | 玄関の方に向かい職員に「もう家に帰りたいんですけど…」                                         |                             | 他の利用者眼鏡                                                                      |     |
|      |         |   | ○ |    | 口元に手をやり、嬉しそう                                                        |                             | 職員から帰りの時間と帰さんが食事作ってくれること、日ごろの頑張りを警める言葉言われる。                                  |     |
|      |         |   | ○ |    | 玄関側のテーブルでバズルを捜そうとしている。職員と一緒に選ぶ。                                     |                             |                                                                              |     |
| 49   |         |   | ○ |    | 「富士と桜」のバズルを自分で選択し始める。                                               | ◎                           |                                                                              |     |
| 52   |         |   | ○ |    | 後を入が行き来するが気にする事なくバズルを続け                                             |                             |                                                                              |     |

生活行動調査票 平成25年 2月3日 利用者名:A子様

| 時刻    | 本人の状態変化 |   |   |    | 本人の行動・発言                                                                          | ◎自発的行動<br>○依頼され行動<br>●依頼を拒否 | 本人に影響を与える事<br>(支援者・ボランティアの発言・支援、他利用者の行動・発言等) | 記録者 |
|-------|---------|---|---|----|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|----------------------------------------------|-----|
|       | 良くない    | → | → | 良い |                                                                                   |                             |                                              |     |
| 55    |         |   | ○ |    | 「富士と桜」終了。                                                                         |                             | 職員と出来上がったバズル見て、富士山のきれいな話をする。                 |     |
| 56    |         |   | ○ |    | 「何か書くことないかしら…」                                                                    |                             | 職員はバズルの富士山を描くことを提案する。白紙の紙と鉛筆を持って来てA子様に渡す。    |     |
|       |         |   |   |    | バズルを見ながら絵を描き始める。                                                                  |                             |                                              |     |
|       |         |   | ○ |    | 桜の花の難しさにひっかり、ペン進まず。                                                               |                             | 富士山を書くこと再度提案                                 |     |
| 10:00 |         |   | ○ |    | 書きとり。時折、タオルで目を拭きながら(涙が出るとジェスチャーする)                                                | ◎                           | 別の職員より漢字シート提案、絵は途中で止め漢字をかき始める                |     |
| 10:07 |         |   |   |    | 声かけた職員に「今日は何時頃…帰りますか…」                                                            |                             | 職員がシートの進み早いこと警める、予定の時間伝える                    |     |
|       |         |   |   |    | サングラスかけたりはずしたりしながら書いてる                                                            |                             |                                              |     |
| 10:12 |         |   |   |    | 書きとりを終わり見直しをしている                                                                  |                             |                                              |     |
| 10:15 |         |   | ○ |    | 富士山の絵あったことに気付く                                                                    | ◎                           | 職員より富士山の絵を描いたのを警められ、笑顔が見られる                  |     |
| 17    |         |   |   |    | 「あれ、これは…」と再度始めようとする。                                                              |                             |                                              |     |
| 20    |         |   | ○ |    | えんぴつをもったまま、紙の向きをかえたり、職員と話したり進まない                                                  |                             |                                              |     |
| 21    |         |   | ○ |    | 漢字シートが目に入り「お勉強の方がいいわ…」。                                                           |                             |                                              |     |
| 25    |         |   |   |    | リーダーより体操始めるので一緒に誘われ、「できるかしら…」と手をつなぎながらテーブルにつく。「好きな人今日いないの…」と                      | ○                           |                                              |     |
|       |         |   |   |    | 「いくつくらいの人?」「そうねえ、50位かしら」                                                          |                             |                                              |     |
|       |         |   |   |    | 職員より「いつもこの席にいる人?」と聞かれると、                                                          | ○                           |                                              |     |
|       |         |   | ○ |    | 「そうだと思う…」と嬉しそうに答える                                                                |                             |                                              |     |
| 10:28 |         |   | ○ |    | 皆と一緒に集団体操に参加                                                                      |                             | 集団体操                                         |     |
|       |         |   |   |    | 時折、キッチンの様子気にされる                                                                   |                             | K様来所                                         |     |
|       |         |   |   |    | リーダーの動きをマネながら行う                                                                   |                             |                                              |     |
| 10:35 |         |   |   |    | 体操で棒を使った体操が終わる。棒が回収されると終わったと思い、イスをテーブルの元に移動しようとする。                                |                             |                                              |     |
|       |         |   |   |    | リーダーにまだ終わりではなく、足の体操をすると言われると、イスに座りリーダーの方を向く。                                      |                             |                                              |     |
| 10:40 |         |   | ○ |    | 手の体操をリーダーの指示と一緒にを行う                                                               |                             | 隣の席に座った職員が時々動作を説明する。                         |     |
| 10:46 |         |   |   |    | 体操が終わる                                                                            |                             |                                              |     |
|       |         |   |   |    | 一度キッチンの方を見て、その後テーブルの方を向き、植物の本を手に取り見始める。                                           |                             |                                              |     |
| 10:48 |         |   | ○ |    | 配られたオレンジジュースを飲む。コップのジュースをすぐに飲み干す。                                                 |                             | オレンジジュースが全員に配られる。                            |     |
| 10:50 |         |   | ○ |    | 植物の本を見るが、ばらばらめくり、テーブルにおいてしまう。この動作を繰り返す。                                           | ◎                           |                                              |     |
| 10:55 |         |   | ○ |    | リーダーに鬼の面をかぶってみないか促され、かぶってみる。                                                      | ○                           | リーダーが節分の鬼の面を持ってくる                            |     |
| 10:58 |         |   | ○ |    | 利用者M様に似合うと言われ「ほほっ」と笑い声が聞かれる。                                                      |                             |                                              |     |
| 11:00 |         |   |   |    | 鬼の面をとった後、サングラスをかける。                                                               |                             |                                              |     |
|       |         |   |   |    | 職員を呼び、「今日は何時に帰るの?」と聞く。                                                            |                             |                                              |     |
| 11:01 |         |   | ○ |    |                                                                                   |                             | W職員より盛り付けを手伝ってもらいたいと依頼をす                     |     |
| 11:02 |         |   | ○ |    | 立ち上がりトイレに行く。                                                                      | ◎                           |                                              |     |
| 11:04 |         |   | ○ |    | トイレから出てくる。                                                                        |                             |                                              |     |
|       |         |   | ○ |    | W職員より「手を洗ってもらえますか?」と言われ、うなづく。                                                     |                             |                                              |     |
|       |         |   | ○ |    | 手を洗う。手洗い後、イスに戻る。                                                                  |                             |                                              |     |
| 11:05 |         |   | ○ |    | 首にかけてもらったエプロンの紐を自分でしぼる。                                                           | ◎                           | W職員がエプロン持ってきてA子様の首にかけてあげる。                   |     |
|       |         |   |   |    | エプロンをつけた後、再び手を洗いにいく。                                                              | ◎                           |                                              |     |
|       |         |   | ○ |    | 少し待つが、声かけなく、W職員が他の利用者のところに行っていると再びイスに戻り、立ったまま植物の本を見る。                             |                             | W職員、S様の座布団と交換の促しをしている。                       |     |
|       |         |   | ○ |    | 再び手洗いにいった後、盛りつけのテーブルに移動する。                                                        | ○                           | W職員、盛りつけを依頼する。                               |     |
| 11:10 |         |   |   | ○  | 盛りつけ用テーブルに並べられた皿にボールに入った料理を盛り付ける。片手でボールを持ち、片手にお玉でお皿に置かれた18枚のワンプレートに大根のキンピラを取り分ける。 | ○                           |                                              |     |
| 11:12 |         |   |   |    | 依頼されたボールの料理の盛り付けが終わる                                                              |                             |                                              |     |
|       |         |   |   |    | 鏡を見てサングラスを直す                                                                      |                             |                                              |     |
| 11:15 |         |   |   |    | 盛りつけ用の手袋を渡され、自分ではめる                                                               | ○                           |                                              |     |
| 11:16 |         |   |   |    | 手袋をした手で豆腐ハンバーグを皿に盛りつけを行う。8人分を行い渡されたハンバーグが無くなる。                                    |                             |                                              |     |
|       |         |   |   |    | イスに戻り、植物の本見る                                                                      |                             | W職員「別の料理ができれば、またお願いしますから、少し休んでください」          |     |
| 11:18 |         |   | ○ |    | 盛りつけが気になり、イスから立ったり座ったりしている。                                                       |                             |                                              |     |
| 11:19 |         |   | ○ |    | 一度、イスに座る。植物の本を見る。                                                                 |                             | 「次の料理ができれば、お願いしますから、少し休んでください」               |     |
| 11:21 |         |   |   |    | 盛りつけが気になり、立ち上がり、皿の方を見回す。まだ、料理がないのがわかったと、再び席に戻る。                                   |                             |                                              |     |
|       |         |   |   |    | 座って本を見るがすぐに盛りつけテーブルの方を見る。                                                         |                             | 屋食前のトイレ、手洗いの誘導が行われている。                       |     |
| 11:25 |         |   | ○ |    | 一度立ってキッチンの方を見る。                                                                   |                             |                                              |     |
|       |         |   |   |    | すぐに座って、しばらくキッチンを見た後、本を見る                                                          |                             |                                              |     |

| 時刻    | 本人の状態変化 |   |    | 本人の行動・発言                                                               | ◎自発的行動<br>○依頼され行動<br>●依頼を拒否 | 本人に影響を与える事<br>(支援者・ボランティアの発言・支援、他利用者の行動・発言等) | 記録者 |
|-------|---------|---|----|------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|----------------------------------------------|-----|
|       | 良くなる    | → | 悪い |                                                                        |                             |                                              |     |
| 11:27 |         | ○ |    | ビニール手袋をW職員に渡され自分ではめる。                                                  | ○                           |                                              |     |
| 11:28 |         |   | ○  | 半分に切った煮卵を渡され皿に取り分ける。                                                   | ○                           |                                              |     |
| 11:31 |         |   | ○  | 頼まれた料理の盛りつけを終わり、一度イスに座る                                                |                             | K様、S様 食事前の手洗いでA子様の背後を移動さ                     |     |
| 11:33 |         |   | ○  | 再び煮卵が持てられ、立ち上がって、取り分ける。                                                | ○                           |                                              |     |
| 11:34 |         |   | ○  | 卵の盛りつけが終わり、W職員より「また、お願いしますので、それまで休んでいてください」と言われ、イスに座る。                 | ○                           |                                              |     |
|       |         |   |    | イスに座るが盛りつけが気になり立ち上がる                                                   |                             | 盛りつけた料理をW職員がキッチンバスミで、刻みの作業をしている。             |     |
| 11:37 |         |   | ○  | 立ち上がり、盛りつけを見る                                                          |                             |                                              |     |
|       |         |   |    | 何も声がかからないと、そのまま座る                                                      |                             |                                              |     |
| 11:40 |         |   | ○  | 野菜サラダの入ったボールを渡され、盛りつけを始める                                              | ○                           | 職員、盛りつけの見本をA子様に示し、ボールを渡す。A子様と一緒に盛りつけを行う      |     |
| 11:46 |         |   | ○  | 盛りつけが終わりイスに戻る                                                          |                             |                                              |     |
| 11:48 |         |   | ○  | W職員がサーバーを様に手渡し、豆腐ハンバーグを取り分ける(8人分)。(皿はW職員が支えるのを手伝っている)                  |                             | W職員、A子様と一緒に盛りつけを行う                           |     |
| 11:50 |         |   | ○  | 盛りつけが終わり、手洗いをする                                                        | ○                           | W職員が「ありがとうございました」と言葉をかける                     |     |
| 11:52 |         |   | ○  | 「何かあったら言ってね」と笑顔で話される                                                   | ◎                           | Y職員より「ありがとうございました」                           |     |
|       |         |   | ○  | サングラスを一度はずし、目をふく                                                       | ○                           |                                              |     |
|       |         |   | ○  | 自ら椅子の方向を体操をリードするリーダーの方に椅子の向きを変える。                                      | ◎                           | リーダーが「もうすぐご飯なので体操をします」の言葉かけをする。              |     |
| 11:55 |         |   | ○  | リーダーの動作を見ながら、口腔体操を行う                                                   | ○                           | リーダーが「口腔体操をリードする                             |     |
|       |         |   | ○  | 他の利用者の方と、一緒に最後の深呼吸まで行う                                                 | ○                           | リーダーは聞こえていないので、時々本人の近くに行き確認しながら体操をリード。       |     |
| 11:58 |         |   | ○  | リーダーのメニューを紹介する声が聞こえているが不                                               |                             | リーダーが今日のメニューを利用者の皆さんに紹介す                     |     |
|       |         |   | ○  | 食事を待っている間、自分の右手で左手のひらに文字を書くようなしぐさが見られる。                                |                             |                                              |     |
| 12:00 |         |   |    | 肩にかけたタオルでサングラスをふく                                                      | ◎                           | お茶が配られる                                      |     |
| 12:03 |         |   |    | お茶を一口飲む                                                                | ◎                           | 食事が利用者に配膳される                                 |     |
|       |         |   |    | A子様に食事が配膳される。                                                          |                             | 職員が椅子をテーブル側に少し前に移動する介助をする。                   |     |
| 12:05 |         |   |    | 食事を始める                                                                 | ◎                           | K職員「皆さん温かいうちに食べてください。いただきます」と利用者全体に言葉かけ。     |     |
|       |         |   |    | 他者を気にすることなく食べる。                                                        |                             |                                              |     |
|       |         |   |    | (メニュー、豆ごはん、豆腐ハンバーグ、野菜サラダ、大根のきんぴら、煮たまご、お吸い物)                            |                             |                                              |     |
| 12:18 |         |   | ○  | 主食、副食共に全量摂取される。                                                        |                             |                                              |     |
|       |         |   |    | お茶を飲む                                                                  |                             |                                              |     |
| 12:20 |         |   | ○  | タオルで時々眼を拭く動作がみられる                                                      |                             | 同じテーブルの方の●●                                  |     |
| 12:27 |         |   | ○  | サングラスをはずし、タオルで眼を拭く。                                                    |                             | 食事が終わり、食後の談話がされている                           |     |
|       |         |   |    | 食事を食べたあとお茶が飲みたいようで何度も湯呑を手に取り中を見る。                                      |                             |                                              |     |
|       |         |   |    | 肩にかけたタオルを手にとりじっている。                                                    |                             |                                              |     |
| 12:30 |         |   | ○  | 再びサングラスをする                                                             |                             |                                              |     |
|       |         |   | ○  | お茶を「欲しかったの」と笑顔で対応。お茶を飲む                                                |                             | M職員がお茶のおかわりを勧める                              |     |
| 12:33 |         |   |    | サングラスをタオルで拭き、かけ直す                                                      |                             |                                              |     |
| 12:34 |         |   |    | 少しうとうとした様子みられる                                                         |                             |                                              |     |
| 12:35 |         |   |    | タオルで右眼をおさえている                                                          |                             |                                              |     |
| 12:39 |         |   |    | タオルでサングラスをふき、またかける                                                     |                             |                                              |     |
| 12:40 |         |   |    |                                                                        |                             | 他の利用者に昼食後菓の配膳される。                            |     |
| 12:45 |         |   | ○  | お茶を飲んで、笑顔が見られる                                                         |                             | 食後の口腔ケア誘導が他の利用者に対して行われている                    |     |
| 12:46 |         |   | ○  | 職員に新聞をお願いし、持ってきてもらう                                                    | ◎                           |                                              |     |
|       |         |   |    | 新聞を読み始める                                                               | ◎                           |                                              |     |
| 12:53 |         |   | ○  | 口腔ケアの声掛け後、立ち上がって膝の痛みを訴える                                               | ○                           | Y職員より、口腔ケアの誘導                                |     |
|       |         |   |    | 立ち上がり洗面台へ行き、口をゆすぐ。                                                     | ○                           |                                              |     |
| 12:55 |         |   | ○  | 席に戻り、新聞を読む                                                             | ◎                           |                                              |     |
| 13:05 |         |   | ○  | 新聞をテーブルに置き、周囲を見ている                                                     |                             |                                              |     |
| 13:13 |         |   | ○  | 笑顔でうなづく                                                                |                             | リーダーから「もう少ししたらお願いしてもいいですか」                   |     |
| 13:15 |         |   | ○  | トイレ①が使用中のためトイレ②へ歩いて行く。トイレ②も使用中で、トイレ③が空いたためトイレ③に入る。(タオルを肩にかけ、ゆっくり歩いていく) | ◎                           |                                              |     |
|       |         |   |    | トイレから出てくる                                                              |                             |                                              |     |
| 13:20 |         |   |    | 食器ふきあげをテーブルでやってくれる(立ったまま)                                              | ○                           | 同じテーブルのW様A子様も一緒に行う                           |     |
| 13:22 |         |   |    | 食事拭きの途中で座ってしまう(止めてしまう)                                                 |                             | リーダーが痛みの有無、確認する                              |     |
|       |         |   |    | 拭きあげた食器を置くためのお盆がいっぱいになり、他の利用者の方は置いた湯呑の上に更に拭いた湯呑を置いているがA子様は作業を止めて座った。   | ◎                           |                                              |     |
|       |         |   |    | 右下腿のあたりを痛みいうがはっきりせず                                                    |                             |                                              |     |
| 13:30 |         |   |    | 新聞を読む                                                                  |                             |                                              |     |
| 13:31 |         |   |    | 立ち上がる                                                                  |                             |                                              |     |
|       |         |   | ○  | キッチンの前のテーブルに移動。職員に椅子を勧められ座って作業をする。お盆拭きを始める。                            | ○                           | W職員「私と一緒に手伝いしてもらっていいですか」                     |     |
| 13:39 |         |   | ○  | お盆拭きを終える                                                               |                             | W職員「ありがとうございます」。コーヒーをお出しする。                  |     |
|       |         |   |    | 職員にコーヒーを出してもらい、それを飲む。                                                  | ◎                           |                                              |     |
| 13:40 |         |   | ○  | 「今日は何時に帰るの？」                                                           |                             | 「6時です」                                       |     |

| 時刻    | 本人の状態変化 |   |    | 本人の行動・発言                                                 | ◎自発的行動<br>○依頼され行動<br>●依頼を拒否 | 本人に影響を与える事<br>(支援者・ボランティアの発言・支援、他利用者の行動・発言等)       | 記録者 |
|-------|---------|---|----|----------------------------------------------------------|-----------------------------|----------------------------------------------------|-----|
|       | 良くなる    | → | 悪い |                                                          |                             |                                                    |     |
|       |         |   | ○  | W職員と談話、お姉さんの話                                            |                             |                                                    |     |
| 13:43 |         |   | ○  | 「今日は何時に帰るの？」                                             |                             | 「6時です。Tさんが夕食の用意をして下さるそうです」<br>今日は豆まきがあることをA子様に伝える。 |     |
| 13:45 |         |   | ○  | 玄関近くのテーブルに移動。(W職員が誘導)                                    | ○                           |                                                    |     |
|       |         |   |    | パズルを始める                                                  | ○                           | みんなこのパズルは途中でやめてしまうので、手伝ってもらえますか」                   |     |
| 14:00 |         |   | ○  | 「難しいなあ・・・」(ともだち～こいぬ)                                     |                             |                                                    |     |
| 14:05 |         |   | ○  | 「合うのがないなあ・・・」                                            |                             | スタッフが一緒に言うがなかなか進まない                                |     |
| 14:08 |         |   | ○  | パズルを花に替える(ゆめ～ピンクの花束)                                     | ○                           | リーダーが傍に座り、ピースの少ないものに替えること提案                        |     |
|       |         |   |    | ピースの形で合わせている。                                            |                             |                                                    |     |
| 14:25 |         |   | ○  | 一人で集中してパズル続けている                                          |                             |                                                    |     |
| 14:35 |         |   | ○  | 「わたしもうそろそろ帰りたいんだけど・・・」                                   |                             | 今の時間伝え、6時には帰ること伝える                                 |     |
|       |         |   |    | 「あっ、そう・・・」パズル続けている                                       |                             |                                                    |     |
| 14:40 |         |   | ○  | 別のパズルを始める(しあわせ～黄色い花束)                                    | ○                           | リーダーがピースの少ない別のパズルを選んでやってみないか提案                     |     |
|       |         |   |    | 一人で集中してパズルを続ける                                           |                             |                                                    |     |
| 14:46 |         |   | ○  |                                                          |                             | 節分、鬼役のK職員がお面をかぶって外から入ってくる                          |     |
|       |         |   | ○  | A子様もフロアの様子変化に気付く、リーダーに声かけられたら、一緒に他の方々がいる方に移動             | ○                           | 居間がさがしくなる                                          |     |
|       |         |   |    |                                                          |                             | 居間で豆まきが行われる                                        |     |
|       |         |   | ○  | 豆を鬼に向かってなげる。笑顔がみれる                                       | ○                           |                                                    |     |
| 14:50 |         |   | ○  | トイレに行かれる                                                 | ◎                           |                                                    |     |
| 14:54 |         |   | ○  | トイレから出てくる                                                |                             |                                                    |     |
|       |         |   |    |                                                          |                             | 「A子様も(豆まきしているところへ)行ってみよう」リーダーが言葉かけする               |     |
| 14:55 |         |   | ○  | 「もううちに帰りたいんだけど、どうしよう」とリーダーに伝える                           |                             |                                                    |     |
|       |         |   | ○  | 職員の手をにぎり(強く)力比べと笑いながらおしゃる                                |                             |                                                    |     |
| 14:57 |         |   | ○  | 新聞を読む                                                    | ◎                           |                                                    |     |
| 15:00 |         |   | ○  | おやつ(のせんべい)を1枚食べる。                                        |                             | おやつが利用者全員に配られる                                     |     |
|       |         |   |    | 食べながら新聞を読む                                               |                             |                                                    |     |
|       |         |   |    | 甘納豆を食べる                                                  |                             |                                                    |     |
|       |         |   |    | 新聞を読む                                                    |                             |                                                    |     |
| 15:05 |         |   | ○  | 新聞を読みながら、甘納豆、お茶を飲む                                       |                             |                                                    |     |
| 15:08 |         |   | ○  | おやつを食べ終わり、新聞を読み続ける。                                      | ◎                           |                                                    |     |
| 15:10 |         |   | ○  | 新聞をテーブルに置きお茶を飲む。                                         | ◎                           |                                                    |     |
| 15:11 |         |   | ○  | 立ち上がり、居室3に行き、部屋に入る                                       | ◎                           |                                                    |     |
| 15:13 |         |   | ○  | 居室3から出てくるところをW職員に声をかけられ。おにの面をかぶるのことを誘われ、鬼の面をかぶり、居間の方に行く。 | ○                           | W職員が鬼の面をかぶってみないかと誘う                                |     |
| 15:15 |         |   | ○  | 「鬼が来たぞー」と言いながらフロアを歩かれる                                   |                             |                                                    |     |
| 15:16 |         |   | ○  | 「今日は何時に帰れるのかしら」→何度か繰り返す                                  |                             | 「夕食前に送ってきます」                                       |     |
| 15:21 |         |   | ○  | 鬼の面をかぶりながら、フロアの席に座る。他の利用者と握手してギョツとにぎる                    |                             |                                                    |     |
| 15:26 |         |   | ○  | パズルのとこに来て、「これやっちゃわなくっちゃ」と言い、パズルを再開する                     | ◎                           |                                                    |     |
|       |         |   |    | 「おじいちゃん何してるかな」                                           |                             |                                                    |     |
|       |         |   |    | 「Bさん(夫)と一度もケンカしたことないよ」とW職員に言う                            |                             |                                                    |     |
|       |         |   |    | 膝を温めてもらう                                                 |                             | W職員が膝を温めるため、ホットパックを持ってくる                           |     |
|       |         |   |    | パズルを一人で集中して行う                                            |                             |                                                    |     |
| 15:38 |         |   |    |                                                          |                             | パズルをしている後でO様が立ち上がり、歩行状態の確認をしている                    |     |
| 15:42 |         |   |    | パズルを完成させる                                                |                             |                                                    |     |
| 15:43 |         |   | ○  | 「今日は何時に帰るのかしら」と言い、6時の退室してもらった後で、新しいパズルを始める(名古屋城)         | ○                           | リーダーが別のパズルをやってみないか提案する                             |     |
| 15:45 |         |   |    | パズルを一人で集中して行っている                                         |                             | リーダーが隣のテーブルで連絡帳の準備をしている                            |     |
| 16:02 |         |   | ○  | パズルを完成させる                                                |                             |                                                    |     |
| 16:05 |         |   |    | 「もう帰る準備をしたいんだけど」                                         |                             |                                                    |     |
|       |         |   | ○  | 笑顔でキッチンの方に行き、洗い物をして下さる。(サングラスしたまま)                       | ○                           | W職員がお手伝いしてもらいたいことがあるんですけど                          |     |
| 16:15 |         |   | ○  | 食器拭きして下さる                                                |                             |                                                    |     |
| 16:18 |         |   | ○  | 終了。「早くじいさまに会いたいわあ」と、とても嬉しそうに話される                         |                             |                                                    |     |
| 16:20 |         |   | ○  | 計算シート始めるが、2分くらいで半分終わらせる。                                 |                             | W職員に誘導され玄関側のテーブルへ計算シートをすすめる。                       |     |
| 16:23 |         |   |    | 終了。                                                      |                             |                                                    |     |
|       |         |   | ○  | 早いことスタッフに営められ、とても嬉しそうに笑顔見られる                             |                             | W職員付き添い、営める                                        |     |
| 16:24 |         |   | ○  | 漢字シート、午前中の続きをやるが、分からないところがあるまま、「わかりません～」と笑顔で終了。          |                             |                                                    |     |
| 16:27 |         |   | ○  | 昔の学校6年きりしか行っていないから難しい字分からないの・・・                          |                             | スタッフが傍で声かけ、補助しながら行う                                |     |
|       |         |   | ○  | 「しりとり」を紙に書きながら行うの                                        |                             |                                                    |     |
| 16:33 |         |   |    | サングラスはずすと、「明るいわ・・・」と。                                    |                             |                                                    |     |
|       |         |   | ○  | 計算シート見て「100点もらいました・・・」と嬉しそう                              |                             |                                                    |     |
|       |         |   |    | 「国語の方が得意」                                                |                             | 「算数」と「国語」どっちが得意？                                   |     |
| 16:35 |         |   | ○  | おふる屋さんの話、Cさんの懐かしい話、                                      |                             | 昔話を誘うが少ししか残っていない                                   |     |



| 時刻    | 本人の状態変化<br>良い悪い |   |   |   | 本人の行動・発言                           | ◎自発的行動<br>○依頼され行動<br>●依頼を拒否 | 本人に影響を与える事<br>(支援者・ボランティアの発言・支援、他利用者の行動・発言等) | 記録者 |
|-------|-----------------|---|---|---|------------------------------------|-----------------------------|----------------------------------------------|-----|
|       |                 |   |   |   | Hさんはいい人だったのに縁がなかったの…おじやんが一番いいわ…ほほほ |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   |   | しりとり再開                             | ○                           | しりとり再開へ誘導                                    |     |
| 16:40 |                 |   | ○ |   | 「今日は何時頃帰るのかしら…」                    |                             | 今日はTさんがおいしい物作って待っている旨伝える                     |     |
|       |                 |   |   |   | 「うつつ…」と笑顔                          |                             |                                              |     |
| 16:43 |                 |   |   |   | 「今日は何時頃帰りますか…」                     |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   |   | 別の職員に聞く                            |                             | 「6時頃です」と答える(Kスタッフ)                           |     |
|       |                 |   |   |   | しりとりの紙の端に「6時に帰る」と書く。しりとり続ける        |                             |                                              |     |
| 16:46 |                 |   |   | ○ | Vスタッフから言葉たくさん知っていること誉められ嬉し         |                             |                                              |     |
| 16:47 |                 |   | ○ |   | 傍を通りかかった職員に「今日は何時頃帰りますか…」と聞く       |                             | 「6時頃です。ぼくが送っていきます」                           |     |
|       |                 |   |   |   | 「はい」と返事                            |                             |                                              |     |
|       |                 |   | ○ |   | お好み焼き、もんじゃ焼きを昔たくさん焼いたことを話される       |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   | ○ | しりとりが、食べ物が多いこと言われ、笑い声聞かれる          |                             |                                              |     |
| 16:52 |                 |   |   | ○ | 私、いくつに見える？といつもの歳の話。                |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   |   | ちぢれ毛でけんかするといじめられた話を笑いながらしている       |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   |   | しりとり続けている                          |                             |                                              |     |
|       |                 |   | ○ |   | 「今日は何時頃帰られるのかしら…」                  |                             | W職員より紙に書いてあること言われる                           |     |
|       |                 |   |   |   | 書いたメモを見つけ笑っている                     |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   |   | “ミス”大嫌い                            |                             |                                              |     |
| 17:00 |                 |   |   |   | お茶を飲む                              |                             | お茶を持ってきてすすめてくれる                              |     |
|       |                 |   | ○ |   | 洗濯物たたみして下さる                        | ○                           | 洗濯たたみを頼む                                     |     |
|       |                 |   |   |   | お姉さん、妹、弟の話して下さる                    |                             |                                              |     |
|       |                 |   | ○ |   | しばらく会っていないなあ…                      |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   |   | 何しているのかなあ…                         |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   |   | タオルたたみ終了する。                        |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   |   | 「何時頃帰りますか…」                        |                             | 6時には帰ります                                     |     |
|       |                 |   | ○ |   | 「今日はよく遊ばせてもらったわ…」                  |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   |   | 別の職員にちぢれ毛でいじめられた話をする。              |                             | 「嫌だった？」                                      |     |
| 17:08 |                 |   |   |   | 私強いからいいとファイティングポーズとる               |                             |                                              |     |
| 17:10 |                 |   |   |   | パズル再開(しあわせ、黄色い花束)                  | ○                           | 職員の誘導で再開                                     |     |
|       |                 |   |   |   | 「ちぢれ毛～」と小さい声で唄いながら捜している            |                             |                                              |     |
| 17:13 |                 |   |   |   | 「今日は何時に帰るのかしら」と通った職員に聞く。           |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   |   | 6時と聞くとまたパズルを再開する                   |                             |                                              |     |
| 17:19 |                 |   |   |   | パズルを完成させる。                         |                             |                                              |     |
| 17:20 |                 |   |   |   | 「思いつかない」                           |                             | リーダーが隣で一緒に何か思いついたことを書いてください                  |     |
|       |                 |   |   |   | 昔付き合った人なら書けるけど。                    |                             |                                              |     |
|       |                 |   | ○ |   | 2人名前を書いて下さる                        | ○                           |                                              |     |
| 17:25 |                 | ○ |   |   | 「Bさん(夫)どうしているかしら」「早く帰らなくっちゃ」       |                             |                                              |     |
| 17:26 |                 |   | ○ |   | トイレに行く                             | ◎                           |                                              |     |
| 17:28 |                 |   |   |   | トイレから出てくる                          |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   |   | 「うちに帰りたいんだけどどうしよう」と職員に伝える          |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   |   |                                    |                             | K職員から●が夕飯を作っているので6時に帰ってきてと置かれていると伝える         |     |
| 17:32 |                 |   | ○ |   | 「帰る支度…」と手提げ袋を棚から持ってくる              | ◎                           |                                              |     |
|       |                 |   |   |   | お茶をすすめられたのをきっかけに玄関側のテーブルに誘導        | ○                           |                                              |     |
|       |                 |   | ○ |   | あめを1個もらい嬉しそうにほおぼる                  |                             |                                              |     |
| 17:34 |                 |   | ○ |   | 計算シート、サンガラス上げ下げしながら行っている、足し算終了     |                             | 引き算シートすすめる                                   |     |
| 17:36 |                 |   | ○ |   | 「私引き算苦手だから…」と言うが、職員の声に続けて計算行う      |                             | 合っていること伝える                                   |     |
|       |                 |   |   |   | 「間違っているかもしれない…」                    |                             | 採点                                           |     |
|       |                 |   |   |   | スタッフより全部合っていること、計算が早いこと誉められ、       |                             |                                              |     |
| 17:43 |                 |   | ○ |   | 笑顔と笑い声聞かれる                         |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   |   | 最後の1個できなかったことに「私バーになっちゃっ           |                             |                                              |     |
| 17:45 |                 |   | ○ |   | 帰りを伝え、上着を介助で着せる                    |                             | 帰りの職員と一緒に出る                                  |     |
|       |                 |   |   |   | 「どうもありがとうございました。もう一日いたいみたい…」と言い    |                             |                                              |     |
|       |                 |   |   |   | 笑顔で帰られる。                           |                             |                                              |     |

表6 タイムスタディー調査：生活行動調査票の集約

タイムスタディー調査における本人の状態変化分析 (平成25年2月3日調査分)

| 時刻            | 記録<br>件数 | 本人の状態の記録数<br>良い悪い |   |   |   | 食行動 |                 | その他の<br>行動  | 備考              |
|---------------|----------|-------------------|---|---|---|-----|-----------------|-------------|-----------------|
|               |          |                   |   |   |   | 食べる | 作る・準備・片付け       |             |                 |
| 8:00 ~ 8:04   | 1        |                   |   | 1 |   |     |                 | 新聞を読む       |                 |
| 8:05 ~ 8:09   | 1        |                   |   |   |   |     |                 | 膝痛を訴える      |                 |
| 8:10 ~ 8:14   | 2        |                   |   | 1 |   |     |                 | 鎮痛剤内服       |                 |
| 8:15 ~ 8:19   | 1        |                   |   |   | 1 |     |                 | パズル(職員から提案) |                 |
| 8:20 ~ 8:24   | 3        |                   | 1 |   | 2 |     |                 | 塗り絵         |                 |
| 8:25 ~ 8:29   | 1        |                   |   |   | 1 |     |                 | 塗り絵         |                 |
| 8:30 ~ 8:34   | 1        |                   |   | 1 |   |     |                 | 塗り絵、トイレ     |                 |
| 8:35 ~ 8:39   | 2        |                   |   | 2 |   |     |                 | トイレ、塗り絵     |                 |
| 8:40 ~ 8:44   | 3        |                   |   | 3 |   |     |                 | 塗り絵         |                 |
| 8:45 ~ 8:49   | 1        |                   |   | 1 |   |     |                 | 塗り絵         |                 |
| 8:50 ~ 8:54   | 5        |                   |   | 5 |   |     |                 | 塗り絵(完成)     |                 |
| 8:55 ~ 8:59   | 3        |                   |   | 3 |   |     |                 | 体温測定        |                 |
| 9:00 ~ 9:04   | 1        |                   |   | 1 |   |     |                 | 新聞を読む       |                 |
| 9:05 ~ 9:09   | 2        |                   |   | 2 |   |     |                 | 花の図鑑を見る     |                 |
| 9:10 ~ 9:14   | 3        |                   |   | 3 |   |     |                 | 花の図鑑を見る     |                 |
| 9:15 ~ 9:19   | 3        |                   |   | 2 | 1 |     | 食器拭きを依頼される      | 花の図鑑を見る     | 職員が食器拭きを依頼      |
| 9:20 ~ 9:24   | 4        |                   |   | 2 | 1 |     | 食器拭き            |             |                 |
| 9:25 ~ 9:29   | 4        |                   |   | 1 | 1 | 2   | 食器拭き            |             |                 |
| 9:30 ~ 9:34   | 2        |                   |   | 1 | 1 |     | コーヒーを飲む         | 花の図鑑を見る     | コーヒーは個別で出す      |
| 9:35 ~ 9:39   | 1        |                   |   | 1 |   |     |                 | 花の図鑑を見る     |                 |
| 9:40 ~ 9:44   | 0        |                   |   |   |   |     |                 |             |                 |
| 9:45 ~ 9:49   | 4        |                   | 1 | 2 | 1 |     |                 | 帰宅を訴える、パズル  |                 |
| 9:50 ~ 9:54   | 1        |                   |   | 1 |   |     |                 | パズル         |                 |
| 9:55 ~ 9:59   | 4        |                   |   | 3 |   |     |                 | パズル、絵を描く    |                 |
| 10:00 ~ 10:04 | 1        |                   |   | 1 |   |     |                 | 漢字書き取り      |                 |
| 10:05 ~ 10:09 | 2        |                   |   |   |   |     |                 | 職員と会話       |                 |
| 10:10 ~ 10:14 | 0        |                   |   |   |   |     |                 |             |                 |
| 10:15 ~ 10:19 | 2        |                   |   | 1 |   |     |                 | 職員と会話       |                 |
| 10:20 ~ 10:24 | 2        |                   |   | 2 |   |     |                 | 絵を描く        |                 |
| 10:25 ~ 10:29 | 3        |                   |   | 1 | 1 |     |                 | 職員と会話、集団体操  |                 |
| 10:30 ~ 10:34 | 0        |                   |   |   |   |     |                 | 集団体操        |                 |
| 10:35 ~ 10:39 | 2        |                   |   |   |   |     |                 | 集団体操        |                 |
| 10:40 ~ 10:44 | 1        |                   |   | 1 |   |     |                 | 集団体操        |                 |
| 10:45 ~ 10:49 | 2        |                   |   | 1 |   |     | オレンジジュースを飲む     |             | 集団体操後の全体の補水     |
| 10:50 ~ 10:54 | 1        |                   |   | 1 |   |     |                 | 花の図鑑を見る     |                 |
| 10:55 ~ 10:59 | 2        |                   |   | 1 | 1 |     |                 | 職員と会話       |                 |
| 11:00 ~ 11:04 | 6        |                   |   | 5 |   |     | 昼食の盛り付けを頼まれる    |             |                 |
| 11:05 ~ 11:09 | 4        |                   |   | 4 |   |     | エプロンを着用、手洗い     |             |                 |
| 11:10 ~ 11:14 | 3        |                   |   | 1 |   |     | 盛り付けを行う         |             | 職員が見本を提示し、見守り   |
| 11:15 ~ 11:19 | 5        |                   |   | 2 |   |     | 盛り付けを行う         |             | 職員が見本を提示し、見守り   |
| 11:20 ~ 11:24 | 1        |                   |   |   |   |     | 作業待ち            |             | 次の料理が来ないか気にしている |
| 11:25 ~ 11:29 | 3        |                   |   | 2 | 1 |     | 作業待ち            |             | 次の料理が来ないか気にしている |
| 11:30 ~ 11:34 | 4        |                   |   | 2 | 1 |     | 盛り付けを行う         |             |                 |
| 11:35 ~ 11:39 | 2        |                   |   | 1 |   |     | 盛り付け、作業待ち       |             |                 |
| 11:40 ~ 11:44 | 1        |                   |   | 1 |   |     | 作業待ち            |             |                 |
| 11:45 ~ 11:49 | 0        |                   |   |   |   |     | 盛り付け            |             |                 |
| 11:50 ~ 11:54 | 4        |                   |   | 2 | 1 | 1   | 盛り付け終わり手洗い      |             | 職員からお礼を言われる     |
| 11:55 ~ 11:59 | 4        |                   |   | 4 |   |     |                 | 食前の口腔体操を集団で |                 |
| 12:00 ~ 12:04 | 3        |                   |   |   |   |     | お茶が配られ、昼食が配膳される |             |                 |
| 12:05 ~ 12:09 | 3        |                   |   |   |   |     | 昼食を食べ始める        |             |                 |
| 12:10 ~ 12:14 | 0        |                   |   |   |   |     | 昼食を食べる          |             |                 |
| 12:15 ~ 12:19 | 1        |                   |   |   | 1 |     | 昼食を食べる(全量摂取)    |             |                 |
| 12:20 ~ 12:24 | 1        |                   |   | 1 |   |     | お茶が飲めそうだが特に飲まず  |             |                 |
| 12:25 ~ 12:29 | 3        |                   |   | 1 |   |     |                 |             |                 |

タイムスタディー調査における本人の状態変化分析（平成25年2月3日調査分）

| 時刻            | 記録<br>件数 | 本人の状態の記録数 |   |   |   |   | 食行動             |           | その他の<br>行動            | 備考                   |
|---------------|----------|-----------|---|---|---|---|-----------------|-----------|-----------------------|----------------------|
|               |          | 良くないー良い   |   |   |   |   | 食べる             | 作る・準備・片付け |                       |                      |
| 12:30 ～ 12:34 | 4        |           |   | 1 | 1 |   | お茶を湯呑に入れてもらう    |           |                       | 職員がお茶を勧める            |
| 12:35 ～ 12:39 | 2        |           |   |   |   |   | お茶を飲みながらゆっくり過ごす |           |                       |                      |
| 12:40 ～ 12:44 | 1        |           |   |   |   |   | お茶を飲みながらゆっくり過ごす |           |                       |                      |
| 12:45 ～ 12:49 | 3        |           |   |   | 2 |   |                 |           | 新聞を読む                 | 職員に新聞を持って来てもらう       |
| 12:50 ～ 12:54 | 1        |           | 1 |   |   |   | 食後の口腔ケア         |           | 立ち上がり時に膝痛訴え           |                      |
| 12:55 ～ 12:59 | 1        |           |   |   | 1 |   | 新聞を読む           |           |                       |                      |
| 13:00 ～ 13:04 | 0        |           |   |   |   |   |                 |           |                       |                      |
| 13:05 ～ 13:09 | 1        |           |   | 1 |   |   |                 |           |                       |                      |
| 13:10 ～ 13:14 | 1        |           |   |   | 1 |   |                 |           |                       | 少ししたら手伝わしてもらいたいと言われる |
| 13:15 ～ 13:19 | 1        |           |   | 1 |   |   |                 |           | トイレ                   |                      |
| 13:20 ～ 13:24 | 4        |           |   |   |   |   | 食器拭き            |           |                       |                      |
| 13:25 ～ 13:29 | 0        |           |   |   |   |   |                 |           | 膝痛の訴え？                |                      |
| 13:30 ～ 13:34 | 3        |           |   |   | 1 |   | お皿拭き            |           | 新聞を読む                 |                      |
| 13:35 ～ 13:39 | 2        |           |   |   | 1 |   | お皿拭き            |           |                       |                      |
| 13:40 ～ 13:44 | 3        |           |   | 2 | 1 |   | コーヒーを飲む         |           | 何時に帰るか職員に聞く           |                      |
| 13:45 ～ 13:49 | 2        |           |   | 1 |   |   |                 |           | パズルを始める               | 自発的に移動し、パズル          |
| 13:50 ～ 13:54 | 0        |           |   |   |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 13:55 ～ 13:59 | 0        |           |   |   |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 14:00 ～ 14:04 | 1        |           | 1 |   |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 14:05 ～ 14:09 | 3        |           | 1 |   | 1 |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 14:10 ～ 14:14 | 0        |           |   |   |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 14:15 ～ 14:19 | 0        |           |   |   |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 14:20 ～ 14:24 | 0        |           |   |   |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 14:25 ～ 14:29 | 1        |           |   | 1 |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 14:30 ～ 14:34 | 0        |           |   |   |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 14:35 ～ 14:39 | 2        |           | 1 |   |   |   |                 |           | パズル                   | 帰る時間を1度気にする          |
| 14:40 ～ 14:44 | 2        |           |   | 1 |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 14:45 ～ 14:49 | 3        |           |   | 2 | 1 |   |                 |           | 節分の豆まきに参加             |                      |
| 14:50 ～ 14:54 | 2        |           |   | 2 |   |   |                 |           | 節分の豆まきに参加、トイレ         |                      |
| 14:55 ～ 14:59 | 3        |           | 1 | 1 | 1 |   |                 |           | 新聞を読む                 | 帰宅の訴えが1度ある           |
| 15:00 ～ 15:04 | 4        |           |   | 1 |   |   | おやつを食べる         |           | おやつを食べながら新聞           |                      |
| 15:05 ～ 15:09 | 2        |           |   | 2 |   |   | おやつを食べる         |           | おやつを食べながら新聞           |                      |
| 15:10 ～ 15:14 | 3        |           |   | 3 |   |   | おやつを食べる         |           | 自分の荷物が見えなくなり保管している部屋へ |                      |
| 15:15 ～ 15:19 | 2        |           | 1 | 1 |   |   |                 |           | 帰宅の訴えを何度かする           |                      |
| 15:20 ～ 15:24 | 1        |           |   | 1 |   |   |                 |           | 鬼の面で他の利用者と楽しむ         |                      |
| 15:25 ～ 15:29 | 5        |           |   |   | 1 |   |                 |           | やりかけのパズルに気づく          | 膝をホットバックで温める         |
| 15:30 ～ 15:34 | 0        |           |   |   |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 15:35 ～ 15:39 | 1        |           |   |   |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 15:40 ～ 15:44 | 3        |           |   | 1 |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 15:45 ～ 15:49 | 1        |           |   |   |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 15:50 ～ 15:54 | 0        |           |   |   |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 15:55 ～ 15:59 | 0        |           |   |   |   |   |                 |           | パズル                   |                      |
| 16:00 ～ 16:04 | 1        |           |   | 1 |   |   |                 |           |                       | 職員が洗い物を依頼            |
| 16:05 ～ 16:09 | 2        |           |   | 1 |   |   | キッチンで洗い物をする     |           |                       |                      |
| 16:10 ～ 16:14 | 0        |           |   |   |   |   | キッチンで洗い物をする     |           |                       |                      |
| 16:15 ～ 16:19 | 2        |           |   | 1 |   | 1 | 食器拭き            |           |                       |                      |
| 16:20 ～ 16:24 | 3        |           |   |   | 2 | 1 |                 |           | 計算ドリル                 |                      |
| 16:25 ～ 16:29 | 2        |           |   | 1 | 1 |   |                 |           | 漢字ドリル                 |                      |
| 16:30 ～ 16:34 | 3        |           |   |   |   | 1 |                 |           | 漢字ドリル                 |                      |
| 16:35 ～ 16:39 | 3        |           |   |   |   | 1 |                 |           | 職員と会話                 |                      |
| 16:40 ～ 16:44 | 4        |           |   | 1 |   |   |                 |           | 職員と会話                 |                      |
| 16:45 ～ 16:49 | 3        |           |   | 1 | 1 | 1 |                 |           | 職員と会話                 | 帰宅の時間を気にする           |
| 16:50 ～ 16:54 | 2        |           |   | 1 |   | 1 | お茶を飲む           |           | 職員と会話                 |                      |
| 16:55 ～ 16:59 | 0        |           |   |   |   |   |                 |           |                       |                      |

タイムスタディー調査における本人の状態変化分析（平成25年2月3日調査分）

| 時刻            | 記録<br>件数 | 本人の状態の記録数 |   |   |   |   | 食行動     |           | その他の<br>行動   | 備考                |
|---------------|----------|-----------|---|---|---|---|---------|-----------|--------------|-------------------|
|               |          | 良くないー良い   |   |   |   |   | 食べる     | 作る・準備・片付け |              |                   |
| 17:00 ～ 17:04 | 5        |           |   | 1 | 2 |   |         |           | 洗濯物たたみ、職員と会話 |                   |
| 17:05 ～ 17:09 | 1        |           |   |   |   |   |         |           | パズル          |                   |
| 17:10 ～ 17:14 | 2        |           |   |   |   |   |         |           | パズル          |                   |
| 17:15 ～ 17:19 | 1        |           |   |   |   |   |         |           | パズルを完成       |                   |
| 17:20 ～ 17:24 | 3        |           |   |   | 1 |   |         |           | 職員と会話        |                   |
| 17:25 ～ 17:29 | 3        |           | 1 | 1 |   |   |         |           | トイレ          |                   |
| 17:30 ～ 17:34 | 4        |           |   | 2 | 1 | 1 | 鮎を口に入れる |           | 帰る支度をする      | 職員が鮎を勧める          |
| 17:35 ～ 17:39 | 1        |           |   | 1 |   |   |         |           | 職員と会話、計算ドリル  |                   |
| 17:40 ～ 17:44 | 2        |           |   |   |   | 1 |         |           | 職員と会話        | 職員が計算が早く正確なことを褒める |
| 17:45 ～ 17:49 | 2        |           |   |   |   | 1 |         |           | 職員と会話        | 17:45帰宅           |

表7 タイムスタディー調査（H25/2/3）における活動別時間の割合

| 活動分類               | 時間（分） | 割合     |
|--------------------|-------|--------|
| 食行動<br>（食べる）       | 85    | 14.4%  |
| 食行動<br>（作る・準備・片付け） | 100   | 16.9%  |
| その他活動              | 405   | 68.6%  |
| 総計                 | 590   | 100.0% |

表8 タイムスタディー調査(H25/2/3)における本人の状態の割合

| 活動分類               | 本人の状態（件数）   |             |               |               |               |
|--------------------|-------------|-------------|---------------|---------------|---------------|
|                    | 良くない        | 少し<br>良くない  | 平穏            | 少し良い          | 良い            |
| 食行動<br>（食べる）       |             |             | 10            | 6             | 2             |
| 食行動<br>（作る・準備・片付け） |             |             | 12            | 10            | 3             |
| その他活動              |             | 9           | 40            | 17            | 8             |
| 総計                 | 0<br>(0.0%) | 9<br>(7.7%) | 62<br>(53.0%) | 33<br>(28.2%) | 13<br>(11.1%) |

表9 タイムスタディー調査の要約

タイムスタディー調査（H25/2/3）の生活行動調査票の要約

| 時刻   | 食行動                           | 食以外の行動                                       | 心理状況                                                                                           | 自発性                                                 |
|------|-------------------------------|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 8時～  |                               | 職員からパズルを提案されるが、本人から塗り絵を希望され実施。(40分位塗り絵を行う)   | 空腹も満たされ、時々自宅の事は気になるが比較的安定して過ごされた。                                                              | 自分から行う活動を選択できた。                                     |
| 9時～  | 食器拭き（個別）                      | 新聞を読む。塗り絵。<br>図鑑を眺める。<br><br>パズル             | 平穏な状態。職員とは笑顔で対応。他の利用者とは交流はなし。<br>1回「帰りたいんですけど」と自宅の事が気になるようで訴えがあった。                             | 食器拭きは依頼され快諾され行う。<br>塗り絵は途中で目が疲れてきたようだとぎれとぎれの実施。     |
| 10時～ | オレンジジュース（午前中の利用者は認への補水）を飲む。   | 集団体操<br>パズル、描画、漢字ドリル                         | 集団での体操や個別の活動を平穏に取り組んだ。                                                                         | パズル・描画・漢字ドリルなど職員からの提案を受け自発的に取り組んだ。                  |
| 11時～ | 料理の盛り付け。                      | 食事前の口腔体操（集団）                                 | 盛り付けをしている間はよい状態が持続している。盛り付け後、職員からお礼をされた時はとても良い状態がみられた。                                         | 料理の盛り付けは自発性が高く、一つの料理の盛り付けが終わると、次の料理は早くこないか積極性も高かった。 |
| 12時～ | 昼食摂取。（全量摂取）                   | 食後新聞を読む。                                     | 落ち着いた状態で食事を摂る。食後は他の利用者との交流は無いが、平穏に過ごされた。                                                       | 食事は自分から言葉かけされることもなく全量摂取された。                         |
| 13時～ | 食器拭き上げ（他の利用者と一緒の実施）。<br>お盆拭き。 | 新聞を読む                                        | 職員から依頼され食器拭きやお盆拭きをしている間は良い状態が持続していた。<br>食器拭きの途中で作業を一人だけやめてしまう状況がみられた。<br>それ以外の時間で膝痛の訴えが時々みられた。 | 食後の食器類の後片付けは依頼されると積極的に実施してくれた。                      |
| 14時～ | 行事（節分）の豆まきに他の利用者と一緒に参加。       | パズル                                          | パズルの難易度が少し高いものをやった時は軽度のよくない状態（帰宅したい）がみられた。<br>豆まきは楽しそうな表情がみられ良い状態であった。                         | 豆まきは豆を自発的にまいていた。                                    |
| 15時～ | おやつを食べ、お茶を飲む。                 | おやつを食べながら新聞を読む<br>痛みのある膝をホットパックで温める。<br>パズル。 | 平穏な状態が多かったが、時々家の事が気になり帰宅の時間を聞いていた。                                                             | おやつ後、やりかけにしていたパズルに気付き、自発的に取り組む。                     |
| 時刻   | 食行動                           | 食以外の行動                                       | 心理状況                                                                                           | 自発性                                                 |
| 16時～ | 食器洗い。<br>食器拭き。                | パズル。漢字ドリル。<br>職員との会話を楽しむ。                    | 食器洗い・食器拭き後は良い状態がみられた。                                                                          | 職員からの依頼を快諾され、おやつの後片付けをする。                           |
| 17時～ | お茶を飲む。                        | 洗濯物をたたむ。<br>職員と会話を楽しむ。                       | 良い状態と家の事が気になり少し悪い状態と心理状況の揺れが多くなる。                                                              | 職員からの依頼は快諾され取り組む。                                   |

※17時45分こもれびを出て帰宅。

こもれびから出る際にいつもより笑顔がみられ、「もう一日いたいみたい」と言葉を残されて帰った。帰りの車中でも「今日はいっぱい遊ばせてもらった」とこれまでに聞かれなかった満足の言葉もあった。

参考資料1 認知症の人々の“よい状態”と“よくない状態”の指標

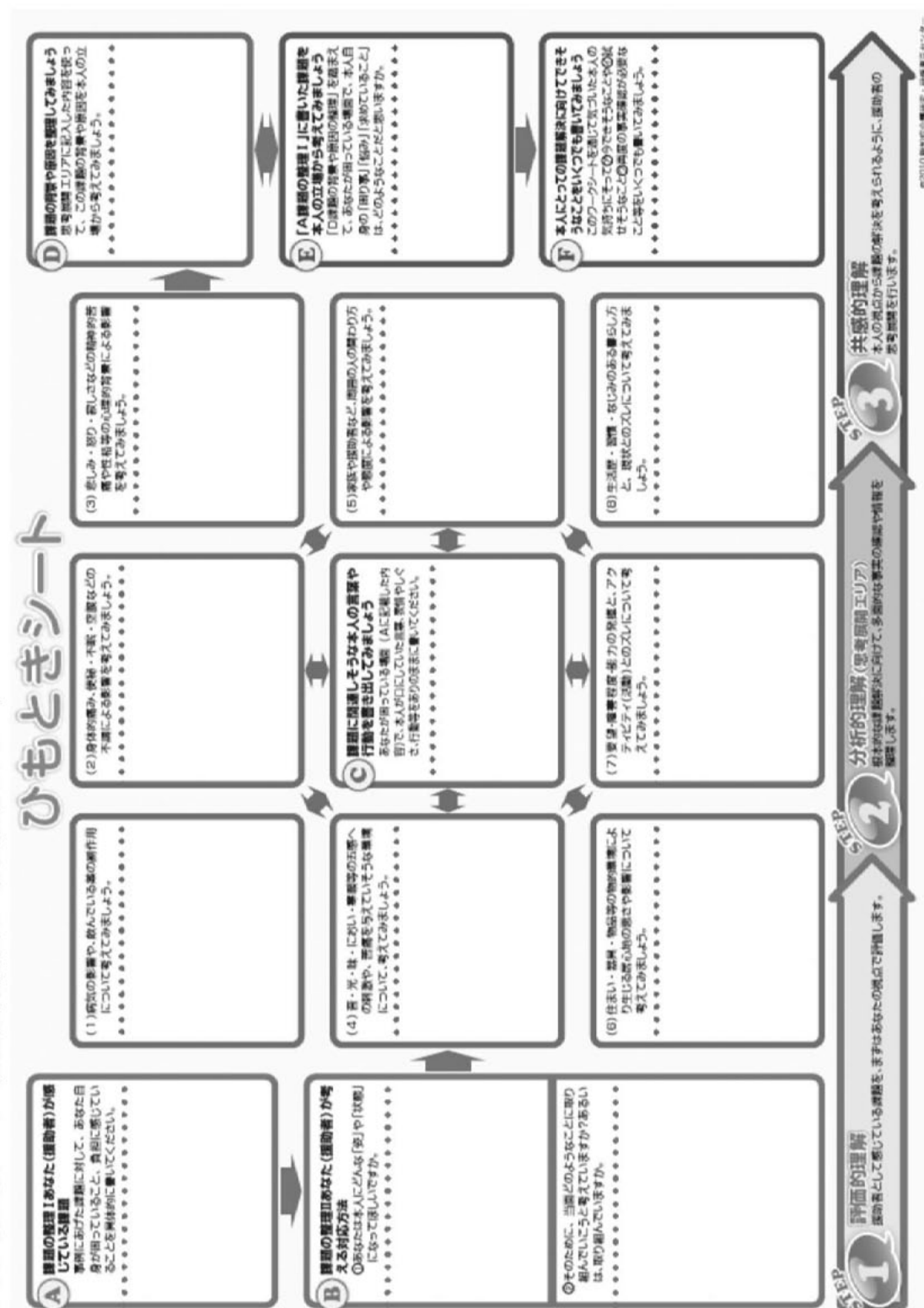
| 認知症の人々の“よい状態（Well-being）”と“よくない状態（Ill-being）の指標                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| よい状態の指標(Well-being)                                                                                                                                                                                                                                 | よくない状態の指標(Ill-being)                                                                                        |
| 了解可能な範囲で、何を思っているか何をしてほしいかを表現できる。<br>身体がゆったりとしていて緊張やこわばりのないこと<br>周囲の人たちに思いやりのあること<br>ユーモア<br>歌うこと、音楽に合わせて体を動かすこと、絵を描くなど創造的自己表現<br>日常生活の何らかのそう工夫を楽しむこと<br>人に何かをしてあげること<br>自分から社会の接点を持つこと<br>愛情を示すこと。<br>自尊心<br>あらゆる感情を表現すること<br>他の認知症の人たちを受容し、わかりあうこと | 悲しさは悲痛を感じている時にほったらかしにされている状態<br>怒りの感情の持続<br>不安<br>退屈<br>周囲の出来事に無関心で自分の世界にひきこもっている。<br>あきらめ<br>身体的な不快感あるいは苦痛 |

米国ブラッドフォード大学認知症介護研究グループ、認知症研究・研修大府センター監修、Evaluating dementia care the DCM method その人を中心としたケアを目指してパーソン・センタード・ケアと痴呆ケアマッピング, 2004

参考資料2 「認知症ケアマッピング(DCM:Dementia Care Mapping)」のWIB値(Well-being and Ill-being Value)の評価スケール

| WIB 値 (Well-being and Ill-being Vaule) の評価スケール |                                                                     |
|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| + 5                                            | 例外的によい状態：これよりもよい状態は存在しない。積極的なかわり、自己表現、社会性が特に高いレベルである。               |
| + 3                                            | よい状態を示す兆候が相当に存在する。たとえば、積極的なかわりや社交性があり、周囲に対して自分から関わりを持つ。             |
| + 1                                            | 現在の状態に適応している。他者との何らかの交流がある。よくない状態を示す兆候は認められない。                      |
| - 1                                            | 軽度のよくない状態が観察される。たとえば、退屈、落ち着きのなさ、欲求不満などがある。                          |
| - 3                                            | かなりよくない状態。たとえば悲観、恐怖／持続性の怒り、状態が悪化して無関心およびひきこもりに至る。30分以上にわたって無視されている。 |
| - 5                                            | 無関心、ひきこもり、怒り／持続性の怒り、悲嘆／絶望感等が最も悪化した状態に至る。1時間以上にわたって無視されている。          |

認知症介護研究・研修大府センター監修(2004). Evaluating Dementia Care The DCM Method その人を中心としたケアをめざして～パーソン・センタード・ケアと痴呆ケアマッピング 第7版 日本語版初版. p.23



## ① ひもときシートの構造

ひもときシートは、Step1からStep3までのプロセスを通じて、認知症ケアにおける援助者自身の思考の転換を行います。

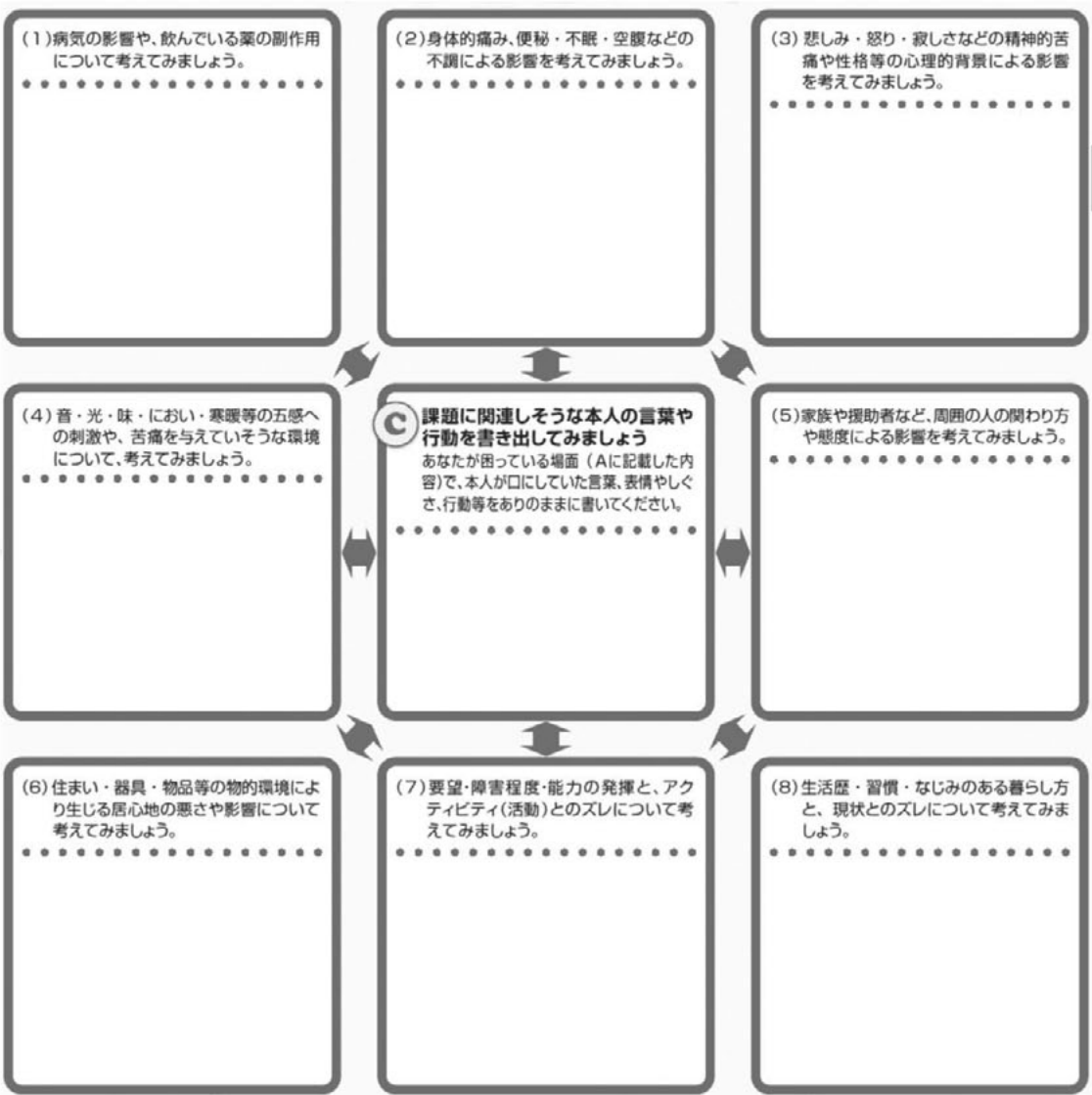
**Step1（評価的理解）**では、援助者自身が困難を感じている背景を知るために、自分の気持ちを中心にワークシートに取り組みます。

**Step2（分析的理解）**では、課題と考えている事象の「言葉・行動」の意味を本人の立場に立って意味づけしながら、援助者中心の思考を本人中心の思考へと転換していく準備を行います。

**Step3（共感的理解）**では、Step2を通じて得られた理解をもとに本人の言葉や行動の意味を理解し、本人の気持ちに対する共感や、本人視点の課題解決の糸口を見だし、アセスメントする際の焦点を定めていきます。







「ひもときシート」 認知症介護研究・研修東京センター， 2010年 より抜粋

Ⅱ－3  
サービス利用者の食に関するニーズ把握とそれに基づく共食プログラムの実施可能性に関する検討―地域交流センターなごみでの実践検討

研究者：後藤ゆかり  
共同研究者：谷口友子、足立己幸

1. 研究事業要旨  
この研究の目的は、地域交流センターみなみかぜ（以下、地域交流センター）の共食の場なごみの活動において、そこに参加する人々が共食の場を通じて、どのようなニーズを持っているのかを知り、ニーズに応えることができる多様なプログラムを検討し地域での共食に活用可能な方法を提案することにある。

社会福祉法人健友会（以下 K 法人）において、9 年前から継続的に実践を積み上げてきている共食の場「なごみ」における実践を検証する。

この目的を明らかにするために、「なごみ」の実践場所である K 法人の地域交流センターの実践について、以下の3 点について、地域交流センター運営委員会議事録から検証した。①地域交流センター活動の経過と食の位置づけ②なごみ活動の経過と内容③現状でのなごみ活動の問題点 以上である。

分析の結果、地域交流センターの開設当初から共食の場「なごみ」活動が継続されていた。「屋市」など、食と関わる交流活動に広がりが見られた。さらに、K 法人全体の活動が「食」にこだわって、事業運営をしている特徴があることから、共食の場創りに発展した経緯も確認できた。

9 年間の活動において、運営企画や共食の実践について、職員主導になりがちな現状について、住民参加の視点を補強する必要性も理解できた。地域の共食ニーズに応える実践では、法人の特徴である、食の関係者を含む、医療、福祉の専門性、社会福祉活動の実績で得られた地域住民との相互の信頼関係を、さらに活用させた共食プログラムに発展させる可能性が明らかになった。

2. 研究の目的  
共食の場なごみに参加する人々が、共食の場にどのような期待があるか。また、K 法人の特徴を活かした共食実践について検討し、多様なプログラムについて検証する。

3. 方法  
次の三項目のとりくみを通して、共食の場づくりをすすめるために必要なことを考える。  
①地域交流センター活動の経過と、法人活動の中における食の位置づけを明らかにする。  
②なごみ活動の運営経過と、その運営で重要視してきたことを明らかにする。  
③現在のなごみ活動の現状と問題点を明らかにする。

3－1 ①地域交流センター活動の経過とその中での食の位置づけを明らかにする  
平成 16 年 1 月、K 法人がユニット型特養新設に伴い設置義務のある「地域交流スペース（制度上の名称）」の設置をして運用を開始した。運営には地域交流センター運営委員会を K 法人の声かけにより組織化され、同年 3 月に活動を開始した。

地域交流センターみなみかぜの目的は「社会福祉法人の理念の基に、施設で生活している高齢者、在宅で生活している高齢者、地域住民の方々、法人の職員などの交流の機能を持ち地域福祉の充実を図ることを目的とする（2012 年 3 月谷口施設長）」であり、運営には地域の多様な立場の人々が関わっている。

地域交流センター運営委員会（以下、運営委員会）の委員は 26 名（地域住民 16 名、職員 10 名）である。K 法人理事・評議員、特別養護老人ホームみなみかぜ家族会代表者と関係者、近隣地区民生委員、近隣自治会ボランティアおよび職員（施設長、特別養護老人ホーム相談員・介護職員、グループホーム主任、地域包括支援センター社会福祉士、食のセンター管理栄養士、地域交流センター職員）で構成されている。運営委員会の主な活動は、月例会議お



よび各種活動の企画、運営、協力である。

### 3-1-1 情報収集

平成16年度～平成24年度までの運営委員会議事録（94回分）を基礎資料とした。

### 3-1-2 分析

#### 3-1-2-1 地域交流センター活動経緯表の作成

運営委員会議事録のデータをもとに、表形式で一覧を作成。月次の議事録を議題の内容別に区分した。

議題の分類項目：運営委員会（組織）、年次計画、子育て交流会、施設売店、なごみ、広報、施設設備、運営委員会主催行事（昼市）、運営委員会主催行事（昼市以外）、吉田むかしばなし、大学生カフェ、わくわく枠、部屋利用の予定、その他）

なお、K法人の主な活動、地域交流センターの活動の分類項目を併記し、事業の新設・拡張などの主だった変化点について記載した。

#### 3-1-2-2 地域交流センターの活動経緯と運営委員会の関わり表の作成（表1）

地域交流センター活動経緯表をもとに、地域交流センターの主な活動・活動の開始時期順に作成し、年度における各項目の変化をみた。

運営委員会の議題は、「地域交流センター運営委員会が企画・実施・評価している事項」と、「運営委員会が協力している事項（地域住民が中心になりすすめている活動）」に分かれる。今回は、「地域交流センター運営委員会内で企画・実施・評価している事項」について、年度を追ってどのように変化したかをみた。

また、関連事項として、地域交流センター運営委員会で決定してきたことではなく、法人内の別プロジェクト（田んぼ活動）や法人の実施事項（びわこ池の設置）についても、地域交流センター活動との関連があるので表内に記載した。

#### 地域交流センター運営委員会内で企画・実施・評価している事項

なごみ、昼市、演芸会、地域交流センター通信「風」、自由に立ち寄れるスペース、庭園、その他（単年度に実施した催し）山野草に親しむ会・施設売店・夏休み工作教室・寺子屋みなみかぜ・さんぽの会など

運営委員会が協力している事項（地域住民が中心になりすすめている活動）

大学生カフェ、吉田むかしばなし、わくわく枠、子育て交流会、部屋利用、庭にビオトープ池設置、田んぼ活動

### 3-2 ②なごみ活動の歴史的な経過とそこで重要視してきたことを明らかにする

#### 3-2-1 なごみの開始

平成16年1月、地域交流センターを開設した月から開始。法人職員の企画に地域有志が協力する形で、食事会として始まった。平成16年3月からの地域交流センター運営委員会開始後は、食事会について運営委員会会議内で状況報告や検討事項の協議を行ってきた。平成17年運営委員会議にて、食事会は一般名称なので、親しみやすい名前をつけ皆さんに知っていただくとして「なごみ」と名称をつけた。共食の場として週一回毎週土曜日のお昼に継続してきた。

#### 3-2-2 情報収集

「①地域交流センター活動の歴史的経過とそこでの食の位置づけを明らかにする」で作成した「地域交流センター活動経緯」の表一覧を活用し、なごみについての抽出表「共食活動の経緯表」（付表）を作成し、それぞれの議題のなかでなごみについて話されたことについて抽出した。区分は、地域交流センター活動全体との関連・なごみの運営・地域交流センター通信「風」でのとりくみ・運営委員会主催「昼市」との関連・大学生カフェについての5項目となった。さらに、「利用している人の広がり、連携している人の広がり」に注目したなごみの活動経緯表」（表2）にまとめた。

#### 3-2-3 分析

活動の変化点と思われる記述にマークをして拾い上げ、変化点の分布が多い年度とその前後の年度情報に着目した。特に利用している人の広がり、連携している人の広がり人に着目してみることにした。

法人全体では、平成18年 地域包括支援センター業務を市から受託し、平成19年4月 地域交流センターに専属職員一名（社会福祉主事任用資格者）を配置、平成19年5月 研修センターを開設し、管理栄養士一名を配置した。それぞれ運営委員会に参加している。

地域交流センターの活動では、平成19年4月 なごみに参加されているボランティアの皆さんとの茶話会、平成19年7月それまで団体での利用は不可としてきたが同年12月、なごみを知ってもらうため一団体につき一回を限度として受け入れることはどうかとの検討をして、まずみなみかぜ内への声掛けからはじめてみることにした。また平成20年2月、3月 よりよいなごみにするためにとしてなごみに関する意見収集を行い、4月に利用者増の取りくみと売り切るように販売数の見直しを検討していることを事務局から説明し、承認を得た。平成20年5月 地域交流センターへの投書箱「なんでもポスト」を設置し、なごみについて、世の中のこと、質問、投書内容は何でもよい気軽な意見箱として地域交流センター利用者の声を集めるしくみを作った。

#### 3-3 ③現在のなごみ活動の現状と問題点を明らかにする

##### 3-3-1 情報収集

現行のなごみの活動について、現状行っている工程とその内容・関わっている人の情報を洗い出し「なごみ共食進行表」（表3）に表した。時系列で、なごみの場に関わる人がどのような活動をしているかを表にまとめた。平成24年12月15日～平成25年3月まで計12回、毎回継続して「なごみ共食進行表」を運営時に使用し、現状に合わせて加筆・修正しながら運用した。

##### 3-3-2 分析の方法

実際に運営した一日（平成25年1月12日）を例に、現状をみる。

#### この日のなごみに関わった人々

参加者：25名 10代4名、30代1名、40代5名、50代2名、60代7名、70代5名、

90代1名。参加者の立場は、地域住民6名（施設ボランティア2名、定期的利用4名）、職員12名（通常業務の合間に、昼食をなごみでとる）、施設サービス利用者とのその家族1名、施設サービス利用者とその家族2名、カフェ活動の大学生4名（活動の合間に、なごみの参加者の方々との共食体験）、特養利用者1名なごみの場所まで来れないが、なごみの食事を食べたいとしてユニットへ食事運搬（メニューは、通常メニューの主食のみ変更し、本人が希望しているうどん食）。

運営スタッフ：地域事業統括者（施設長・必要に応じ対応で常駐ではない）、全体マネジメント（地域交流センター職員）、食事サービス（地域交流センター職員と地域ボランティア）、食事づくりおよび食の相談（食のセンター管理栄養士と調理員）、カフェ活動（東京国際大学ボランティアサークル ソレイユ）、地元野菜販売（地元農業者）

#### なごみのスケジュール

午前9時 全体マネジメント担当：会場の全体レイアウト、給茶機点検、受付備品の用意

9時30分 食事作り担当は食事づくり開始

10時 全体マネジメント担当は野菜販売コーナーの販売野菜を、地元農家から預かり入荷数チェック、前回の売上金渡し

10時30分 ミニミーティング。カフェ活動担当メンバー集合。食事サービス2名、食事づくり2名、カフェ活動4名、本研究の相談活動1名が集まり、顔合わせと特記事項（食数、メニュー確認、参加者特記、カフェ活動特記）の共有をする

11時 食事サービス担当、食卓備品準備。メニュー写真撮影と掲示、BGM、看板・のぼり旗設置。食事づくり担当は撮影用見本食事づくり

1 1 時 3 0 分 食事サービス・会食開始。参加者は順次来場。受付にて注文し、自分の好みのご飯茶わん選び。お茶は給茶機にてセルフサービス。本研究相談担当は参加者の様子に合わせて共に食事をしたり、会話の中で相談ごとについて応じたり、参加者の思いを聴くなどで参加者と共になごみの場で過ごす。食事サービス担当は参加者から食事代の支払いをうけ、ご飯茶碗選びを促す。座る席に迷っている方には、場所を一緒に考える。参加者の席まで配膳し、下膳も行う。自主的に下膳する参加者もある。受付をする参加者がほぼおさまったところで、なごみのテーブルで係間の共食をする。食事づくり担当は食事サービス担当からの注文連絡ごとに料理やご飯の盛り付け。下膳されてきた食器の洗浄。参加者の様子を厨房から見る。カフェ活動担当は来場者の様子をみながら、飲み物の提供をしていることを伝えて、希望者には飲み物を提供する。参加者とお話できる機会として活用。※通常は飲み物提供を通して、参加者とのコミュニケーションをすることをしているが、この日は食事をしながら、参加者との共食でコミュニケーションをする体験を本研究担当者から学生に提案し、参加意思のある学生が参加。

1 3 時 3 0 分 食事注文受付終了。  
この日は、1 4 時から同所（地域交流センター多目的ホール）にてイベント「太鼓演舞」があるため、場所の現状復帰。食事サービス担当はなごみで使用している備品片付け。食事づくり担当、カフェ活動担当、使用備品の片付け  
1 4 時 なごみスタッフ解散  
1 5 時 なごみ本日の総括  
通常であれば、関係者が集まってふりかえりの時間を持つが、この日はイベントがあり全員が会する時間がとれないので、運営時間内に全体マネジメント担当が意見や気付きを集めた。「なごみの食事の栄養量がわかる資料がない」「建物の外からみて、おはいりくださいの表示がない。入口まで来ていて、はいれない人がいた。」

この日の評価  
・なごみ終了後、和太鼓イベントが同所で行われたので通常の関係者が集ってのふりかえりはできなかった。厨房、大学生サークル、食事サービスボランティア、相談担当それぞれから意見をもらうこととする。  
・相談担当より情報。出入り口に「おはいりください」の表示が整っていないので、そこまで来ていて入れない人がいたとのこと。また、栄養量のわかる資料がない指摘もあった。

3－3－3 なごみに集う人々の様子（図1）  
・地元農家の三世代7人親戚グループ（10代～80代）。  
・特養に入所され間もない本人と家族、5人グループ（10代～70代）。  
・特養の利用者と家族（毎回利用している）、地域包括支援センター職員と居宅支援事業所職員、デイサービス職員2名が相席。特養の利用者が、相席している職員たち（顔見知りではない）に視線を向けることがあった。  
・地域の女性 4人グループ（70代～80代）。今日は最年長者の誕生日会として来場。誕生日の女性は、法人の配食サービスを利用。担当している管理栄養士がなごみの調理に居合わせ、会えたことを喜び、最近の食生活についてなど会話が弾んでいた。  
・法人の女性職員2名（40代）、ご飯茶わん選びを楽しげにしている。  
・厨房では、の食のセンター管理栄養士（30代）が料理を整え、お客さんの注文ごとに食事を出している。お客さんとのコミュニケーションもとる。  
・カフェ活動をしている大学生のコーナーに、特養利用者の家族来訪（60代）。顔なじみで楽しそうに注文している。  
・地域住民婦人（70代）の手作り手芸品販売コーナーでは、手作り品を手にとってみる人が多い。

#### 4. 考察

##### 4－1 ①地域交流センター活動の歴史的経過とそこでの食の位置づけを明らかにする

地域交流センターは、平成16年から活動を開始し、定例の様々な活動をしながら地域のつながりづくりに向けて活動してきた。この活動を支えてきたのは運営委員会である。26名の大所帯、そのうちの16名が地域住民であり、さらには様々な立場の地域住民とともに、特別養護老人ホームみなみかぜの家族会代表者と家族会関係者が参加していることも特徴である。

「地域交流センターの活動の経緯」表でみると、組織のありかた、行事の実施、関連する団体や行事への協力まで、運営委員会は地域交流センター運営の様々な要素に関わっている。平成16年度の開始当初は、運営委員を中心に考えてすすめてきたことが、年代を追うにつれ、運営委員以外の様々な立場の人々との協働へと広がってきた。

##### 4－2 ②なごみ活動の歴史的な経過とそこで重要視してきたことを明らかにする

「共食活動の経緯」表の分析から、「利用している人の広がり、連携している人の広がり」に注目したなごみの活動経緯表」を年次区分で作成し、変化点の分布が多い年度とその前後の年度情報に着目した事項をもとに、この9年間の活動を三期に分類した。

第一期は平成16年～平成19年とした。

食事会開催の本来の目的である交流の場、食育の場、食生活の改善などの主旨（運営委員会議事録より）をもって、運営をしていくことを中心とする視点であった。様々な人々を集ってもらいたいと、アンケートや参加者の声をもって参加者の思いをつかみ、なごみをよりよくすることに役立てようとした。まず知って入ってきてほしい、と参加者を増やすキャンペーンを行った。

第二期は、平成19年～平成23年とした。

様々な地域の力が集まる運営委員会に、食に関する専門知識を持ち食のとりくみを実践できる立場の職員（管理栄養士）が加わったことで、第一期で実施していたそれぞれのとりくみの意味付けがより確かになり、広がりにつながっていったと思われる。具体的には、食の情報を参加者によりよく伝える工夫や、施設のイベントを盛り上げるメニュー演出の実施、嚥下機能の弱い高齢者もイベント食を楽しめる工夫、なごみでの地元産のお米導入などを実施した。

このように食の専門分野の職員がチームに存在し、様々な企画実施の工夫に専門家の視点での参加があることは法人の強みの発揮であると考える。

また、運営委員会内では、なごみに参加する人々がどのようになごみに参加するか、の視点での具体的な話題が増えた。そして、様々な立場の人々が参加するようになった。

例を挙げると、以前はなごみの場に団体を受け入れることは消極的だったが、受け入れていこうとする変化があった。このことは、人の数ではなく、人々の様々なニーズに目を向けるようになっていったことが表れていると考える。他方、この期には、地元近隣大学のボランティアサークルとの出会いがあり、なごみでの食事サービス体験から、大学生のカフェ活動へととりくみが進んだ。そのほかなごみと同時開催で地元農業者の野菜販売コーナーを作るなど、なごみでの様々なつながりも増えた。

第三期は平成24年からとした。

第二期で広がってきた様々な工夫をもとに、みなみかぜの地域交流センターの特徴であるなごみをよりよく活用するため、食のセンターと協力しながら本研究の取り組みを行い、複数の共食プログラムを試行した。

個人のニーズに合わせたなごみの活用ができるよう、ご飯茶わんを選んだり、食生活についての相談ができたり、食の情報展示などに取り組んだ。

運営委員会では、研究班からの協力者募集の相談の夜、地域交流センターの様々な活動についての意見を聞いた。なお、運営委員以外でも、第二期でカフェ活動を開始した地元近隣大学のボランティアサークルもこの研究に参加し、共食の体験をした。

活動年表の作成をとおして、運営委員会がなごみについて多岐にわたるとりくみをしてきたこと、また実際に多様な人々がなごみに直接的・間接的に関わってきたことが明らかになった。また「なごみの活動経緯表」から、開始期と現在でのありかたの違いを見るため「共食の場なごみ 概要と特徴」（表4）を作成した。開始期と比較して、現在では、食に関する取り組みが深められ、なごみの特徴づけとして様々なプログラムの検討につながっていくと思われる。

地域交流センターの活動に参加する地域の様々な立場の人々の力に、社会福祉法人健友会の専門性の強みが加わり

協働が進んだことが、運営委員会において多方面から課題を考えることにつながってきたと考える。

### 4-3 ③現在のなごみ活動の現状と問題点を明らかにする

#### 4-3-1 「なごみ共食進行表」活用前後の現状

活用前：なごみではこれまでも、マニュアルが存在し運営に活用してきた。しかし内容は、運営するスタッフの動きが軸になり、[スタッフが場を整えスムーズに運営するための]マニュアルであった。また、なごみの運営に工夫があると更新が必要だが、この更新が滞りがちであった。さらに、職員・ボランティア共に、ほぼ固定で運営に参加している者の割合が高いので、マニュアルはあっても頭で覚えていることでうごきがちであったため、マニュアルの活用はできていなかった。結果、工夫し新しく始める取り組みも、スタッフに口頭説明をその都度していくこととなり、取り組みにくかった。

活用後：今回「なごみ共食進行表」を整える時に、なごみの場に関わる人々の情報を見直してみると「参加者・なごみの統括者・当日のマネージャー・食事づくり・食事サービス」と様々な立場の人がおり、さらには同時開催企画の関係者として「大学生カフェ・地元野菜販売農家・本研究の相談担当」との連携もあり、複数の立場の人々でなごみをつくっていることを改めて認識し反省した。また、複数の立場の人々が連携するためには、共有できる資料が必要と実感した。そして、スタッフの動きについて、スタッフの動きは参加者がなごみをどのように利用するのかで決まるのだと気づきがあった。これまでの発想は運営側から見たものだったことを自覚した。

#### 4-3-2 相談できる専門家がいる場

今回、相談できる専門家がなごみにいることで、参加者のニーズに関する情報を得ることができた。参加者がなごみに来て困っていることとして、子どもと一緒に来ても、子どもが楽しめるメニューではない、参加者からみてなごみの食事の栄養量がわかる資料がない、建物の外におはいりくださいの表示がなく入口まで来てはいれない人がいたなどの情報がもたらされた。このことは、参加者がなごみを自分のいきがいのためによりよく活用するためには、参加者からみた視点で運営を考えることが必要であることと省みた。また、運営に忙しく動いていると、参加者の思いを受け止めつつ様子を見る場面は少なくなり、結果として参加者が何を望んでいるかが不明確になっていると感じた。参加者の近くで、話を聞く存在（社会福祉法人健友会の特徴をいかした専門家）がいることが、参加者にとってなごみが有効で大切な場になるポイントの一つであり、相談したり話しかけたりしやすい場づくりも必要と感じた。また、これまではニーズ把握をもとに、共食プログラムを考える機会は設けていなかった。参加者がどういうことができるのかは、運営側が考えていた内容ではなかったか。参加者の思いが入る共食プログラムであったか。今後に向けての課題である。

### 4-4 中項目①②③をとおしての考察

社会福祉法人健友会の強みである食に関連する活動を通して、地域住民や職員が同じ目線に立ったチームとして協働し、しくみづくりをしていくことが、地域交流センターの特徴となり活性化につながり、地域に暮らすひとりひとりの生きがいにつながると考える。地域住民の力に加えて、食・福祉・医療の専門家の存在の活用が、なごみの特徴づけになると考える。

様々な人が参加したいと思える場をつくるためには、参加者のニーズを把握し、その思いが実現できるプログラムが必要である。

本研究事業の共食プログラムとして相談・自分にあったご飯茶わん選び・「3・1・2弁当箱法」でのメニュー紹介を行った。このような取り組みを今後に生かし、なごみの特徴づけをどのように考えるかのきっかけとしたい。また、なごみのしくみ全体の点検と検討が必要である。主体は参加する人であり、参加する人々のニーズが活かせるなごみの場を考えたい。職員が何をやるかの前に、参加する人がここで何を不得「なごみに来てよかった」と思うのかを考えていきたい。

年代の経過を追って研究をすすめながら、とても深い反省があった。議題とその検討内容を分析すると、運営委員会に参加している地域住民の方々は、初期から「参加者の声や、ひとりひとりを大切に」と、参加者の立場からなご

みを見る視点で、なごみのありようについて提言をされてきた。しかし、職員は、運営する側の業務的な視点で、アンケートや運営体制やメニュー検討など実施してしまっていた。特にメニュー検討は、運営委員会では初期には話題にしていたが、近年ではそれがなくなっていた。活性化をしなければならない背景には、職員のものの見方が大きく関わっていたと気づき、反省した。

### 5. 結果

地域交流センター活動となごみの共食活動について、根拠を持たせた共食の場を構築したいと考えた。共食の場なごみに期待をして参加する参加者のニーズに応え、運営委員会など地域の様々な力と食・医療・福祉の専門家が日常的に活動している社会福祉法人の専門性を活かす視点で、なごみにかかわるすべての人が協働しつつ集える場が期待され、その可能性が高いことが明らかになった。

### 6. 提案

今回の研究から、なごみがひとりひとりのいきがいに役立つには、どのようななごみであることが理想か、現状にどのように工夫したらよいかを提案する。

前提として、職員は参加者の立場で考える視点をもたなければならない。職員側の効率や思いこみの単眼的な見方での支援ではなく、ひとつの事業を通して、そこに関わる人がどのように自分を発揮できるのかを考えて取り組むことが必要である。

自分を発揮できる場にするためには、個人がどうありたいかによりそった内容が必要である。例えば食事の基本のメニュー、基本の参加の流れがあるほかに、個々の年代や生活の様子に合わせた選択を参加者ができるしくみが必要である。具体的には、自分にあった食事量を選べること、相談や対話に応じる専門家とつながることができること、自分はこうしたいと提案して実現できること（誰と、どんな場所で、どんなメニューで共食したいか。また、土曜日に限らず平日や、地域交流センターではなく地域のある場所で、など）について研究の中で試行したプログラムを再検討して活用できると思われる。参加方法に選択肢があり、より自分らしさを発揮できると、なごみを楽しめることにつながると考える。

この取り組みを進めるためには、支えるためのチームが必要である。なごみの運営に関わるチームは、運営委員会、食事作り・食事サービス、カフェ活動などで参加している地域のボランティア、地元農家、法人の強みである食・福祉・医療の専門性をいかした専門家など、様々な視点の人々で構成されることが理想である。様々な人々の力が合わさって進んでいくなごみでありたい。

最後に、これまで多大なご協力をいただいている地域交流センター運営委員の皆さんに心から感謝し、今後もよりよい地域づくりを共にすすめさせていただきたいと考える。

### 7. 結論

参加者のニーズを大切にしたプログラムであるには、職員の考え方を見直さなければならないことにも気が付いた。参加者が自分らしさを発揮できるように取り組んでいるのか、自己点検が必要である。その上で、地域の力と法人の特徴である食・福祉・医療の専門性を活かして、ひとりひとりの参加を考え協働していくことが、いきがいをもってくらせる地域づくりにつながっていく。魅力ある共食の場なごみを、様々な立場の人々と育てていく可能性が高いことが明らかになった。

|        |                                      |
|--------|--------------------------------------|
| なごみの概要 |                                      |
| 目的     | “あたたかい” 食事や “あたたかい” 情報や人間関係の交流・発信    |
| 経緯     | 平成16年1月、食事会として開始。以降、週一回の共食の場を継続してきた。 |
| 運営主体   | 社会福祉法人健友会 （食のセンター、地域交流センター）          |
| 参加者    | 地域に住む様々な人々。年代、性別、個人・グループ、居住地など問わず    |
| 開催場所   | 地域交流センターみなみかぜ                        |

| なごみの特徴の変化 | 開始期（平成16年）  |                                                                       | 現在（平成24年）                                                                                              |  |
|-----------|-------------|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|           | 食事プラン       | 栄養管理栄養士・調理委託業者                                                        | （平成24年12月より）食のセンター管理栄養士                                                                                |  |
|           | 調理する人       | 調理委託業者（調理師）                                                           | 食のセンター管理栄養士・調理師                                                                                        |  |
|           | 食事内容        | 法人からの献立提案を委託業者が調理。<br>（主食・汁物・主菜・副菜・デザート）                              | 食のセンターで調理された料理を活用し、栄養バランスに配慮した安心、安全でおいしい献立（主食・汁物・主菜・副菜・デザート）の。主食の米、汁物の野菜は地元のものを使用。                     |  |
|           | 個人が参加できるしくみ | アンケート用紙に感想や意見を書く                                                      | ご飯茶わんを選んだり、食生活についての相談ができたり、食の情報などを知ることができるなど、ひとりひとりに応じた食事を楽しむことができる。                                   |  |
| なごみの特徴の変化 | 参加者         | 地域住民、施設利用者、職員など様々な人々<br>個人や少人数での利用を中心としていた                            | 地域住民、施設利用者、職員など様々な人々<br>個人、団体に問わず利用できる                                                                 |  |
|           | 当日の運営スタッフ   | 地域住民と職員で構成するチーム<br>職員主体で地域で活動している方々が協力。職員は社会福祉主事のほか、各部門の職員が輪番で関わっている。 | 地域住民と職員で構成するチーム<br>地域で活動している方々と、職員は栄養士・管理栄養士・調理師・看護師・介護福祉士・社会福祉士・社会福祉主事が関わっている。                        |  |
|           | 開催時間        | 毎週土曜日 12時～午後2時                                                        | 毎週土曜日 午前11時30分～午後1時30分                                                                                 |  |
|           | 食数          | 毎回50食を用意。毎回平均客数約34名                                                   | 毎回25食を用意。毎回平均客数約23名。                                                                                   |  |
|           | 食事代         | 450円                                                                  | 500円。                                                                                                  |  |
| 同時開催      |             |                                                                       | 大学生のカフェ活動：大学生のボランティアサークル「ソレイユ」。地域の方々とのコミュニケーションを目的にしている。コーヒーマーなどの飲み物を提供しながら、交流活動をしている。飲み物代200円、おかわり自由。 |  |
|           |             |                                                                       | 地元農業者が生産した野菜の販売。なごみの料理にも活用している。                                                                        |  |
|           |             |                                                                       | 地元ニニア女性の手作り布小物販売。古布などのリサイクル品の手作り販売。                                                                    |  |

1）引用文献：足立己幸・「西部健友会・西部診療所 20周年記念誌」

「地域交流センターの活動経緯と運営委員会の関わり」(地域交流センター運営委員会議事録より抽出)

|                    | 主な運営            | 運営協力  | 開催頻度 | 平成16年度                                          | 平成17年度                                            | 平成18年度                                  | 平成19年度                                             | 平成20年度                                            | 平成21年度                                               | 平成22年度                                               | 平成23年度                                      | 平成24年度                                            | 運営委員会<br>が企画・実施・評価 |
|--------------------|-----------------|-------|------|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------|--------------------|
| 社会福祉法人<br>健友会の主な活動 |                 |       |      | 新緑竣工(地域交流センター設置、グループホーム24床設置、ユニット型特養30床設置(11月)) | NPO食生態学実践フォーラムとの共催「食事づくりセミナー」開始                   | 地域包括支援センター受託                            | 新型特養、研修センター設置                                      | 田んぼ活動開始                                           | (法人全体の理念・方針検証。)                                      |                                                      | 小規模多機能こもれび開所                                | (厚労省研究事業)                                         |                    |
| 地域交流センター全体         |                 |       |      | 平成16年1月竣工                                       |                                                   | (H18.10～H19.3建物増築のための休館)                | 専任職員配置                                             |                                                   |                                                      |                                                      | 専任職員配置                                      |                                                   |                    |
| 運営委員の構成検討          |                 |       |      | 法人の声かけにより委員構成した。                                | 運営委員を地域に広げてはとの検討                                  |                                         |                                                    | 運営委員会に協力者参加(特養家族会イベントスタッフ)開始                      | 運営委員(特養家族会会長)特養家族会への広がり要請                            | 地域住民の新緑参加を検討                                         | 地域住民の新緑参加を検討                                | 特養職員3名が新規参加。地域住民1名の推薦がある                          |                    |
| 年次計画               | 運営委員会           | 地域住民  |      | まず地域交流センターの申し出しにより法人が協力する形で開始                   | 年間行事計画ができた                                        | 具体的テーマが出た(世代間交流の提案)                     | 地域とのつながりに向けた意見が出てきた(郵便貸出活用)                        | 行事以外のどくみ「なんでもポスト」で交流をはかるしくみ                       | 地域交流センターの利用者の定義を意見交換                                 | 上期、ボランティア促進<br>下期、宣伝表現                               | 意見交換もあるも可能な限りの計画時四り                         |                                                   |                    |
| なごみ                | 法人              | 運営委員会 | 週一回  | 参加者を増やすキャンペーン・食事予約・アンケート・利用者の声をひろう「風」や屋上での運動    | 「なごみ」をより広げる。なごみ参加者に声紹介、利用者の声を紹介、今後の運営検討「風」や屋上での運動 | 休止のお知らせ。リニューアル後の運営・価格変更・地域への広報・「風」などの運動 | ア出しワークキング、お昼休み廃止・寺子屋と運動・ボランティア茶話会・団体利用検討「風」や屋上での運動 | ランチコンサート・利用者層のアイデア・献立・なごみバウェアップのアイディア出し「風」や屋上での運動 | ボランティアの参加促進<br>なごみのアビリティ活用や工夫・ボランティアで活用で宣伝「風」や屋上での運動 | ボランティアの参加促進<br>なごみのアビリティ活用や工夫・ボランティアで活用で宣伝「風」や屋上での運動 | なごみ休止中の地域とのつながり保持・通年運営の意見・大学生ボランティアサークルとの協働 | なごみのアビリティ活用・予約のありかた・厚労省研究事業への協働・大学生ボランティアサークルとの協働 | ○                  |
| 子育て交流会             | 地域子育てサークル       | 運営委員会 | 月一回  | 地域子育てサークルの申し出しにより法人が協力する形で開始                    |                                                   |                                         |                                                    | 地域交流センターの行事として位置付ける                               |                                                      |                                                      | 子育てサークル解散により終了                              |                                                   |                    |
| 部屋利用               | 法人              | 運営委員会 | 月～土  | 運用開始。「使用要綱」の運用実施。日・祝・夜間貸出の制限(体制課題)              |                                                   | 料金減額廃止(公営民館より低額設定である)                   | 利用団体との意見交換会開催。西部健友会への土曜貸出便覧。重宝。                    | 関連団体への貸出便宜検討(未定)                                  |                                                      |                                                      | 利用団体の備品預かり要望(H18～)。保管場所の困難。                 |                                                   |                    |
| 風                  | 運営委員会           | 地域住民  | 年4回  | 職員が原稿作成。地元の方が題字製作した                             | イベント参加者の声紹介、郵便利用団体の執筆                             | 運営委員「あながき」持ち回り執筆                        | 特養ご家族の随筆掲載                                         | 来館した子ども達が書いたメッセージカード掲載                            | 小笠原、生人サートピア利用者作品掲載。近隣福祉施設利用者有志の購入                    | 地元の獅子舞について職員が聞き書き                                    | 運営委員が普話執筆                                   | 川柳コーナーに、地域からの投稿20人                                | ○                  |
| 屋市                 | 運営委員会           | 地域住民  | 年2回  | 法人が年2回の開催提案し、運営委員で運営参加                          | 近隣中学校PTA編組委員グループが運営参加                             | 地元農家、法人ケアハウス職員・利用者が出店                   | 運営委員の知人が餅のつぎ手に参加。ケアハウス出店。                          | ケアハウス職員と利用者達がクッキー販売に参加                            | 会・NPO団体、福祉作業所の出店、研修センター部門増設                          | 福祉作業所3件出店。地域住民グループ出店。                                | 福祉作業所、ワーカーズコープ、地元企業など10団体出店                 |                                                   | ○                  |
| 演芸会                | 運営委員会           | 地域住民  | 年1回  | 参加者は、施設利用者を中心で内部向けとして実施。                        | 施設内利用者がゆづり楽しむるよう実施。                               | (建物増築のため休止)                             | 参加者は施設利用者中心で実施。                                    | 施設内利用者中心で近隣福祉施設に声かけ                               | みなみかぜ、他施設、地域の参加。                                     | みなみかぜ、他施設、地域の参加。                                     | みなみかぜ、他施設、地域の参加。                            | みなみかぜ、他施設、地域の参加。                                  | ○                  |
| その他(単発で実施したこと)     | 運営委員会           | 地域住民  | 随時   | 山野草・頼しむ会、施設売店                                   | 夏休み工作教室、                                          | 寺子屋みなみかぜ                                | 寺子屋みなみかぜ                                           | 子どものみの入館受入れ                                       | さんぽの会                                                |                                                      |                                             |                                                   | ○                  |
| 吉田むかしばなし           | 地域住民            | 運営委員会 | 月一回  |                                                 |                                                   |                                         |                                                    |                                                   |                                                      |                                                      | 地域に呼び掛けて開始(3月～)                             | 協議、散歩、郷土食の共食、他団体との共催「昔遊びの会」                       |                    |
| わくわく枠              | 地域住民            | 運営委員会 | 月一回  |                                                 |                                                   |                                         |                                                    |                                                   |                                                      |                                                      |                                             | 地域からの出演相談                                         |                    |
| 自由に立ち寄れるスペース       | 運営委員会           | 地域住民  | 月～土  |                                                 |                                                   | 手荷物ロッカー、給茶機設置                           | 備品検討(茶器・テラスチェア)                                    | テラステーブルセット配置                                      | 多目的ホールを区切ることの議論                                      |                                                      |                                             |                                                   | ○                  |
| 庭園                 | 運営委員会           | 地域住民  | 随時   | 庭園管理費用の検討(花募金)                                  |                                                   | 花壇資金検討                                  | 法人が庭にビオトープ池設置                                      |                                                   |                                                      |                                                      |                                             |                                                   | ○                  |
| 大学生カフェ             | 地域大学生ボランティアサークル | 運営委員会 | 月2回  |                                                 |                                                   |                                         |                                                    |                                                   |                                                      |                                                      | 2月～カフェ活動開始。なごみ参加者への関わり模索                    | なごみ参加者となじみの関係員られる。                                |                    |

| 「利用している人の広がり、連携している人の広がり」に注目した「なごみの活動経緯」(運営委員会議事録をもとにした「共食活動の経緯表」のまとめ) |                                                                 |                                                  |                                                   |                                                    |                                           |                                                                       |                                                       |                                                       |                                                                |
|------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 年                                                                      | 第一期                                                             |                                                  |                                                   | 第二期                                                |                                           |                                                                       | 第三期                                                   |                                                       |                                                                |
|                                                                        | 平成16年度                                                          | 平成17年度                                           | 平成18年度                                            | 平成19年度                                             | 平成20年度                                    | 平成21年度                                                                | 平成22年度                                                | 平成23年度                                                | 平成24年度                                                         |
| 運営委員会の、なごみに取り組んだこと                                                     | 参加者を増やすキャンペーン・食事予約・アンケート・利用者の声をひろう・「風」や壱市との運動                   | 「なごみ」と名づける・なごみ参加者に運営委員会・アンケート・今後の運営検討・「風」や壱市との運動 | 休止のお知らせ・リニューアル後の運営・価格変更・地域への広報・「風」との運動            | なごみについてアイデア出しワーキング・お盆休み廃止・寺子屋と運動・ボランティア茶話会・団体利用の運動 | ランチコンサート・利用者増のアイデア・喫茶用品(不用品)募集・「風」や壱市との運動 | セルフサービスコーナー・こみパワーアップのアイデア出し・「風」や壱市との運動                                | ボランティアの参加促進・なごみのアピール方法やエス・パンフレット活用で宣伝・「風」や壱市との運動      | なごみ休止中の地域とのつながり保持・通年運営の意見・大学生ボランティア・学生ボランティアとの協働      | なごみのアピール方法・パンフレット活用・予約のありかた・厚労省研究事業への協力・大学生ボランティア・学生ボランティアとの協働 |
| 参加者の輪を広げる(食事をする人)                                                      | 個人や少人数での交流を中心としていた                                              |                                                  |                                                   | 団体利用は遠慮してもらっていたが、なごみを知ってもらうため受け入れる                 |                                           | 団体が個人がではなく、集うひとりひとりがどう参加するかで見える                                       |                                                       | 仲間や、様々な人と共食できる場づくり                                    |                                                                |
| 参加者の輪を広げる(運営する人)                                                       | 職員(1〜3名)と運営委員や地域有志ボランティア。職員の動きが中心                               |                                                  | 職員(2名)と運営委員や地域有志ボランティア(1名)。運営委員が増え、広がりがある         |                                                    |                                           | これまでの運営体制に大学生が参加                                                      |                                                       | お手伝い希望する地域住民の申し出複数                                    |                                                                |
| 参加者の輪を広げる(食事をする人)                                                      | 調理委託業者の調理師・管理栄養士                                                |                                                  |                                                   |                                                    |                                           |                                                                       |                                                       | 食のセンター栄養士・調理師とボランティア                                  |                                                                |
| 参加者の輪を広げる(運営に間接的協力する人)                                                 | 地元商店街 手打ちうどん店(うどん、そばをメニューに活用)                                   |                                                  |                                                   |                                                    |                                           | 地元農家(お米)をメニューに継続利用中                                                   |                                                       | 地元主婦の手作り手芸品販売コーナー設置開始                                 |                                                                |
| メニューとその検討                                                              | 調理委託業者・法人の栄養課職員と地域交流センター職員での「メニュー会議」で検討、参加者アンケートの要望を取り入れた       |                                                  |                                                   | 調理委託業者・法人の栄養課職員と地域交流センター職員での「メニュー会議」で検討            |                                           |                                                                       |                                                       | 食のセンターと地域交流センターの職員で検討                                 |                                                                |
| 食事環境                                                                   | 外から見て入りやすく、運営していることがわかる表示物の導入                                   | 外から室内をみて、運営している人が居るのかわかるような机配置                   | 「なごみ」の場所には、食事を購入しなくても入れるお知らせをした                   | 参加する人が利用しやすいように、定例のお盆休みを廃止。                        | 屋市の日のなごみでは、数多くの人が利用できメニューの用意をした           | 参加者の要望によりセルフのコーヒーコーナー設置し楽しみが増えた                                       | 人が集まるためには、表示をきちんとした                                   | 大学生がカフェ活動を開始                                          | 自分でご飯残を処分し活用                                                   |
| 参加者の考えを知る                                                              | 食事の評価中心から、年代・居住地区などプロフィールをきいてどのような方がどのような行動をしているか知ろうとした         | プロフィールとなごみの感想を聞き、どのような方がどのような思いをもっているかを知ろうとした    | プロフィールとなごみの感想を聞き、どリクエストをきき、メニューにいかそうとした           | プロフィールとなごみの感想のほか、献立の感想を聞き、メニューにいかそうとした             | (アンケート)を運用するしくみが保てず休止                     | 運営委員会で、どのようなことを参加者が必要としているかの意見をもたないながら、"なごみ"の場で参加者とコミュニケーションしながら情報を得た | 研究をとおして、プロフィールを運営側が接しながら理解するようにし、相談をとおして意見や思いを得るようにした | 研究をとおして、プロフィールを運営側が接しながら理解するようにし、相談をとおして意見や思いを得るようにした |                                                                |
| 食情報の発信・受信                                                              | なごみのメニュー紹介リーフレットの発行(毎回。お膳写真、栄養量、管理栄養士のコメント、裏面に食情報記載)            |                                                  |                                                   |                                                    |                                           |                                                                       |                                                       |                                                       |                                                                |
| その他発信した資料・情報(「風」)                                                      | なごみの紹介として作り手である「シェフの想い」掲載                                       |                                                  | 利用案内として、食事を購入しなくても入れるお知らせ記載                       | 食情報として管理栄養士から必要な栄養量などの話題記載                         | 運営側からなごみの運営日と内容のお知らせ                      | 参加者がなごみの場で書いたメッセージカードの掲載                                              | 運営側からなごみの運営日と内容のお知らせ                                  | 3〜7月、震災の影響で"なごみ"休止。土曜カフェ実施のお知らせ                       | 研究参加者の募集記事掲載                                                   |
| その他発信した資料・情報                                                           | 誰でも来てほしいと、宣伝チラシを作り、利用の仕方を含めて案内した。                               | 食事に頼しみやすい名前をど"なごみ"と委員会できてる                       | 料金をワンコイン(450円→500円)に。給茶機を設置したことも理由。500円でも原価は割っている | ボランティアの意向を大切に茶話会実施                                 |                                           |                                                                       |                                                       |                                                       | 地域交流センター・パンフレットになごみの紹介文                                        |
| つみのこし                                                                  | 参加者にとって"なごみ"がわかりにくい(宣伝・広報のしくみ・・・印刷物や備品・・・が整っていない)。また評価のしくみが不安定。 |                                                  |                                                   |                                                    |                                           |                                                                       |                                                       |                                                       |                                                                |

なごみ運営に関わる担当者作業の工程表例(平成25年1月12日)

なごみ共食進行表 (平成25年1月12日)

|         | 作業の流れ       |                    |                                                                   | 参加者 | 地域事業統括者 | 全体マネジメント   | 食事サービス     |        |      | 大学生カフェ | 土曜日 | その他 | メモ |
|---------|-------------|--------------------|-------------------------------------------------------------------|-----|---------|------------|------------|--------|------|--------|-----|-----|----|
|         | 大項目         | 中項目                | 小項目                                                               |     |         |            | サービス       |        | 食事作り |        |     |     |    |
|         |             |                    |                                                                   |     |         |            | 地域交流センター職員 | ボランティア |      |        |     |     |    |
| 本日の担当者名 |             |                    |                                                                   |     | 施設長     | 地域交流センター職員 |            |        |      |        |     |     |    |
|         | 予定時刻        |                    |                                                                   |     |         |            |            |        |      |        |     |     |    |
|         | 会場設営        | 机・イスレイアウト          | 給水機確認<br>・待ちカード、注文票、文具、釣銭<br>活動 経過撮影開始<br>食事作り開始<br>・職員による入荷数チェック |     |         | 〇          | ◎          |        |      |        |     |     |    |
|         |             | 受付用意               |                                                                   |     | 〇       | ◎          |            |        |      |        |     |     |    |
|         |             |                    | 農家さん販売野菜搬入                                                        |     |         |            |            |        |      |        |     |     |    |
| 9:30    |             |                    |                                                                   |     |         |            |            | ◎      | 〇    |        |     |     |    |
| 10:00   |             |                    |                                                                   |     |         | 〇          | ◎          |        |      |        | 〇   |     |    |
| 10:30   |             | ボランティア来館<br>ソレイユ集合 |                                                                   |     |         |            |            | 〇      |      |        |     |     |    |
| 11:00   |             | スタッフミーティング10分。     | ・食数、メニュー確認<br>・参加者特記(予約状況、個人対応)<br>・健康チェック簿<br>カフェ活動連絡            |     |         | 〇          | ◎          | 〇      | ◎    |        | 〇   |     |    |
|         |             |                    | テーブルクロス、お花、ティッシュ、おはし、爪楊枝、茶器                                       |     |         |            | 〇          | ◎      |      |        |     |     |    |
|         |             |                    | サンブル調理                                                            |     |         |            |            | ◎      | 〇    |        |     |     |    |
|         |             |                    | ・サンブル写真撮影<br>・印刷掲示(キッチン、カウンター、受付、看板二か所)<br>BGM用意                  |     |         |            | ◎          | 〇      |      |        |     |     |    |
|         |             |                    | カウンター上にお盆出し<br>看板、のぼり旗出し                                          |     |         |            |            | ◎      |      |        |     |     |    |
| 11:15   | 受付開始        |                    | 順次来場                                                              |     |         |            | ◎          |        |      |        |     |     |    |
| 11:30   | 食事サービス・会食開始 |                    | 順に受付<br>お席の相談や場内の案内<br>調理<br>受付<br>配膳・下膳(スタッフ昼食は時間内で)             |     |         |            | 〇          | 〇      |      | ◎      |     |     |    |
|         |             | 学生カフェ開始            |                                                                   |     |         |            |            |        |      |        | ◎   |     |    |
| 13:30   | 食事サービス終了    | 学生カフェ終了            | 片付け開始(随時イベント観覧者入場)                                                |     |         |            | 〇          | ◎      |      | ◎      |     |     |    |
| 13:50   |             |                    | 片付け終了                                                             |     |         |            | イベント       | イベント   | 〇    | 〇      |     |     |    |
| 14:00   | 学生インタビュー    |                    |                                                                   |     |         |            | イベント       | イベント   | イベント | 〇      | 〇   |     |    |
| 15:00   | 本日の総括       |                    |                                                                   |     |         |            | イベント       | イベント   | イベント | 〇      | 〇   |     |    |
|         | 記録・評価       |                    | 日誌・売上管理                                                           |     |         | 〇          | ◎          | ◎      | 〇    |        |     |     |    |





## Ⅱ－4－1 「食のセンター」の運営と評価に関する研究 ―食事支援プログラムの開発―

研 究 者：佐藤亜希子、針谷順子、足立己幸

研究協力者：田村みどり（みなみかぜ食生活ステーション・管理栄養士） 片山由香里（研修センター主任・管理栄養士）

中川尚子（食のセンター主任・栄養士） 河野康予（西部診療所食生活ステーション・管理栄養士）

片桐早紀（みなみかぜ食生活ステーション・管理栄養士）

### 1. 研究要旨

本研究の目的は、食のセンターの活動を支える食事支援プログラムの開発であり、プログラムに不可欠なソフトの試用である。2006年から法人管理栄養士グループが検討し、開発した食アセスメント票を用いて法人全事業所に実施した調査結果のうち、介護度等から業態の異なる特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイケアサービスの3事業所の結果を分析した。支援内容に影響が大きく、かつ重要な項目として①生きがい、②食事づくりへの積極性、③食態度、④食行動の4項目が抽出された。これらと他8項目の項目間の関連を見た結果、①生きがいと②食事づくりへの積極性がそれぞれの事業所の特徴を反映していた。

抽出された2項目を食事提供の全プロセスにおいて、異なった専門職種の担当者が共有し、活用する帳票類に反映することができた。したがって本法人が求める高齢者一人ひとりが生き生きと自分らしく暮らせる支援につながる食事支援プログラムソフトの試行が可能となった。

### 2. 背景と目的

筆者らは2006年から、管理栄養士が医師や看護師と共に生活の場を重視して食事支援をすすめてきた実績をふまえ、多職種が連携して、かつ要介護者とその家族を含めた人々が課題や解決方法を関係者が共通に理解し、活用できる食アセスメントの枠組みと内容をもつ食アセスメント票の開発を行ってきた。

食アセスメント票は、行政から実施を求められる「栄養アセスメント書」をベースにしつつ、要介護者の快い、うれしい、達成感がある等人間としての尊厳“その人らしさ”を発見し、実現可能な食・栄養ケアプランを立てるための食ケアプラン・情報共有シート（以下、共有シート）を作成した。

本研究は、本法人が食のセンターを開設するに当たり、食事支援プログラムの開発を行うことになった。そのために具体的には1) 法人が独自に開発した食アセスメント票を核にして栄養・給食管理などに関わる内容を整理すること、2) 食アセスメントの活用性を確認するために、法人が活用している介護計画などに用いる帳票の内容との関連をみること、3) 食アセスメントを活用した調査結果を分析し有効な質問項目を抽出すること、4) 抽出した項目を食事支援プログラムの実施を支えるソフトへ反映し、試用することを目的とした。

### 3. 方法

#### 3－1 食アセスメント票（その人らしい生活を生かした楽しい食卓のアイデアさがし）の作成

##### 3－1－1 「枠組み」の構築

食アセスメント票の開発は管理栄養士、医師、看護師、介護福祉士、社会福祉士等が集まり、次の手順で検討を進めた。①全メンバーが各現場での問題点を書き出した。②①を、食生態学の食行動・食環境理論を基本枠組みにして問題点の整理をした。③②を各職場に持ち帰り、各職種が現場で利用して修正をした。④そのプロセスを数回、繰り返し実施し、「要介護者の生活・栄養・身体的な視点を組み合わせて食を支える枠組み」の構築をした。（図1）

##### 3－1－2 質問項目の設定

「枠組み」を基にアセスメントの設問項目第一案を設定した。第一案を用い現場で複数職種が合流してプレテストをし、修正をした。それらに基づき栄養・食ケアプランを想定した総合的、複合的討議により修正を繰り返した。（図2）

### 3-2 食ケアプラン・情報共有シート（〇〇さんの食事はこれでいかがですか？）の作成

前述の食アセスメント票の他、身体・栄養アセスメントなどの情報をもとに作成した、共有シートはカンファレンス等、多職種で食についての情報を共有する際に活用する目的で作成した。（図3）尚、食のアセスメントには、通常の基本情報シート、12の質問項目からなる、「その人らしい生活を生かした楽しい食卓のアイデアさがし」（本票）、共有シートの3票を一体的に活用する。

### 3-3 食アセスメント票と多職種が用いている主要アセスメント票との項目の比較

本法人の介護分野で用いられている他のアセスメント票において、食アセスメント票の質問12項目について同様の内容があるかを整理した。

### 3-4 「食アセスメント票」実施と分析

食事支援プログラムは、食・栄養の専門職種が使用するものではなく、福祉施設における介護職・看護職など多職種が共有し、活用できるものとするため、みなみかぜの全事業所で利用者への面接聞き取り調査を行った（2012年1～4月）。その結果608名に協力が得られた。しかし、利用者の健康上の理由などで項目によっては回答が得られないケースがあった。

その結果の分析は、食事支援ソフト作成のために、食アセスメント票の質問項目が食事支援に有効かどうかを明らかにすることを目的とした。

ここでは、対象は①特養養護老人ホーム（以下、特養）入居者、②ケアハウス入居者、③デイケアサービスの利用者について分析結果を用いた。特養は全員要介護である（平均介護度は3.9）。②ケアハウスは自立が基本となっている。③デイサービス利用者（平均介護度2.1）は地域で暮らし多くの方には家族の支援がある。整理・検討は主にA.生きがい・楽しみ、b.食からみた最近の様子、c.日常生活自立度・姿勢・日常の過ごし方、d.食事時間、e.食事場所、f.食事の種類、g.食べる行動、h.会話や情報交換、I.食卓のレイアウトについて行った。

### 3-5 栄養・給食管理ソフトの試用と活用の試み

食事支援プログラムの作成に向けて、食アセスメント票で検討した質問項目に対する利用者の回答を栄養給食管理ソフトで集約し、食ケアプランに反映できるかを試すために、前段階として既に使用している栄養・給食管理ソフトの活用を試みた。主に個人の基本情報入力欄を活用し、日常的な運用の可能性があるかを検討した。

## 4. 結果

### 4-1 食アセスメント票（その人らしい生活を生かした楽しい食卓のアイデアさがし）の作成

#### 4-1-1 「枠組み」の構築

枠組みは、食行動（食べる行動、準備・つくる行動、食を営む力の形成や伝承行動）、食環境、ライフスタイル、環境とした。

#### 4-1-2 質問項目の設定

当初抽出された項目は156項目あったが、数回のプレテストを経て、最終段階では12質問（群）を要介護の全段階を通して用いるキー質問（群）とした。健康状態の良好な人には自分のやりたいことや思いを、よくない人には体調の比較的よい時の状態を、意思表出の困難な人には介護側の観察や思いを、それぞれ重視した回答方法を工夫した。

### 4-2 食ケアプラン・情報共有シート（〇〇さんの食事はこれでいかがですか？）の作成

食アセスメント票から集めた情報を、食ケアプランに生かす前に整理し、多他職種で共有することでよりよい支援に繋げるために共有シートを作成した。このシートの特長は、その人の生きがいや楽しみを一番上に表し、その人を主体としている点である。整理した枠組みに沿って「食からみた最近の様子」「日常生活自立度・日常の過ごし方」「食事時間」「食事場所」「食事の種類や食事形態、食具、食事時の姿勢、共食する人、介助する人などの食卓の身近な環

境」「食べる行動（嗜好・食欲）」「会話や情報交換」「食卓のレイアウト」「食事づくりや準備の行動」「食環境」の各該当欄にチェックを記入して使用する。

1枚に表現することで、鳥瞰的で複眼的な情報の中、多職種で共有する際に自分の把握している情報、把握していなかった情報がわかり、尚かつ自分が担当している部分、担当を共有している部分などが明確になるというのが検討した多職種職員の意見であった。担当部分を職種や個人ごとに色分けしてわかりやすく表現することも可能である。

### 4-3 食アセスメント票と多職種が用いている主要アセスメント票との項目の比較

本法人の介護分野で用いている主要アセスメント票と食アセスメント票との内容比較を行った。具体的には、栄養管理に用いている栄養アセスメント書、特養介護分野で用いているKOMI記録システム、在宅分野で用いているライフサポートプランニング・食の自立支援、配食サービス分野で用いている帳票の5つを検討の対象とした（表1）。比較した項目は食に関連した項目である。当然のことながら、それぞれの目的で構成されているので特徴的な質問項目を持っている。同様な項目の量的な差はみられるが、配食以外は、食アセスメント票の1～12の質問項目に該当する項目がみられた。特にKOMI記録システムはほぼ全ての項目で近い内容の項目をもっていた。

### 4-4 「食アセスメント票」実施と分析

実施したうち分析を行ったのは、特養入居者93名、ケアハウス入居者14名、デイケアサービス利用者82名、合計189名である。（表2）

質問の中で、高齢者がいきいきとする質問項目を4項目抽出し回答内容の傾向を分析した。まず生きがいとして「生活の中での楽しみ、大事にしていること、生きがいは何ですか」との問いに対する回答（複数回答可）は、何かしらの「生きがいがある」と答えた人は、特養入居者が93名中41名、ケアハウス入居者が14名中13名、デイケアサービス利用者が82名中45名であった。次に食態度・食行動である「食事の準備や調理、片づけ等、ここで何かしてみたことはありますか。」との問いに対して、何かしら「やってみたい、できる、やっている」と答えた人は特養入居者が93名中22名、ケアハウス入居者が14名中9名、デイケアサービス利用者が82名中81名であった。同じく食態度・食行動で「好んで食べているものはありますか」との問いに対して、何かしらに「ある」と答えた人は特養入居者が93名中61名、ケアハウス入居者が14名中8名、デイケアサービス利用者が82名中23名であった。同様に「大嫌いなものはありますか」との問いには「ある」と答えた人は特養入居者が93名中18名、ケアハウス入居者が14名中6名、デイケアサービス利用者が82名中4名であった。最後に食態度で「食事の事について関心がありますか」との問いに対しては、「他の人と料理の感想など話している」「献立表を見ている」「料理番組を観ている」「スーパーの広告を見ている」「その他」のいずれか一つでも選んだ人は特養入居者が93名中20名、ケアハウス入居者が14名中7名、デイケアサービス利用者が82名中78名であった。

生きがいについては、事業所別に差異はみられたが多く挙げられたものは「食べる」「家族との面会」「交流」「趣味」などであった。（表3）生きがいや食態度、食行動について、タイプの異なる特養、ケアハウス、デイケアサービスともに、明確な差異がみられにくかった。食アセスメント票の開発の目的は、利用者の現状を知るためだけではなく、質問そのものが、高齢者がいきいきとして答えられることを狙いとしてきた。「食事づくりや準備の行動」についても、「食べたい物をリスト、買物に行く、…後片付けをする、食べ残しを減らす」のように食事づくりの全行程を載せていることや、「食卓で待つ」といった自立度が低い方が選びやすい選択肢を含んでいることも特徴である。それらを反映して、利用者が答えやすい設問であったため、どの事業所においても同様な回答が得られた可能性が考えられる。

### 4-5 栄養給食管理ソフトの試作

これまで検討を重ねてきた食アセスメント票の項目のうち4-3で抽出した4項目を用い、既にある栄養・給食管理ソフトを活用し、独自の栄養・給食管理ソフトの試作を作成した。個人の基本情報を入力する際に空いているコメント欄に入力を行い、日常的に用いる帳票類への反映が可能かどうかを試みた。食種や主食の種類、飲み物、食事形態、禁食といった必要な個人の情報と同様に、日常的に用いる食事提供に必要な帳票類への出力と業務内での活用できることが確認でき、今後のソフト開発に向けての可能性が示された。

5. 考察と提案

これまで、法人が独自に開発した食アセスメント票は、質問そのものが、高齢者がいきいきするような内容であるために、業態の異なる事業所間の差異は明確ではなかった。しかし、4つの質問項目のうち生きがい・食事づくり行動は業態の特徴を反映していたのでこの2項目を核にしてソフト開発を行うことが、高齢者を食から支援するために、有効である可能性が示された。

以上のことから、食事支援プログラムの開発・実施にあたり、生きがい・食事づくり行動の質問を投入した栄養・給食管理ソフトを活用することで、その人に合った食事支援を行うことが出来ることが示された。

6. 結論

目的について挙げられた4項目について、以下の結果が得られた。

- 1) 法人が独自に開発した食アセスメント票から、生きがいと食行動の質問を投入した栄養・給食管理を個別への食支援プラン作成と、集団サイズでのアセスメントにも活用可能であることが示された。
- 2) 食アセスメントの活用性を確認するために、法人が活用している介護計画などに用いる帳票の内容との関連をみた。その結果、食アセスメント票で挙げた項目と、共通または同類の内容を含む項目が確認されたのは KOMI 記録システムであった。そのため、介護職との情報の共有が容易であり、協働がしやすいことが確認された。
- 3) 食アセスメントを活用した調査結果を分析し有効な質問項目を抽出すること、については①生きがい、②食事づくりへの積極性、③食態度、④食行動の4項目のうち、①生きがいと②食事づくりへの積極性の2項目に注目することが、高齢者を食から支援するために、有効である可能性が示された。
- 4) 抽出した項目を食事支援プログラムソフトへ反映すること、については①生きがい②食事づくりへの積極性の2項目を既にある栄養・給食管理ソフトを活用することで、日常的に用いる食事提供に必要な帳票類への出力と業務内で活用できることが確認できた。しかし、まだ日が浅く試用期間が短いことや、形式や見やすさなどの課題もあり、引き続き検討しなければならない。

参考文献：

- 1) 足立己幸・秋山房雄：食生活論，医歯薬出版株式会社（2005）
- 2) 足立己幸・松下佳代：NHK スペシャル 65歳からの食卓～元気力は身近な工夫から，日本放送出版協会（2008）
- 3) 足立己幸，高橋千恵子，小川正時：マイゴール、マイサイズ、マイペースですすめる食からの生きがい・健康・地域づくり 共食手帳 ,p.26（2008）株式会社群羊社
- 4) 「食アセスメント「その人らしい生活を生かして、楽しい食卓のアイデアさがし」の開発と試行」；第54回）日本栄養改善学会講演要旨（平成19年9月）

図1 食事支援プログラム開発の手順

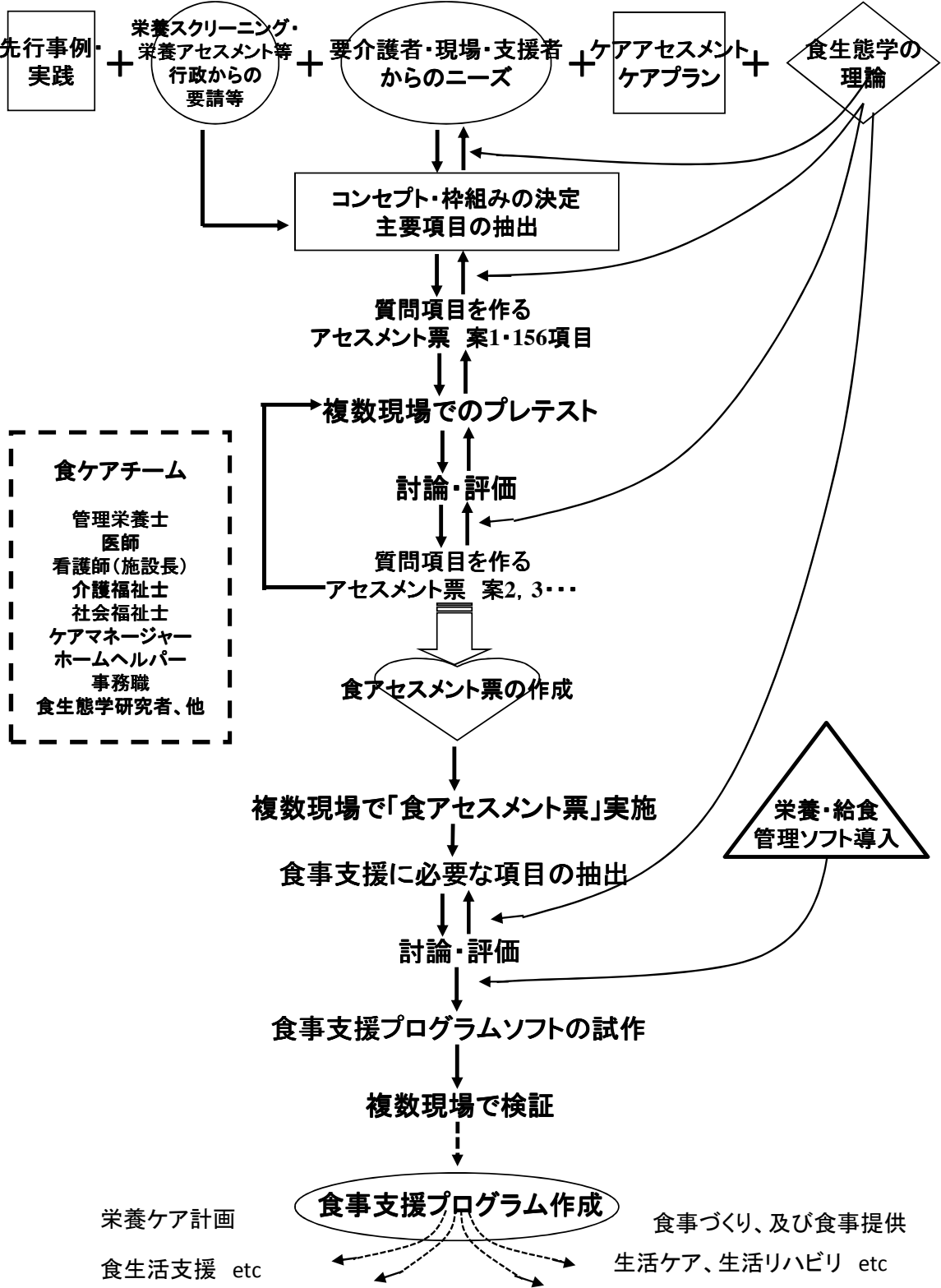


図2 食アセスメント票 表紙・基本情報

名前： 要介護度： 支1・支2・1・2・3・4・5 介護保険番号： ( )

生年月日： 年 月 日 ( 歳 ) 男・女 出身地： ( )

身長： cm 体重： kg BMI: ( 月 日 ) その他リファレンスNo: ( )

記入日1:H 年 月 日 時 分～ 時 分 ( ぼ 分 )

記入日2:H 年 月 日 時 分～ 時 分 ( ぼ 分 )

記入者： ( 管理栄養士・介護士・看護師・相談員・その他 )

情報収集の方法： 面接・観察・資料転記・その他 面接環境： 食堂・面会コーナー・居室・ホール・リビング・(その他) 同居者： 有り・無し

回答補助カード： 使用・非使用

食事している場所

ユニットの食堂 居室 その他 ( )

補足：

食卓の種類

□普通食 □療養食 ( ) □その他 ( )

補足：

食事の形態

(主食) □ごはん □おにぎり □全粥 □分粥 □粥ミキサー □重湯 □その他 ( )

(副食) □常 □ローロ大 □刻み □極刻み □ミキサー □流動 □その他 ( )

補足：

食具

□はし □スプーン □自助スプーン □自助食器 □滑り止めマット □その他 ( )

補足：

食事時の姿勢

□椅子(座位) □車椅子(座位・横になる) □ソファ(座位) □ベッド(座位・横になる) □その他 ( )

□テーブル □オーバーテーブル □カウンターテーブル □その他 ( )

補足：

共食する人

□同じ食卓の利用者 □同じ食卓の職員 □その他 ( )

補足：

食事介助する人が必要かどうか

□必要 ( 全介助・一部介助 ) □必要でない

補足：

※ 転記

E

F

図2 食アセスメント票

その人らしい生活をふまえた  
楽しい食卓のアイデアさがし

本人からの情報● 介護からの情報○ 記入者が、優先して支援していきたい項目に◎をつけて下さい。(複数可)

家族からの情報△ 記録からの情報□

現在

以前

調子が悪い時( 日/7日 ) 調子が良い時( 日/7日 ) 元気があった頃

散歩をしている

隣りの人と話している

リハビリをしている

新聞を読む

本を読む

ラジオを聴く

テレビを観る

その他 ( )

ベッドで横になる

車椅子(横になる・座位)

椅子(座位)

その他 ( )

散歩をしている

隣りの人と話している

リハビリをしている

新聞を読む

本を読む

ラジオを聴く

テレビを観る

その他 ( )

ベッドで横になる

車椅子(横になる・座位)

椅子(座位)

その他 ( )

変化する可能性

調子が良い時と悪い時の差

大きい・一時的にある

変化あり・大きい方向・少しある

変化なし・一時的にある

メモ

※ 転記

図2 食アセスメント票

その人らしい生活をふまえた  
楽しい食卓のアイデアさがし

記入者が、優先して支援していきたい項目に◎をつけて下さい。(複数可)

| 本人からの情報●                                          |  | 介護からの情報○                                                                                                                                          |  | 家族からの情報△                                                                                                                                          |  | 記入者が、優先して支援していきたい項目に◎をつけて下さい。(複数可)                                                                                                                |  |
|---------------------------------------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 現在                                                |  | 以前                                                                                                                                                |  | 現在                                                                                                                                                |  | 以前                                                                                                                                                |  |
| 調子が悪い時( 日/7日)                                     |  | 調子が良い時( 日/7日)                                                                                                                                     |  | 調子が良い時( 日/7日)                                                                                                                                     |  | 調子が良い時( 日/7日)                                                                                                                                     |  |
| 食事の準備や調理、片付け等、ここで何か<br>してみたいことはありますか。             |  | 食べた物をリクエスト<br>買物に行く<br>調理と一緒にする<br>味見をする<br>皿を選ぶ<br>盛り付けを考える<br>盛り付けをする<br>配膳をする<br>食卓を拭く<br>食卓で待つ<br>食事の声をかけをする<br>後片付けをする<br>食べ残しを減らす<br>その他( ) |  | 食べた物をリクエスト<br>買物に行く<br>調理と一緒にする<br>味見をする<br>皿を選ぶ<br>盛り付けを考える<br>盛り付けをする<br>配膳をする<br>食卓を拭く<br>食卓で待つ<br>食事の声をかけをする<br>後片付けをする<br>食べ残しを減らす<br>その他( ) |  | 食べた物をリクエスト<br>買物に行く<br>調理と一緒にする<br>味見をする<br>皿を選ぶ<br>盛り付けを考える<br>盛り付けをする<br>配膳をする<br>食卓を拭く<br>食卓で待つ<br>食事の声をかけをする<br>後片付けをする<br>食べ残しを減らす<br>その他( ) |  |
| 食卓は食べやすいですか(食べやすそうですか)                            |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |
| (補足)口の中や歯で具合の悪いところはありませんか(あるようですか)                |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |
| 5 (補足)調理形態が合っていますか(合っているようですか)                    |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |
| (補足)彩りや見た目を気にしていますか(気にしているようですか)                  |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |
| (補足)箸やスプーン等は適していますか(適しているようですか)                   |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |
| 6 食事の時間は決まっていますが、ご本人が食べたい時間帯に合っていますか。(合っているようですか) |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |
| 7 食事の準備や調理、片付け等、ここで何か<br>してみたいことはありますか。           |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |
| ※機敏運動可。やっている事に◎を、やりた<br>い事に○をつけてください。             |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |
| 7                                                 |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |

佐藤亜希子,片山由香里,谷口友子,小川正時,足立己幸 作成

図2 食アセスメント票

その人らしい生活をふまえた  
楽しい食卓のアイデアさがし

記入者が、優先して支援していきたい項目に◎をつけて下さい。(複数可)

| 本人からの情報●                                |  | 介護からの情報○                                                                                                                                          |  | 家族からの情報△                                                                                                                                          |  | 記入者が、優先して支援していきたい項目に◎をつけて下さい。(複数可)                                                                                                                |  |
|-----------------------------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 現在                                      |  | 以前                                                                                                                                                |  | 現在                                                                                                                                                |  | 以前                                                                                                                                                |  |
| 調子が悪い時( 日/7日)                           |  | 調子が良い時( 日/7日)                                                                                                                                     |  | 調子が良い時( 日/7日)                                                                                                                                     |  | 調子が良い時( 日/7日)                                                                                                                                     |  |
| 食事の準備段階で、自分で声を出したり、動作として表現することはありますか。   |  | 食べた物をリクエスト<br>買物に行く<br>調理と一緒にする<br>味見をする<br>皿を選ぶ<br>盛り付けを考える<br>盛り付けをする<br>配膳をする<br>食卓を拭く<br>食卓で待つ<br>食事の声をかけをする<br>後片付けをする<br>食べ残しを減らす<br>その他( ) |  | 食べた物をリクエスト<br>買物に行く<br>調理と一緒にする<br>味見をする<br>皿を選ぶ<br>盛り付けを考える<br>盛り付けをする<br>配膳をする<br>食卓を拭く<br>食卓で待つ<br>食事の声をかけをする<br>後片付けをする<br>食べ残しを減らす<br>その他( ) |  | 食べた物をリクエスト<br>買物に行く<br>調理と一緒にする<br>味見をする<br>皿を選ぶ<br>盛り付けを考える<br>盛り付けをする<br>配膳をする<br>食卓を拭く<br>食卓で待つ<br>食事の声をかけをする<br>後片付けをする<br>食べ残しを減らす<br>その他( ) |  |
| 例) 訴えるような声を出す。本人が身に着けているエプロンを整える。食卓で待つ。 |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |
| 8 食事の事について関心がありますか。(ありそうですか。)           |  | 献立表を見ている<br>料理番組を観ている<br>スーパーの広告を見ている<br>他の人と食べ物のやりとりをしている<br>他の人と料理の感想など話している<br>その他                                                             |  | 献立表を見ている<br>料理番組を観ている<br>スーパーの広告を見ている<br>他の人と食べ物のやりとりをしている<br>他の人と料理の感想など話している<br>その他                                                             |  | 献立表を見ている<br>料理番組を観ている<br>スーパーの広告を見ている<br>他の人と食べ物のやりとりをしている<br>他の人と料理の感想など話している<br>その他                                                             |  |
| 9 施設で出しているもの以外で食べているものがありますか。           |  | なし<br>あり<br>何を( )<br>誰が( )<br>どこから( )<br>どんな時に( )                                                                                                 |  | なし<br>あり<br>何を( )<br>誰が( )<br>どこから( )<br>どんな時に( )                                                                                                 |  | なし<br>あり<br>何を( )<br>誰が( )<br>どこから( )<br>どんな時に( )                                                                                                 |  |
| 10 落ち着いて食べられていますか。(食べられているようですか。)       |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |
| (補足)食事場所、椅子や机の使い勝手、人間関係など               |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |                                                                                                                                                   |  |

佐藤亜希子,片山由香里,谷口友子,小川正時,足立己幸 作成



図2 食アセスメント票

その人らしい生活をふまえた  
楽しい食卓のアイデアさがし

| 記入者が、優先して支援していきたい項目に◎をつけて下さい。(複数可) | 本人からの情報●<br>家族からの情報△ |               | 介護からの情報○<br>記録からの情報□ |               | 以前      | 変化の方向・少<br>い方向・○・注<br>意が必要・△・変<br>化なし・ー | 変化の可能性 | 優先 | メモ | * 総記 |
|------------------------------------|----------------------|---------------|----------------------|---------------|---------|-----------------------------------------|--------|----|----|------|
|                                    | 調子が悪い時( 日/7日)        | 調子が良い時( 日/7日) | 調子が悪い時( 日/7日)        | 調子が良い時( 日/7日) |         |                                         |        |    |    |      |
|                                    |                      |               |                      |               | 元気があった頃 | 調子が良い時<br>と悪い時の差                        |        |    |    | D    |
|                                    |                      |               |                      |               |         |                                         |        |    |    | B    |

11 施設で食べているおやつはいつ食べていますか。

12 最後に、ご本人が食事の時に心がけている事、こだわってやっている事はありますか。  
また、職員や周りの人にやって欲しい事はありますか。

佐藤亜希子, 片山由香里, 谷口友子, 小川正時, 足立己幸 作成

図3 食ケアプラン・情報共有シート

〇〇さんの食事はこれでいかがですか？(^o^)/

A 生きがい・楽しみ

B 食からみた最近の様子:

C 日常生活自立度 姿勢:  
日常の過ごし方:

D 食事時間

E 食事場所:

G 食べる行動 (嗜好・食欲):

I 食卓のレイアウト

朝食

昼食

夕食

1日に必要なエネルギー量・たんぱく質量・水分量

F 食事の種類:

食事形態:

食具:

食事時の姿勢:

共食する人:

介助する人:

J 食事づくりや準備の行動:

H 会話や情報交換:

K 食環境

食材・料理の入手経路:

もっと楽しい食事になるために  
(管理栄養士)

(医師・看護師・介護士・理学療法士・作業療法士)

記入日: H19年〇月〇日(〇)  
氏名: T  
記入者: S

表1      みなみかぜで使用している主要アセスメント項目比較  
・食アセスメント                      ○は該当する項目（同じ内容又は近似の内容の項目）がある事を示す

|          |                                                                                                                         | 栄養ケア<br>マネジメント | KOMI<br>記録システ<br>ム | ライフサポ<br>ート<br>プランニング | 食の<br>自立支援 | 配食 |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|--------------------|-----------------------|------------|----|
| 基本<br>情報 | 利用者名                                                                                                                    | ○              | ○                  | ○                     | ○          | ○  |
|          | 生年月日                                                                                                                    | ○              | ○                  | ○                     | ○          | ○  |
|          | 年齢                                                                                                                      | ○              | ○                  | ○                     | ○          | ○  |
|          | 性別                                                                                                                      | ○              | ○                  | ○                     | ○          | —  |
|          | 要介護度                                                                                                                    | ○              | ○                  | ○                     | ○          | ○  |
|          | 出身地                                                                                                                     | —              | ○                  | —                     | —          | —  |
|          | 介護保険番号                                                                                                                  | —              | —                  | —                     | —          | —  |
|          | 身長                                                                                                                      | ○              | ○                  | ○                     | ○          | —  |
|          | 体重                                                                                                                      | ○              | ○                  | ○                     | ○          | —  |
|          | BMI                                                                                                                     | ○              | —                  | ○                     | ○          | —  |
|          | 記入日                                                                                                                     | ○              | ○                  | ○                     | —          | —  |
|          | 記入者                                                                                                                     |                | ○                  | ○                     | ○          | —  |
|          | 情報収集の方法                                                                                                                 |                |                    |                       |            |    |
|          | 面接環境(食堂・面会コーナー)                                                                                                         | —              | —                  | —                     | —          | —  |
|          | 同席者(有り・無し)                                                                                                              | —              | —                  | —                     | —          | —  |
|          | 回答補助カード(使用・未使用)                                                                                                         | —              | —                  | —                     | —          | —  |
|          | 食事場所                                                                                                                    | ○              | ○                  | —                     | —          | —  |
|          | 食事の種類                                                                                                                   | ○              | ○                  | —                     | —          | ○  |
|          | 食事の形態                                                                                                                   | ○              | ○                  | —                     | ○          | —  |
|          | 食具                                                                                                                      | ○              | ○                  | —                     | —          | —  |
|          | 食事時の姿勢                                                                                                                  | ○              | ○                  | —                     | —          | —  |
| ※        | 共食する人                                                                                                                   |                | ○                  | —                     | ○          | —  |
|          | 食事介助する人が必要かどうか                                                                                                          | ○              | ○                  | ○                     | ○          | ○  |
|          | 記入者・支援者のコメント                                                                                                            |                | ○                  | ○                     | ○          | ○  |
| 1        | ※ 普段どのように過ごしていますか。                                                                                                      | —              | ○                  | ○                     | —          | —  |
|          | どんな姿勢で過ごすことが多いですか。                                                                                                      |                |                    |                       | —          | —  |
| 2        | 生活の中での楽しみ、大事にしていること、生きがいは何ですか。                                                                                          | —              | ○                  | ○                     | —          | —  |
| 3        | ※ 今日の食事はご満足でしたか(回答が本人以外の場合)                                                                                             | —              | ○                  | —                     | —          | —  |
|          | 食事をおいしそうに食べていますか。                                                                                                       |                |                    |                       |            | —  |
| 4        | 好んで食べているものはありますか。<br>例) 今の季節によく食べていたもの<br>ふるさとの料理でよく食べていたもの<br>好きなおやつ<br>これがあれば食事がすすむもの<br>地元川越・埼玉産の食材を選んで<br>入手していましたか | ○              | ○                  | ○                     | —          | —  |
|          | 食事の準備や調理、片付け等、ここで何かしてみたいことはありますか。<br>※複数選択可。                                                                            | ○              | ○                  | ○                     | ○          | ○  |
| 5        | (補足) 口の中和や歯で具合の悪いところはありますか(あるようですか)                                                                                     | ○              | ○                  | ○                     | ○          | —  |
|          | (補足) 調理形態が合っていますか(合っているようですか)                                                                                           | ○              | ○                  | ○                     | ○          | —  |
|          | (補足) 彩りや見た目を気にしていますか(気にしているようですか)                                                                                       | —              | ○                  | —                     | —          | —  |
|          | (補足) 箸やスプーン等は適していますか(適しているようですか)                                                                                        | —              | ○                  | —                     | —          | —  |
|          | 食事の時間は決まっていますが、ご本人が食べたい時間帯に合っていますか。(合っているようですか)                                                                         | —              | ○                  | —                     | ○          | —  |
| 7        | 食事の準備や調理、片付け等、ここで何かしてみたいことはありますか。<br>※複数選択可。やっている事に○を、やりたい事に○をつけてください。(回答が本人の場合)                                        | —              | ○                  | ○                     | ○          | —  |
|          | 食事の準備段階で、自分で声を出したり、動作として表現することはありますか。(回答が本人以外の場合)                                                                       | —              | ○                  | ○                     | —          | —  |
| 8        | 食事の事について関心がありますか。(ありそうですか。)                                                                                             | ○              | ○                  | ○                     | —          | —  |
| 9        | 施設で出しているもの以外で食べているものがありますか。<br>どこから手に入れていますか<br>どんな時に食べていますか                                                            | —              | ○                  | —                     | —          | —  |
| 10       | 落ち着いて食べられていますか。(食べられているようですか。)                                                                                          | ○              | ○                  | —                     | ○          | —  |
| 11       | (補足) 食事場所、椅子や机の使い勝手、人間関係など                                                                                              |                |                    |                       |            |    |
| 12       | 施設で食べているおやつはいつ食べていますか。<br>最後に、ご本人が食事の時に心がけている事、こだわってやっている事は何ですか。<br>また、職員や周りの人にやって欲しい事がありますか。                           | ○              | ○                  | ○                     | ○          | —  |

※1～12の番号は図2(一部抜粋)に示した質問項目

表2    その人らしい生活をふまえた楽しい食卓のアイデアさがし    事業所別の回答内容  
値: 人                      ( )は構成比

| ※ | 質問項目                                         | 特別養護老人ホーム<br>n=93                            | ケアハウス<br>n=14                              | デイケアサービス<br>n=82                                          |
|---|----------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 2 | 生活の中での楽しみ、大事にしていること、生きがいは何ですか。               | ある 41 (44.0)<br>なし 52 (56.0)                 | ある 13 (92.9)<br>なし 1 (7.1)                 | ある 45 (54.9)<br>なし 37 (45.1)                              |
| 7 | 食事の準備や調理、片付け等、ここで何かしてみたいことはありますか。<br>※複数選択可。 | ある 22 (23.7)<br>なし 71 (76.3)                 | ある 9 (64.2)<br>なし 5 (35.8)                 | ある 81 (98.8)<br>なし 1 (1.2)                                |
| 4 | 好んで食べているものはありますか。                            | ある 61 (65.6)<br>なし 28 (30.1)<br>未記入 4 (4.3)  | ある 8 (57.1)<br>なし 1 (7.2)<br>未記入 5 (35.7)  | ある 23 (28.0)<br>なし 0 (0.0)<br>未記入 56 (68.3)<br>不明 3 (3.7) |
|   | 大嫌いなものはありますか。                                | ある 18 (19.4)<br>なし 71 (76.3)<br>未記入 4 (4.3)  | ある 6 (42.9)<br>なし 2 (14.2)<br>未記入 6 (42.9) | ある 4 (4.9)<br>なし 0 (0.0)<br>未記入 78 (95.1)                 |
| 8 | 食事の事について関心がありますか。                            | ある 20 (21.5)<br>なし 42 (45.2)<br>未記入 31(33.3) | ある 7 (50.0)<br>なし 0 (0.0)<br>未記入 7 (50.0)  | ある 78 (95.1)<br>なし 4 (4.9)<br>未記入 0 (0.0)                 |

※ 調査票その人らしい生活をふまえた楽しい食卓のアイデアさがしにある1～12の質問のうち抜粋した設問番号を示

表3    その人らしい生活をふまえた楽しい食卓のアイデアさがし    事業所別の内容  
生活の中での楽しみ、大事にしていること、生きがいは何ですか(出現頻度の高い順)  
・nは回答者数( )内値は全数(母数)を示す。  
・生きがいの内容の出現頻度は複数回答による。

| 事業所    | 特別養護老人ホーム<br>n=41(93) | ケアハウス<br>n=13(14) | デイケアサービス<br>n=45(82) |
|--------|-----------------------|-------------------|----------------------|
| 内<br>容 | 食べる 19                | 食べる 8             | 交流 28                |
|        | 家族との面会 11             | 家族との面会 4          | 趣味 7                 |
|        | テレビ・新聞・読書 6           | 交流 3              | リハビリ 4               |
|        | 外出 6                  | カラオケ 1            | カラオケ 3               |
|        | 運動 5                  | 趣味 1              | 食べる 1                |
|        | 趣味 5                  | 運動 1              | 寝る 1                 |
|        | 交流 2                  |                   | 風呂 1                 |
|        | 風呂 2                  |                   | 仕事 1                 |
|        | 嗜好品 2                 |                   | テレビ・新聞・読書 1          |
|        | 遊び 1                  |                   | 家族との面会 1             |
|        | 寝る 1                  |                   | その他 1                |
|        | 手伝い 1                 |                   |                      |
| 計      | 61                    | 18                | 49                   |

## Ⅱ－４－２ 「食のセンター」の運営と評価に関する研究

研 究 者：針谷順子

共同研究者：佐藤亜希子（食のセンター長・管理栄養士） 田村みどり（みなみかぜ食生活ステーション・管理栄養士）

研究協力者：片山由香里（研修センター主任・管理栄養士） 河野康予（西部診療所食生活ステーション・管理栄養士）

中川尚子（食のセンター主任・栄養士） 片桐早紀（みなみかぜ食生活ステーション・管理栄養士）

### １．研究要旨

本研究では、研究Ⅱ４－１で開発した食事支援プログラムに基づき、食のアセスメントから、食事づくり、食事支援に至るまでの過程で多職種が共有する帳票類を、既存の栄養管理・給食管理ソフトを活用して、新規にプログラム開発した帳票や独自に作った帳票について、その活用性を評価し検討することである。日常的に用いる主な帳票として、調理マニュアル、献立表、レシピ、食事づくり票、食札、食事伝票、食事（弁当）づくり指示票、検査票（簿）、食アセスメント票の９種類を取り上げた。各票について主に活用する２、３の専門職毎に質問紙を用いたグループインタビューにより、2013年２月、a. 食事支援のしやすさ、b. 他職種間での連携のしやすさ、c. 情報量、d. 情報内容、e. 記録性、f. サイズ、g. 材質・強度、h. 見やすさ、i. 費用の面、から評価・検討をした。その結果、食事（弁当）づくり指示票を除き、８種の帳票に検討・改善の必要が示された。食のセンター開設から間もなく、新しいシステムによる食事提供がまだ安定していない時期でもあり、また試用期間が２週間と短く、“使い慣れ”ない、“見慣れ”ない、の理由が評価の中で挙げられた。このことが結果に影響していたと思われる。一般的に食事提供では食物が注視されがちだが、帳票を介した情報の流れから食事提供のプロセスを把握することができた。また、多職種が帳票によって情報を共有すること、その視点の重要性が認識されたことは意義深い。

### ２．研究の背景と目的（表１）

#### ２－１ 背景

食のセンター創設の経緯と目標

本法人は法人の理念に基づき、姉妹法人「医療法人西部診療所」（以下、西部診療所と略す）と協働して、2000年当初より食を大切に活動、川越市の委託事業として配食サービス事業（2001年から）、地域交流センター活動における地域の人々も集う“共食の場なごみ”（2004年から）の実践、（共食実践）研修センター開設（2005年から）に伴う「共食手帳」の教材開発やそれを用いた学習会等に取り組んできた。

更に、2008年には、「地域づくりプロジェクト会議」を開始した。本法人の基本理念に基づき、高齢者の尊厳を守り、住み慣れた地域で可能な限りくらし続けられる、高齢者にとって住みよい地域づくりを目指し、活動を進めてきた。そのために交通手段のためのオンデマンドバス運行の実証実験や各事業所の課題解決など１２のパートから地域づくり活動を行ってきた。

多面的な活動を総合的に進めるために、研修センター等の食にかかわる活動もその１つとして2005年から取り組んできた。本法人の厨房の改修を機に、社会福祉法人健友会（以下、通称名のみなみかぜと略す）と西部診療所の両法人の栄養課を融合した食のセンターの構想をすることになり、「食のセンタープロジェクト」は2010年より、建築着工まで２年余の検討を重ねて構想してきた。開設は2012年11月1日、厨房の改修のため、本格的な食事提供は12月1日からであった。

食のセンターの目標は、国、埼玉県、川越市、本法人が目指す「地域包括ケア」の考え方を基に、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、持てる力に応じて日常生活を営むことができるように、医療や介護等のサービス事業と連携して、高齢者のニーズに対応したサービスができる仕組みを食からも行っていくことである。（「第５期介護保険事業計画の策定あたったのポイントについて」、「健友会の理念」を参考）。

食のセンターの活動は、本法人が目指す、地域の高齢者が健康で安心した生活がおくれるように、「地域で暮らすみんなの家」として包括的な支援活動の一環としており、目標は以下である。

食のセンターは、本法人に関わる方々を中心とし、家族や職員、さらに地域の人々が、“個々人のライフスタイルにあった、おいしく、安全で健康によい、そして環境にもよい食事を、家族や地域の人々と一緒に楽しめるように”食・健康の面から支援することである（食のセンタープロジェクト会議より）。

食のセンター開始時の現在、具体的には、施設利用者を中心として、食事を安定的に提供できるシステムづくりに重点を置いてきた。新しいシステムで食事が提供されることへの利用者や職員の思いとして、①食べる側からは、温かくておいしい食事を、②作る側からは、安全な食事の提供を、③経営側からは、家庭の暮らしが感じられる特徴的な食事・食卓づくりを、が出されていた。それに対応するために、①にはクックチルによる料理づくりと温菜を再加熱して提供する方法を組み合わせ、②には HACCP 対応、③にはユニット炊飯と共食、を実践した。今後は、食事の質を高めつつ、家族や地域の人々についても、個々人の食・栄養ケアを重視してのライフスタイルにあわせて、上記の目的に沿った活動を展開する計画である。つまり、①栄養ケアから食生活ケアに、②集団介護から個別支援に、③施設から地域に、の方向を目指した活動の展開である。

食のセンターの組織と機能（図１、表２、表３）

食のセンターは、食・栄養支援センターとセンターキッチン新しい建屋で、個々人にあった食事に再構成する食生活ステーション（２つの法人）がある。利用者数は少ないが小規模多機能こもればは週２日、自前で昼食を作る活動をしており、材料の追加や変更、さしかえなどの注文があり、それに対応している。２つの食生活ステーションでは、図１にあるように諸ユニット、事業所の食事を提供している。また、職員や地域の人々の学習支援を担う研修センターも傘下にあり、これまでも国内外、職員・地域の方々の研修、子どもたちの食育セミナーを担ってきた。

なお、センターキッチンは、週５日稼働で、常勤調理師３名、非常勤の調理員３名、計６名で、他に食・栄養支援センターの栄養士・管理栄養士が２名、計８名の定員である。この体制で、2012年12月の例をみると、22日稼働し、おやつを除き、主菜・副菜について１日当たり約1350食（人前）をつくっている。表にはないが、西部診療所の場合2012年10月まで、クックサーブで、１日300食を提供してきた。栄養士・管理栄養士１名を含めて常勤職員に換算すると７人であったのに比較すると、作業性が高いことが確認できる。（センターキッチンは8:30-17:30の労働時間であるのに比べ、西部診療所では6:30-19:45であり、炊飯や汁なども作っていたので単純には比較できないが）。

食のセンターの食事提供のシステムと流れ（図２、図３）

食のセンターの食事提供のシステムは、西部診療所とみなみかぜのこれまでの①実績を融合し、②委託から自営に、③食事づくりの手段としてクックサーブからクックチルに、③食事づくりの場は、「センター方式」から「ライン方式」（仮）に変更された。

※「センター方式」は厨房一か所でプランから配膳まで行う方法を、食・栄養支援センター→センターキッチン→ユニット・事業所といくつかの場を経て、多様な職種がかかわりながら食事が完成されていく、本法人の方式を「ライン方式」と仮称した。

食事提供の流れは図１にあるように、①食・栄養支援センターで食事・食事提供の流れがプランされ、②新設のセンターキッチンで提供日の４日前に主菜、副菜の料理をつくる。加熱は芯温85度、１分以上、90分以内に３度まで急冷して保管する（クックチル方式）。③提供日の２日前に各施設の食生活ステーションに配送する。④食・生活ステーションでは前日に盛りつけて３度で保管する。④提供当日に、温菜は再加熱し、冷菜（前日盛り付けて用いる）、主食の加工品、汁物、飲み物を仕上げ、各ユニットに配達する。⑤各ユニット（居室）では、介護士、看護師等が利用者と交流しつつ、居室のユニットキッチンで、炊飯をして、ごはんの盛り付けやテーブルを拭くなどして食事の準備をする。⑥ユニットに配達された料理（主菜・副菜）を、⑦介護士、栄養士、調理師らが協働して食事に整え（食事づくり）、⑦どのように食べるか共食の場として食卓づくりをする。食事は、多職種が分担と協働をして完成する。一般的なクックチルによる食事提供は、４日前に調理・食事構成（配膳）し、個別に膳ごと冷蔵、温菜を再加熱して温冷で提供する。この方法では、利用者のその時々々の心身の健康状態に変化に対応した提供、つまり個々人のニーズを叶えにくいことになる。そこで、日々の変化を捉え、臨機応変に対応できるように、前述の通り、プラ

んづくり、料理づくり、食事づくり、食卓づくりを分担と共働するシステムにした。

そして、より積極的、より効果的にこれらが実践できるように、前述したように食事づくり（給食）は委託から直営にした。

## 2-2 研究の目的

本研究は、食のセンターの食事提供システム（食・栄養支援センター、センターキッチン、食生活ステーション、ユニット・事業所のプロセスで食事提供が完成する）がスムーズに進み、個々人の生きがいを大切に、温かくておいしい、安全・安心で、家庭の温かみを彷彿させる食事、食卓づくりを支援できることである。そのために、アセスメントから、食事づくり、食事支援に至るまでの過程で用いる帳票類の活用性について、活用する専門職への質問紙を用いたグループインタビューにより、評価・検討、することである。

## 3. 方法

用いた帳票:日常的に用いる主な帳票として、調理マニュアル、献立表、レシピ、食札、食事づくり票、食事伝票、食事（弁当）づくり指示票、検査票（簿）、食アセスメント票の9種類を取り上げた。

調査（評価）内容：各帳票について主に活用する2, 3の専門職毎に、質問紙（表4、表5）を用いたグループインタビューにより、2013年2月、a. 食事支援のしやすさ、b. 多職種間での連携のしやすさ c. 「食のセンター」内での情報交換のしやすさ、d. 情報量、e. 情報内容、f. 記録性、g. サイズ、h. 材質・強度、i. 見やすさ、j . 費用の面、から評価・検討をした。

評価者「食のセンター」に所属する職員全員36名、（栄養士・管理栄養士8名、調理師4名、調理員13名、配達員11名）、と、協力が得られた介護士5名、看護師1名、利用者5名、について、評価項目30項からなる細目版（表8）で1回、改訂し10項目からなる簡易版で1回、各2回（延べ人数91名）、評価票（表9）を用いて30分程度を要して、2013年2月に実施した。各グループの評価は、○：よい △：要検討 ×：不要、で回答をもとめた。

## 4. 結果

### 4-1 食事づくりの情報の流れ（図4）

図4は、食のセンターで実施している食事づくりのプロセスを主に情報の面からみたものである。表頭の食事づくりの流れは双方向に情報が流れていること、縦軸の各食事づくりの場（ステージ）間の流れ、食・栄養支援センター、センターキッチン、食生活ステーションと利用者が食事をするユニットや事業所の全体にまたがって流れる情報と、多様な情報が行きかっていることがわかる。ここでは、食事づくりの流れと食事づくりのステージで特徴的に活用している帳票として、既存ソフトに追加して新たにプログラム開発した食事づくり票と、作成した調理マニュアル、食事（弁当）づくり指示票（通称、配膳票）の、3種を取り上げた。

### 4-2 評価を通した帳票の多職種との共有化

#### 4-2-1 食事づくり票

図5、図6、図7、表6は、Ⅱ4-1の研究で明らかになった①生きがい、②食事づくり行動への参加の積極性、の項目を生かした。既存ソフトの食事づくり票は、一般的に多用されているが、本法人の既存ソフトには含まれていなかった。そこで食事づくり票を新たにプログラミングし、2つの備考欄を活用して、①生きがい、②食事づくり行動への参加の積極性の情報を加えた。また、食事づくり票は、多職種が活用する帳票でもある。禁食情報よりも、おいしい食事を提供できる可能性を広げるために、好きなものの情報を入れてほしい、との意見が出され、食のアセスメントからその情報を追加記入した。主食、主菜、副菜欄にほぼ全員同じ料理が列記されているため、情報量が多く（空白が少なく）見にくい、との批判が挙げられた。これは、決められた出力形式であり、病院等食種が多様なケースでは有効と思われるが、福祉施設では、食形態の展開で対応が可能な場合が多い。今後は入所者の高齢化、従って介護度が高くなる等、食種も多様化してくることが予想される。しかし、調理員の見にくい(i) との意見もうなずけることであり、現段階では見やすくするためには手作業になることから、どのようにするか検討中である。

#### 4-2-2 食札（7）

食札（図6：従来使用）は、一部変更した（図7右中央）。変更当初は、字が細くて読みにくい(i)、色が薄くて判別しにくい(i)、管理しにくい(e)、と批判が多く出されたが、食事毎に3食分あるので、次の準備がスムーズになるなどのメリットを確認する過程で、一方で慣れてきたこともあって、調理師・調理員からの批判はきかれなくなってきた。食札の見方（図7）は、食事構成の基本的な理解を高めるためにも、多職種で共有している。

#### 4-2-3 調理マニュアル

##### 4-2-3-1 回鍋肉

調理マニュアルは、センターキッチン業務において調理師と栄養士・管理栄養士が共有する帳票である。図8の回鍋肉では、図8の左図のように、衛生面と彩りの面からセンターキッチンでは全食材を別々に加熱調理し、食生活ステーションにてそれぞれの食材と調味料を合わせてから盛付・再加熱し提供をしていた。

何度か提供しているうちに、図8の料理ごとの評価欄（最右図）に、センターキッチンから、全ての食材を別々に加熱調理するために加熱調理機械であるスチームコンベクションが不足し作業効率が悪く他の調理に支障がでるという意見がでた。また、ユニット・事業所からは、味がなじんでいなく薄い、食生活ステーションからは、食材を合わせる量が多いため、均等に混ぜられない、混ぜ合わせる作業が重労働になる、作業時間が長くなるために衛生的にも問題がある、と改善必要の意見が出された。

そこで、調理マニュアルを見直し、図8の右のように別々に加熱調理していたが、①食材を20人分ずつバットに混ぜ合わせて加熱調理し、②タレもバット単位の量（20人分）に小分けにつくり、③食生活ステーションでバットごとにタレを混ぜ合わせることにした。ピーマンは退色が避けられないので、前の方法で別加熱にして冷却し、盛付時に混ぜることにした。

その結果、センターキッチンではスチームコンベクションでの加熱時間を減らすことができ、他の調理作業に支障がでなくなった。利用者からは味が薄いという意見が出なくなった。ピーマンを別に加熱調理したことで、前法と変わらず見栄えについての意見も出なくなった。また、食生活ステーションでの重労働も減らすことができた。このように、情報が随時流れ、共有化が図られたことで早急に改善に取り組むことができ、作業の効率化や食事の質の向上につながった（評価が上がった）。

##### 4-2-3-2 さつま芋の甘煮

さつま芋の甘煮では、図9のようにさつま芋が灰汁で黒くなるのを防ぐために、鍋で煮る場合と同じく、主材料と調味料とだし（煮汁）を同分量で調理を行っていた。調理マニュアルの評価欄には、食生活ステーションより、煮汁が多すぎて配送時にバットからこぼれ衛生的に問題であるとの意見が出てきた。センターキッチンからは調味料の使用が多く、廃棄する調味料が多く費用面からも見直しが必要ではないか、との意見がでてきた。また、ユニット・事業所からは味はよいが若干水っぽいという改善が必要の意見がでた。

これらを反映し、調理マニュアルを見直した。調味料（煮汁）を半分に減らした。代わりにさつま芋が灰汁で黒くならないようスチームコンベクションでの加熱時にクッキングペーパーで覆い煮汁の対流で芋が空気に触れることを防ぐようにした。重ねて実験した結果、クッキングペーパーを用いなくても黒ずまないことが確認できた（芋によって水洗い、水さらしが必要な場合がある）。

結果、配送時に煮汁がこぼれる事もなく、調理面、食味の面、衛生面、経費面でも改善できた。また、加熱調理後冷却し保管している間にさつま芋が煮汁を含み、提供時の水っぽさがなくなった。調理マニュアル（帳票）に多職種が評価する欄を設けることにより、調理者側の都合のみや、喫食者側の都合だけでなく、多角的な視点から見直すことができた。結果として利用者やユニット・事業所の職員はそれぞれの料理がどのような方法で調理されているかが目で見てわかり、センターキッチンや食生活ステーションは具体的にそれぞれの料理にどのような要求がされているかがわかる。情報が共有化されることで、おいしく安全な食事提供をするためにどうしたらよいのかを、多職種間で同じ方向を向いて一緒に考えることができるようになると思われる。課題としては、調理過程が、調理者以外に、わかりやすい帳票にすることである。

#### 4－2－4 食事（弁当）づくり指示票（表7、表8）

食のセンター開設前、配食サービス事業の弁当の委託給食会社への発注は、食札と配食サービス食数表（表7）でしてきた。委託給食会社では栄養士・管理栄養士が食札から、さらに食種や食形態により細分化して、食数を確かめ調理師が弁当を作っていた。

しかし、食のセンターになって、主菜・副菜はセンターキッチンから届くが、食生活ステーションで炊飯し、みそ汁をつくり、料理全体を整えて弁当箱に盛り、食札と照合させて配送準備までをすることになった。表7では必要な情報が極めて少ない。そこで表8の食事（弁当）づくり指示票を作成した。票の構成は、①食事のイメージを共有できる整える弁当のメニュー・配膳図、②整える弁当の全体を把握でき、③食種に分類された食数、④調理するごはん、みそ汁の基本情報、⑤センターキッチンから届く主菜・副菜に関する情報、⑥そして、禁食がある方、同じごはんでもおこげはきつね色も嫌いな方など特別な配慮を要する方、誕生日（お祝に赤飯を提供）の方、を記す特別支援欄を設けた。この帳票は、栄養士・管理栄養士、調理師、調理員、配達員が共有する情報である。弁当は蓋をしてしまうため誤りを発見しにくく、誤った配達や未配達が生じれば、配食利用者には外出困難な方が少なからずおり、食事がとれないことになる。食生活ステーションでの弁当づくりには、活用する多職種間での正確な情報共有が不可欠であり、本票（表8）は良い評価を得ている。

#### 4－3 ユニットにおける食卓づくりと帳票の活用事例（図10、表9）

栄養士・管理栄養士、調理師、介護士などユニットの専門職者が、ユニットでの食卓づくりにおいてどのように帳票を活用しているかを事例としてみた。

M施設のKユニットでは、ユニットマニュアルより、10時までにはスタッフがご飯・粥の準備をすることになっている。体調がよい時は、利用者Dが米とぎをすることもある。実際は無洗米を利用しているが、その支援はケア計画書と食のアセスメントに依拠している。11時に、介護士はケア計画書の食事支援を確認する。利用者Dの体調がよい時は、ケア計画書と食のアセスメントを基に、利用者Dが食卓を拭くのを介護士は支援する。また介護士も利用者Dを見守りながら他の利用者へおしぼりを配り始める。介護士が手渡すと隣の席の利用者へ渡してくれる利用者もいる。利用者Dは、家族に話しかけるように介護に「今日のご飯のかたさはいいかな?」「テーブルを拭くからちょっと手をどかしてもらっていい?」などといいながら食卓を拭いており、自分の仕事としている。

食事を待つ時間を利用して足浴やりハビリが行われるが、ちょうど炊飯している時間に当たると足浴を支援するリハビリ担当（作業療法士）と「ご飯が炊けている香りがするね」「おなかがすいてきたね」等の話がでる。時には「昔は簡単にはご飯炊けなかったんだよ。小さいころは竈の番が私の仕事だった」など子どもの頃を懐かしみながらの話もでる。テレビを見ている利用者は、ご飯の匂いでもうすぐ食事ということがわかり、自分の席の前を食事できるように整えたり、おしぼりで手を拭いたりしてテレビをみながら待っている。

食生活ステーションの調理師が食事を運び、食事づくり票、食札、食アセスメントをみながら、栄養士・管理栄養士、調理師が、利用者に献立を伝えたり、体調の話をしたりしながらトレイメイクを行う。介護士も食事づくり票をみながらご飯をよそう。利用者の体調によりご飯からお粥に、利用者の希望によってお粥からご飯に等の変更や量の加減をする。その後、主菜もトレイにのせ、利用者の食事内容や食具があっているか食札ならびに食事づくり票にて確認後、献立を利用者に伝えながら配膳をする。栄養士・管理栄養士や調理師も配膳をおこなうが、普段の様子を知らない調理師も食アセスメントを確認し、利用者の好きな料理があると「〇〇さんの好きな煮豆をつくったので是非感想を聞かせてください」等の声掛けをする。その時に利用者から前回の食事の感想や食べたい料理などのリクエストがでることがあり、直接利用者の要望が聞くことができる。利用者Dからは、作り方などを教えていただくこともある。利用者が食事を始めると、介護士は食アセスメントにある利用者の好きな食べ物や体調面、生活暦（以前の職業）などを確認しているので、好きな食べ物の話をしたり、「体にいいよ」「便秘にいいよ」等利用者が気を付けている体調面からめて声掛けをしたりして食事を促している。

かつて、なかなか食べられない利用者が、ある工夫で食べられたという出来事があった。その工夫が食アセスメントに加筆され、支援するスタッフがそれを共有し、利用者においしく食事をしてもらえるようになった。介護士が食アセスメントの調査者になっている場合（現在は食育委員会の委員である）、利用者の様子を熟知し、生きがいや、食事づくり行動への参加意欲を大切にしたい支援ができていようだ。その点で、ケア計画を立てるためのアセスメン

トツールとして、本法人が採用している KOMI 記録システムと食アセスメントを合わせて実践できれば、より質の高い支援になると思われる。

#### 4－4 帳票類の評価（表4、表5）

帳票類の評価は、主に活用する職種に1回目は表4の細目版を用いて、30分程度のグループインタビューをした。しかし「設問がむずかしく、抽象的で分かりにくい」との意見が多数出され、特にa. 帳票類に求められる全体像、b. 「食のセンター」運営の中での位置付けについては、食のセンタースタッフ内でもその難解さが指摘された。そこで、重要な項目で理解しやすくその意味、内容が共有し合えそうな項目を（表現も検討し）大項目から1問づつ（aからは2問）取り出し、表5の簡易版（表5）を作成した。簡易版の評価票（表5）を用いたインタビュー方式は、1回目と同様で、おおむね同じメンバーに協力を要請して行った。

その結果、食事（弁当）づくり指示票を除き、いずれも検討箇所が複数挙げられた（表5中の△印）。最も要検討の解答項目数が多かったのは食事づくり票と食アセスメント票である。食アセスメントは管理上のことや形態面が主で改善は容易と思われる。食事づくり票は、b. 多職種間で連携しにくい、d. 情報が網羅されていない、e. 誰にもわかる用語が書かれていない、等である。食事づくり票は多職種が活用し、生きがいなどを生かしたその人らしく食事を楽しめるように食事支援に活用できる大切な帳票であり、これらの指摘を捉え、改善を図る必要がある。

#### 5. 考察と提案

食アセスメントの研究成果（4－1）を基に、高齢者がおいしく、安全で健康によい、そして環境にもよい食事を楽しめるように、生きがい、食事づくり行動の積極性を、食・栄養プランから、料理づくり、食事づくり、食卓づくりへと、多職種が関わりながらすすめる食のセンターの（食事提供の）システムに、どう生かしていくか、その過程で活用される帳票を介して情報面からみた。

システムが大きくなれば多様な職種が多数かわる。その中で目的を達成するには情報の共有化が重要になる。その情報は、専門職種が部分的にかかわって支援するケースがあるからこそ、食事提供の全体像が見えること、全体の中での位置づけ、役割が明確であること、そしてゴールがイメージできる情報の共有物が不可欠である。食事提供の各過程でかわる多職種が、ゴールとなる提供する食事を具体的にイメージできる、共有物としての帳票であることが求められる。

#### 6. 結論

研究Ⅱ 4－1 で開発した食事支援プログラムに基づき、食のアセスメントから食事づくり、食事支援に至る過程で多職種が共有する、新規に開発した食事づくり票を含む主な帳票9種の活用性を評価・検討した。その結果、8種の帳票に検討・改善の必要が示され、多職種が活用する食事づくり票も、多職種が連携しやすくなるような改善の必要性が示された。多職種が協働で進める本食事支援プログラムの充実に向けて、引き続き、実践を重ねつつ検討・改善をしていきたい。

#### 参考文献：

- 1）足立己幸・秋山房雄：食生活論，医歯薬出版株式会社 （2005）
- 2）健康・栄養情報研究会 編：厚生労働省平成23年国民健康・栄養調査報告，第一出版株式会社 （2011）
- 3）内閣府『平成24年版 高齢者白書』第2節高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向
- 4）小川正時：三六五日、医療・保健・福祉、そして人びとと，株式会社群羊社 （2012）
- 5）足立己幸・松下佳代：NHKスペシャル 65歳からの食卓～元気力は身近な工夫から，日本放送出版協会 （2008）
- 6）立松麻衣子・中山徹・藤井伸生・小伊藤亜希子・齋藤功子・田中智子：日本社会福祉協議会による毎日型配食サービスに関する調査―高齢者の食関連サービスの在り方に関する研究―（第一報），家政学会誌，55，885―894，（2004）
- 7）足立己幸・高橋千恵子・小川正時：マイゴール・マイサイズ・マイペースですすめる食からの生きがい・健康・地域づくり 共食手帳，p.26 （2008） 株式会社群羊社，東京



表1 食のセンター創設までの経緯(地域づくりプロジェクト、食のセンタープロジェクト会議他資料より)

|                | 年    | 月  | 理念・目標等の面                                                                                                                                                                                                                                                   | 食事づくり・サービスの面                                                                                                                                               |
|----------------|------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 食のセンター<br>構想の前 |      |    | 法人の活動において食を大切にする考えを当時の理事長が提起し、それに基づいた活動を開始<br>2001年から配食サービス事業の委託を受ける<br>2004年から共食の場「なごみ」を開始<br>2005年から(共食実践)研修センター開設<br>2005年から食育委員会・食のケア会議の設置<br>医療・福祉の中で「食」の役割、位置付けを検討しつつ、諸活動開始                                                                          |                                                                                                                                                            |
| 食のセンター設置準備期    | 2008 | 1  | 福祉・医療・保健・食の面から地域づくりを構想する<br>(地域づくりプロジェクト会議)                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                            |
|                | 2010 | 1  | 食のセンターの構想をする(食のセンタープロジェクト会議)<br>12の専門委員会、30名(兼任あり)のスタッフ、1/月回で32回開催<br>理念・目的・人材養成・地域との連携等についての検討<br><br>食事提供における食のセンターとユニット・事業所との連携のあり方の検討<br><br>建屋の構造・設備・什器・備品の検討<br><br>みなみかかげ旧厨房((現みなみかかげ食生活ステーション)の改修計画<br><br>みなみかかげ旧厨房(現みなみかかげ食生活ステーション)の設備・什器・備品の検討 | ・食事づくりシステムを検討<br>・新システム(クックチル)を採用<br>・新システムに対応したメニュー作成と食事づくりマニュアル・サービスの方法の検討<br>・新システムでの基本食事づくりマニュアルの作成(A)<br>・新システム・新食事づくりシステムに対応した設備・備品の検討<br>・新システムでの試行 |
|                | 2012 | 10 |                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                            |
|                | 2012 | 11 | おいしくて安全な食事提供を重視<br><br>従来の方法(クックサープ)での食事提供(2012. 11)<br>みなみかかげ食・生活ステーションの回収に伴い、仮設厨房で運営したため、11月は従来の中央配膳で提供<br><br>食・栄養支援センター→センターキッチン→食生活ステーション→ユニット・事業所で食事づくりが完成する新しいシステムの導入                                                                               | ・1日当たり1300食をつくり。提供<br>・(A)の再検討<br>おいしさ(味)、彩り、調理の作業効率の面等からの検討<br><br>新しいシステム(クックチル方式)による食事提供                                                                |
| 始動期            | これから |    | 理念や構造に基づき個々人の生きがい、ライフスタイル、健康、栄養を重視した食事提供をする                                                                                                                                                                                                                | ・サービス方法の検討<br>「出前」食事づくりサービス                                                                                                                                |

表2

センターキッチンで作る食事数(主菜・副菜)

2012年12月(31日)分

値:食

| 提供先                |                       | 食種        | 食種    |       |        |          | 禁食代替<br>※4 | おやつ   | 計      |
|--------------------|-----------------------|-----------|-------|-------|--------|----------|------------|-------|--------|
|                    |                       |           | 食形態   |       |        |          |            |       |        |
|                    |                       |           | 常・一口大 | 刻み    | 極刻み ※1 | ミキサー食 ※2 |            |       |        |
| 食生活みなみかぜ<br>ステーション | 特養グループ<br>ケアハウス<br>デイ | 9,927     | 3,155 | 1,107 | 391    | 1,293    | 279        | 4,860 | 21,012 |
|                    | 配食 ※7                 | 3,165     | 263   | —     | —      | —        | 63         | —     | 3,491  |
|                    | 地域 ※8                 | 160       | —     | —     | —      | —        | —          | 60    | 220    |
| 小規模多機能こもれび         |                       | 698       | —     | —     | —      | —        | —          | —     | 698    |
| 西部診療所<br>食生活ステーション |                       | 5,345 ※5  | 1,209 | 465   | 186    | 1,860    | 160        | 4,265 | 8,145  |
| 計                  |                       | 13,950 ※6 | 4,627 | 1,572 | 577    | 3,153    | 502        | 9,185 | 38,911 |

※1と※2は各食・生活ステーションで加工する。

※3、※4の形態は常食・一口大と刻みの2種

※5職員食630を含む

※6保存食、検食を含む

※7配食サービス事業

※8地域交流センター共食実践の場なごみ

表3

センターキッチンでの食事(主菜・副菜)づくりと配送

週5日稼働 (水・日休み)

|       |             | 月                | 火                     | 木                | 金              | 土                     |
|-------|-------------|------------------|-----------------------|------------------|----------------|-----------------------|
| 料理づくり | 下処理         | 金:夕<br>土:朝・昼・夕   | 日:朝・昼・夕<br>月:朝・昼      | 月:夕<br>火:朝・昼・夕   | 水:朝・昼・夕        | 木:朝・昼・夕<br>金:朝・昼      |
|       | 加熱          | 木:朝・昼・夕<br>金:朝・昼 | 金:朝<br>土:朝・昼・夕        | 日:朝・昼・夕<br>月:朝・昼 | 月:夕<br>火:朝・昼・夕 | 水:朝・昼・夕               |
| 配送    | 食・生活ステーションM | 火:昼・夕<br>水:朝・昼   | 水:夕<br>木:朝・昼・夕<br>金:朝 | 金:昼・夕<br>土:朝・昼   | 土:夕<br>日:朝・昼・夕 | 月:朝・昼・夕<br>火:朝        |
|       | 小規模多機能 ※    | 月:夕<br>火:朝・昼     | 火:夕<br>水:朝・夕<br>木:朝・昼 | 木:夕<br>金:朝・昼     | 金:夕<br>土:朝・昼   | 土:夕<br>日:朝・夕<br>月:朝・昼 |
|       | 食・生活ステーションS | 火:夕<br>水:朝・昼・夕   | 木:朝・昼・夕<br>金:朝・昼      | 金:夕<br>土:朝・昼・夕   | 日:朝・昼・夕<br>月:朝 | 月:昼・夕<br>火:朝・昼        |

※水・日曜日の昼食は自炊のため提供無し

表4 食事支援にかかわる帳票類の活用性についての評価票（細目版）

| 大項目                        | 中項目                                 | 小項目                        | 評価 |
|----------------------------|-------------------------------------|----------------------------|----|
| a.帳票に求められている全体像            | 食事支援内容の全体像※<br>多職種間が交流する意義や内容       | 情報の連携のしやすさ                 |    |
|                            |                                     | 情報共有のしやすさ                  |    |
|                            |                                     | 作業指示のしやすさ                  |    |
|                            |                                     |                            |    |
| c.「食のセンター」運営<br>の中での位置付や役割 | 情報共有のしやすさ<br>情報収集のしやすさ<br>作業指示のしやすさ |                            |    |
|                            |                                     |                            |    |
|                            |                                     |                            |    |
| d.情報量                      | 把握可能な範囲<br>必要情報の系統的構成と配列            |                            |    |
|                            |                                     |                            |    |
| e.情報内容                     | 理解のしやすさ                             | 必要な情報であること                 |    |
|                            |                                     | 共通用語の使用                    |    |
|                            |                                     | 用語の適正さ                     |    |
| f.記録性                      | 記入しやすさ                              | 簡便さ                        |    |
|                            | 保管しやすさ                              | ファイリングのしやすさ<br>情報の再構成のしやすさ |    |
|                            | 入力しやすさ                              |                            |    |
| g.サイズ                      | 扱い易さ                                |                            |    |
|                            | 簡潔性                                 |                            |    |
|                            | 適正なサイズ                              |                            |    |
| h.材質・強度                    | 破れにくい                               |                            |    |
|                            | 重くない                                |                            |    |
|                            | 他帳票との識別のし易さ                         |                            |    |
| i.見易さ                      | 認識のし易さ                              | 色                          |    |
|                            |                                     | 文字サイズ                      |    |
|                            |                                     | 文字フォント                     |    |
|                            |                                     | 文字間隔                       |    |
|                            |                                     | 印                          |    |
| j.費用                       | 対費用効果                               | 適正価格                       |    |
|                            |                                     | 簡易作成                       |    |
|                            |                                     | 簡易入力                       |    |

※ 簡易版のbの項目

表5 食事支援にかかわる帳票類の活用性についての評価票と評価結果（簡易版）

| 評価項目                | 評価            |         |     |     |    |        |      |              |          |         |  |
|---------------------|---------------|---------|-----|-----|----|--------|------|--------------|----------|---------|--|
|                     | 帳票共有者<br>帳票種類 | 調理マニュアル | 献立表 | レシピ | 食札 | 食事づくり票 | 食事伝票 | 食事(弁当)づくり指示票 | 検査票(検査簿) | 食アセスメント |  |
| 評価項目                | 利用者           |         | ●   |     | ○  |        |      |              |          | ●       |  |
|                     | 管理栄養士         | ●       |     | ●   | ●  | ●      | ●    | ●            | ●        | ●       |  |
|                     | 調理師           | ●       |     | ●   | ●  | ●      |      | ●            | ●        | ●       |  |
|                     | 調理員           | ●       |     | ●   | ●  | ●      |      | ●            | ●        | ●       |  |
|                     | 介護職           |         |     |     | ●  | ●      | ●    |              | ●        | ●       |  |
|                     | 看護職           |         |     |     |    | ○      | ●    |              | ●        | ●       |  |
|                     | 配達員           |         |     |     |    | ○      |      | ●            | ●        | ●       |  |
|                     | その他の職種        |         |     |     |    |        |      |              | ●        |         |  |
|                     |               | △       | △   |     | △  |        |      |              |          |         |  |
| a.食事支援がしやすい         |               |         |     |     |    |        |      |              |          |         |  |
| b.多職種間で連携がしやすい      |               |         |     |     | △  | △      |      |              |          |         |  |
| c.食のセンター内で情報交換がしやすい |               |         |     |     |    |        | △    |              | △        |         |  |
| d.知りたい情報が網羅されている    |               |         |     | △   |    | △      |      |              |          |         |  |
| e.誰にでもわかる用語で書かれている  |               |         |     |     |    | △      | △    |              |          |         |  |
| f.管理しやすい            |               |         |     | △   |    | △      |      |              | △        | △       |  |
| g.適正なサイズ            |               |         |     |     |    | △      |      |              |          | △       |  |
| h.破れにくい             |               |         |     |     | △  |        | △    |              | △        | ×       |  |
| i.見やすい              |               |         |     |     |    |        |      |              | △        | △       |  |
| j.費用は適正である          |               | —       | —   | —   | —  | —      | —    | —            | —        | △       |  |

※ 費用は適正であるの——は分からないと回答されたものである

表6 食事づくり票

〇〇ユニット

| 氏名 | 食種 | 食形態 | 主食  | 主菜    | 副菜1        | 副菜2    | 飲み物     | 食具    | 禁食  | 1(生きがい)    | 2(食卓づくりへの積極性) | 備考                           |                           | ステーション       |     | ユニット            |     |
|----|----|-----|-----|-------|------------|--------|---------|-------|-----|------------|---------------|------------------------------|---------------------------|--------------|-----|-----------------|-----|
|    |    |     |     |       |            |        |         |       |     |            |               | 食栄養支援センター<br>管理栄養士<br>栄養士    | センター<br>キッチン              | 栄養士          | 調理員 | 介護士<br>看護士<br>他 | 利用者 |
| 1  | 〇〇 | 〇子  | 常食  | 米飯110 | エビのチリソース炒め | ポテトサラダ | キウイフルーツ | 牛乳    |     |            |               | 食欲旺盛、お菓子を頻りに食べる。体重増加傾向       | 食栄養支援センター<br>管理栄養士<br>栄養士 | センター<br>キッチン |     |                 |     |
| 2  | 〇〇 | 〇枝  | 常食  | 米飯160 | エビのチリソース炒め | ポテトサラダ | キウイフルーツ | 牛乳    |     |            |               | 禁:肉(焼肉OK)、焼き魚、豆腐、厚揚げ、油揚げ     | 食栄養支援センター<br>管理栄養士<br>栄養士 | センター<br>キッチン |     |                 |     |
| 3  | 〇〇 | 〇〇子 | 常食  | 米飯110 | エビのチリソース炒め | ポテトサラダ | キウイフルーツ | ヨーグルト |     |            |               | 禁:パン                         | 食栄養支援センター<br>管理栄養士<br>栄養士 | センター<br>キッチン |     |                 |     |
| 4  | 〇〇 | 〇子  | 常食  | 米飯110 | エビのチリソース炒め | ポテトサラダ | キウイフルーツ | 牛乳    |     |            |               | 好きなもの、ごはん、梅干し、リハビリして、食卓を拭きたい | 食栄養支援センター<br>管理栄養士<br>栄養士 | センター<br>キッチン |     |                 |     |
| 5  | 〇〇 | 〇治  | 常食  | 米飯160 | エビのチリソース炒め | ポテトサラダ | キウイフルーツ | 牛乳    |     |            |               | 好きなもの、いなりすし、ハイナッブル           | 食栄養支援センター<br>管理栄養士<br>栄養士 | センター<br>キッチン |     |                 |     |
| 6  | 〇〇 | 〇〇子 | 軟菜食 | 米飯200 | エビのチリソース炒め | ポテトサラダ | キウイフルーツ | 牛乳    |     |            |               | 殆ど残さず食べ                      | 食栄養支援センター<br>管理栄養士<br>栄養士 | センター<br>キッチン |     |                 |     |
| 7  | 〇〇 | 〇〇子 | 常食  | 米飯120 | エビのチリソース炒め | ポテトサラダ | キウイフルーツ | 牛乳    |     |            |               | 残さず全量を食                      | 食栄養支援センター<br>管理栄養士<br>栄養士 | センター<br>キッチン |     |                 |     |
| 8  | 〇〇 | 〇〇子 | 軟菜食 | 全粥150 | エビのチリソース炒め | ポテトサラダ | キウイフルーツ | 牛乳    |     |            |               |                              | 食栄養支援センター<br>管理栄養士<br>栄養士 | センター<br>キッチン |     |                 |     |
| 9  | 〇〇 | 〇子  | 常食  | 全粥150 | エビのチリソース炒め | ポテトサラダ | キウイフルーツ | 牛乳    |     |            |               | 刻み食だが、差し入れのかりんとうは食べる         | 食栄養支援センター<br>管理栄養士<br>栄養士 | センター<br>キッチン |     |                 |     |
| 10 | 〇〇 | 〇〇子 | 常食  | 全粥150 | エビのチリソース炒め | ポテトサラダ | キウイフルーツ | ヤクルト  |     |            |               |                              | 食栄養支援センター<br>管理栄養士<br>栄養士 | センター<br>キッチン |     |                 |     |
| 計  |    |     | 常   | 8     | 常          | 4      | 飯       | 110   | 3   | エビのチリソース炒め | 10            | ポテトサラダ                       | 10                        | キウイフルーツ      | 10  | 牛乳              | 8   |
|    |    |     | 軟菜食 | 2     | 一口大        | 4      |         | 120   | 1   |            |               |                              |                           |              |     | ヨーグルト           | 1   |
|    |    |     |     |       | 刻み         | 1      |         | 160   | 2   |            |               |                              |                           |              |     | ヤクルト            | 1   |
|    |    |     |     |       | 極刻み        | 1      |         | 200   | 1   |            |               |                              |                           |              |     |                 |     |
|    |    |     |     |       |            |        |         | 全粥    | 150 | 3          |               |                              |                           |              |     |                 |     |
| 合計 |    |     |     |       |            |        |         |       |     |            |               |                              |                           |              |     |                 |     |

表7 配食サービス食数表(注文票)

| 月 日( ) 昼・夕 |   |
|------------|---|
| 総数         | 食 |
| 常食         | 食 |
| 禁食         | 食 |
| 中盛         | 食 |
| 小盛         | 食 |
| おかゆ        | 食 |
| プラ箱        | 食 |
|            |   |

表8 食事(弁当)づくり指示票 改訂後

配食サービス  
食事(弁当)づくり指示票

今日のメニュー

月 日( ) 昼・夕

ご飯

| 食事内容 | 食数  | 総数  |      | 備考 |
|------|-----|-----|------|----|
|      |     | 重箱計 | プラ弁計 |    |
| 主食   | ごはん | 普通  |      |    |
|      |     | 中   |      |    |
|      |     | 小   |      |    |
|      | かゆ  | 普通  |      |    |
|      |     | 中   |      |    |
|      |     | 小   |      |    |
| おかず  | 常食  |     |      |    |
|      | 一口大 |     |      |    |
|      | 刻み  |     |      |    |
| みそ汁  | 常食  |     |      |    |
|      | 刻み  |     |      |    |

炊飯

ごはん

A.米 kg 水 L

B.米 kg 水 L

C.米 kg 水 L

かゆ

米 kg 水 L

みそ汁

水 L だし g みそ g

主菜

ホテルパン 枚

副菜1

ホテルパン 枚

副菜2

ホテルパン 枚

もう一品

ホテルパン 枚

|      |      |   |   |   |   |
|------|------|---|---|---|---|
| 特別支援 | 禁食者  | ① | ② | ③ | ④ |
|      | 要配慮  | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
|      | お祝い他 | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ |

コメント

評価

部所

氏名(職種)

副菜1

副菜4

副菜3

主菜

副菜2

みそ汁

表9 ユニットにおける食卓づくり観察記録(事例) -1

| 食卓づくりの流れ |            | 利用者の行動        |                |          |            |         |      |      |            |            |            | 支援者の行動                          |                        |                |           |         | 個別支援と対応する帳票      |         |          |     |     |
|----------|------------|---------------|----------------|----------|------------|---------|------|------|------------|------------|------------|---------------------------------|------------------------|----------------|-----------|---------|------------------|---------|----------|-----|-----|
| 大項目      | 中項目        | 利用者1          | 利用者2           | 利用者3     | 利用者4       | 利用者5    | 利用者6 | 利用者7 | 利用者8       | 利用者9       | 利用者10      | フロア担当                           | 看護担当                   | リハ担当           | 介護(フロア交代) | 介護(主任?) | 栄養管理担当           | 調理・補助担当 | 介護士・ヘルパー | 献立表 | 食事表 |
| 11:15    | 食卓の準備      |               |                |          |            | 寝てる     |      |      |            |            |            | ○「もうじき食事だからね」とお手拭を配             |                        |                |           |         | 見守る              |         | ○        |     |     |
|          | お絞りの配布     |               | ○隣の利用者におしぼりを渡す |          |            |         |      |      |            |            |            | ○声をかけながら                        |                        |                |           |         |                  |         | ○        |     |     |
|          | 食事を待つ      | ○お茶をみながら足浴    | ○お茶をみながら足浴     | ○右腕のリハビリ | ○お茶をみながら足浴 |         |      |      | ○お茶をみながら足浴 | ○お茶をみながら足浴 | ○お茶をみながら足浴 |                                 |                        |                |           |         |                  |         |          |     |     |
|          |            | ○お茶をみながら足浴    | ○お茶をみながら足浴     | ○右腕のリハビリ | ○お茶をみながら足浴 |         |      |      |            |            |            | 10の本の片付け                        | ○1の足浴介助をしながお屋の献立について話す | 3と炊飯の話をしながらハバリ |           |         |                  |         | ○        |     | ○   |
| 11:20    | キッチンの整理整頓  |               |                |          |            |         |      |      |            |            |            | ○見守りながらキッチン回りを片付け・準備            |                        |                |           |         |                  |         |          |     |     |
| 11:25    | 声掛け        |               |                |          |            | 声掛けに応じる |      |      |            |            |            | ○「もうすぐ御飯ですよ」と声掛け 5の部屋に行き食事の声を掛け |                        |                |           |         | 介護職に食事の工夫や特徴を伝える |         |          |     |     |
|          | 口を濡らす      | ○足浴をしながらお茶をのみ |                |          |            |         |      |      |            |            |            | ○こぼしたお茶を拭く                      | ○溢したお茶を拭く              |                |           |         |                  |         | ○        |     | ○   |
|          | 清潔         |               |                |          |            |         |      |      |            |            |            |                                 |                        |                |           |         |                  |         | ○        |     |     |
|          | 食卓の席に座って待つ |               |                |          |            |         |      |      |            |            |            | ○5とご飯の話をする                      |                        |                |           |         |                  |         |          |     | ○   |

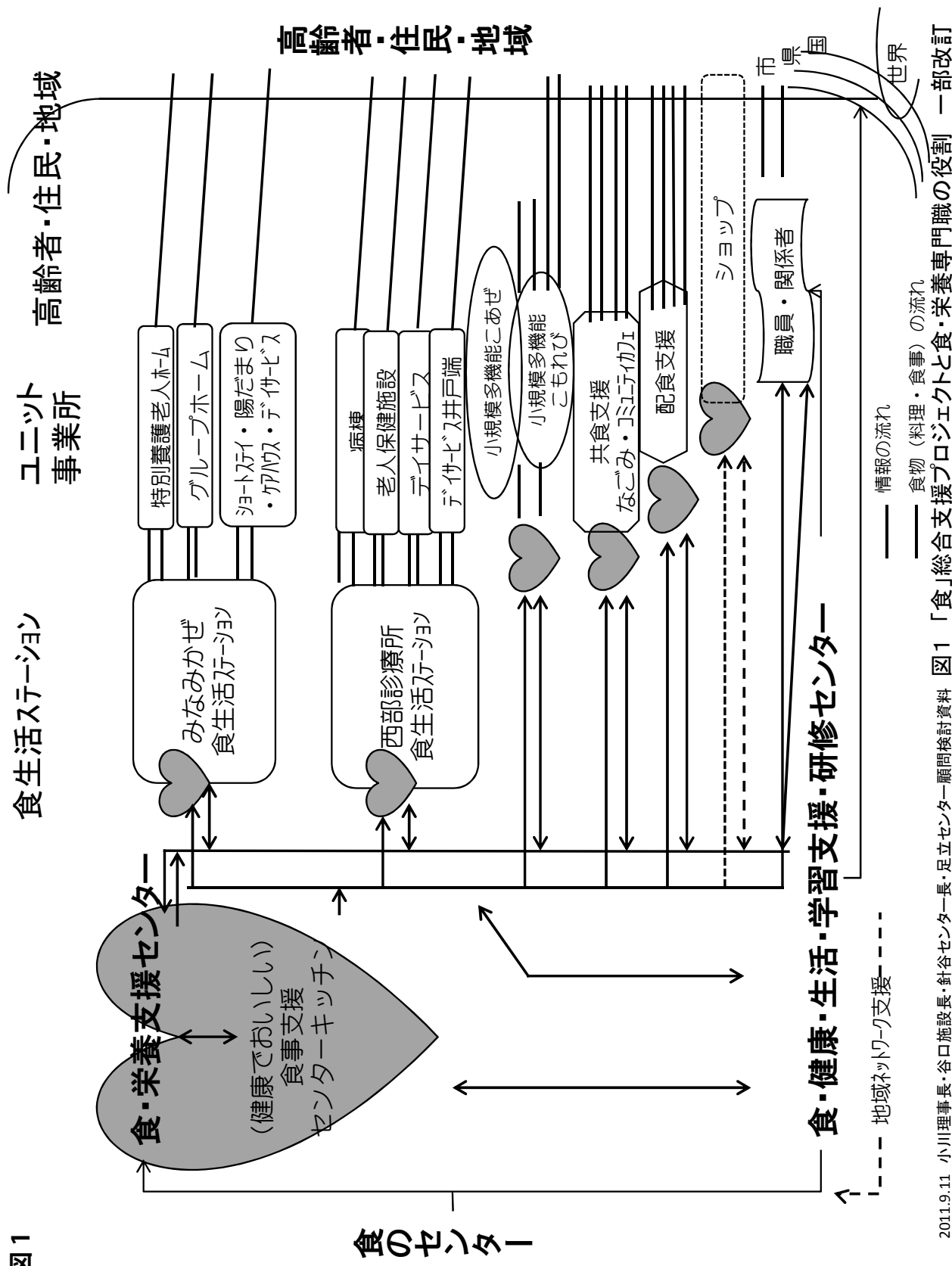
| 食卓づくりの流れ |                | 利用者の行動       |            |            |               |            |            |            |            |            |            | 支援者の行動                     |                       |         |           |         | 個別支援と対応する帳票 |                  |          |     |     |
|----------|----------------|--------------|------------|------------|---------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|----------------------------|-----------------------|---------|-----------|---------|-------------|------------------|----------|-----|-----|
| 大項目      | 中項目            | 利用者1         | 利用者2       | 利用者3       | 利用者4          | 利用者5       | 利用者6       | 利用者7       | 利用者8       | 利用者9       | 利用者10      | フロア担当                      | 看護担当                  | リハ担当    | 介護(フロア交代) | 介護(主任?) | 栄養管理担当      | 調理・補助担当          | 介護士・ヘルパー | 献立表 | 食事表 |
| 11:30    | 食卓づくり          | ○足浴が終了で座って待つ |            |            | ○テーブルを拭く      |            |            |            |            |            |            |                            |                       |         |           |         |             |                  |          |     |     |
|          | 清潔             |              |            |            | ○自分のテーブル前を整える |            |            |            |            |            |            | ○ご飯茶碗に御飯・粥を個々人の状態に合わせ量をよそう | ○足浴のハケツを片付ける          | 3に着席を促す |           |         |             |                  |          |     | ○   |
|          | ご飯をよそう         |              |            |            |               |            |            |            |            |            |            |                            |                       |         |           |         |             |                  |          |     |     |
|          | 飲み物をつぐ         |              |            |            |               |            |            |            |            |            |            |                            |                       |         |           |         |             |                  |          |     |     |
| 11:35    | 声掛け            |              |            |            |               |            |            | 声掛けをきく     |            |            |            |                            |                       |         |           |         |             |                  |          |     |     |
|          | 配膳準備           |              |            |            |               |            |            |            |            |            |            | ○トレイにされた台車をもってくる           | ○手洗い、マスクの準備           |         |           |         |             | ○接し献立を伝える        | ○        |     |     |
|          | 食事を待つ          | ○お茶をみながら足浴   | ○お茶をみながら足浴 | ○お茶をみながら足浴 | ○お茶をみながら足浴    | ○お茶をみながら足浴 | ○お茶をみながら足浴 | ○お茶をみながら足浴 | ○お茶をみながら足浴 | ○お茶をみながら足浴 | ○お茶をみながら足浴 |                            |                       |         |           |         |             | ○トレイにされた台車をもってくる | ○        |     |     |
| 11:40    | 主食、飲み物をトレイにのせる |              |            |            |               |            |            |            |            |            |            | ○トレイにご飯、牛乳をのせる             |                       |         |           |         |             |                  |          |     |     |
|          | 食事内容の確認        |              |            |            |               |            |            |            |            |            |            | ○利用者の食事内容があっているかを確認する      | ○利用者の食事内容があっているかを確認する |         |           |         |             |                  |          |     |     |
|          | 配膳する           |              |            |            |               |            |            |            |            |            |            | ○食れをとって利用者に配膳              | ○食れをとって利用者に配膳         |         |           |         |             |                  |          |     |     |
|          | 食べる身支度         |              |            |            |               |            |            |            |            |            |            | ○必要な利用者にエプロンをつける           | ○必要な利用者にエプロンをつける      |         |           |         |             |                  |          |     |     |

| 食卓づくりの流れ |     |                 | 利用者の行動  |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       | 支援者の行動    |                         |              |                          |                         | 個別支援と対応する帳票 |         |       |       |     |     |   |   |   |
|----------|-----|-----------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------------|-----------------|------|-------|-----------|-------------------------|--------------|--------------------------|-------------------------|-------------|---------|-------|-------|-----|-----|---|---|---|
| 大項目      | 中項目 |                 | 利用者1    | 利用者2    | 利用者3    | 利用者4    | 利用者5    | 利用者6    | 利用者7            | 利用者8            | 利用者9 | 利用者10 | フロア担当     | 看護担当                    | リハ担当         | 介護(フロア交代)                | 介護(主任?)                 | 栄養管理担当      | 調理・補助担当 | ケア計画書 | バイエル表 | 献立表 | 食事表 |   |   |   |
| 11:45    | 食事  | テレビの音量を下げ献立を伝える |         |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       |           |                         |              |                          | ○利用者に献立を伝え、テレビの音量を下げる   |             |         |       |       | ○   |     |   |   |   |
|          |     | 食事を食べる          | ○食事を食べる | ○食事を食べる | ○食事を食べる | ○食事を食べる | ○食事を食べる | ○食事を食べる |                 |                 |      |       |           |                         |              |                          |                         |             |         |       |       |     | ○   |   |   |   |
|          |     | 食事の見守           |         |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       |           |                         | ○10横に着       |                          |                         |             |         |       | ○     |     |     |   |   |   |
|          |     | 声掛け             |         |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       |           |                         | ○10横に着       |                          |                         |             |         |       | ○     |     |     |   |   |   |
| 11:50    |     | キッチン片付け         |         |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       |           | ○全体を時々見てキッチンの片付け        |              |                          |                         |             |         |       |       |     |     |   |   |   |
|          |     | 夕食の準備           |         |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       |           | ○夕食の御飯・粥の準備をする          |              |                          |                         |             |         | ○     |       |     | ○   | ○ |   |   |
|          |     | 食事時の団楽          |         |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       | 会話しながら食べる |                         | ○10と会話し食事を促す |                          |                         |             |         |       |       |     | ○   |   |   |   |
|          |     | 座席につく           |         |         |         |         |         |         | ○部屋からでて座席につく    |                 |      |       |           |                         |              |                          | ○6を部屋から連れてくる            |             |         |       | ○     |     |     |   |   |   |
|          |     | 食べられるか観察        |         |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       |           | ○6の状態観察し食事を食べるか判断       |              |                          |                         |             |         |       | ○     |     |     |   |   |   |
|          |     | 食事の身支度・介助       |         |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       |           | ○6におはようと声掛けしエプロンをつけ食事介助 |              |                          | ○10の食事介助                |             |         |       | ○     |     | ○   |   |   |   |
|          |     |                 |         |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       |           |                         |              | ○11に「ボ・トサ」は普通に「よい」等食事をする |                         |             |         |       |       | ○   |     | ○ |   |   |
|          |     |                 |         |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       |           |                         |              |                          | ○8「おいし                  |             |         |       |       |     | ○   |   | ○ |   |
| 11:55    |     | 声掛け             |         |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       |           |                         |              |                          | ○6について                  |             |         |       |       |     |     |   |   |   |
|          |     | 食事支             |         |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       |           |                         |              |                          | ○6に「ボ・トサ」は普通に「よい」等食事をする |             |         |       |       |     | ○   |   | ○ |   |
|          |     | 声掛け             |         |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       |           |                         |              |                          | ○8「おいし                  |             |         |       |       |     |     | ○ |   | ○ |
|          |     |                 |         |         |         |         |         |         |                 |                 |      |       |           |                         |              |                          | ○6について                  |             |         |       |       |     |     | ○ |   | ○ |
| 12:00    |     | 情報交換            |         |         |         |         |         |         | ○8と震災時の竹林が安全と話す | ○7と震災時の竹林が安全と話す |      |       |           |                         |              |                          | ○6に「ボ・トサ」は普通に「よい」等食事をする |             |         |       |       |     |     |   |   |   |

| 食卓づくりの流れ |          | 利用者の行動 |       |        |        |         |        |             |             |       |           | 支援者の行動 |      |      |                        |        | 個別支援と対応する帳票 |       |     |     |  |
|----------|----------|--------|-------|--------|--------|---------|--------|-------------|-------------|-------|-----------|--------|------|------|------------------------|--------|-------------|-------|-----|-----|--|
| 大項目      | 中項目      | 利用者 1  | 利用者 2 | 利用者 3  | 利用者 4  | 利用者 5   | 利用者 6  | 利用者 7       | 利用者 8       | 利用者 9 | 利用者 10    | フロア担当  | 看護担当 | リハ担当 | 介護(フロア交代)              | 栄養管理担当 | 調理・補助担当     | ケア計画書 | 献立表 | 食事表 |  |
|          |          |        |       |        |        |         |        |             |             |       |           |        |      |      | ○9に果物を勧め、8と会話しつづき食事の勧め |        |             |       |     | ○   |  |
| 12:05    |          |        |       |        | ○薬を飲む  |         |        |             |             |       |           |        |      |      | ○4に声掛けしながら投薬           |        |             |       | ○   |     |  |
|          |          |        |       |        | ○お茶を飲む | ○お茶を飲む  |        |             |             |       | ○話しながら食べる |        |      |      | ○10に声掛けしながら食事をする       |        |             |       |     | ○   |  |
| ごちそう様    | ごちそう様をする |        |       |        |        |         |        | ○ごちそう様 後部屋へ | ○ごちそう様 後部屋へ |       |           |        |      |      |                        |        |             |       |     | ○   |  |
|          |          |        |       |        |        |         |        |             |             |       |           |        |      |      | ○食べた利用者の食事を下膳          |        | ○           |       |     |     |  |
| 12:10    |          |        |       |        |        | ○高校野球の話 |        |             |             |       |           |        |      |      | ○5との会話                 |        |             |       |     | ○   |  |
|          | ごちそう様をする |        |       | ○ごちそう様 |        |         |        |             |             |       |           |        |      |      |                        |        |             |       |     | ○   |  |
|          | ごちそう様をする |        |       |        |        |         | ○ごちそう様 |             |             |       |           |        |      |      | ○5に声掛け                 |        |             |       |     | ○   |  |
| 12:15    |          |        |       |        |        |         |        |             |             |       |           |        |      |      | ○6を部屋に戻す               |        |             |       | ○   | ○   |  |
|          | 下膳・片付け   |        |       |        |        |         |        |             |             |       |           |        |      |      | ○食器・トレイ台車に戻す           |        | ○           |       |     | ○   |  |
|          | 声掛け      |        |       |        |        |         |        |             |             |       |           |        |      |      | ○9、10に声掛け              |        |             |       | ○   | ○   |  |
| 12:20    | 食器洗い     |        |       |        |        |         |        |             |             |       |           |        |      |      | ○食器を洗う                 |        | ○           |       |     |     |  |
| 12:25    | 声掛け      | ○歯磨き   |       |        |        |         |        |             |             |       |           |        |      |      | ○11に歯磨きの声掛け            |        |             | ○     |     |     |  |
| 12:30    | 下膳       |        |       |        |        |         | ○寝て食べず |             |             |       |           |        |      |      | ○6の下膳                  |        |             |       |     |     |  |
|          | 片付け      |        |       |        |        |         |        |             |             |       |           |        |      |      |                        |        |             |       | ○   | ○   |  |
|          | 食事終了     |        |       |        |        |         |        |             |             |       |           |        |      |      |                        |        |             |       |     |     |  |



1. 図



2011.9.11 小川理事長・谷口施設長・針谷センター長・足立センター顧問検査資料

2  
✕

食事も流れ

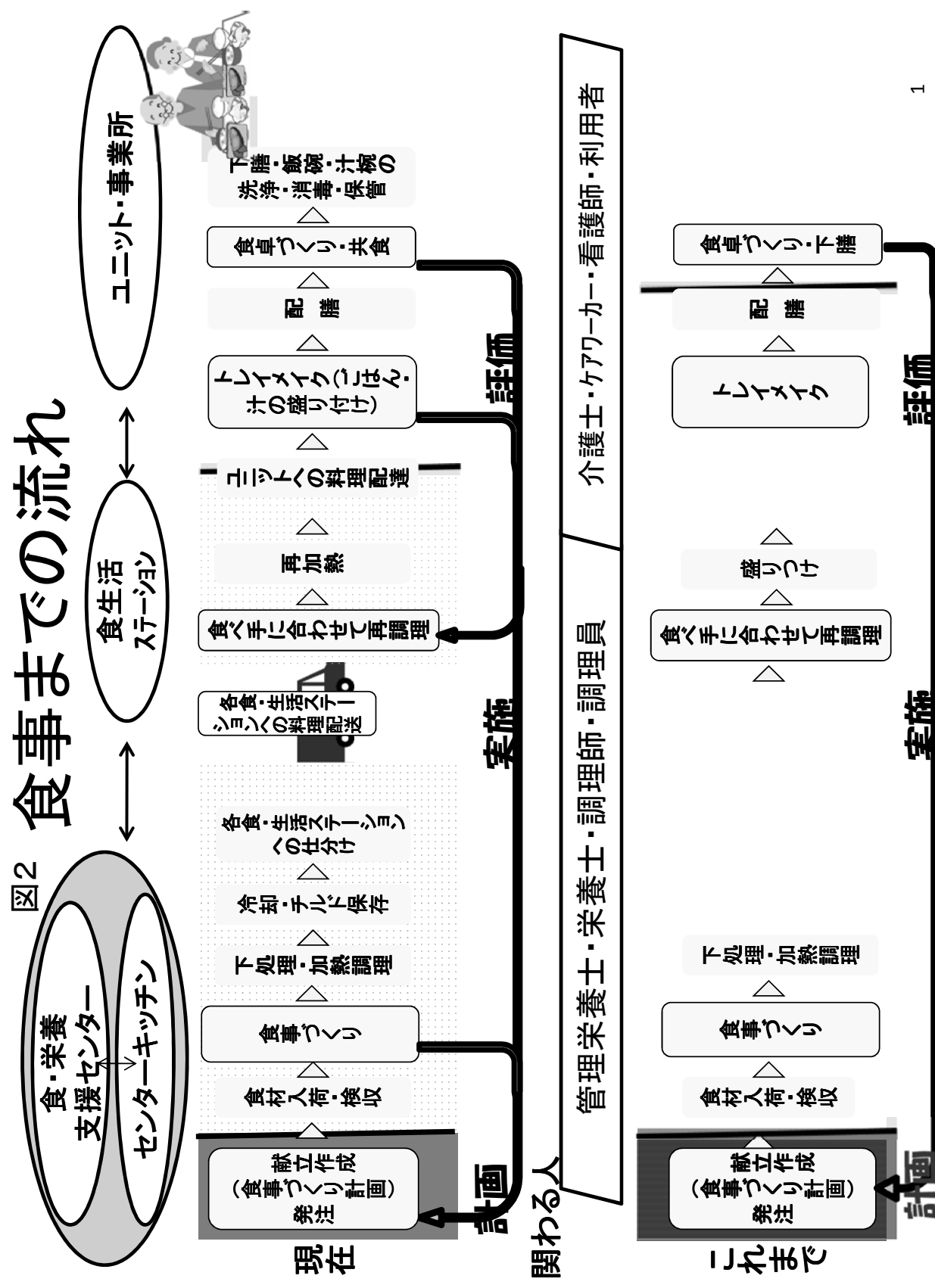


図3 食事提供の流れ(画像)



a. 今日の仕事の打ち合わせと、健康状態についての報告



b. 調理マニュアル等を活用したセンターキッチンでの食事(主に副食)づくり



c. 3℃まで急冷し、保管



d. 各食・生活ステーションからの注文に応じた



e. 食事票で食種をみながら盛りつけ作業をする



f. ごはん・かいゆの炊き方を見て、ユニットで炊飯する



g. メニューを見て温かい料理を再加熱する



h. 食事票を見てユニット別に料理を揃え、配膳カートに入れて運ぶ準備



i. 介護職と食札をみながらユニットでトレイメークする



j. 生きがいにつながっているテーブルを拭く利用者



k. 食札をみて利用者と情報交換する



l. コミュニケーションを取りながら食事支援をする(介護職)

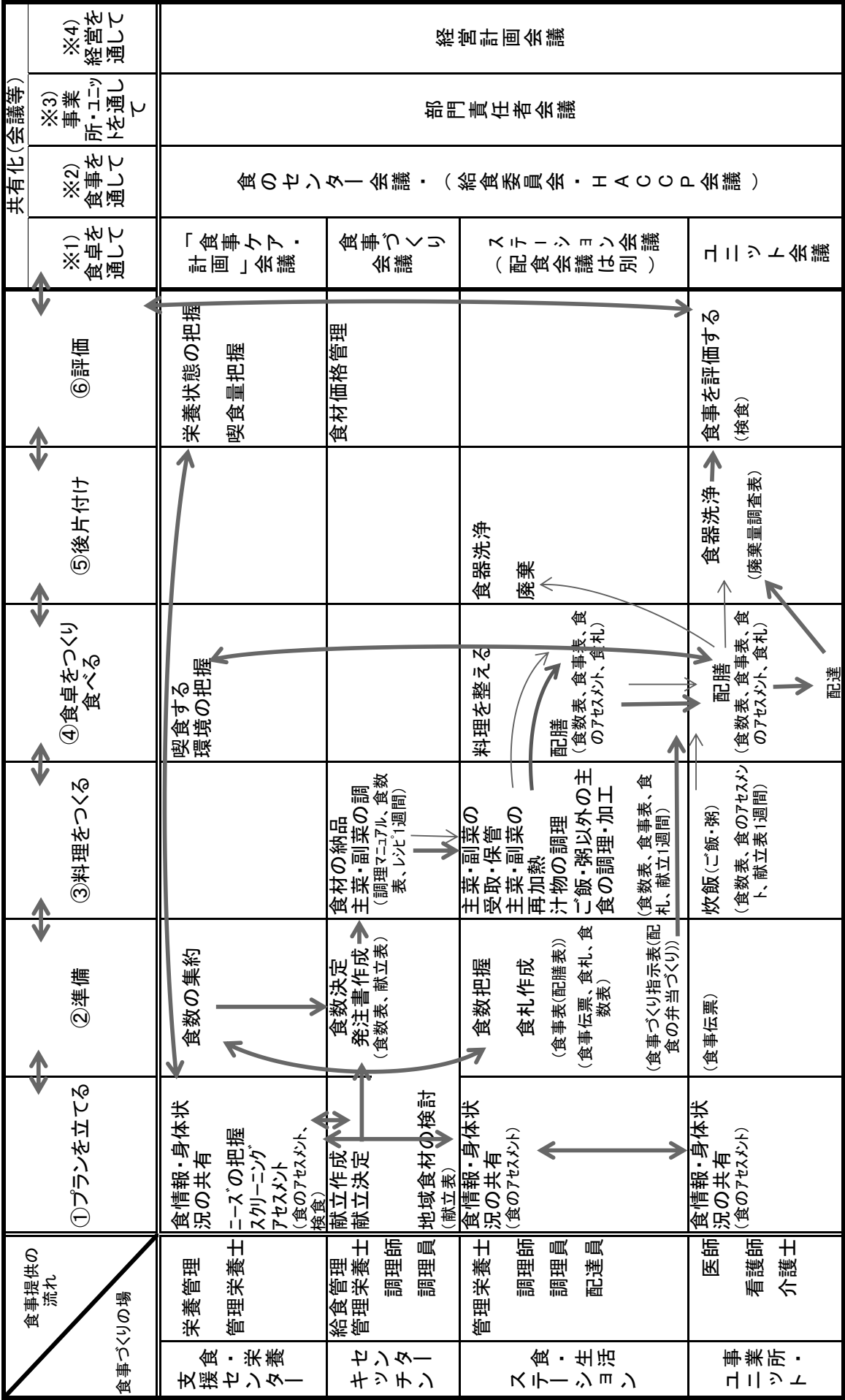


m. ユニットでの後片付けを支援する食・生活ステーションスタッフ



n. 食・生活ステーションでの洗浄・乾燥・消毒

図4 食事作りの情報の流れ(M施設の特別養護老人ホームを例に)



情報の流れ

図5 生きがい・食事づくりへの参加を生かした食事票(個人別)

[illegible]

**7**

食事について

食のセンターによる食料提供の新システムでは、ユニットでも食料づくりに関わった場面が多くあります。ここに挙げた基本情報を利用して、利用されている皆さんが食料の場面で生き生きとそれぞれの方らしく選べる工夫を見つけてください。

くたい。＜食事の提供時間＞

朝食12:00 おやつ15:00 夕食18:00

## ＜献立・配膳の位置＞

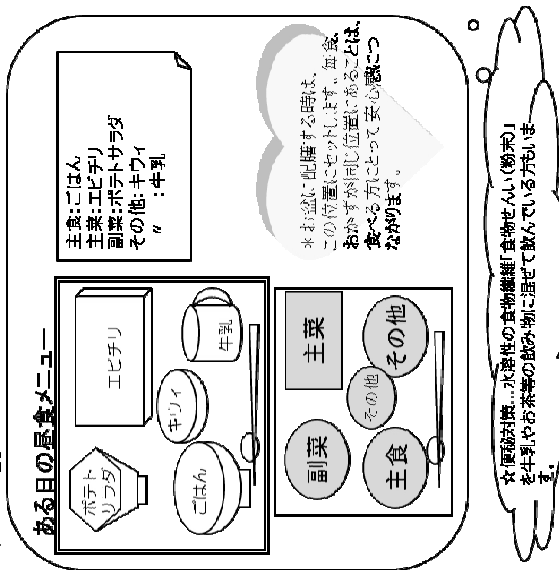


図6 これまで活用してきた食札

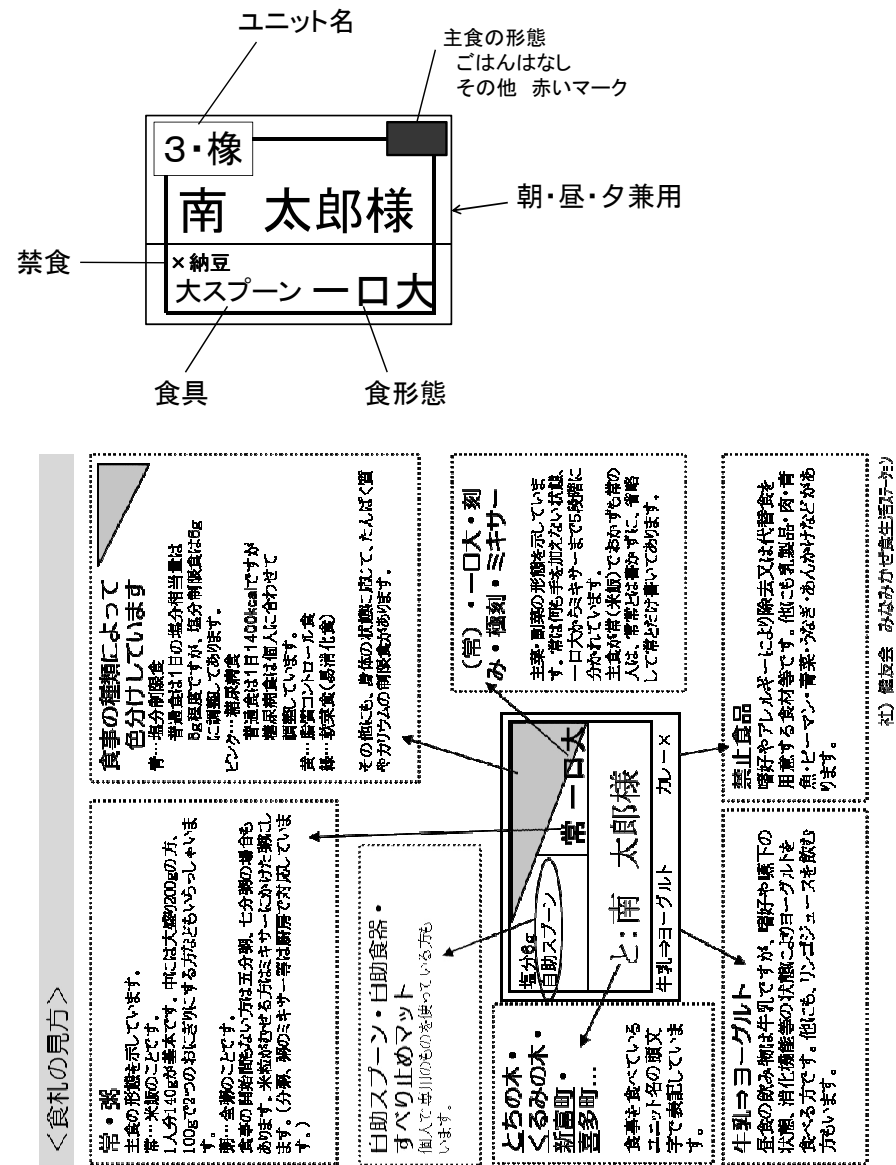


図8 主菜・炒め物 回鍋肉 (主に作業効率面からの検討)

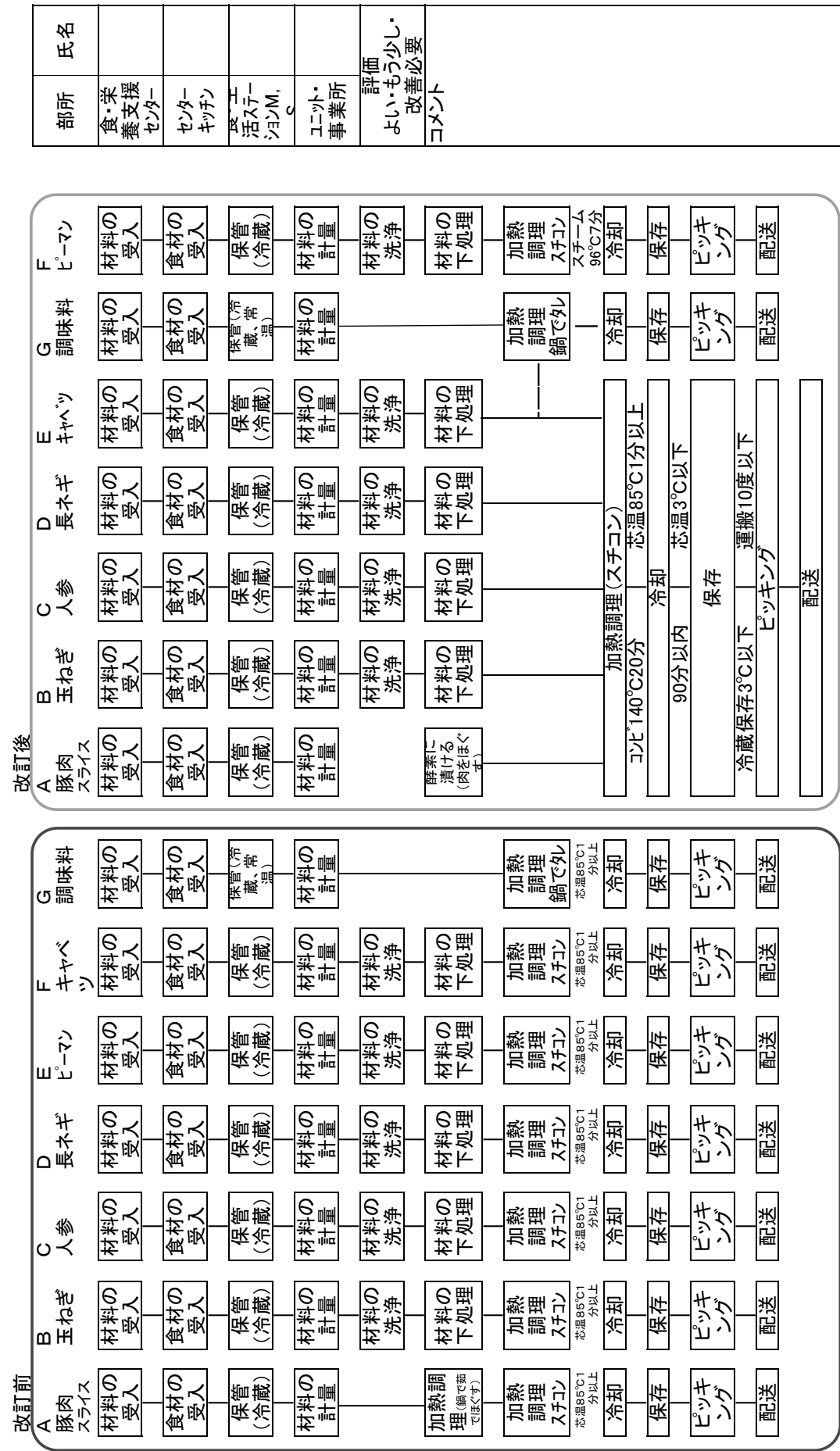


図9 副菜・煮物 七つま芋の甘煮（主に味の面から検討）

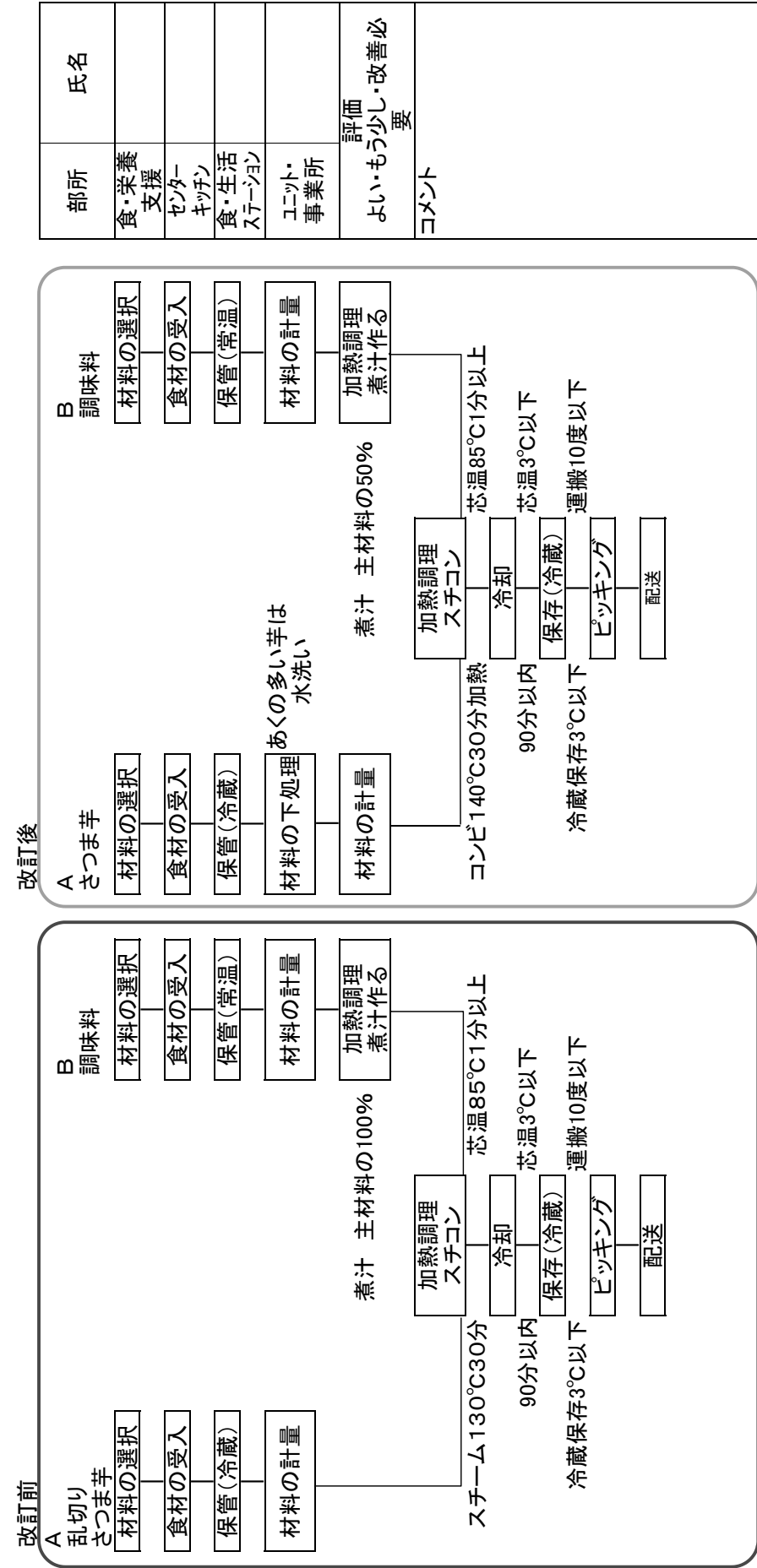


図 10 食卓づくり・食事の様子（画像）



a. 介護士がケア計画書で食事支援の確認をする



b. 食卓を拭いて食事の準備



c. 食札を見ながら栄養士、調理師がトレイメイクの準備。介護職に食事の説明



d. トレイメイクされた食事を、介護士は担当するユニットの利用者さんに運ぶ



e. ユニットでの食卓・食事の様子



f. 介護士の支援も受けながら食事をする

Ⅲ

「食からの地域包括支援のあり方」検討の枠組みと、その検討のために地域高齢者を含む関係者で共有できる教材（ワークシート）の開発

研 究 者：足立己幸  
研究協力者：谷口友子、K 法人職員全員

＜研究の概要＞

分担して進められた他の研究事業成果をふまえ、「食からの地域包括支援のあり方」検討の枠組み、並びに地域高齢者を含む関係者と共有し、検討を深めるための教材（ワークシート）を提案した。

具体的には次の手順で進めた。（カッコ内は主な方法）

- ①目的的背景となるこれまでのK 法人の福祉活動のコンセプトから、検討の枠組みを作成し研究員全体ミーティングでの議論を経て、枠組みとワークシート案 1 を作成した。
- ②ワークシート案 1 について、地域高齢者の使用ニーズや使用可能性を検討し、一部修正し、ワークシート案 2 を作成した。（地域交流センター運営委員会委員等 6 グループのメンバー、延べ 82 名を対象に 12 回の半構造的インタビュー）
- ③「みなみかぜ夢のフォーラム：食からの地域包括支援を考える」を開催し、多様な健康状態やライフスタイルの地域高齢者約 70 名が参加した。 本研究事業で明らかになった食からの地域包括の必要性と可能性について各研究者が報告し、参加者と食支援へのニーズ並びにワークシート案 2 の利用可能性について意見やアイデアを交流した。（カードを用いた言語統合法のグループワークと全体討論）
- ④以上について総括し、食生態学の「地域・高齢者・食物の循環図」をベースにした検討枠組みと、“私たちの地域にこんな共食の場がほしい” のマップを描いてみましょう（ワークシート）を作成した。

Ⅲ－1 研究の背景：

K 法人の活動について、研究者足立己幸（以下、研究者）が直接的に関わり実施した“ 高齢者にとって望ましい食生活支援の試み ”へ食生態学理論適用の経緯

1）地域交流センターなごみ開設準備での討論

平成 16 年、K 法人の前理事長小川正時医師（以下、OS 理事長）から、“ 福祉施設の活動を地域に開放するにあたって、食をどのようにとらえるか ”の相談を受けた。地域における人間と食物の循環的な関係を示す「人間・食物・地域（食環境）とのかかわり」（図 1）とそのみなみかぜ高齢者版ともいえる「高齢者の食生活と食環境の視野」（図 2）を描きながら討論をした。地域の視野をどの範囲にするか、心身の健康状態が多様で個人内の変化もしやすい高齢者の特徴をふまえてどう把握するかが、課題になった。

2）地域交流センター内研修センター開設準備における食教育プログラム形成と職員研修の実施

K 法人では新人研修に加えて「全職員研修」や課題別研修を毎年開催している。食は福祉活動にとってすべての部門で必須であるから、その基礎から現実の活動までをつなぐ内容の研修が必要であるという OS 理事長の考えで、関係職員全員に終日 2 日間の研修が実施されることになった。人間にとって食とは何か、食をどうとらえるか、地域と食生活とのかかわり、その人にとって望ましい食事とは、その人にとって適量の食事をどう把握し、準備し、サービスするか等をベースに、高齢者の食事の特殊性「高齢者にとって食事は」について、からだの要求、心の要求への充足に加えて、自己表現・自己実現のもっとも身近で、日常的なチャンスであることを強調した（図 3）。その人にとって適量の 1 食づくりの基本については、筆者らが開発し、食生態学的主要教材として全国的に活用されている「3・1・2 弁当箱法」のマニュアル（図 4-1、4-2）と実習（参加職員自身の事例で）を行い、会食し、食の大切さを実感し合った。この研修を通して、生活支援にとって食が重要であるにもかかわらず、栄養生理レベル、食行動レベル、食環境レベルとそれらの関係性についての情報共有がされていないこと（各専門教育の中で学ぶ機会を得ていないこと）、並び



にこの視点で地域に居住する高齢者の食生活の現状が把握されていないことが浮き彫りになった。

### 3) 地域高齢者の食生態調査(連続1か月食事調査を含む。学習会による介入調査)の実施

当時、新介護保険制度の下、居宅高齢者の食事管理能力の充実が重要視され始めていた。地域高齢者にとって楽しく、無理なく、いきいきと実践し、セルフチェックしながら進める教材作成の基本資料とする目的があった。OS 理事長、NPO 法人食生態学実践フォーラム特別研究員高橋千恵子管理栄養士と研究者の共同研究として、地域包括支援センターをはじめ法人職員の全面的な協力を得て実施した。

地域内に居住する 65 歳から 85 歳の高齢者男女 29 名について、連続する 1 か月間の食事内容と関連する食行動、健康状態、ライフスタイル等に関する、知識・態度・行動の各レベルの質問を含む膨大な質問について戸別訪問による質問紙調査とインタビュー調査であった。

その中の一部が共食マップ(図2の個人版)であった。訪問は担当のケアマネージャーまたは相談員と管理栄養士の組み合わせで実施した。分析の結果、食に関する関心・態度は積極的な人が多く、本調査を楽しく受け止めた人が 96.3%を占め、他の友人等への広がりを希望する人が 63%であった。しかし、食事パターンが固定している人が少なくなく、その結果エネルギー・主要栄養素摂取量の著しい不足または過剰問題が浮き彫りになった。

また、食事づくり行動(図5)についての認識が狭い。狭義の料理づくりに矮小化し、作りだす食事を構想する行動や食べる人の準備を含めた食事づくり行動を含む一連の行動として認識されていないことも明らかになった。

### 4) ワークブック「共食手帳」の制作と活用

前記3)の結果をふまえ、高齢者の食生活を共食・孤食の視点で問い直した「65 歳からの食卓」(足立己幸ら著)の資料を活用して、高齢者や関係者が食生活について自己学習しやすいワークブック“マイゴール、マイサイズ、マイペースですすめる、食からの生きがい・健康・地域づくり共「食手帳(足立己幸・小川正時・高橋千恵子著)(図6.以下、共食手帳)を発刊した。執筆にあたって、主要なページについて前項3)の食生態調査参加者に使用者の観点で意見を出してもらい、修正を加えた。

食環境の図は“私の共食マップ”(図7)に、生きがいについては“私の生きがいはこれ!こんなくらしがしたい!”(図8)に、健康チェックは“からだの全身→部分チェック!”とし、全ページを通して全体(現実)から部分へ、そして全体に戻って評価する……と進む認識法を重視し、日常行動の進み方とより近い方法へと工夫した。

共食手帳は、前項3)の参加者の食生活学習会、栄養・食・健康づくりの専門家研修会で活用されている。

さらに医療法人西部診療所井戸端通所介護の開所にあたって、“障害のある人もその人の健康状態等に見合ったやれることや強みを見出し、分担し、他の仲間と共「食」する”コンセプトで、食のプログラムを作成した。共食手帳 25 ページの“マイサイズの食事を活かした共食のすすめ”(図9)を拡大コピーして壁に貼り、高齢者が役割分担を決め、昼食の準備をするプログラムであった。

### 5)「食のセンター」構想の基本枠組みづくり

本項1)に記した地域交流センターなごみ開設時から、「食のセンター」構想の議論が始まっていた。地域に生活する高齢者が、健康状態が変化し、生活支援の形態が変更し、または他の施設等に移動しても継続して使用できる“一人の人間として、人間らしい食生活が保障される”、生涯を通した健康・生活支援プログラムが必要であると考えたからである。そのための食・生活支援は施設やユニット毎でなく、介護保険制度の利用・非利用にかかわらず、しかるべきところで総合的・系統的に情報管理され、最適の支援プログラムやプランが作成され、その具体的支援も最良のチームワークですすめられるべきであり、その食部門の拠点(食物と食情報の両側面の統合をする拠点)は「食のセンター」(仮称)であると話し合ったのだ。

「365 日、医療・保健・福祉、そして人びと」(小川正時著)の企画・編集にあたって、これまでの議論を総括し、K 法人と医療法人西部診療所の重なるの部分に「食のセンター」を位置づけたのが図「社会福祉法人健友会と医療法人西部診療所と人びとと地域とのかかわり」である(図10)。

以上ほぼ10年にわたる議論や実践の繰り返しで育まれた土壌の中で、今回の研究事業を企画したことになる。し

かしこの図は法人から地域を見下ろす形にみえるので、このままでは「食からの地域包括支援」の在り方を検討するのには使うことはできないと考えた。

### Ⅲー2 研究目的

分担して進められた他の研究事業成果をふまえ、「食からの地域包括支援のあり方」検討の枠組みと、地域高齢者を含む関係者で共有し、検討を深めるための教材(以下、ワークシート)(図11)を提案することである。

具体的には、

①目的的背景となるこれまでのK法人の福祉活動のコンセプトから、検討の枠組みと研究班全体ミーティングでの吟味を経て、枠組みとワークシート案1(以下、ワークシート案1)を作成し、研究員全体ミーティングで内容の吟味をする。

②ワークシート案1について、地域高齢者の使用ニーズや使用可能性を検討し、ワークシート案2を作成する。

③「みなみかぜ夢のフォーラム：食からの地域包括支援を考える」を開催し、多様な健康状態やライフスタイルの地域高齢者に、本調査事業で明らかになった食からの地域包括の必要性と可能性について報告し、参加者と食支援へのニーズ並びにワークシート案2の利用可能性について意見やアイデアを交流する。

④以上について総括し、「食からの地域包括のあり方」検討の枠組みと、検討を深めるための教材(ワークシート)を提案する。

以下、①から④の順に具体的な方法と、結果について記述する。

### Ⅲー3 目的① 研究事業担当者(以下、研究者)ミーティングでの討論とワークシート案1の評価

方法：全体ミーティングは①研究事業課題の共有と役割分担、②研究事業実施プロセスと課題解決の検討、③ワークシート案3を用いた「夢のフォーラム」開催要領の共有と分担、④これらを含む研究事業の総括について、8回実施した。②と④について、埼玉県及び川越市の健康・栄養行政の計画・実施・評価を専門とする女子栄養大学田中久子教授(公衆栄養学)と、認知症高齢者の食支援の方法論に関する実践的研究をすすめてきた日本女子大学高増雅子教授(家庭科教育学)をコメンテーターとして、討論の質を高めた。

全体ミーティングでの討論を受けて、各研究グループはグループミーティングを実施した。研究Aは16回、B-1は13回、B-2は19回、Cは8回と記録されている。必要に応じて研究者が参加し、研究事業全体の観点から発言を深めた。本研究事業の他の研究者たちは全員が日常的に同じ場所で仕事を進めている職員同士なので、ミーティングの形式を整えない情報交換がより多く行われたことは、言うまでもない。

結果：ワークシート案1は、地域高齢者による使用可能性や有用性の検討にふさわしい内容と表現法であると評価された。同時にインタビューは半構造的インタビューとし、質問の焦点を明確にするために、質問票を作るなどの工夫が必要であることが付記された。

### Ⅲー4 目的② ワークシート案1について、地域高齢者の使用ニーズや使用可能性を検討し、ワークシート案2を作成する

方法：情報収集の協力グループは主として、次のとおりである。それぞれの食へのかかわりに対応する質問カードとワークシート案1を配布し、半構造的インタビューで進行了た。インタビューは研究者と平成18年「高齢者の食生態調査」の調査員として地域高齢者についての理解が深いNPO法人食生態学実践フォーラム理事高橋千恵子管理栄養士が担った。

#### A 地域交流センター運営委員会委員；

委員会終了後に話し合いの時間を特設した。参加委員はK法人評議員、元みなみかぜ職員、患者会代表、民生委員、地元農家、ボランティアグループ代表、現職員等22名。時間中に発言できなかった内容については、コメントカード

を配布して後日届けてもらった。または個人インタビューを行った。

B 平成 18 年に実施した「高齢者の食生態調査」の参加者；

1 か月の食生態調査とその後の学習会(調査終了後、参加者が自発的に“食と健康の会”を作り、(その後再編成し、(すこやか食の会と改名し、研修センター食事づくり実習室を活用して) 定例での学習会を行っている。研究者は数回にわたって講師等を務め、相互の信頼関係が形成されているので、率直な厳しい意見や建設的な意見が出ることが期待された。

- i) 全員研修会：22 名の参加であった。学習と会食の終了後、質問票を配布し、自由に意見を交換した。
- ii) 小グループインタビュー：3 回実施した。1 回目は 3 名（うち 1 名の自宅へ訪問）、2 回目は 2 名（みなみかぜ研修センター多目的室）、3 回目は 2 名（同左）で、いずれも約 90 分の和やかなインタビューになった。

C 地域交流センターの畳部屋を利用している体操クラブメンバー；

毎週定期的にリハビリを兼ねた体操指導を受けているグループ。なごみが開店しない水曜日が活動日なので、帰路一般食堂で昼食をしていることに疑問を持っている会員がいるとの情報を得た。なごみの水曜日開店の必要性と可能性を確認することを質問に入れた。12 名全員が質問票を使ったインタビューに応じた。

D 前記 B メンバーが所属する H 老人会の役員たち；

H 老人会は団地集会所を拠点にして、地域の独居高齢者たちの食事サービスを含む積極的な活動をしている。2 回実施した。1 回目は女性の役員 3 名と活動内容について広範囲のインタビューをした。そこで要請を受け、2 回目は役員 12 名が土曜日になごみでの共食会を開いた。男女あわせて、12 名のにぎやかな会食で、次の総会（花見を兼ねる）の日の昼食提供を「食のセンター」へ注文することが決まった。

E なごみ開店日に、月 1 回程度に合流しコーヒーコーナーを開設している大学生グループ（ソレイユ）；

若い世代から見た高齢者の食事の営み、とりわけ共食について、調査票を用いた構造的インタビューを行った。質問はなごみ共食会全体について、ソレイユの活動について、共食場をもっと作りたいか、の 3 点から構成した。担当学生 4 名（なごみ共食会に出入りしている全員）が参加した。

結果：いずれのグループもインタビューはスムーズに進行し、多様な意見が交換された。なごみ共食について、あらたな検討が必要な事項として、食事内容について選択可能な方法の導入、他のグループ活動への積極的な食支援（活動の場へ共食の場をつくる）、不便なアクセスの改善、活動内容の広報、これらを含めてコンセプトの再検討とそのための多側面から検討できる小委員会設置等である。

インタビューはワークシート案 1 をインタビュアーと協力者の間においてすすめたので、話題に登場する施設やグループを指でさしながら話す場面も多く、“地域”の認識について共有ができ、有用であった。

しかし、地域に生活する高齢者のほぼ 60% 以上が在宅で生活している現状から、ワークシート案 1 は在宅者が記入するスペースが狭いことが懸念される。

直接のデーターは公表されていないが、推計すれば、平成 24 年度川越市の高齢者数は 76663 人、介護保険認定者数は 10874 人（高齢者全体の約 14 %）、居宅サービス利用者は 7889 人（同じく約 10 %）、施設サービス利用者は 1778 人（同じく約 2 %）になる。高齢者のほぼ 80% は居宅であることになるので、ワークシートの面積のほぼ 80% を居宅高齢者が使えるようにする必要がある。このことからワークシート案 2 にこの点を加える必要があると、考察された。

主な意見やアイデアは次のとおりであった。

○食事内容

- ・自分たちの 1 食の適量がわかり、いつの間にか目で分かるようになりそうだ。
- ・ごはんが多すぎるが、栄養学的には適量とのこと、からだの方が近代的になってしまったらしいので、回数を重ね

るうちに、体が慣れてくるだろう。

- ・味が薄い。少なくとも 1 品、漬物や佃煮がほしい。でも塩分制限も必要だから仕方がないか。
- ・若い人、孫と一緒に来たいがメニューが年寄り用だけなので嫌がる。途中のコンビニでいなりずしや弁当を買って持ち込んで食べたことがあるが、長続きしなかった。カレーとかうどんとか、簡単な料理でよいからあるとよい。
- ・人数が多い時には、メニューの注文ができるとよい。

○マイ茶碗選び

- ・きれいなごはん茶碗がたくさんあるので、うれしい。たのしい。
- ・友人や家族と一緒に選ぶときは比較をしながらなのでよい。
- ・折角選んだごはん茶碗が自分にとって適量のサイズなのかを知りたい。ごはんの盛り付けも担当者によっていろいろだが、意味があるのか。
- ・弁当箱も選択肢の中にあると面白い。

○サービス

- ・ボランティアの人にやってもらって申し訳ないが、友達や家族とゆっくり話ができるのでありがたい。
- ・運ぶことは自分でやってもいい。
- ・みなみかぜで生活している家族と安心して会食ができるので、大変ありがたい。デザート等を交換して食べている。
- ・コーヒーがある時は全体が自由の雰囲気になる。若い学生がいることもうれしい。
- ・「いっしょにいいですか？」といって同じ席に座ってくれる人がいるので、うれしいな。

○食事相談等

- ・やってくれるの？知らなかった。
- ・何を相談できるかを出して欲しい。
- ・キッチンで食事を準備している人と作り方などの話がしたい。
- ・職員の人も来ているので、ネームカードを付けてほしい。専門がわかるといういろいろ訊きたいこともある。
- ・どんなことを相談できるのか、説明文があると相談しやすいだろう。
- ・食事の時に軽く相談して、後ゆっくり相談できる仕組みがあるとよい。

○野菜や日用品の販売

- ・野菜は新鮮で安心だ。
- ・野菜を販売していることは道路からわかるが、売り切れかどうかとも遠くからわかるように旗などで知らせてほしい。
- ・日用品の品質が悪いこともある。チェックをしてほしい。

○開店日や時間

- ・土曜日だけでなくもう一日ぐらいあるとよい。
- ・週末は他の行事と重なることが多いので、週 2 回ぐらいあるといい。
- ・水曜日あたりに開いてほしい。

○会食・人間関係

- ・家族が気楽にいっしょに食べられるのでありがたい。
- ・大学生もいっしょの日はうれしい。
- ・初めて高齢者といっしょに食事をして、いろいろ発見があった。うれしかったというより、考えさせられることが多かった。
- ・初めて高齢者と食事をして、沢山しゃべった。また食べたい。
- ・みなみかぜの職員さんといっしょに食事ができてうれしかった。いつもは聞けない話も出来た。食事の時だからこそ。
- ・施設利用のお母さんと息子さんが毎週いっしょに食事をしているという話を聞いて、うらやましくなった。ここに入所できたら、そうしたい。
- ・この部屋が広くて明るいので良い気持ちになる。友だちの誕生会をしているグループを見て、これがなごみのすがただと、感動した。

○場所・アクセス

・歩いて来れない人のために、開店時間に合わせて送迎バスを出して欲しい。

・すぐ前に駐車場や駐輪場が必要。

○なごみについての情報提供

・地域で知らない人がほとんどだ。

・地域交流センターが関わっている他の活動との連絡も悪い。他の活動グループがなごみの開店日に別の部屋で食事を作り会食をした例もある。いわば身内の活動との連携が悪い。

・みなみかぜの中にもポスターを張る、チラシを入れる。

・人が集まる公民館、集会所、コンビニ、スーパー、駅等にポスターを張る。

・地域の様々な組織に定期的にチラシや紹介文を出す。

・ホームページの活用。メニュー等をいつも更新する

・地域交流センター運営委員会で担当委員を決めるとよい（なごみ担当または広報担当）。

○なごみのコンセプト

・地域包括の視野・視点にシフトするなら、発想を変える必要がある。

・自分はサービスを受ける側でなく、サービスの提供側で貢献したい気持ちの高齢者が多い。このパワーを活かすべきだ。

・男性がもっと参加できる場がほしい。それは他のグループ活動との組み合わせでよい。

・みなみかぜの学習会で学んだことをもっと高齢者たちに伝えたい。その場になごみがなるとよい。

・共食という言葉が6年前にはなじめなかったが、今とてもよくわかる。なごみでももっと使ってほしい。

・地域へ解放するなら発想を転換し、施設内利用者優先の内容だけでなく、居宅高齢者がそれぞれにすすめている会活動やグループ活動の“それぞれの活動の質向上に協力する、支援する役割”を積極的に担うとよい。

・老人会活動で困っていることの一つは食をどこに依頼するかだ。高齢者に合った、おいしい、安全な食事を依頼できるところがほしい。食のセンターで可能か？なごみの“出前”？

・地域交流センター、地域包括、食のセンターが中心になって、地域の元気高齢者をどう支えるかを検討し、その結果法人施設やユニット等の利用の質を高めることも可能だろう。

・受け身のなごみから、積極的な食支援のなごみへの転換の時期に来ている。

・地域包括の視点で、なごみのコンセプトや方法を検討する小委員会を地域交流センター運営委員会内に作るとよい。等

Ⅲ―5 目的③「みなみかぜ夢のフォーラム：食からの地域包括支援を考える」（以下、夢のフォーラム）を開催し、多様な健康状態やライフスタイルの地域高齢者に本調査事業で明らかになった食からの地域包括の必要性と可能性について報告し、それをふまえて食支援へのニーズ並びにワークシート案2の利用可能性について意見やアイデアを収集する

1) 夢のフォーラムの目的と内容

プログラム（図12）により開催された。地域交流センター運営委員会メンバーや関連する組織やグループのメンバーに参加を呼びかけた。

地域高齢者61名、K法人関係者と医療法人西部診療所関係者を合わせて16名、研究事業関係者を含めほぼ80名が参加し、大盛況の会になった。

受付後、1グループが7-8人で着席した。

配布資料は、プログラムを表紙に研究グループの報告資料をつづったパンフレット、発表内容をふまえて夢の実現のための総合討論で使用する資料（ワークシート案2。ただしグループごとにA1版白紙の上部にワークシート案2を張り付けて、下部を白地にしてある）と学習評価のアンケート票である。

昼食には食のセンターが準備した“なごみ共食弁当”（「3・1・2弁当箱法」のコンセプトを活かした旬の1食で、女性高齢者の平均的なエネルギー推奨量であるほぼ600キロカロリーで栄養や味のバランスがよい）で、共食を楽しんだ。尚、事前に参加者の年齢・性・身長を記入してもらい、500キロカロリー、600キロカロリー、700キロ

カロリーの3タイプを準備した。（写真1）

終了後、解散時に評価のアンケートを回収した。

2) 研究者の発表内容をふまえて、高齢者による夢の実現のための総合討論（グループワーク）

ファシリテーターは研究者が担当し、次の手順ですすめた。

まず、グループワークのオリエンテーションを行った。「私たちの地域にこんな“共食の場”がほしい；具体的なグループや場所、希望する内容を書き入れて、話し合しましょう」の図（ワークシート案2）（図11）を下敷きにしてグループワークをする意味と進め方について説明した。

各グループは7.5センチ×2.5センチの付箋を使って、希望や夢を張り付けた。内容の類似したカードを束にして、全体の系統性を整えた。

その後各グループの代表が報告し、私たちの地域にこんな“共食の場”がほしいについての課題とアイデアを参加者全員で共有した。

合計186枚のカードが書きだされた。その内容はもっと多くの人々と共有できる場にしたい、プラスしてほしい機能、配食サービスやなごみへの注文、ケアハウスへの希望、もっと広がりをもちたい、行政への希望等多岐にわたっていた。さらに共食したい相手やグループとして、健康づくりの会、身近な食事会、すでに実施しているグループ活動への食支援が挙げられた。共食したいグループとして、各地域の老人会、運動・趣味などの会、子どもから大学生、その親世代までの若い世代の会、在日外国人を含んでいた。共食の場所では人材センター、学校、子育ての場、自治会館・公民館、趣味・けいこ場・教会等、公園・広場、商店・レストラン等、行政の会等、非常に広範囲にわたっていた。

具体的に書きだされた内容から、地域高齢者が各分野でそれぞれに積極的に生きがいを求め、社会貢献を希望し、世代を超えた協働により、地域の質の向上を願っている姿が映し出されていることがうかがわれた（表1）

この結果、ワークシート案2は、在宅高齢者の活動を記入できるスペースを確保し、かつより具体的な情報を書き込んで、具体的なヒントを得ながら自分たちの生きがいや期待を具体化することがしやすい内容に修正することが望ましいと考えられた。

3) 参加者の評価

3時間に及ぶフォーラムになったため、帰路を急ぐ参加者もあったが、アンケートの回答者は52名（出席高齢者の85%）であった。表2に示す通り、楽しかった（とても楽しかった、まあ楽しかった）が98.1%、役に立つことがあった（大変役に立った、少し役に立った）が98.1%で、高い評価を得た。「みなみかぜ共食ご膳」もおいしかったの回答者（大変おいしかった、まあおいしかった）が92.3%を占めた。

自由記述欄への記入も多く、食・食生活・食事・共食等についての理解や「食のセンター」を含むみなみかぜの活動についての理解が広がりまたは深まった点、多様な人間関係や多様な活動への気付き、これらを身近な人から地域の人々へ伝えていきたいという積極的な行動への態度の形成につながる機会になったことがうかがわれた。

なお、当日共食で食べた「なごみ共食ご膳」の命名についてもいろいろの意見が出されたので、近日中に関係者で協議し、新しい名称で多様に広がる共食の場へ提供することが可能になった。

自由記述欄への主な記述は次の通りであった。（原文のまま）

○質問2 どんなことが役に立ったか

・食についての理解

食の大切さ、心身ともに健康でいられること

食生活・食事が身体を守る

1 食分を茶碗等自宅の器に盛り付けて、見せてほしかった

共食・食事の大切さ

共食についての理解が変わった

久しぶりに足立先生の話が聴けて良かった

- ・みなみかぜについて
  - 今までより身近になった
  - 「食のセンター
  - があることが分かった
  - なごみの食事についてのお話
- ・人間関係の形成
  - 地域の皆さんと話ができた
  - いろいろの意見が聴けて良かった
  - たくさんの意見が聴けた
  - 皆さまの声が聴けた
- ・全体として
  - いろんな面で充実していた
  - 楽しく生活できるヒントがいろいろ出てきて、参考になった
  - 老人と地域の付き合い方の組織の一部を見せていただいた
  - これからのグループ活動などに活かせる

○質問3 誰に伝えたいか

- ・家族（主人、子ども、孫）
- ・友人（同じ年代の友人、知人、隣人）
- ・近所のお年寄りの方（一人暮らしの人、一人暮らしの会、近所のオバチャン）
- ・介護者の会の会員
- ・サークル・ボランティアの仲間、集いの場で
- ・自治会出席の集まり、
- ・地域の皆さん

○質問4 今日のお弁当の名前（当日は“ なごみ共食弁当 ”でサービスした。数値は提案者数）

- ・みなみかぜ（弁当）2、みなみかぜ（ご膳）1、みなみかぜ（食）1
- ・なごみ（ご膳）2、なごみ（弁当）1、なごみ共食（ご膳）1
- ・やよい（弁当）1、さわやか（ご膳）1、ひな祭り（弁当）1、春風（ご膳）1 春まち（ご膳）1
- ・健康（弁当）1、元気（弁当）1、いきいき（ご膳）1
- ・にっこり（弁当）1、夢（ご膳）1

Ⅲ―6 目的④ 以上について総括し、「食からの地域包括のあり方」検討の枠組みと、検討を深めるための教材（ワークシート）を提案する

栄養・食教育・食育の概念（図1 2）である“人それぞれの”健康を含む“生活の質”と“環境の質”のよりよい“共生”をめざし、地域の食の営みの全体像（食の循環）を理解し、その視野・視点で食生活を実践する力を育てること、そのためにも重要な食環境づくり・仲間づくりをすすめる力を育てることは、人間の尊厳を重視し、地域全体の健康や幸せづくりをめざして生活支援をすすめる地域包括生活支援とゴールを共にしている。

本研究事業の各研究は、高齢者にとって食事・食生活・食は日常的な営みであり心身両面の健康や人間関係に深くかかわっていること、食へのかかわりを求め期待する高齢者が多いことが明らかになった。一方多様な心身の健康状態や生活スタイルに、安定的に対応できる「食のセンター」のシステム化も順次可能であることが明らかになった。食からの地域包括のあり方を検討する必要性と可能性が示されたことになる。

検討の枠組みの一つとして、地域・高齢者・食物の関係から成り立つ食事・食行動・食生活・食行動の形成を個人・家族・集団・地域の重層構造で示す「地域・高齢者・食物の循環図」（図1 3）が有用であると考えた。この概念図は本報の冒頭にあげた「人間・食物・地域（食環境）のかかわり（図1）を基礎にして、具体的な活動や情報の発信先を書き込み、かつ生活力形成の視点を奥行きにもつ図である。

昨年度から全国展開をしている第2 次食育推進基本計画の重点課題の一つである共食のすすめの理論的根拠に活用されている（図1 4）ことから、本研究での検討枠組みとして有用であると考えた。高齢者の特徴を取り込み「地域・高齢者・食物の循環図」（図1 5）を提案する。

高齢者を含む関係者で共有できる教材について、高齢者を含む関係者と共に試作と検証をくり決してきたワークシート案3「私たちの地域にこんな共食の場がほしい“ のマップを描いてみましょう」（図1 6）を提案する。ワークシートを開くと A3 版の大きさを“私たちの地域”を示す。真ん中に大きく“地域で生活する高齢者の人びと”がそれぞれの生活や活動をしている。さまざまな生活支援を受けて生活している人、趣味や社会活動で様々な組織やグループにつなっている人など実に多様な高齢者である。

一方右上に示したように、長い試行錯誤を経て多くの人々に支えられながら、みなみかぜ「食のセンター」が動き出した。地域の高齢者が健康で安心した生活がおくれるように、「地域でくらすみんなの家」として、包括的な支援を実現する新しいシステムづくりをすすめながらの出発である。

生活支援を受ける人々はもちろん、左ページに示す多くの元気高齢者の人々も、「食のセンター」を活用して、より生きがいのある生活をおくり、地域全体がそうなる方向へと高まることを願っている。双方向の矢印が、高齢者もいっしょにすすめる“食からの地域包括”を提案している。

| 表2 「夢のフォーラム」参加者の評価 |                               |             |         |      | アンケート提出者52名 |  |
|--------------------|-------------------------------|-------------|---------|------|-------------|--|
| 設問                 | 質 問                           | 回答選択肢       | 回答者数(人) | (%)  |             |  |
| 1                  | 今日のフォーラムは楽しかったですか？            | とても楽しかった    | 33      | 63.5 |             |  |
|                    |                               | まあ楽しかった     | 18      | 34.6 |             |  |
|                    |                               | あまり楽しなかった   | 0       | 0    |             |  |
|                    |                               | つまらなかった     | 0       | 0    |             |  |
|                    |                               | 無回答         | 1       | 1.9  |             |  |
| 2                  | 内容はいかがでしたか。役に立つことができましたか？     | 大変役に立った     | 37      | 71.2 |             |  |
|                    |                               | 少し役に立った     | 14      | 26.9 |             |  |
|                    |                               | あまり役に立たなかった | 0       | 0    |             |  |
|                    |                               | 何も役に立たなかった  | 0       | 0    |             |  |
|                    |                               | 無回答         | 1       | 2.9  |             |  |
| 3                  | 今日の内容や方法を他の人に伝えたいと思いますか？      | 伝えたい        | 50      | 96.2 |             |  |
|                    |                               | 伝えたいと思わない   | 0       | 0    |             |  |
|                    |                               | 無回答         | 2       | 3.8  |             |  |
| 4                  | 今日の「みなみかぜ共食ご膳」(仮称)はおいしかったですか？ | 大変おいしかった    | 38      | 73.1 |             |  |
|                    |                               | まあおいしかった    | 10      | 19.2 |             |  |
|                    |                               | あまりおいしくなかった | 1       | 1.9  |             |  |
|                    |                               | まずかった       | 0       | 0    |             |  |
|                    |                               | 無回答         | 3       | 5.8  |             |  |
| 5                  | 食事の量はどうでしたか？                  | ちょうどよかった    | 25      | 48.1 |             |  |
|                    |                               | 多かった        | 25      | 48.1 |             |  |
|                    |                               | ※1 内訳       | 全体      | (1)  |             |  |
|                    |                               |             | 主食      | (16) |             |  |
|                    |                               |             | おかず     | (3)  |             |  |
|                    |                               |             | 主菜      | (1)  |             |  |
|                    |                               |             | 無回答     | (5)  |             |  |
|                    |                               | 少なかった       | 1       | 1.9  |             |  |
|                    |                               | 無回答         | 1       | 2.0  |             |  |

※1 回答者のうち、1名は複数回答

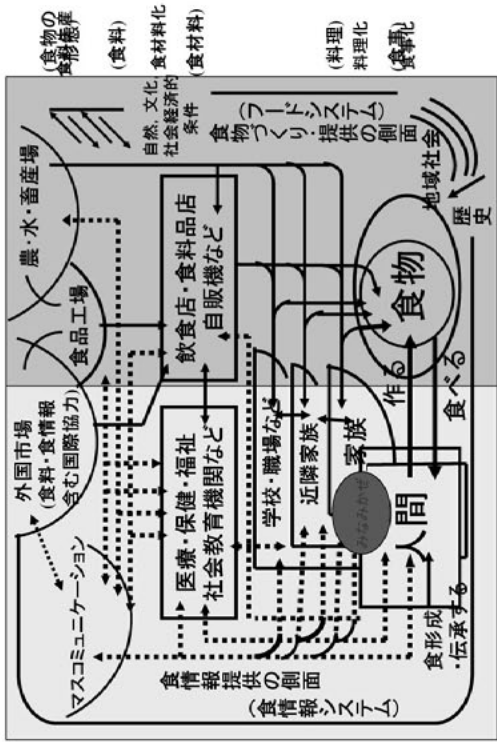


図1 人間・食物・地域(食環境)のかかわり (足立 1987の一部修正)

### 図3 高齢者にとって食事は

- A 体の要求:**  
必要な栄養素等(エネルギー、60種類以上の栄養素、水分)の取り込み。  
消化・吸収等代謝機能の低下・不安定・危険性もある中で、効果的に充分に、無駄を少なく取り込むことが必要
- B 心の要求:**  
おいしい、楽しい味わい、その逆の不満・不快も  
それぞれの多様な食体験で形成されてきた食嗜好・食物観や食事観によって、内容も満足度も異なる
- C 自己表現・自己実現:**  
生活全体の中で食が占める割合が多くなる中で、  
生きがいや生活の質(QOL)とのかかわりが大きい、……
- 地域で暮らすすべての高齢者が、  
変化しやすい心身の状態にも合わせ、これら3つの面について  
その人に合ったバランスがとれた食事を楽しめるように!!



図4-2



図6

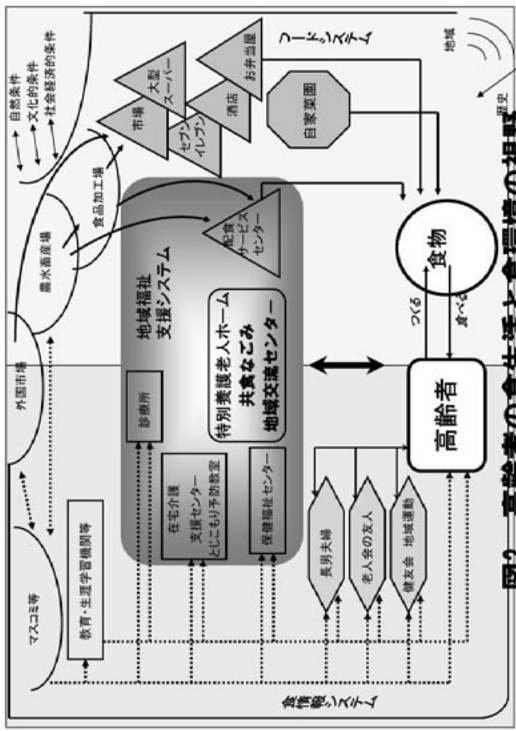
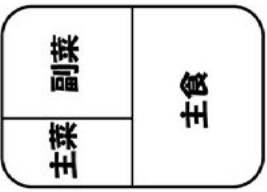


図2 高齢者の食生活と食環境の視野 (足立、2006)

### 図4-1 おいしさも、健康も、食料自給率も いっしょにアップ「3・1・2弁当箱法」



1. 自分にちょうどよいサイズの弁当箱を選ぶ(600Kcal=600ml)
  2. 弁当の中は、主食と主菜と副菜が3・1・2
  3. 同じ調理法は1品だけ
  4. しゃがみつめる
  5. おいしそう!!につめる
- めざしたおいしい食事、エネルギー量(600ml)も、主要な栄養素もうまく組み合わせだ1食、しかも食料自給率が高まる食事が出来上がる!!

©NPO法人食生活実践フォーラム  
足立 幸一(©2008(日本版))

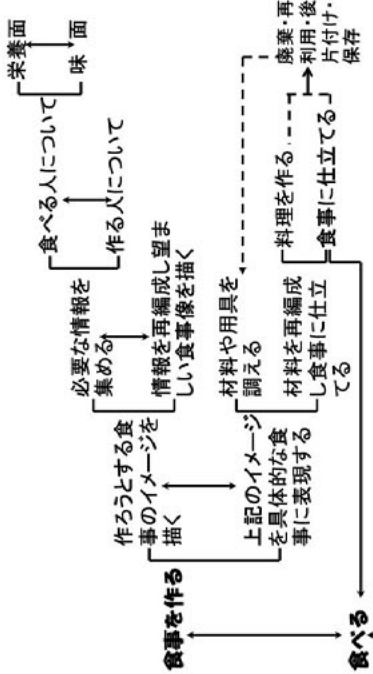


図5 食事づくり行動 足立 幸一(1987)

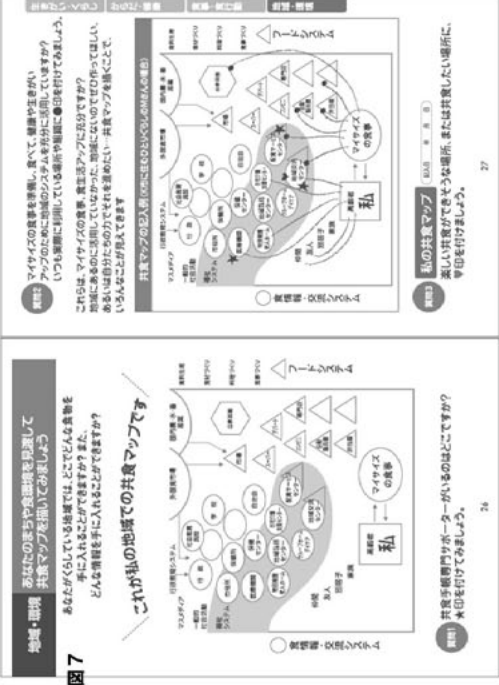


図7



8  
圖

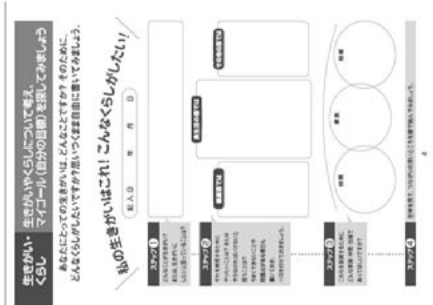


図10 社会福祉法人健友会と人々と地域とのかかわり

★ 定額課税の業本

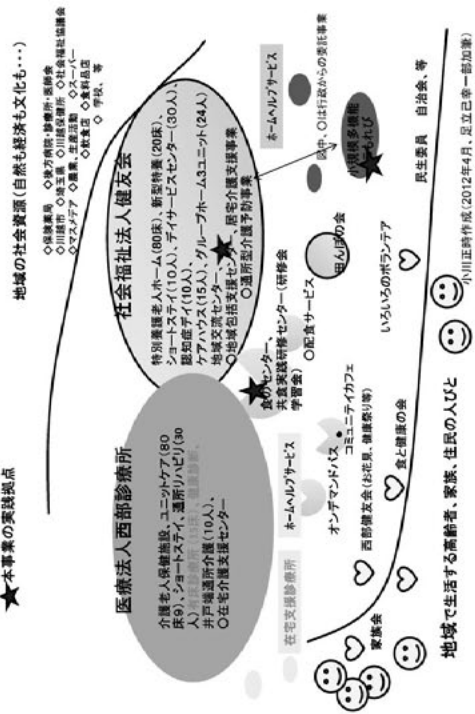


図12 栄養・食教育、(食育)とは

人々がそれぞれの生活の質（QOL）と環境の質（QOE）のよりよい、持続可能な共生をめざして、食の営みの全体像（食の循環）を理解し、その視野・視点で食生活を実践し、

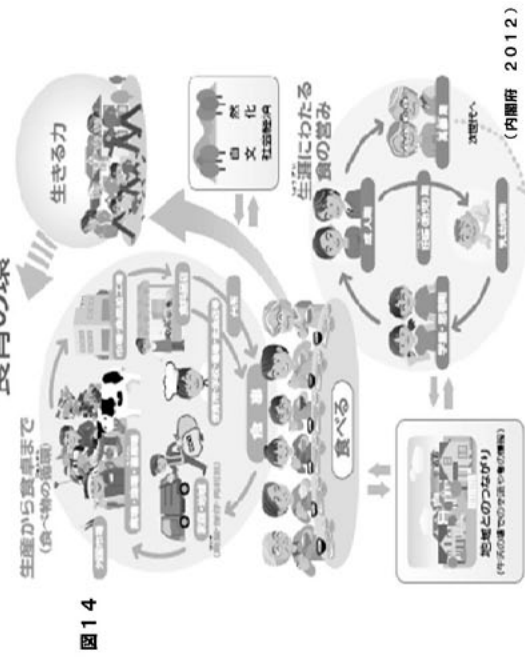
かつ可能な食環境づくり・仲間づくりをすすめる力（食生活力、「食」力）を育てるプロセスである。

そのアプローチは教育的アプローチと環境的アプローチの統合、さらに環境的アプローチはフィードシステムと食情報システムとの両側面の統合が必要である。

栄養・食の専門家とはこれらについて、科学的根拠を、課題にあわせて再構成し、活用する人や組織である。

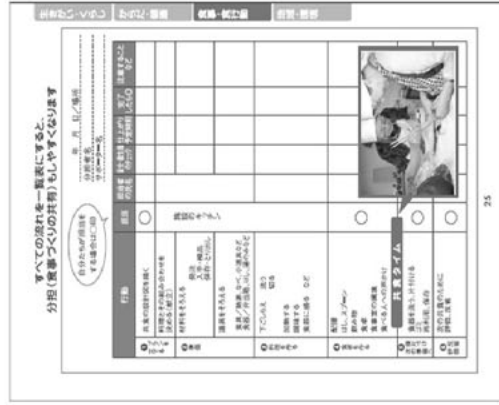
(足立己幸 2005. 一部修正)

食育の環



(内閣府 2012)

6 



私たちの地域にこんな“共食の場”がほしい  
 く具体的なグループや場所、希望する内容を書き入れて、

図11:ワークシート案例1

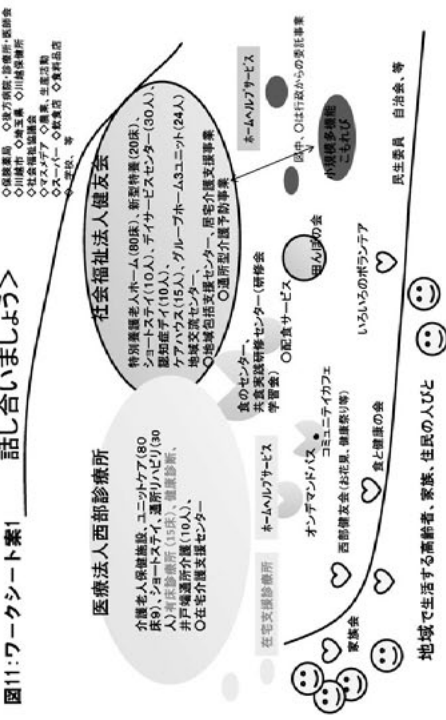


図13 地域における共食、食を営む力と生きる力の形成の循環

(足立己幸 食育課本 内閣府 2009)

図15 「食からの地域包括のあり方」検討の枠組みの一つとしての

地域・高齢者・食物の循環図

## 社会福祉法人 健友会がめざしていること

地域の高齢者が健康で安心した生活が出来るように、「地域でくらすみんなの家」として、包括的な福祉サービスを提供します。

1. 高齢者の意思決定を尊重し、自立支援を基本に捉えながら、地域で豊かな生活が継続できるように関わることをめざします。
2. 働きがいのある職場づくりの推進と労働環境の整備を行い、地域福祉の担い手として、自ら考え能動的に行動できる人材を育成してまいります。
3. 地域と共生し、情報を発信し、地域の安心につながる法人活動をめざします。

2. 働きがいのある職場づくりの推進と労働環境の整備を行い、地域福祉の担い手として、自ら考え能動的に行動できる人材育成を途及していきます。

3. 地域と共生し、情報を発信し、地域の安心につながる法人活動をめざします。



社会福祉法人 健友会

〒350-0807  
埼玉県川越市大字吉田 204 番地 2  
(Eメール) <http://minamikaze.co.jp>

□特別看護老人ホーム相模苑 …… TEL.049-234-5141  
□グループホームみなみかせ …… TEL.049-239-6036 / FAX.049-239-5268  
□デイサービスみなみかせ …… TEL.049-239-4055  
□デイサービス湯だまり …… TEL.049-239-4044  
□地域交流センターみなみかせ …… TEL.049-234-4500 / FAX.049-239-5646  
□ホームケアみなみかせ …… TEL.049-239-6444  
□東北小児文庫事業(アブラハム内蔵) …… TEL.049-234-4131  
□川口市地域福祉支援センター …… TEL.049-239-0003 / FAX.049-234-6132  
□川口市市民活動助成基金「ピア事業」  
    ○食のセンター …… TEL.049-232-1300 / FAX.049-232-1333  
    ○小規模多機能もれび …… TEL.049-296-4524 / FAX.049-298-6792  
    ○地域福祉支援センタープラチナもれび …… 〒350-1101 埼玉東部消防組合第2098 番地 22

平成25年3月 社会福祉法人 健友会

みなみかぜは、食を大切にす地域・生活支援を  
地域にくらす高齢者の人びとといっしょにすめたいと願っています

“私たちの地域にこんな共食の場がほしい”  
のマップを描いてみましょう



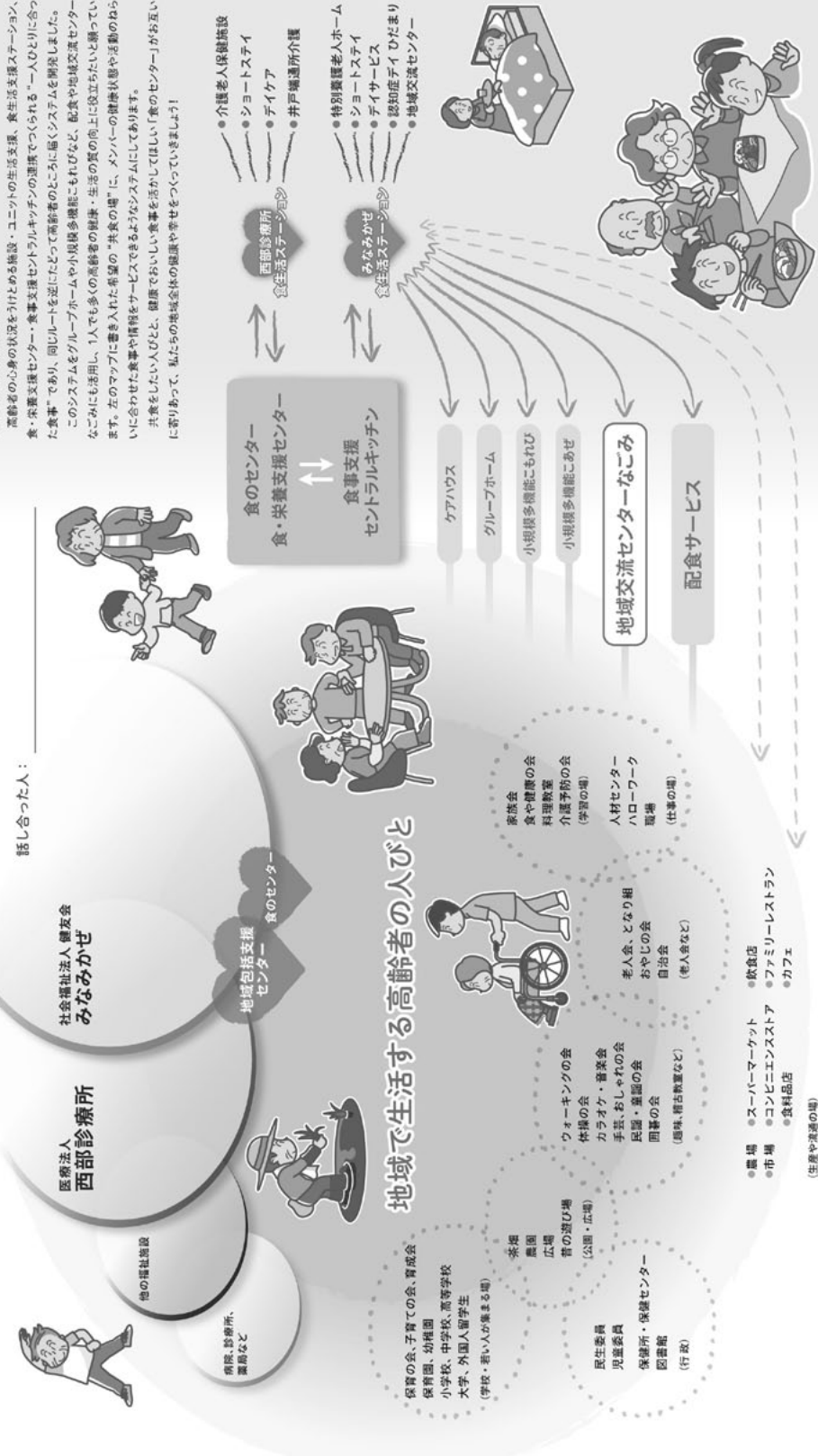
私たちの地域に、こんな“共食の場”がほしい！

これは今年3月「夢のフォーラム」(みなみかぜ地域交流センター)に参加した高齢者(70名ほど)の活発な発言をつくったマップ(地図)です。

あなたとはどんな希望や願いを持っていますか？

自由に書き入れてみましょう。

書き入れた人：  
年



## みなみかぜ夢のフォーラム

### 「食からの地域包括」支援を考える

平成 24 年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業中間報告と討論  
『地域高齢者それぞれの健康・ライフスタイル・生きがいを重視した、  
食からの地域包括支援のあり方に関する研究事業』

主催 社会福祉法人健友会

日時 平成 25 年 3 月 3 日 (日) 11 時 00 分～13 時 30 分(受付 10 時 30 分)

会場 社会福祉法人健友会 みなみかぜ地域交流センター 多目的ホール  
〒350-0807 埼玉県川越市吉田 204 の 2

#### プログラム

受付 10 時 30 分 開会 11 時 閉会 13 時 30 分

総合司会 谷口友子(特別養護老人ホームみなみかぜ施設長・看護師)

参加無料

先着 50 名まで

■開会挨拶 社会福祉法人健友会理事長 小川一恵

11:00～11:05

■研究チームからの報告と提案

11:05～12:10

1. 本調査研究事業のねらいと経過 谷口友子
2. 新設「食のセンター」の運営と食事提供プログラムの開発 針谷順子・佐藤亜希子 他
3. 地域包括支援における食生活支援の役割 貴志由美 他
4. 小規模多機能型居宅介護支援「こもれび」における食生活支援の役割 秋山郁久・久保木京子 他
5. 地域交流センター「なごみ」の共食実践の役割 後藤ゆかり 他
6. “私たちは高齢者が健康で幸せな暮らしができるように、食の特徴を活かしてこんな地域を育てたい”  
のニーズ調査と提案 足立己幸

■昼食の共食

12:10～12:40

研究成果を活かした“なごみ共食弁当”を全員でいただきます(食のセンターが準備します)

■発表内容をふまえて夢の実現のための総合討論

12:40～13:30

座長: 足立己幸(社会福祉法人健友会地域事業部顧問 女子栄養大学名誉教授 保健学博士)

○参加者の皆様による討論

「食からの地域包括支援」を自由に発表してください



<お問い合わせ・申込み>

電話: 049-234-1200

FAX: 049-234-0811

締め切り: 平成 25 年 2 月 28 日(木)

※ 詳細については上記にお問い合わせください

※ 総務課 フォーラム事務局 島村

## 写真 夢のフォーラム参加者たち

### ◆昼食の共食



“お茶を入れ合う”も共食。



「3・1・2 弁当箱法」をベースにした、からだにぴったりの 1 食“なごみ共食ご膳”。

### ◆“こんな共食の場がほしい”のグループワーク



レクチャーのあと、各自の“夢”をカードに書く。



「こんなことも書いていいの？」と質問続出。



次々に“夢”がワークシートにはりつけられる。



グループの成果を発表し、参加者全員で共有。



フォーラムの評価をして散会。

表1 参加高齢者がカードに表現した共食への願い・夢

(参加高齢者70名、複数回答。記入されたままの文。英語小文字は属していたグループ名)

1. みなみかぜへの希望

○もっと多くの人と共有できる場にしてほしい

誰でも何様でもみなみかぜを開放してほしいd

地域住民が利用できる様にg

食の会を広げて多くの人に知っていただくi

田んぼ活動にたくさん参加したいl

中高生(これから育っていく若者対象)夏休みに食のセンターがあることを知ってもらいたいg

私たちの住んでいる地域にこのすばらしい支援センターを広めてくださる事を願っています。まだまだ知らない人が大勢いらっしゃいます。H

健友会という会員以外の人はこちらのところをしらないと思います(診療所に入っていないと知らない)h

健友会に入会しないと診療所にいけないと思っている人もいますh

西部診療所、西部健友会を知らない。足がないh

この場所を知らない人が多い!J

井戸端ということも知らないと思うh

○プラスして欲しい機能

男性に働きかける(活動が少ない)i

みなみかぜにて音楽d

ストレッチ体操をみなみかぜにてe

みなみかぜくる定期バス午前2午後2くらい太極拳、ラジオ体操、男女平等に出来るもの。とくに男の方は人の出会いがいいからh

西部診療所に通院する川越のバスありますか。西部診療所が知らない人が多いですh

外でかけやすくなる(足の確保)i

地域の常連さんの異常を知らせよう頼んでおくj

コンビニスーパーを見守り隊に入れるj

食支援を受ける方法をd

○配食サービスやなごみへの注文

なごみの食事は土曜日だけでなく増やして欲しいe

自分が病気になって主人だけの配食を回数が少なくてもいいかa

急に病気になって食事をお願いしたいときは何処に連絡したらいいかa

配食はご飯だけですか。パンとか違うものもできますか。A

配食サービスマンネリ化していますe

食事の塩かげんはいかがe

なごみの配食(冬場)あたたかいものとくにごはん。e

手作りの配食をしているのですが食のセンターの方の献立の立て方などの学習会などをしてほしい。g

生きるには食から。みなみかぜにきたいしますe

○ケアハウスへの質問

ケアハウスグループホームどんどん出来ますかサービス?e

2. もっと仲間を広げたい

お嫁さんお婿さん、募集a

お茶のみの集まりがほしいa

色々な情報交換したいa

リサイクルでいろんなものを作るa

いろいろのボランティアを生かし訪問していきたい。きれいな着物をきて。例えばお茶会とかe

若い人とゲームを一緒にしたいe

手芸をみんなでやりたいe

食育が必要になるのではg

年を取ると寂しいのでみなで助け合って仲良く楽しく一日一日を充実した日にしていきたいと思いますh

近くで買い物がしたい、今は何もないi

季節の行事に参加し楽しみたい(回数が少ない)i

健常者、呆け気味の人とのはざまの人の対処法?J

3. 共食したい相手やグループ

○内容から

簡単な料理教室(健康維持できる程度の)a

食の健康料理教室増やすd

料理教室。田舎の料理、つけものa

腎臓が委縮して精密検査を受けました。特に塩分を減らし食事に注意するように注意されました。今後、週一回でもなごみで食事して自分で体験して味について気をつけてf

(糖尿・パーキンソン)の○○友の会a

身近に食事会ができるとよい

自治会館で(下小阪)食事会が出来れば良いb

伊勢原の公園でゴザを敷いて食事会を開くe

火曜日、グループ5～6人で昼食会をしたいe

みんなとおしゃべりし、その後食事をしたいe

介護者の会、研修会、懇親会での弁当(食事)共食f

○すでに実施している食支援活動の充実

おむすびの会f

月一回一人暮らしの食事会虹の会に関係しています。約20分間現在進行中霞ヶ

配食サービスに調理提供しているボランティアグループ(みどり会の虹の会g

福寿会に伝えるj

今までは食育について学校教育の場では食べていることについて語ってきたがこれからは高齢化社会のための食育が必要になるのではg

食と健康について!H

食事もやわらかいものが多いのですかそれでもよく噛んで好き嫌いのないようになんでもたべて健康に気をつけて暮らしたいですh

4. 共食したいグループ:

○すでに活動している会・グループと

老人クラブa

地域老人クラブb

各地区老人会b

老人会g

霞ヶ関老人会(会館)b

おやじの会g

老人会も楽しみの事g



老人会福寿会 j

○高齢者のいろいろの仲間と

自分が弱ったときなどの話し相手など h

高齢者を抱えた家族を集めて g

カラオケの好き人達で e

グランドゴルフの人々たち b

唄童謡の好き人好きな民謡等肩の力を抜いてみんなでたのしみたい e

すでは配食を利用している人にも g

食育・介護の勉強会をやってほしい a

名細市民センターボランティア団体グループ b

和裁の教室があったらいいと思います a

カラオケ教室 a

各地区の趣味の会のグループ (カラオケ、踊り、その他) b

サークル活動 (手芸) (運動) c

カラオケの会 d

踊りグループが楽しみ d

太極拳のグループ d

ストレッチ運動の会 d

週 2 回の体操 3 ヶ月短い d

多肉植物の会 d

ウォーキングクラブ d

ラジオ体操やろう会 d

ラジオ体操の会 (高齢者、子供会で夏休みに体操をやっているのいでそのメンバーで、共食) f

介護予防教室芋っこ体操みどり会自治会 g

ひとりじゃないよの会 f

見上げてごらん会 f

老いも若きも語り合う会 f

趣味づくりの会 g

すべての同期の友の集まり g

趣味の会のグループで活動 j

ご近所同士のグループを作る j

へたくそだけの釣りの会 l

編み物教室 l

陶芸教室 l

スポーツクラブ l

自治会の囲碁将棋の会の食事提供して欲しい e

おひとり様なので一年を通して季節の行事 (ひな祭り、端午の節句、御ご月、お盆、クリスマス) e

霧北自治会事務所のこうばん体操の後に食事を注文して運んで欲しい e

ストレッチ軽い体操を行ってください→食事ができれば楽しい e

おしゃべりの後にお食事をして楽しみたい e

近くの場所を散歩した後食事 e

高齢者から昔話や手遊びなどを見せてもらう j

旅行に行きたい d

旅行会 d

○若い世代と

小学生との世代間交流 (高齢者、子供、その他の人) b

いつのまにか老人になったので、若人とおしゃべりをして元気をもらいたい e

小学校の育成会 g

各地区の (ソフト・野球) クラブ g

孫みたいな子供たちとの交流 d

大学生と小学生 b

幼稚園、保育園親の会 a

子育て会 a

小学校育成会 d

子育て中の若いママさんが集まるサークル g 中高生 b

親子乳幼児 j

子育て支援センターを利用している人たち g

大学生と

若者 (大学生) のサークルの仲間 g

若い人と話し合う会 (その時テーマを決める) a x

外国人と

外国籍のアパート等で暮らしている近隣と付き合いかねている人たち g

東京国際大学の若者と食事会を開きたい e

外国の方ふれあい b

○公的な委員などと

民生委員・児童委員 b

民生委員の集まり g

## 5. 共食の場を作って欲しい場所

○人材センターなどで

シルバー人材センター a

再雇用勤務先 a

ハローワーク a

○学校で

幼稚園 j

幼稚園を活用し身内だけでなく地域の人も参加できる i

小学校 c

小学校 j

学童保育の ” 場 ” b

中学校 j

各学校大学、中学、小学校、幼稚園など g

食育に熱心な学校 a

小中学校に存在している成人学級 g

○子育ての場で

子育てサポートの場 g

子育て優しく子供と遊べる場所活用 の 場

→団地が周りに多いので拡大。

→カフェなどの集まりで話題作りの為、誰かを中心にする。ゆるやかなセミナーつながり

→情報交換つながりノコミュニケーションの場の提供 (地域がキーワード) k

子供会お話広場 b



話し合う場がほしい、大人小人年齢関係なし i

高齢者と子供達との一緒に交流場 c

○自治会で

各自治会 c

各自治会 g

自治会 b

隣り組(霞ヶ関 6 丁目 3 班) 当番宅 b

各地区自治会 b

○自治会館・公民館で

自治会館 k

関北公民館 f

富士見ハイツ自治会会館鶴ヶ島市子の神(川越市広谷新町と隣接する) b

広谷新町自治会館(川越市広谷新町) 複数のグループ活動あり b

下広谷南自治会館(川越市下広谷南) b

下広谷北自治会館(川越市下広谷北) b

共食の場が欲しい霞ヶ関北自治会館にて火曜日にして欲しい e

○趣味・稽古場・教会で

スポーツクラブ a

毎月一回コンサートを開いている"場"あり b

コンサートの場老若男女 b

カラオケサークル j

川越市キリスト教会(プロテスタント) d

○公園・広場などで

花畑で楽しむ a

公園等で親と子どもが楽しんで遊んでいる所 b

日曜農園を楽しんで畑をしている所 b

自然豊かな囲りですので若者が楽しんでいる場所等 b

スポーツのできる広場 c

小さいときにやって遊んだむかしの遊びが出来る場所が欲しい e

○商店・レストランなどで

ランチを自分たちで作ってお話しながら楽しく食べる場所が欲しい e

駄菓子屋 j

ファミレス j

コンビニ j

会社(工業団地)(他業種) 交流所 k

○行政の会などで

民生児童委員(会議、定例会の場等) b

6. 行政への希望

川越在住 10 数年民生委員とは 1 ～ 2 回しか会ってない d

民生委員に相談する j

シャッター商店がある街がさびしい e

この地域はどこに出かけるにも足の不便(交通)を感じています。もうすこし無料のバスを通して下さい。 h

老人相手の商売お断り e